

「新宿区高齢者の保健と福祉に関する調査」

集計結果（確報値）

1 一般高齢者【基本】調査

(1) ご本人について

①調査票の記入者

<図表> 調査票の記入者

調査数	調査票の記入者			
	本人	家族	その他	無回答
1,864	1,551	53	3	257

②現在の状況（本人の不在の事情）

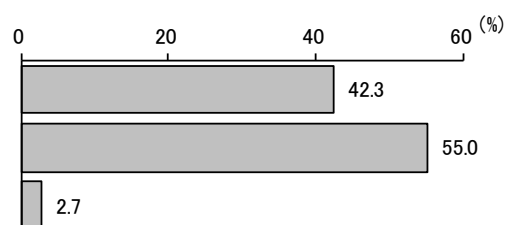
<図表> 現在の状況（本人の不在の事情）

調査数	現在の状況（本人の不在の事情）					
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	左記に該 当しない
1,864	4	1	-	1	13	1,845

③性別

<図表> 性別

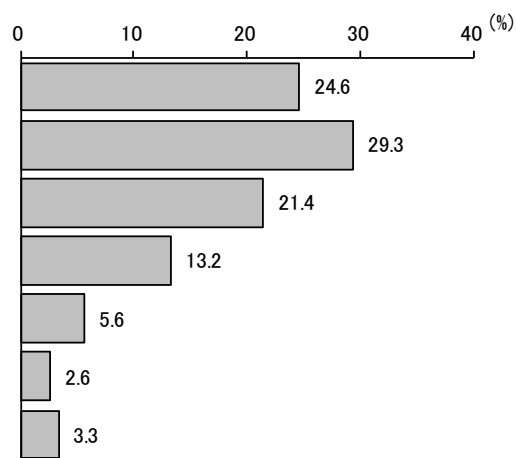
	基数	構成比
男性	788	42.3%
女性	1,025	55.0%
無回答	51	2.7%



④年齢

<図表> 年齢

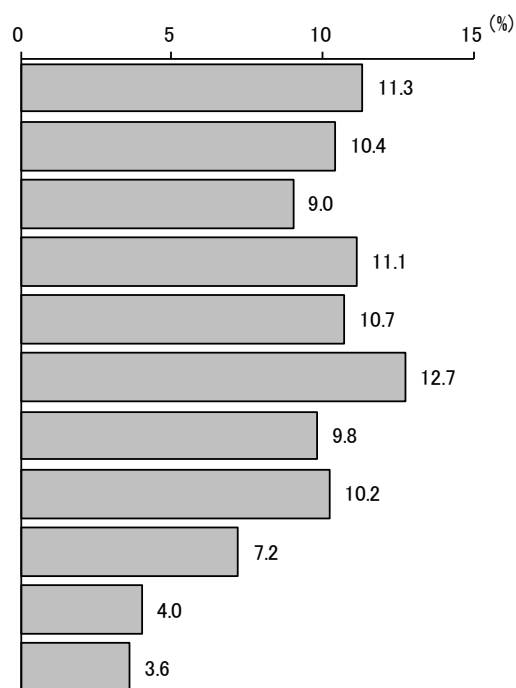
	基数	構成比
65歳～69歳	458	24.6%
70歳～74歳	547	29.3%
75歳～79歳	399	21.4%
80歳～84歳	246	13.2%
85歳～89歳	104	5.6%
90歳以上	49	2.6%
無回答	61	3.3%



⑤お住まいの地区

<図表> お住まいの地区

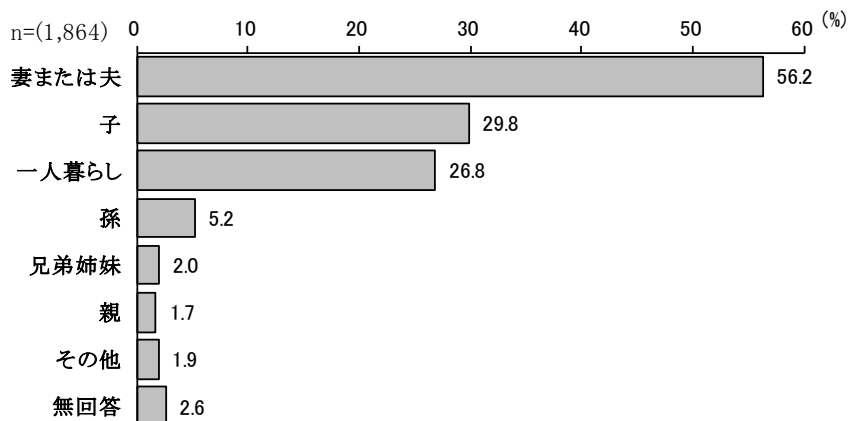
	基数	構成比
四谷	210	11.3%
簗笥町	194	10.4%
榎町	168	9.0%
若松町	206	11.1%
大久保	200	10.7%
戸塚	237	12.7%
落合第一	183	9.8%
落合第二	190	10.2%
柏木	134	7.2%
角筈	74	4.0%
無回答	68	3.6%



⑥同居者

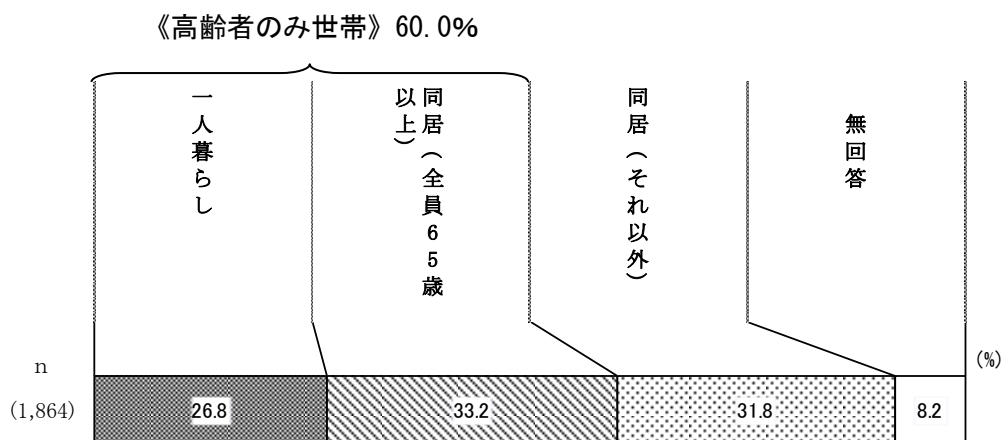
問4 現在、あなたはどなたかと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 同居者 (複数回答)



同居の状態をたずねたところ、「一人暮らし」(26.8%)が2割台半ばを超えている。同居している人は、「妻または夫」(56.2%)が5割台半ばを超え、次いで「子」(29.8%)の順となっている。

<図表> 世帯構成

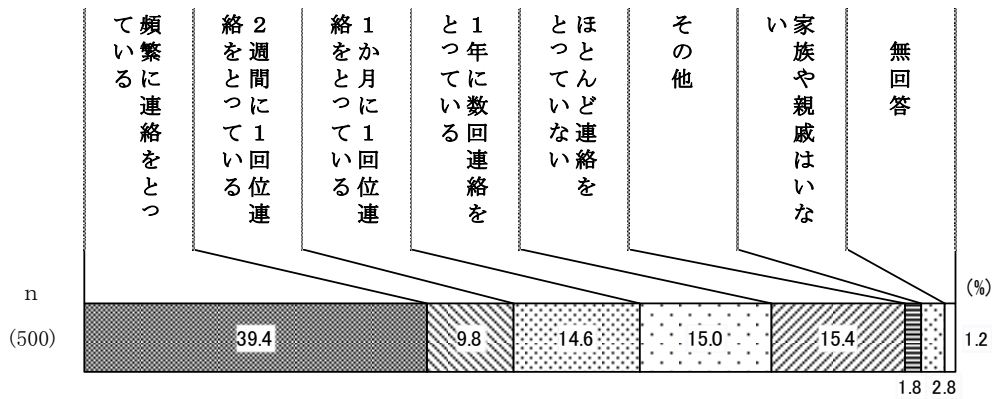


世帯構成について、「一人暮らし」(26.8%)と「同居(全員65歳以上)」(33.2%)をあわせた《高齢者のみ世帯》は60.0%となっている。

⑦家族や親戚との連絡

問4-1 《問4で「一人暮らし」を選んだ方のみお答えください》
 あなたは、ご家族やご親戚と連絡をどのくらいとっていますか。
 (1つに○)

<図表> 家族や親族との連絡

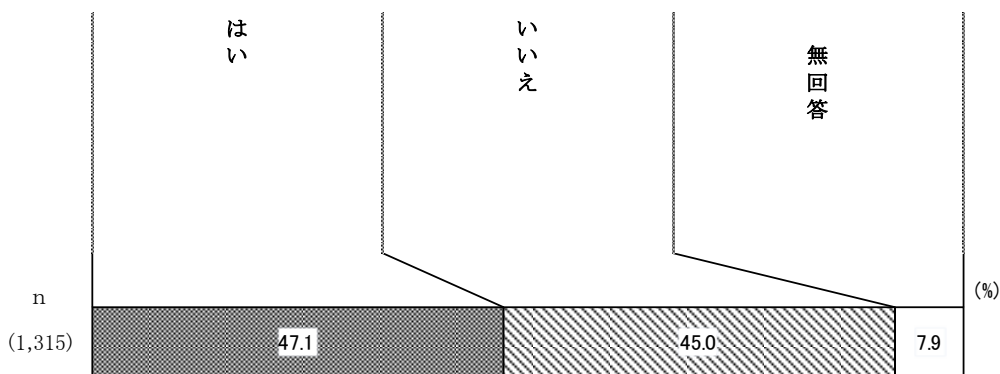


問4で「一人暮らし」と回答した人に家族や親戚と連絡をとっている頻度をたずねたところ、「頻繁に連絡をとっている」(39.4%)が4割弱で最も高くなっている。

⑧同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

問4-2 《問4でどなたかと同居していると回答した方のみお答えください》
 同居の方は、全員65歳以上ですか。(1つに○)

<図表> 同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

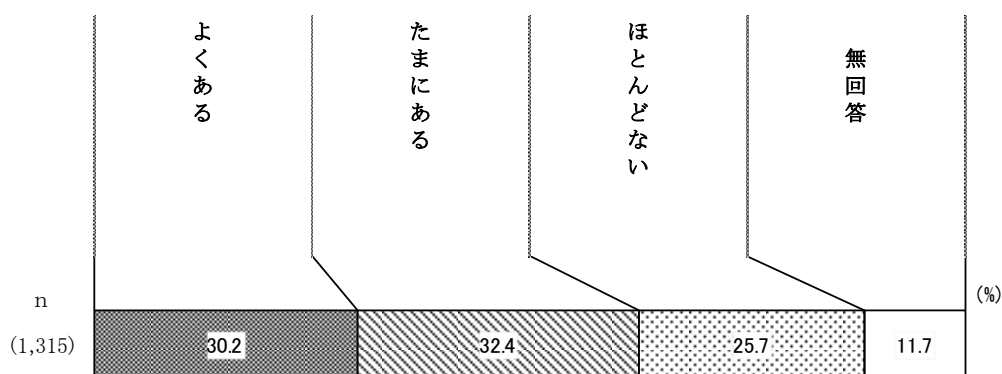


問4で《同居者がいる》と回答した人に同居者が全員65歳以上かたずねたところ、「はい」(47.1%)は4割台半ばを超えている。

⑨日中の独居状況

問4-3 《問4でどなたかと同居していると回答した方のみお答えください》
日中、一人になることはありますか。(1つに○)

<図表> 日中の独居状況

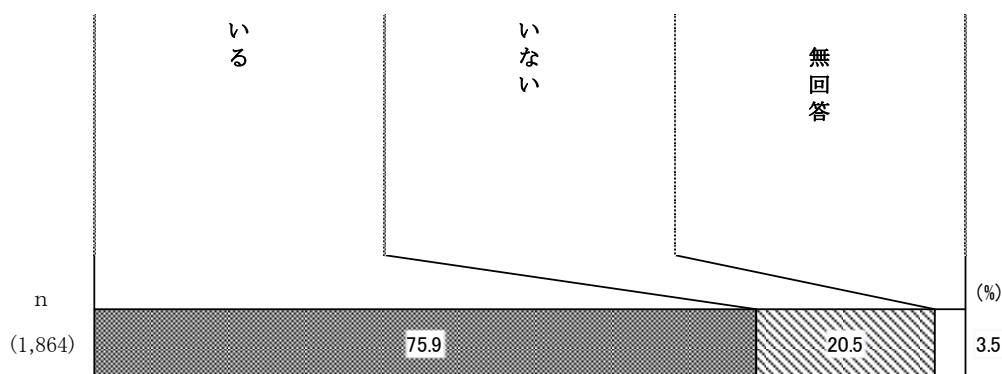


問4で《同居者がいる》と回答した人に日中一人になることがあるかたずねたところ、「たまにある」(32.4%)が3割強で最も高く、次いで、「よくある」(30.2%)、「ほとんどない」(25.7%)の順となっている。

⑩同居者以外に手助けを頼める人の有無

問5 あなたが日常生活で困ったことがあったとき、同居者以外に誰か手助けを頼める人がいますか。(1つに○)

<図表> 同居者以外に手助けを頼める人の有無

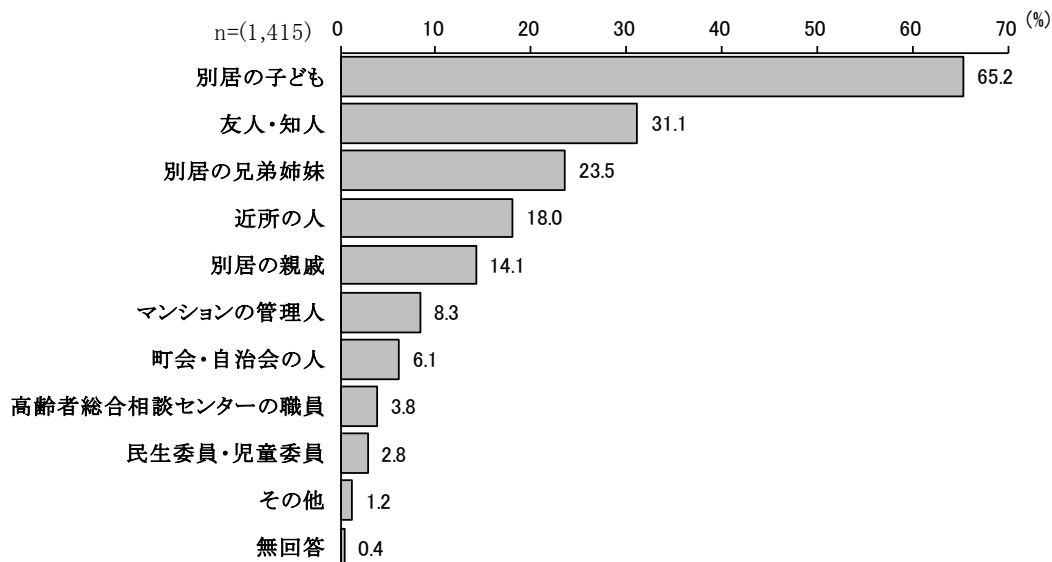


同居者以外に日常生活で困ったときに手助けを頼める人の有無をたずねたところ、「いる」(75.9%)は7割台半ばとなっている。

⑪手助けを頼める人

問5-1 <<問5で「いる」を選んだ方のみお答えください>>
手助けを頼める人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 手助けを頼める人 (複数回答)

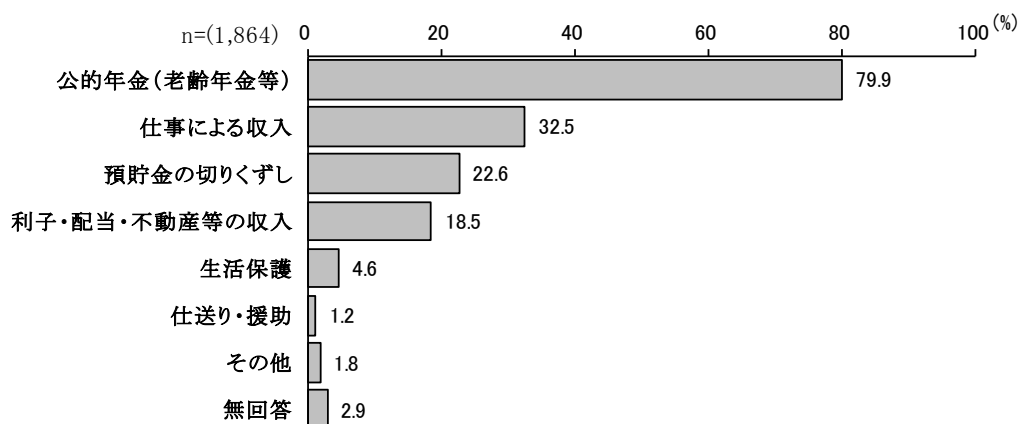


問5で同居者以外に手助けを頼める人が「いる」と回答した人に、その依頼先をたずねたところ、「別居の子ども」(65.2%)が6割台半ばと最も高く、次いで、「友人・知人」(31.1%)、「別居の兄弟姉妹」(23.5%)となっている。

⑫自身の収入

問6 あなたご本人の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 自身の収入 (複数回答)

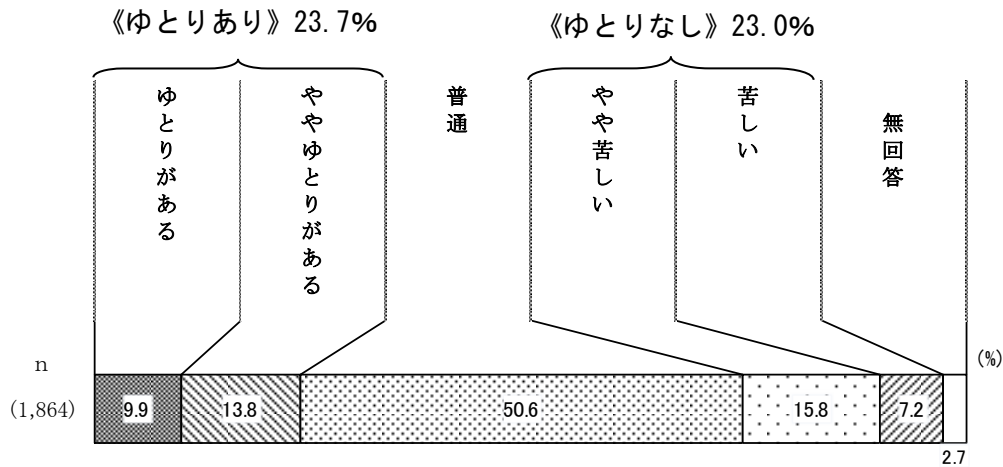


自身の収入についてたずねたところ、「公的年金(老齢年金等)」(79.9%)が8割弱と最も高く、次いで「仕事による収入」(32.5%)、「預貯金の切りくずし」(22.6%)の順となっている。

⑬現在の暮らし向き

問7 あなたは、現在のご自身の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表> 現在の暮らし向き

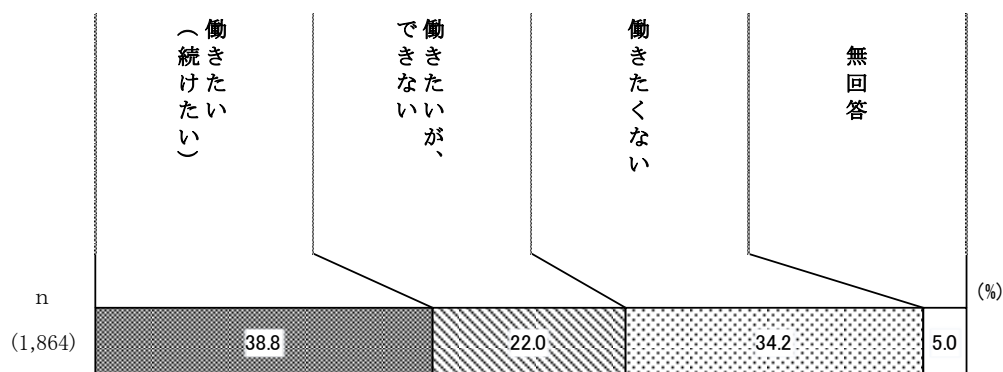


現在の暮らし向きについてたずねたところ、「普通」(50.6%)が約5割と最も高く、「ゆとりがある」(9.9%)と「ややゆとりがある」(13.8%)をあわせた《ゆとりあり》は23.7%となっている。

⑭今後の就業意向

問8 あなたは今後、働きたい(働き続けたい)ですか。(1つに○)

<図表> 今後の就業意向

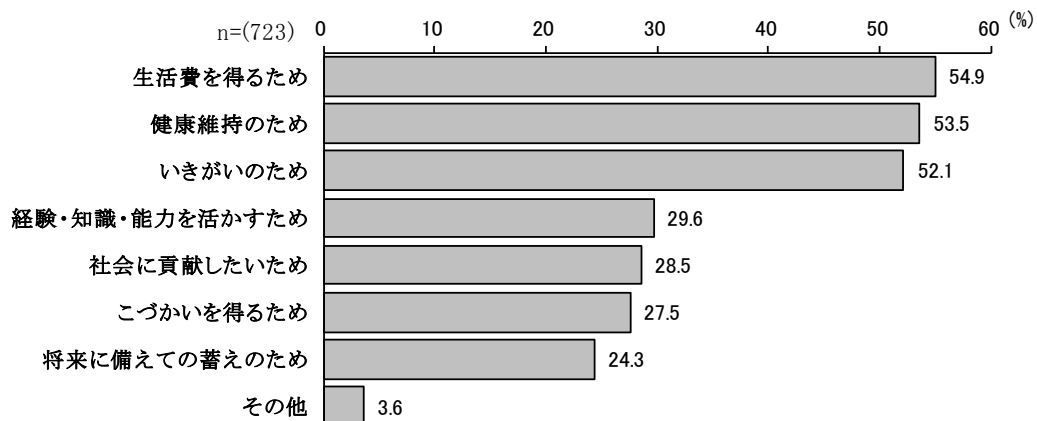


今後の就業意向についてたずねたところ、「働きたい(続けたい)」(38.8%)が4割近くと最も高く、次いで、「働きたくない」(34.2%)、「働きたいが、できない」(22.0%)の順となっている。

⑮働きたい（続けたい）理由

問8-1 <<問8で「働きたい（続けたい）」を選んだ方のみお答えください>>
 働きたい（続けたい）理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

<図表> 働きたい(続けたい)理由 (複数回答)

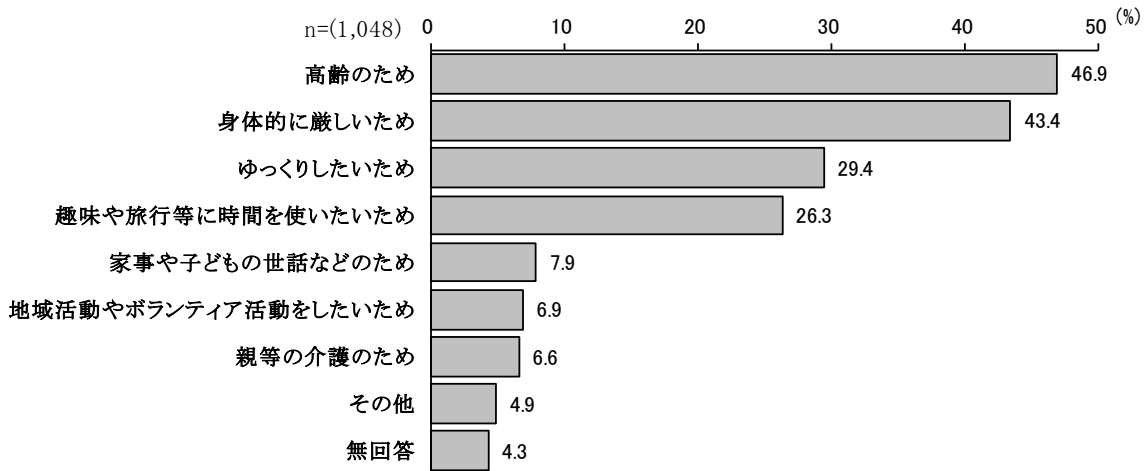


問8で「働きたい(続けたい)」と回答した人に働きたい(続けたい)理由についてたずねたところ、「生活費を得るため」(54.9%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「健康維持のため」(53.5%)、「いきがいのため」(52.1%)の順となっている。

⑩働けない（働きたくない）理由

問8-2 <<問8で「働きたいが、できない」または「働きたくない」を選んだ方のみお答えください>>
 働きたいが、できない（または働きたくない）理由は何ですか。
 （あてはまるものすべてに○）

<図表> 働けない(働きたくない)理由 (複数回答)

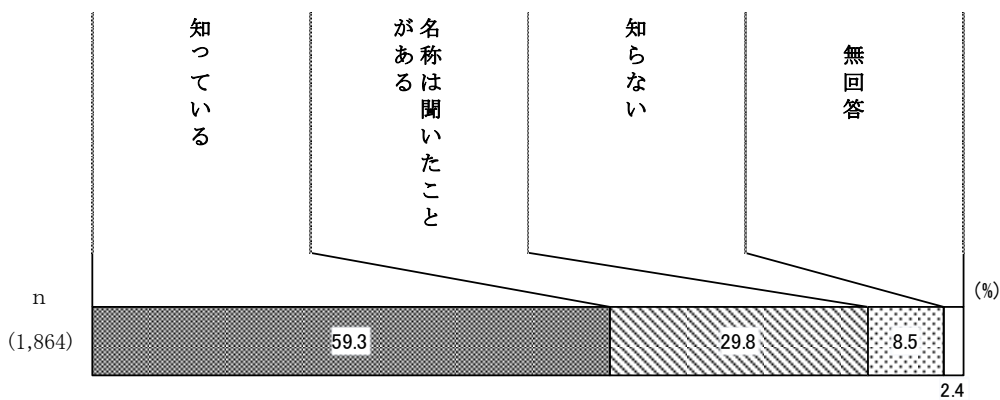


問8で「働きたいが、できない」または「働きたくない」と回答した人に働けない(働きたくない)理由についてたずねたところ、「高齢のため」(46.9%)が4割台半ばを超え最も高く、次いで「身体的に厳しいため」(43.4%)、「ゆっくりしたいため」(29.4%)の順となっている。

⑪新宿区シルバー人材センターの認知度

問9 あなたは、新宿区シルバー人材センターをご存じですか。(1つに○)

<図表> 新宿区シルバー人材センターの認知度



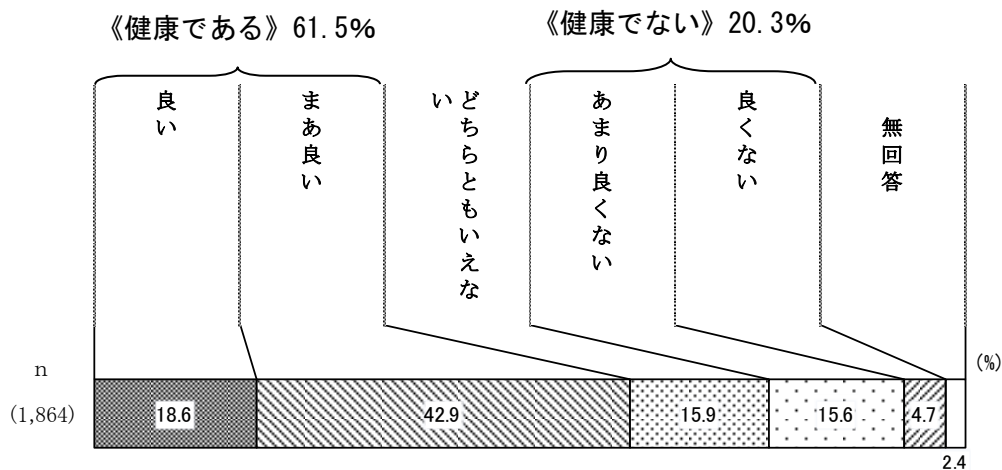
新宿区シルバー人材センターの認知度をたずねたところ、「知っている」(59.3%)は6割弱、「名称は聞いたことがある」(29.8%)は3割弱となっている。

(2) 健康状態や健康づくり等について

①健康状態

問 10 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(1つに○)

<図表> 健康状態

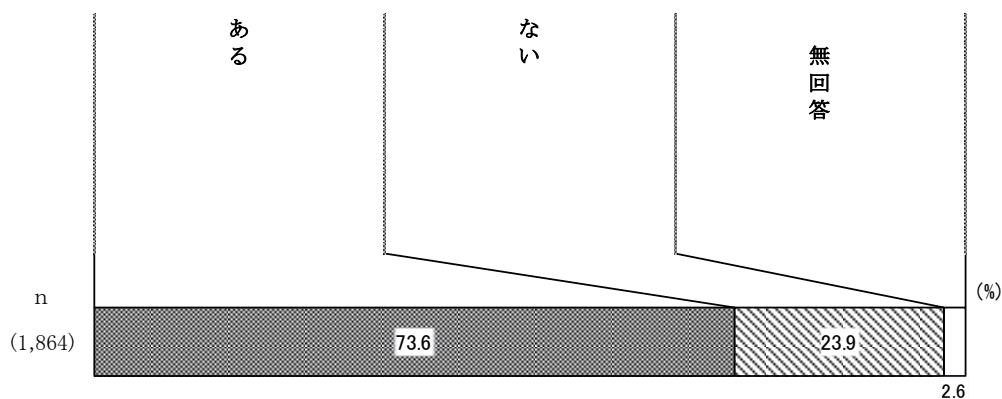


自身の健康状態についてたずねたところ、「良い」(18.6%)と「まあ良い」(42.9%)をあわせた《健康である》は61.5%となっている。

②治療中の病気の有無

問 11 あなたは、現在治療中の病気がありますか。(1つに○)

<図表> 治療中の病気の有無

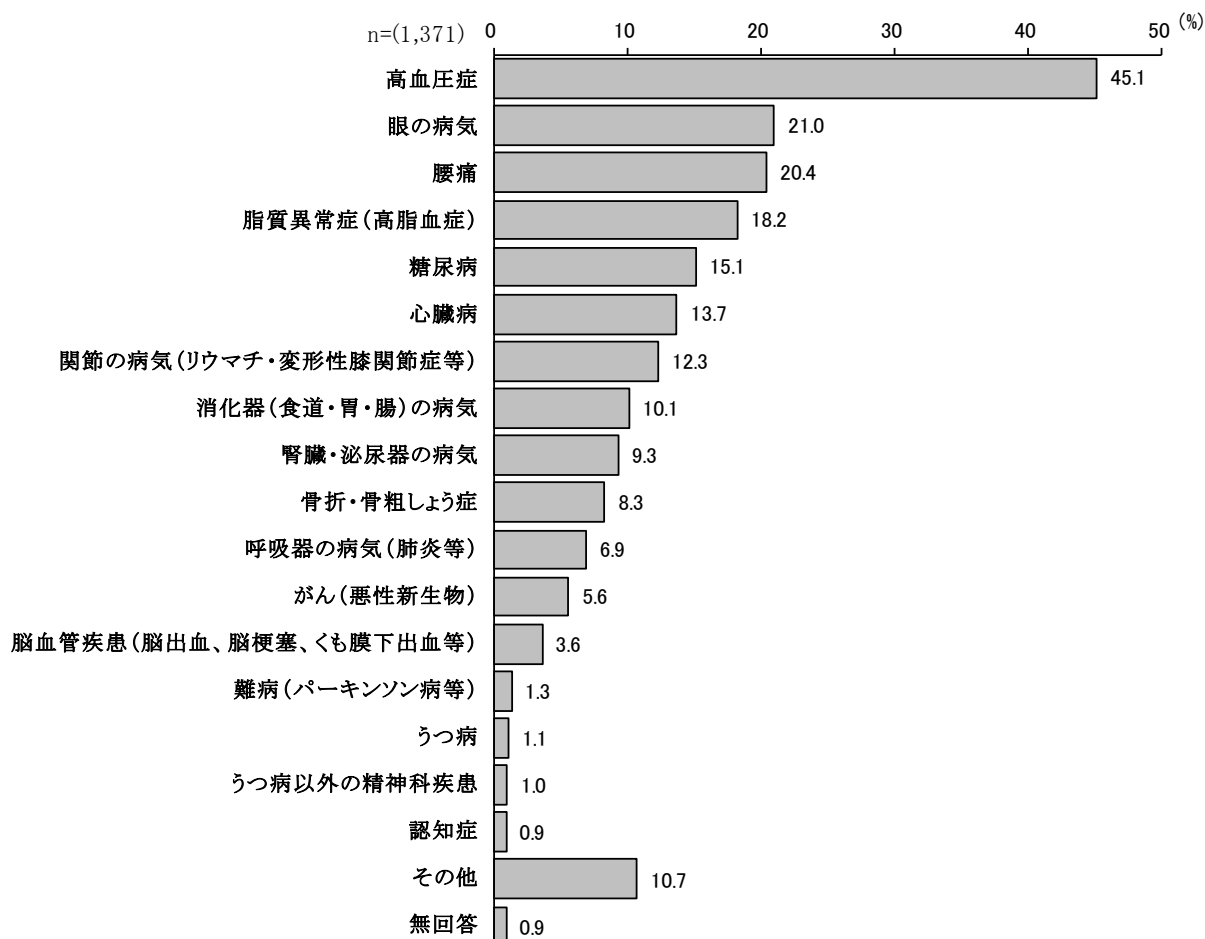


現在治療中の病気の有無をたずねたところ、「ある」(73.6%)が7割台半ば近くとなっている。

③治療中の病気の種類

問 11-1 《問 11 で「ある」を選んだ方のみお答えください》
治療中の病気は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 治療中の病気の種類 (複数回答)



問11で治療中の病気が「ある」と回答した人に治療中の病気についてたずねたところ、「高血圧症」(45.1%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「眼の病気」(21.0%)、「腰痛」(20.4%)の順となっている。「その他」では、歯や耳鼻の病気といった内容があげられた。

④受診している医療機関

問 11-2 《問 11 で「ある」を選んだ方のみお答えください》
 受診している医療機関は、次のうちどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 受診している医療機関 (複数回答)

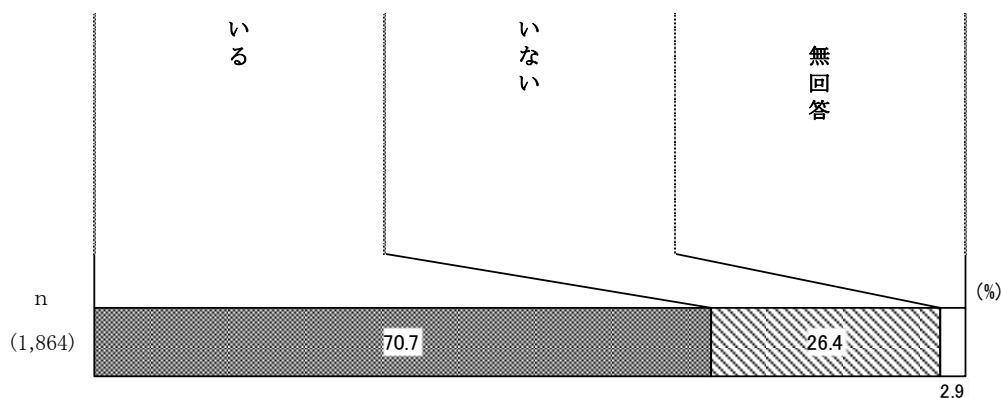


問11で治療中の病気が「ある」と回答した人に受診している医療機関についてたずねたところ、「診療所・クリニック(通院)」(52.1%)が5割強で最も高く、次いで、「病院」(49.5%)となっている。

⑤かかりつけ医の有無

問 12 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる
診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

<図表> かかりつけ医の有無

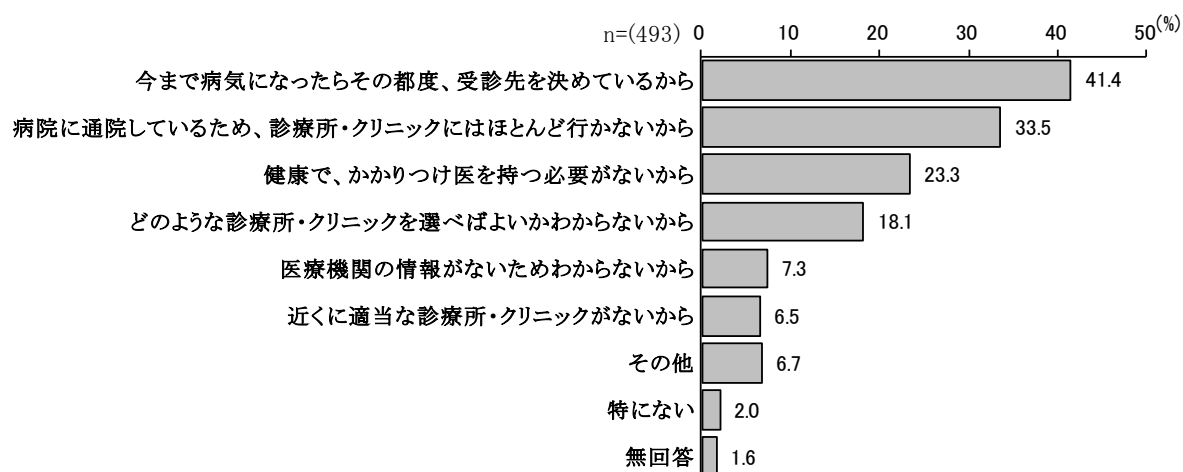


かかりつけ医の有無をたずねたところ、「いる」(70.7%)が約7割となっている。

⑥かかりつけ医がない理由

問 12-1 《問 12 で「いない」を選んだ方のみお答えください》
 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> かかりつけ医がない理由 (複数回答)



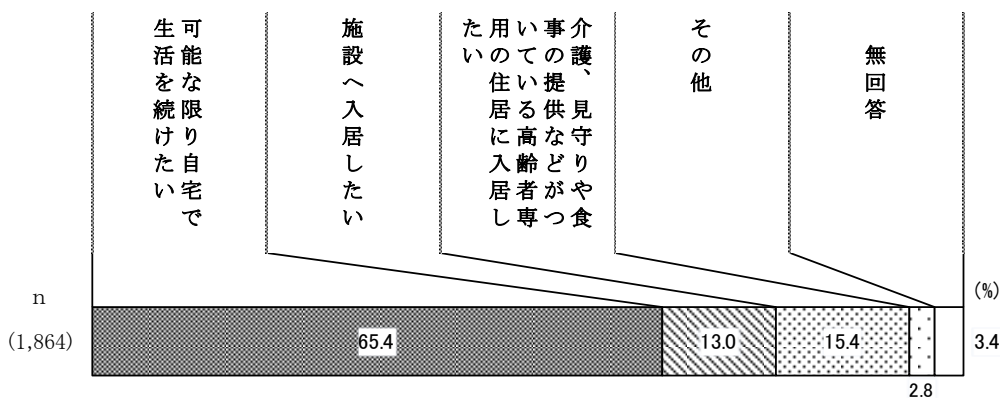
問12でかかりつけ医が「いない」と回答した人に、かかりつけ医がない理由をたずねたところ、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」(41.4%)が4割強と最も高く、次いで、「病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから」(33.5%)、「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」(23.3%)の順となっている。

(3) 在宅療養等について

①介護が必要になった場合の生活場所

問 13 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。
(1つに○)

<図表> 介護が必要になった場合の生活場所

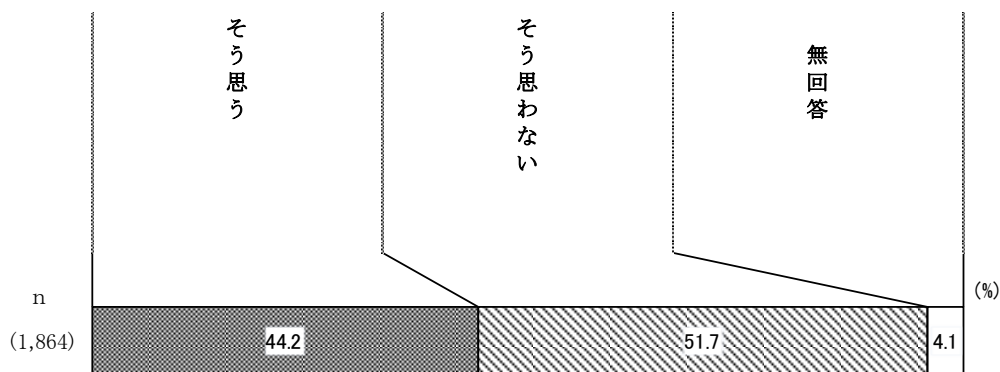


介護が必要になった場合の生活場所をたずねたところ、「可能な限り自宅で生活を続けたい」(65.4%) が6割台半ばと最も高くなっている。

②在宅療養の意向

問 14 あなたは、脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、理想として自宅で療養を続けたいと思いますか。(1つに○)

<図表> 在宅療養の意向

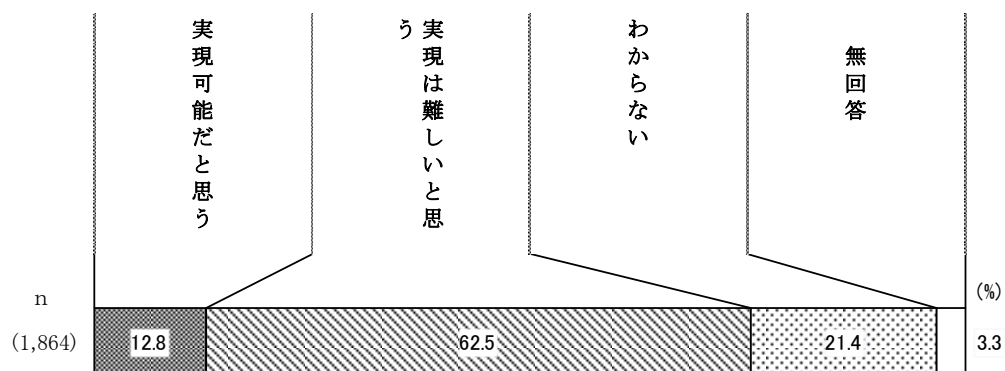


脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合の在宅療養の意向をたずねたところ、「そう思う」(44.2%) は4割台半ば近くとなっている。

③在宅療養の可能性

問 15 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。(1つに○)

<図表> 在宅療養の可能性

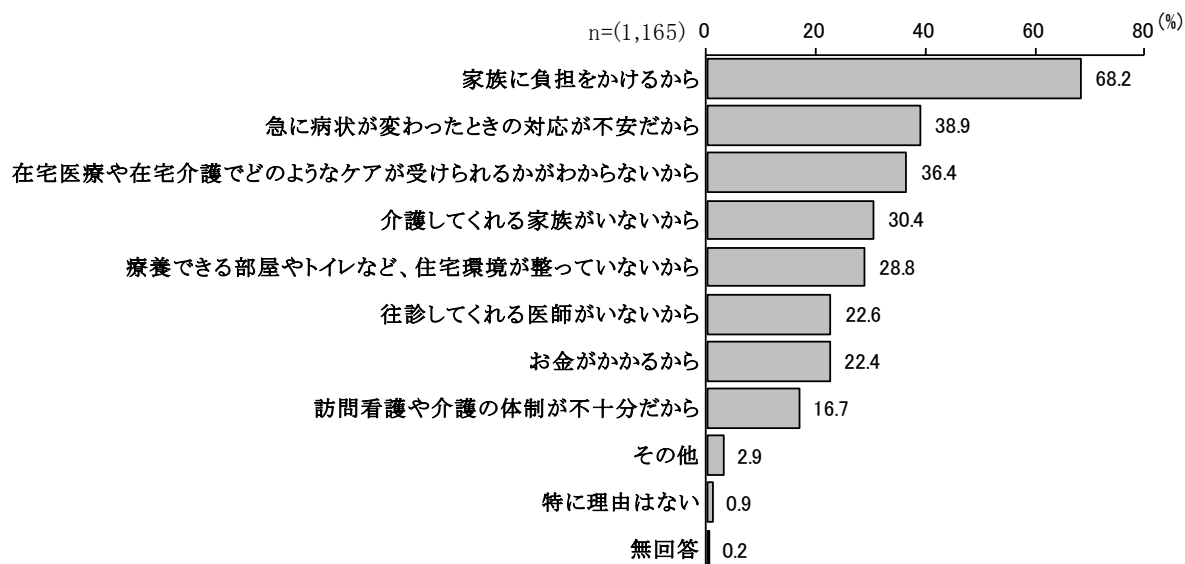


自宅での療養の可能性をたずねたところ、「実現は難しいと思う」(62.5%)は6割強と最も高くなっている。

④在宅療養が難しいと思う理由

問 15- 1 《問 15 で「実現は難しいと思う」を選んだ方のみお答えください》
 実現は難しいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 在宅療養が難しいと思う理由（複数回答）



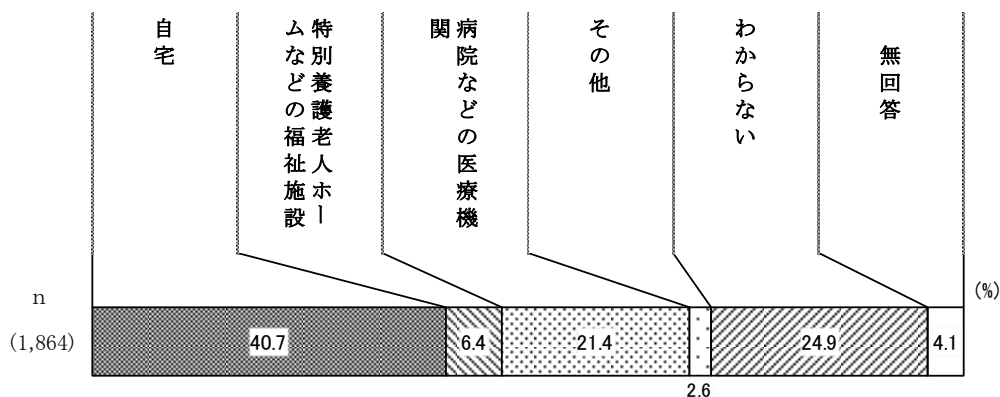
問15で「実現は難しいと思う」と回答した人に、在宅療養が難しいと思う理由をたずねたところ、「家族に負担をかけるから」(68.2%)が7割近くで最も高く、次いで、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」(38.9%)、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアが受けられるかわからないから」(36.4%)の順となっている。

(4) 人生の最終段階における医療について

①最期を迎えたい場所

問 16 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

<図表1> 最期を迎えたい場所

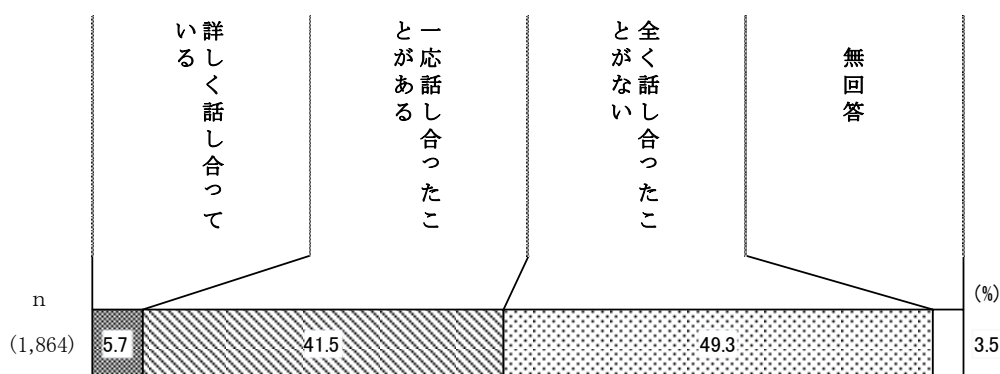


最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」(40.7%)が約4割で最も高く、次いで、「わからない」(24.9%)、「病院などの医療機関」(21.4%)の順となっている。

②ご家族と話し合った経験

問 17 あなたは、人生の最終段階において受けた医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。(1つに○)

<図表> ご家族と話し合った経験

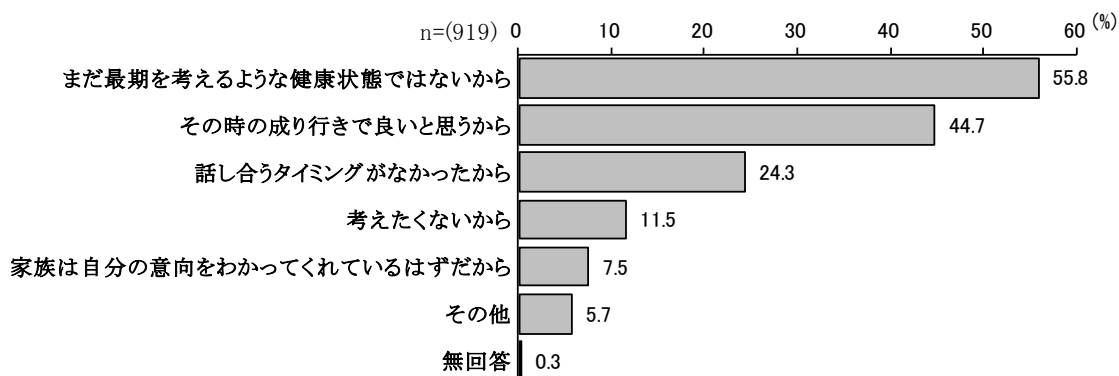


人生の最終段階で受けた医療・受けたくない医療について話し合った経験をたずねたところ、「全く話し合ったことがない」(49.3%)が5割弱で最も高く、次いで、「一応話し合ったことがある」(41.5%)となっている。

③全く話し合ったことがない理由

問 17-1 《問 17 で「全く話し合ったことがない」を選んだ方のみお答えください》
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 全く話し合ったことがない理由 (複数回答)

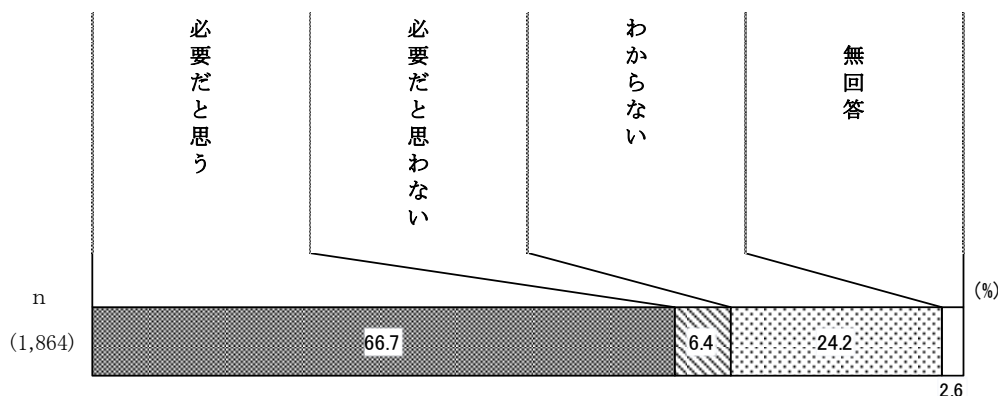


問17で「全く話し合ったことがない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「まだ最期を考えるような健康状態ではないから」(55.8%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「その時の成り行きで良いと思うから」(44.7%)、「話し合うタイミングがなかったから」(24.3%)の順となっている。

④エンディングノートなどの作成

問 18 あなたは、自分で判断できなくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面(エンディングノートなど)をあらかじめ作成しておくことについて、どう思いますか。(1つに○)

<図表> エンディングノートなどの作成



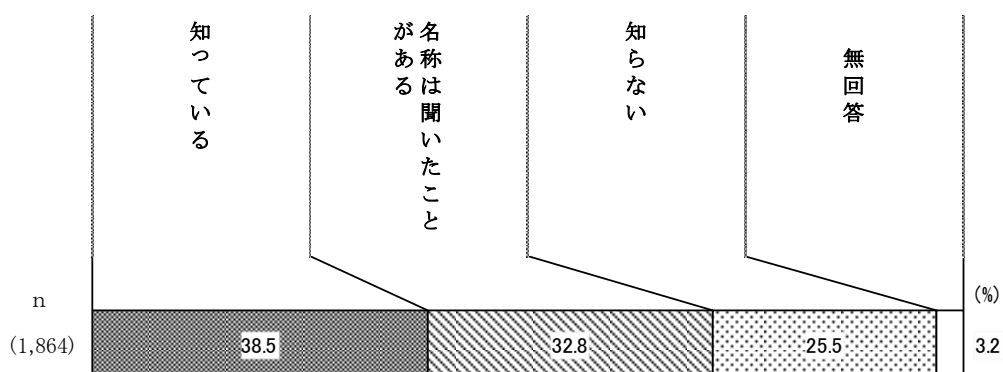
エンディングノートなどの作成についてたずねたところ、「必要だと思う」(66.7%)が6割台半ばを超えている。

(5) 緩和ケアについて

① 「緩和ケア」の認知度

問 19 あなたは、「緩和ケア」について、ご存じですか。(1つに○)

<図表> 「緩和ケア」の認知度

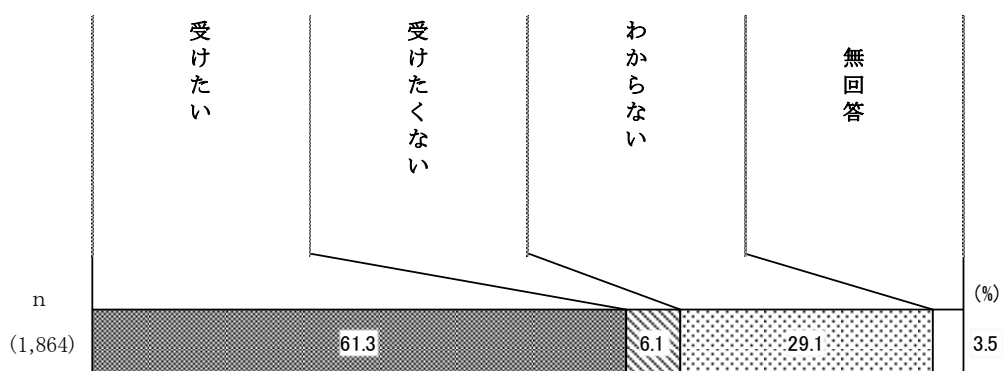


「緩和ケア」の認知度をたずねたところ、「知っている」(38.5%)は4割近く、「名称は聞いたことがある」(32.8%)は3割台半ば近くとなっている。

② 「緩和ケア」の利用意向

問 20 あなたは、重い病と診断された場合、治療と併せて、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表> 「緩和ケア」の利用意向

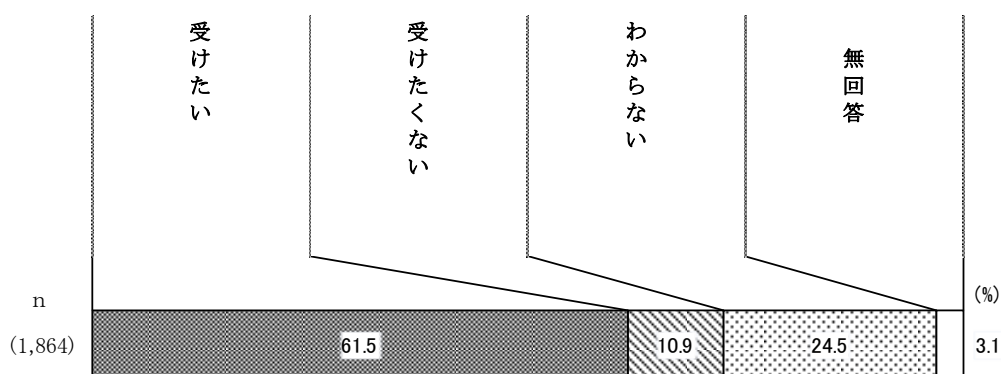


「緩和ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」(61.3%)は6割強となっている。

③症状の緩和を主とした医療・ケアの利用意向

問 21 あなたは、重い病で、回復が期待できない場合、痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表> 回復が期待できない場合、痛みやつらさの緩和を主とした医療・ケアの利用意向



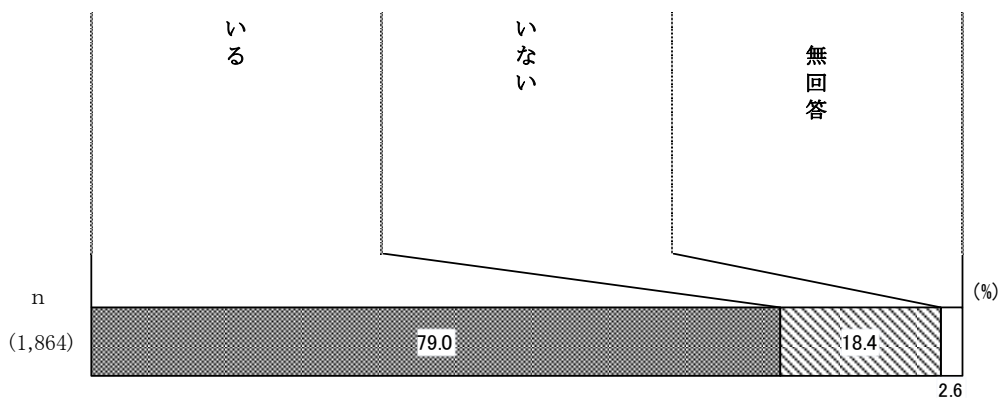
回復が期待できない場合の症状の緩和を主とした「緩和ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」(61.5%)は6割強となっている。

(6) 歯科について

①かかりつけ歯科医の有無

問 22 あなたは、治療や予防のために気軽に受診できる「かかりつけ歯科医」がいますか。
(1つに○)

<図表2> かかりつけ歯科医の有無

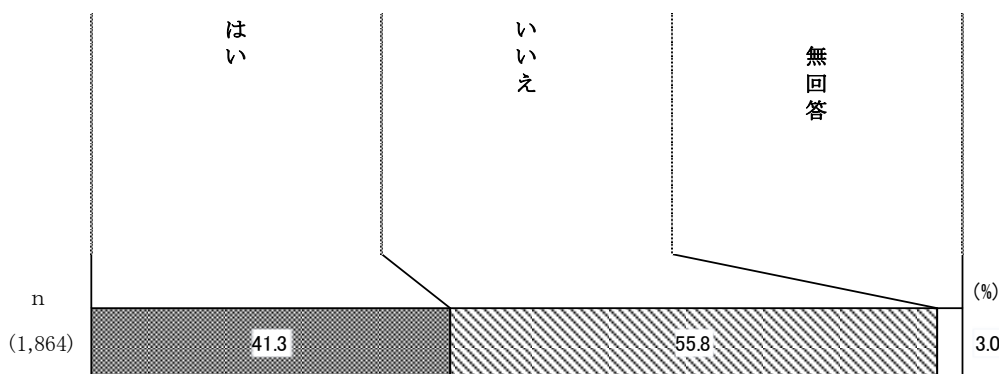


かかりつけ歯科医の有無をたずねたところ、「いる」(79.0%)は8割弱となっている。

②往診してくれる歯科医院の認知度

問 23 あなたは、往診してくれる歯科医院があることをご存じですか。(1つに○)

<図表> 往診してくれる歯科医院の認知度



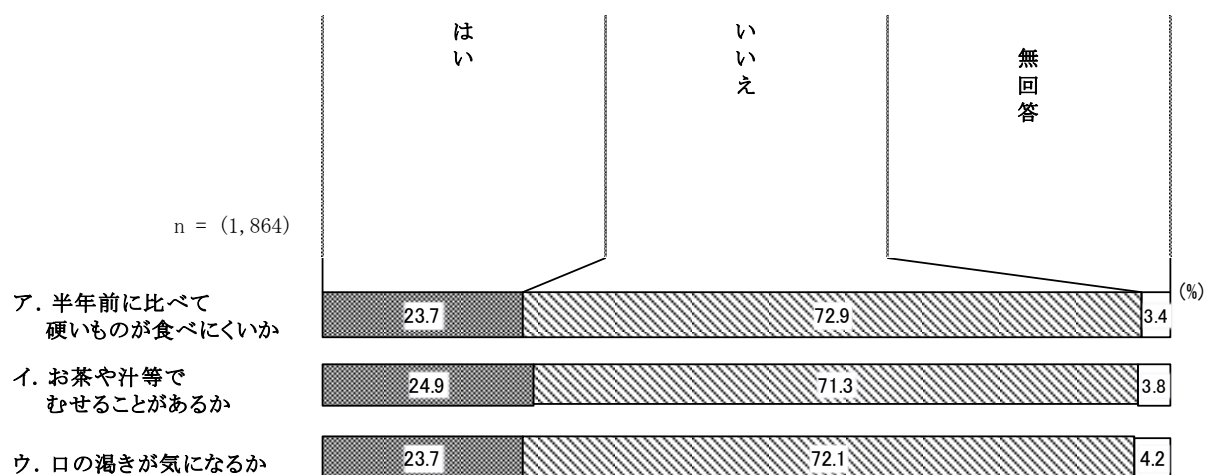
往診してくれる歯科医院の認知度をたずねたところ、「はい」(41.3%)は4割強、「いいえ」(55.8%)は5割台半ばとなっている。

(7) 摂食嚥下(食べる機能)について

①食べる機能について

問 24 あなたの食べる機能について、ア～ウのすべての質問にお答えください。
(それぞれ1つに〇)

<図表> 食べる機能について



硬いものの食べにくさの有無をたずねたところ、「はい」(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。

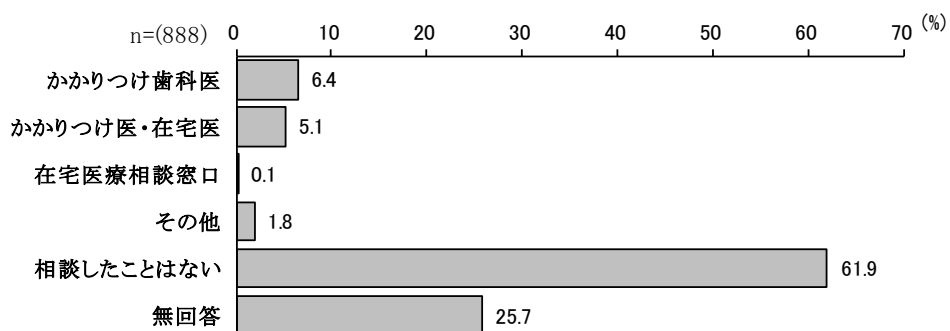
お茶や汁等でむせることの有無をたずねたところ、「はい」(24.9%)が2割台半ば近くとなっている。

口の渇きの有無をたずねたところ、「はい」(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。

②摂食嚥下についての相談先

問 24-1 <<問 24 のア～ウのいずれかまたはすべてで「はい」を選んだ方のみお答えください。>>
 摂食嚥下についてどこかに相談したことはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 摂食嚥下についての相談先 (複数回答)



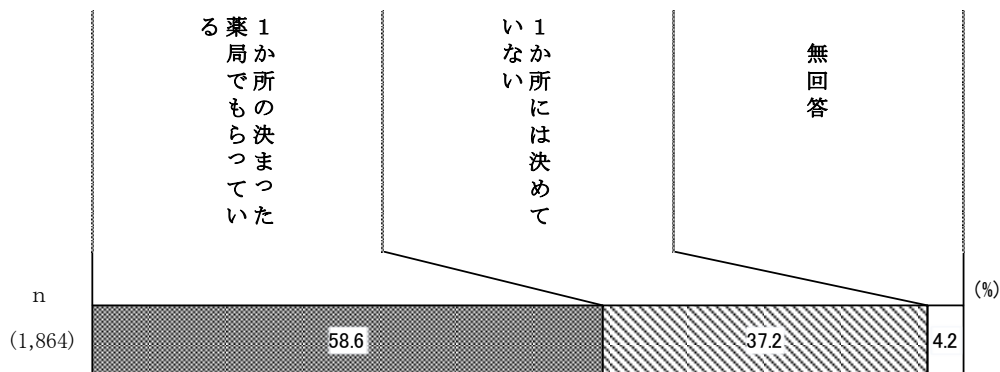
問24のいずれかまたはすべてで「はい」を選んだ人に摂食嚥下についての相談先をたずねたところ、「相談したことはない」(61.9%)が6割強で最も高かった。「かかりつけ歯科医」は6.4%、「かかりつけ医、在宅医」は5.1%となっている。

(8) 薬局について

①薬をもらう薬局の特定

問 25 あなたは、病院・診療所から処方された薬をもらう薬局を1か所に決めていますか。
(1つに○)

<図表> 薬をもらう薬局の特定

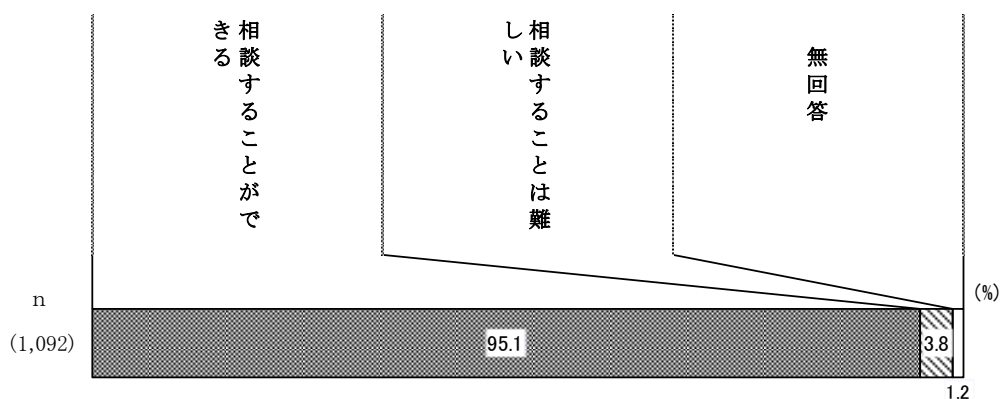


薬をもらう薬局を1か所に決めているかたずねたところ、「1か所の決まった薬局でもらっている」(58.6%)が6割近く、「1か所には決めていない」(37.2%)が3割台半ばを超えている。

②薬の説明を聞いたり、相談することの可能性

問 25-1 <<問 25 で「1か所の決まった薬局でもらっている」を選んだ方のみお答えください>>
その薬局では、薬の説明を聞いたり、相談をすることができますか。
(1つに○)

<図表> 薬の説明を聞いたり、相談することの可能性

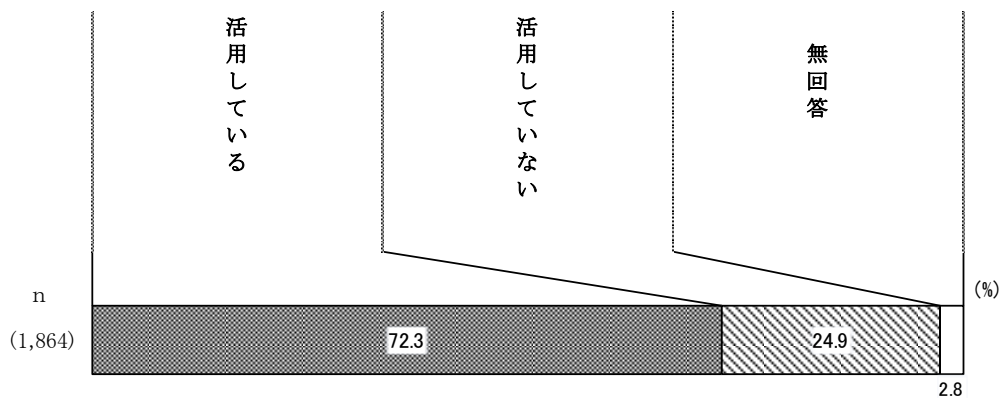


問25で「1か所の決まった薬局でもらっている」と回答した人に、薬局で薬の説明を聞いたり、相談することができるかたずねたところ、「相談することができる」(95.1%)が9割台半ばとなっている。

③お薬手帳の活用状況

問 26 医師や薬剤師に見せることであなたの薬の情報が正しく伝わり、治療方針を検討する役に立てることができる「お薬手帳」を活用していますか。(1つに○)

<図表> お薬手帳の活用状況



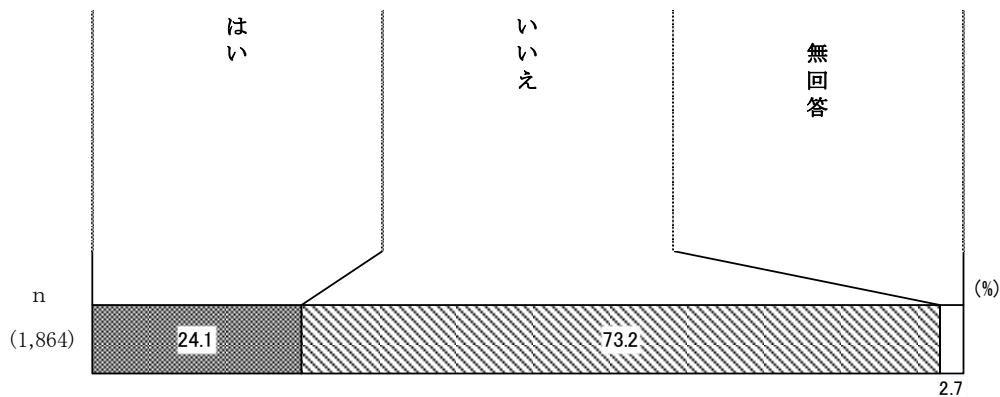
お薬手帳の活用状況をたずねたところ、「活用している」(72.3%)は7割強、「活用していない」(24.9%)は2割台半ば近くとなっている。

(9) お住まいについて

①住まいにおける不便・不安の有無

問 27 あなたは、現在のお住まいに不便や不安を感じていますか。(1つに○)

<図表> 住まいにおける不便・不安の有無

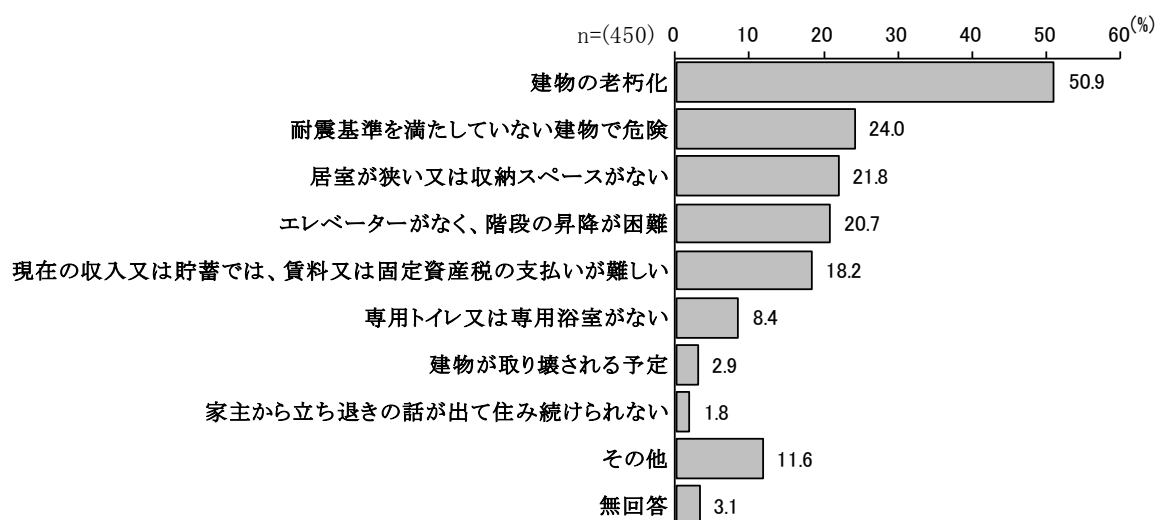


住まいにおける不便・不安の有無をたずねたところ、「はい」(24.1%)は2割台半ば近く、「いいえ」(73.2%)は7割台半ば近くとなっている。

②住まいにおける不便・不安を感じる理由

問 27-1 <<問 27 で「はい」を選んだ方のみお答えください>>
その理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 住まいにおける不便・不安を感じる理由 (複数回答)

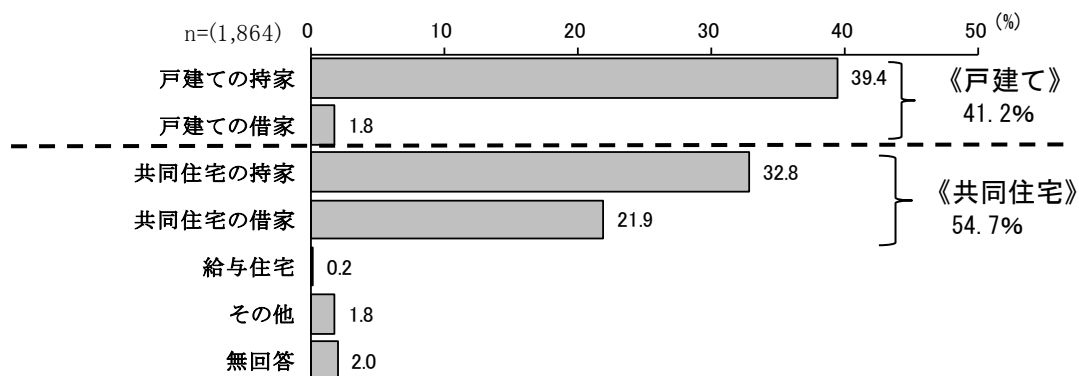


問27で住まいにおける不便・不安を感じているかについて「はい」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「建物の老朽化」(50.9%)が約5割で最も高く、次いで、「耐震基準を満たしていない建物で危険」(24.0%)、「居室が狭い又は収納スペースがない」(21.8%)の順となっている。

③住まいの形態

問 28 現在のお住まいは次のうちどれですか。(1つに○)

<図表> 住まいの形態

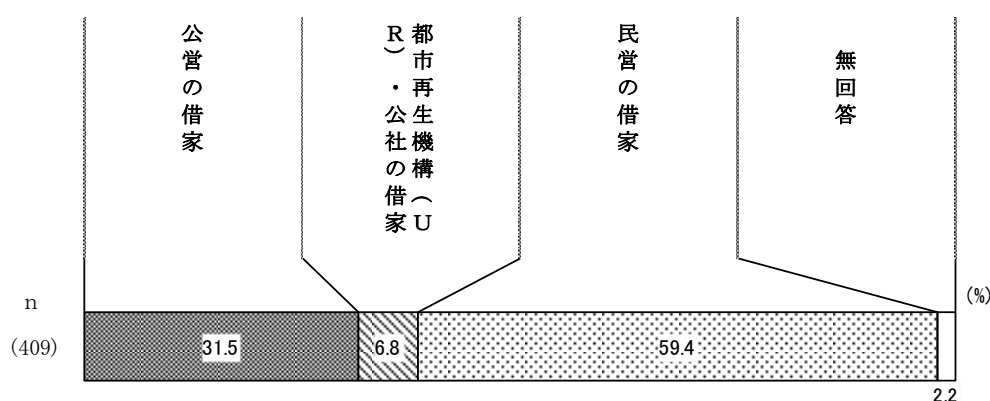


住まいの形態についてたずねたところ、「戸建ての持家」(39.4%)が4割弱と最も高く、次いで、「共同住宅の持家」(32.8%)の順となっている。《共同住宅》(54.7%)は5割台半ば近くとなっており、《戸建て》(41.2%)より13.5ポイント高くなっている。

④借家の種類

問 28-1 《問 28 で「共同住宅の借家」を選んだ方のみお答えください》
該当する借家をお答えください。(1つに○)

<図表3> 借家の種類



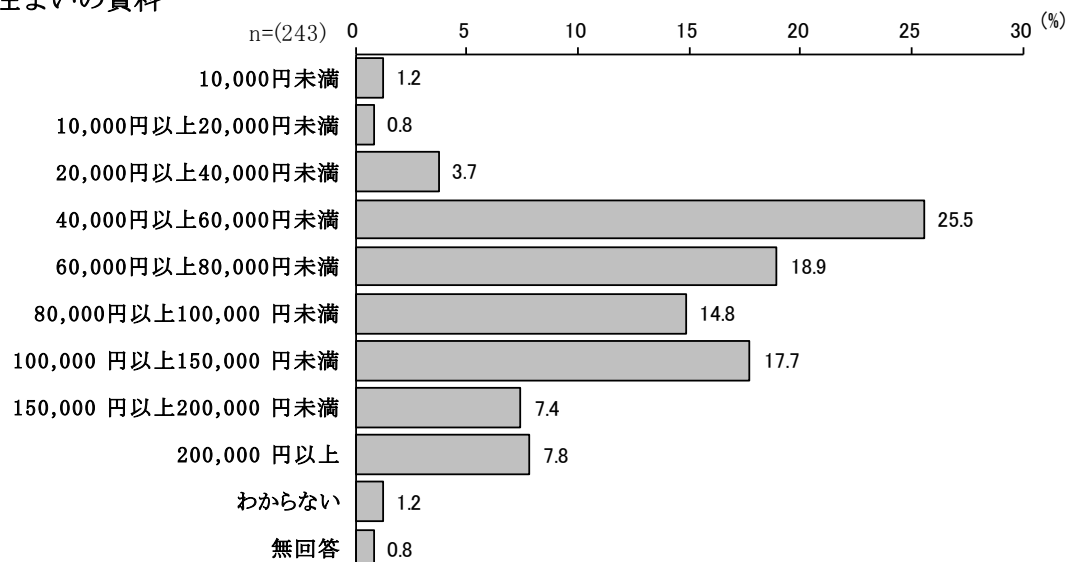
問28で「共同住宅の借家」と回答した人に借家の種類をたずねたところ、「民営の借家」(59.4%)が約6割で最も高く、次いで、「公営の借家」(31.5%)、「都市再生機構(U R)・公社の借家」(6.8%)の順となっている。

⑤住まいの賃料

問 28-2 <<問 28-1 で「民営の借家」を選んだ方のみお答えください>>

民営の借家（民間賃貸住宅）にお住まいの方の賃料負担の実態を把握させていただくため、お住まいの賃料についてお答え下さい。（1つに○）

<図表> 住まいの賃料



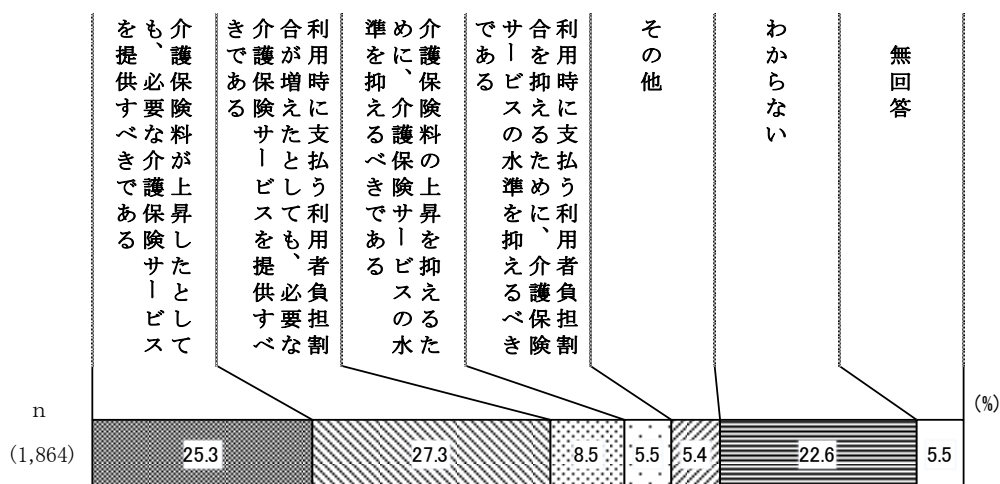
問28-1で「民営の借家」と回答した人に住まいの賃料をたずねたところ、「40,000円以上60,000円未満」(25.5%)が2割台半ばで最も高く、次いで、「60,000円以上80,000円未満」(18.9%)、「100,000円以上150,000円未満」(17.7%)の順となっている。

(10) 介護保険制度について

①介護保険のサービスと費用負担

問 29 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表> 介護保険のサービスと費用負担



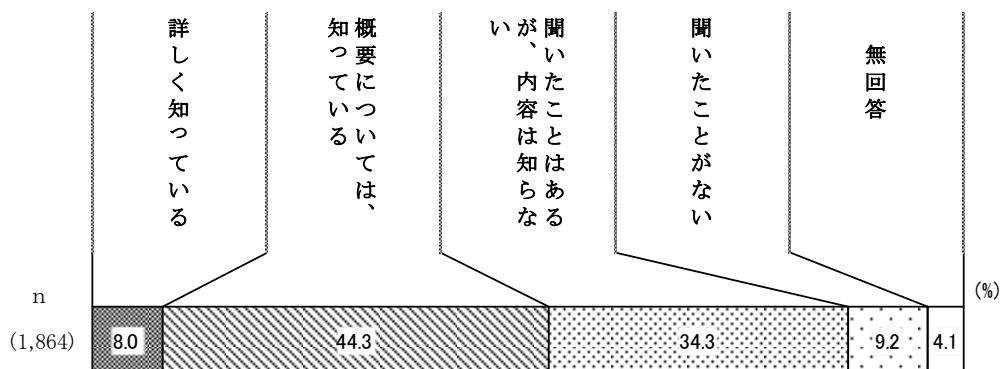
介護保険のサービスと費用負担についてたずねたところ、「サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(27.3%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(25.3%)、「わからない」(22.6%)の順となっている。

(11) 権利擁護について

① 成年後見制度の認知度

問 30 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

<図表> 成年後見制度の認知度

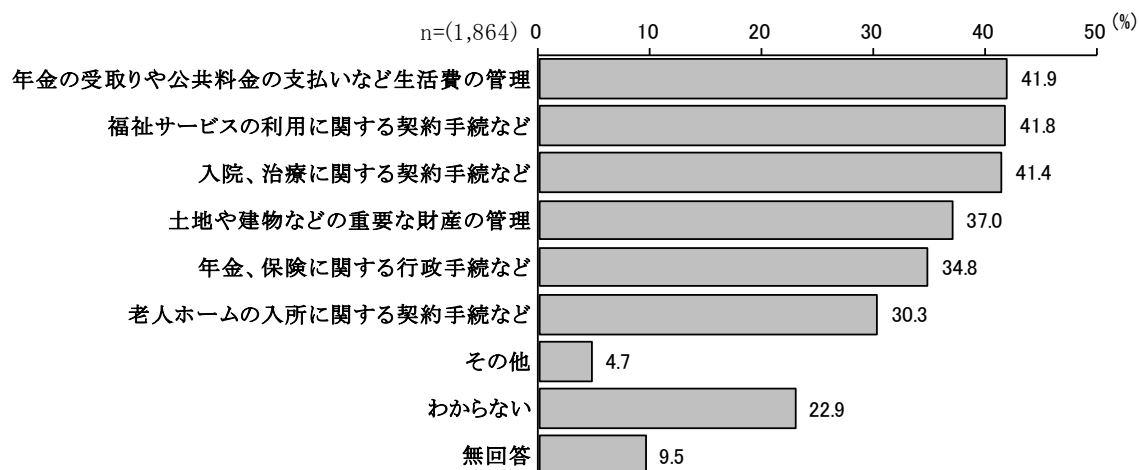


成年後見制度の認知度をたずねたところ、「概要については、知っている」(44.3%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(34.3%)、「聞いたことがない」(9.2%)の順となっている。

② 成年後見制度を利用する際、期待する役割

問 31 あなたが成年後見制度に期待する役割は何ですか。
すでに利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 成年後見制度を利用する際、期待する役割 (複数回答)

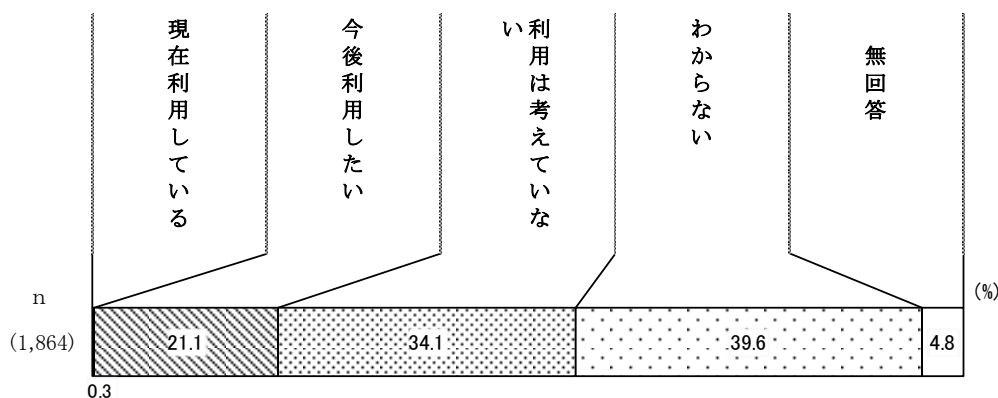


成年後見制度を利用する際、期待する役割をたずねたところ、「年金の受取りや公共料金の支払いなど生活費の管理」(41.9%)が4割強と最も高く、次いで、「福祉サービスの利用に関する契約手続など」(41.8%)、「入院、治療に関する契約手続など」(41.4%)の順となっている。

③成年後見制度の利用意向

問 32 あなたは、あなた自身が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

<図表> 成年後見制度の利用意向



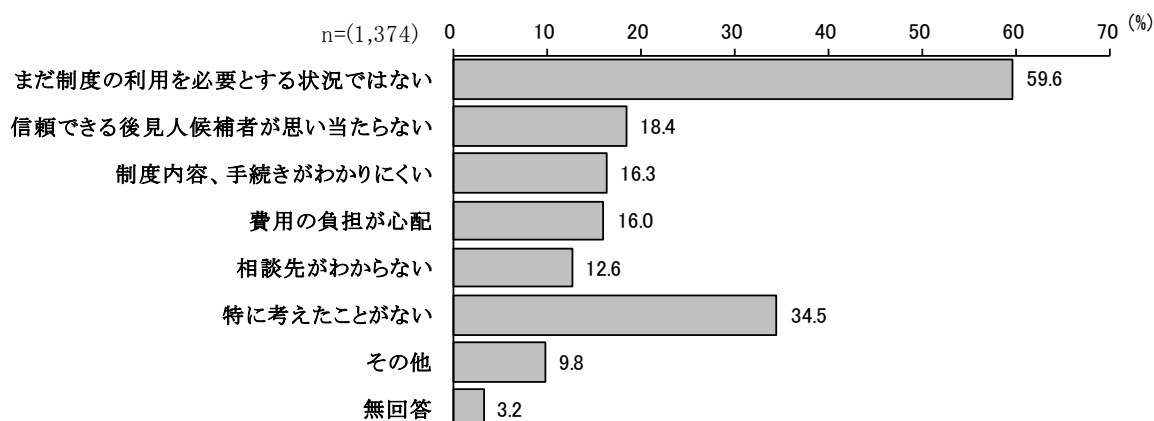
成年後見制度の利用意向をたずねたところ、「わからない」(39.6%)が4割弱と最も高く、次いで、「利用は考えていない」(34.1%)、「今後利用したい」(21.1%)の順となっている。

④成年後見制度を利用しない理由

問 32-1 <<問 32 で「利用は考えていない」または「わからない」を選んだ方のみお答えください>>

あなた自身が、成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 成年後見制度を利用しない理由 (複数回答)

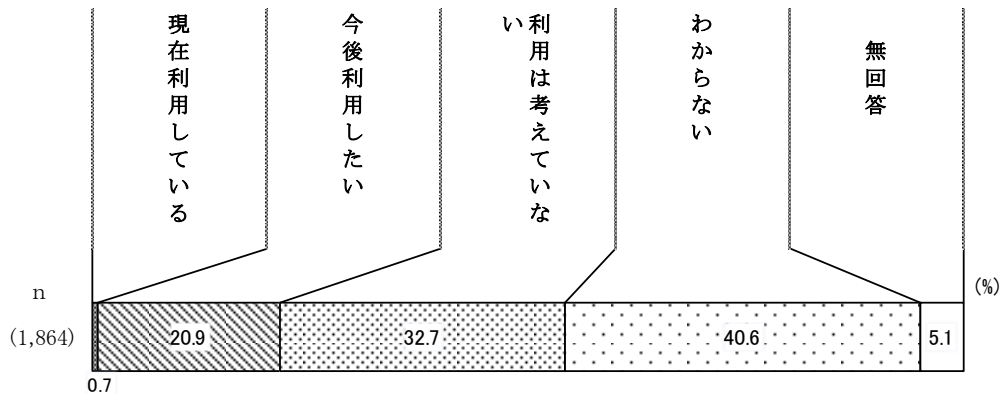


問32で「利用は考えていない」「わからない」と回答した人に成年後見制度を利用しない理由をたずねたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」(59.6%)が約6割で最も高く、次いで、「特に考えたことがない」(34.5%)、「信頼できる後見人候補者が思い当たらない」(18.4%)の順となっている。

⑤家族・親族の成年後見制度の利用意向

問 33 あなたは、家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

<図表> 家族・親族の成年後見制度の利用意向

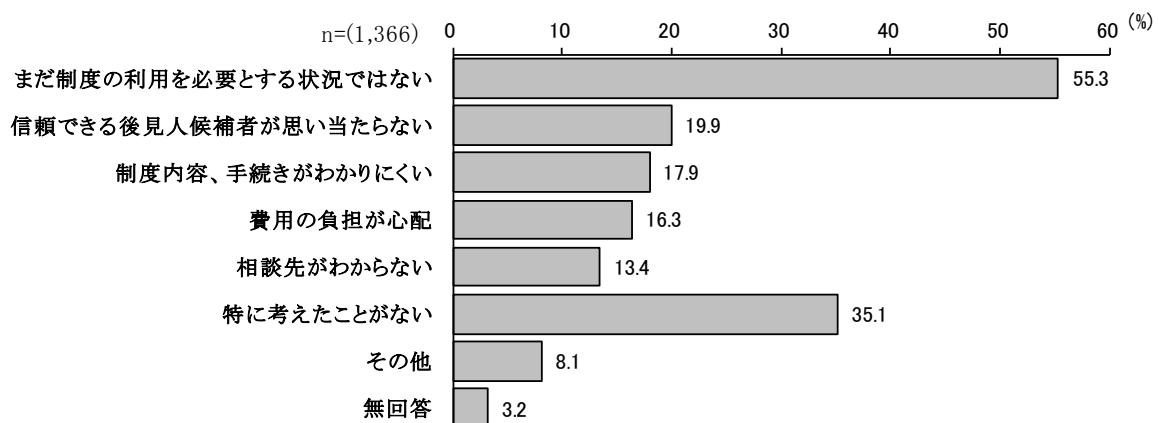


家族・親族の成年後見制度の利用意向をたずねたところ、「わからない」(40.6%)が約4割と最も高く、次いで、「利用は考えていない」(32.7%)、「今後利用したい」(20.9%)の順となっている。

⑥家族・親族の成年後見制度を利用しない理由

問 33-1 <<問 33で「利用は考えていない」または「わからない」を選んだ方のみお答えください>>
家族・親族が、成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 家族・親族の成年後見制度を利用しない理由 (複数回答)



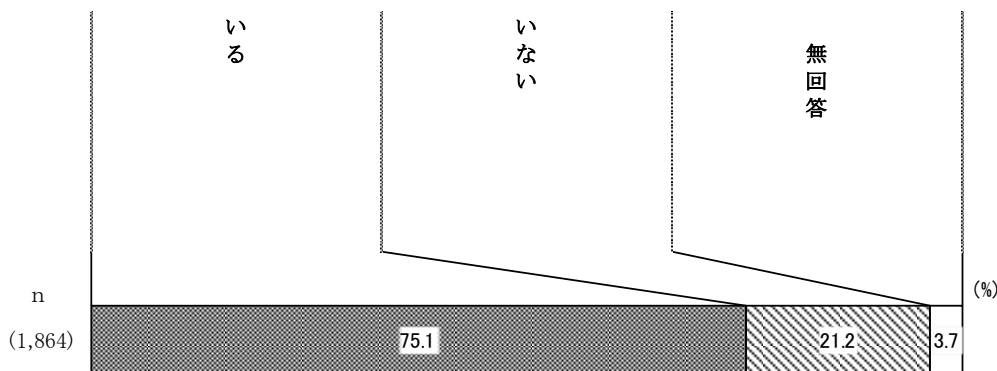
問33で「利用は考えていない」「わからない」と回答した人に家族・親族が成年後見制度を利用しない理由をたずねたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」(55.3%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「特に考えたことがない」(35.1%)、「信頼できる後見人候補者が思い当たらない」(19.9%)の順となっている。

(12) 災害時の支援などについて

①災害時に同居者以外で頼りになる人の有無

問 34 災害で困ったとき、同居者以外で頼りになる人がいますか。(1つに○)

<図表> 災害時に同居者以外で頼りになる人の有無

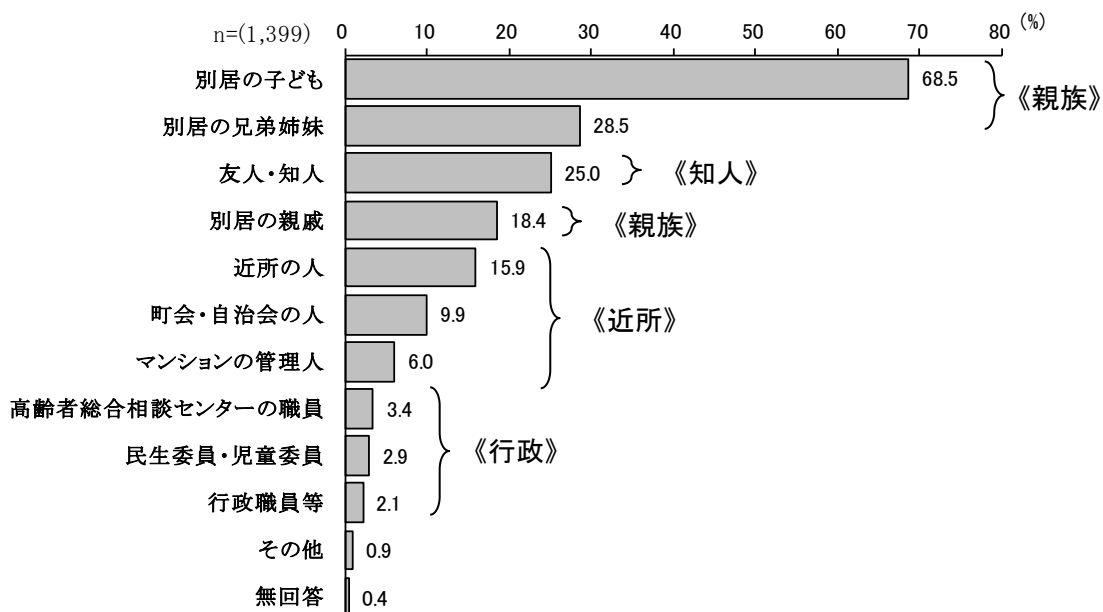


災害時に同居者以外で頼りになる人の有無をたずねたところ、「いる」(75.1%)は7割台半ばとなっている。

②災害時に同居者以外で頼りになる人の続柄

問 34-1 <<問 34 で「いる」を選んだ方のみお答えください>>
それはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 災害時に同居者以外で頼りになる人の続柄 (複数回答)

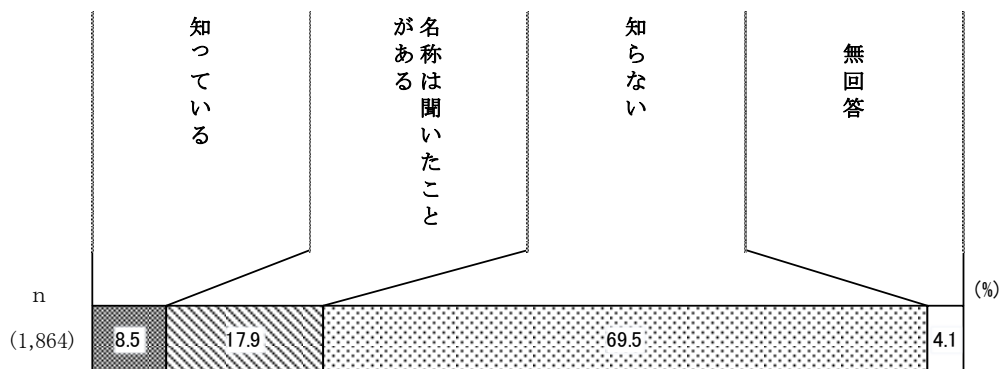


問34で同居者以外で頼りになる人が「いる」と回答した人に、その続柄をたずねたところ、「別居の子ども」(68.5%)が7割近くと最も高く、次いで、「別居の兄弟姉妹」(28.5%)、「友人・知人」(25.0%)の順となっている。

③「災害時要援護者名簿」の認知度

問 35 あなたは、災害時における安否確認などの支援を必要とする方が事前に登録する「災害時要援護者名簿」をご存知ですか。(1つに○)

<図表> 「災害時要援護者名簿」の認知度



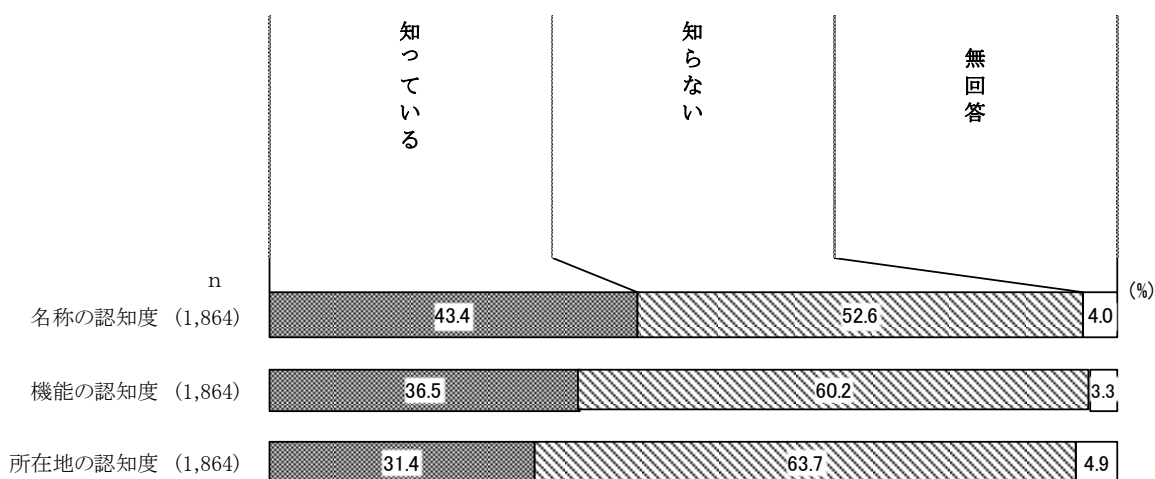
「災害時要援護者名簿」の認知度をたずねたところ、「知らない」(69.5%)が7割弱と最も高く、次いで、「名称は聞いたことがある」(17.9%)、「知っている」(8.5%)の順となっている。

(13) 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

① 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度

- 問 36 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか。(1つに○)
 問 37 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか。(1つに○)
 問 38 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか。(1つに○)

<図表> 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度



高齢者総合相談センターの名称の認知度をたずねたところ、「知っている」(43.4%)は4割台半ば近くとなっている。

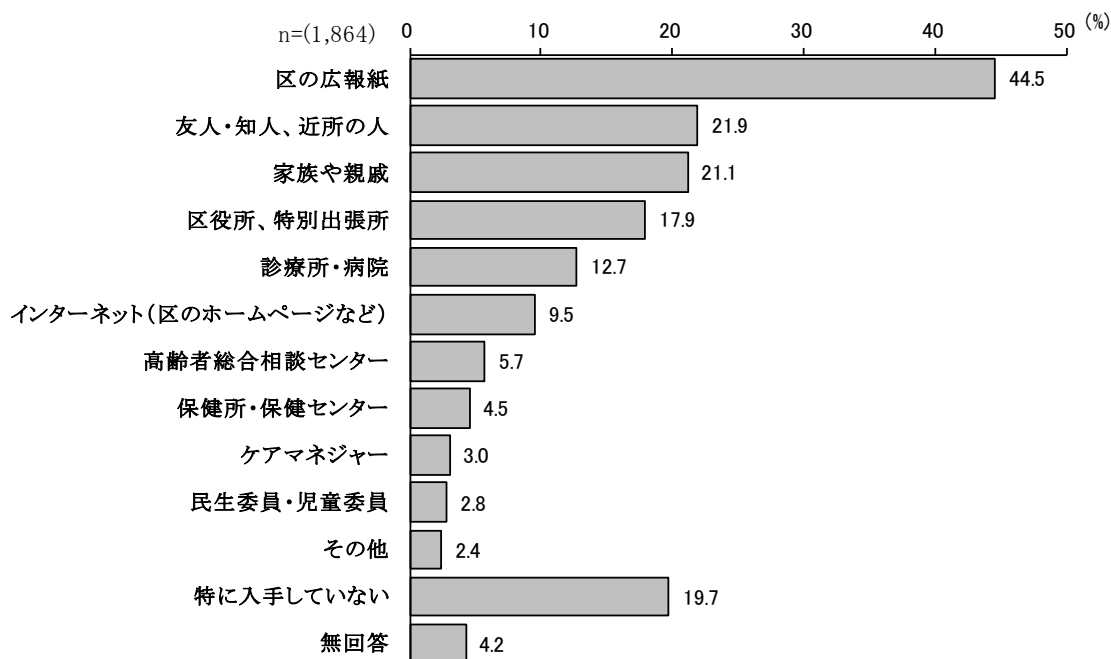
機能の認知度をたずねたところ、「知っている」(36.5%)は3割台半ばを超えている。

所在地の認知度をたずねたところ、「知っている」(31.4%)は3割強となっている。

②健康や福祉サービスに関する情報の入手手段

問 39 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 健康や福祉サービスに関する情報の入手手段（複数回答）

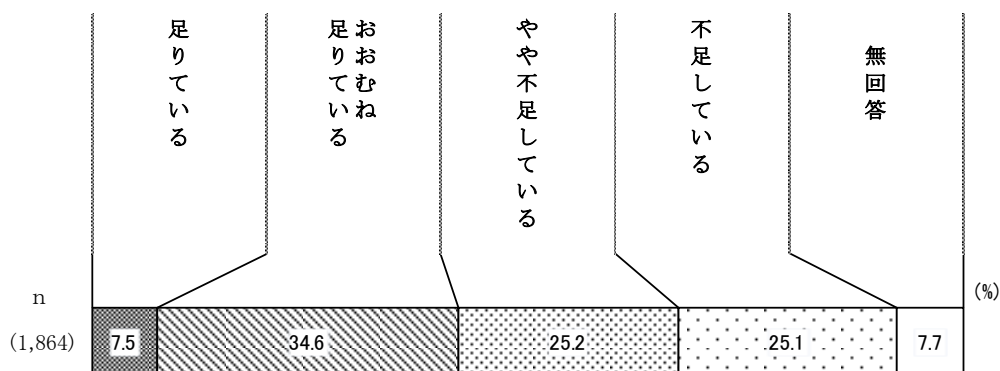


健康や福祉サービスに関する情報の入手手段についてたずねたところ、「区の広報紙」(44.5%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「友人・知人、近所の人」(21.9%)、「家族や親戚」(21.1%)の順となっている。

③健康や福祉サービスに関する情報量の充実度

問 40 あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。(1つに○)

<図表> 健康や福祉サービスに関する情報量の充実度



健康や福祉サービスに関する情報の充実度についてたずねたところ、「おおむね足りている」(34.6%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで、「やや不足している」(25.2%)、「不足している」(25.1%)の順となっている。

④高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問 41 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、548人からの回答があった。回答の多かった内容は、「介護保険・保険料について」「情報提供・相談について」「高齢者施策について」の順であった。

各事項（その他除く）について、回答の中からいくつかの意見を示す。

介護保険・保険料について	情報提供・相談について	高齢者施策について	サービスについて	高齢者向け施設について	健康・介護予防について	医療・保健について	アンケートについて	地域のコミュニティについて	家族等介護者のことについて	独居高齢者について	住まいについて	認知症について	災害時・緊急時のことについて	その他
116	79	64	52	42	35	34	26	18	15	15	9	7	6	56

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【介護保険・保険料について】

- ・介護保険料が、高いと思う。
- ・介護保険料が、今後、上昇していくのはやむを得ないが、必要とするサービスは、引続き提供してほしい。

【情報提供・相談について】

- ・電話一本で、すぐに通じる相談窓口がほしい。ちょっとしたアドバイスや指示をしてくれるような。
- ・新宿区の区報より、高齢者用の区報が欲しい。全体の中から、自分に関する情報が、簡単にわかる方がよい。

【高齢者施策について】

- ・新宿区は、かなり充実していると思います。充実はありがたいのですが、過剰にならないよう、常に、合理化の検討は、続けていただきたい。
- ・高齢者にとって、共に、助け合って生きていけるような環境を作っていければいいと思います。そのための公助、よろしくお願いします。

【サービスについて】

- ・一人暮らしの人にサポートが届くように、配慮が必要と思う。
- ・困ったときに、区が中心となって、手厚いサポートのネットワークを個別に作っていただきたい。

【高齢者向け施設について】

- ・高齢者総合相談センターの所在、及び、活動内容・利用の仕方について、周知することが必要。
- ・高齢者が、ひきこもりにならないように、少人数で、気軽に集まって、お茶をのんだり、話をしたりする場所（情報交換できる）が、もっとあると、いいなと思います。

【健康・介護予防について】

- ・老後の不安を、一つでも取り除く政策をお願いしたい。予防に力を入れてもらいたい。
- ・運動など健康増進の方策を、気軽にできるようにしてほしい。

【医療・保健について】

- ・在宅医療を進めようとしていますが、町中の医者も高齢化して、若いお医者さんが、町の中にいません。10年後、20年後に、果たして、在宅医療を支えるお医者さんが、いるのでしょうか？
- ・健康診断の検査項目を増やして、特に、血液検査等で、予測する病気の予防や、食事指導などがあるといいかなと思います。

【アンケートについて】

- ・アンケートに答えながら、自分が、もっと知ろうとして、学ばねばならないと感じました。後半、知らないことが沢山ありました。
- ・このようなアンケートを、時々ください。再確認できます。

【地域のコミュニティについて】

- ・お隣、近所が、ワンルームマンション、アパートになり、挨拶すらする相手が居なくなって、災害時などに、どうすれば良いかと思うときがあります。
- ・地域ごとに、細分化した集まる場所があるとよい。個人宅なども、ある程度行政が関与・指導可能なら提供できる。

【家族等介護者のことについて】

- ・主人の在宅介護で、やむをえず息子に仕事をやめさせてしまい、5年間、手助けをしてもらいました。息子の今後の、どうなるか気になります。
- ・夫婦2人共、現在は介護の必要はないが、いつ介護が必要になり、子ども達に負担を掛けるか不安です。

【独居高齢者について】

- ・一人暮らしですので、考えだしたら何も分からず、不安だらけです。
- ・一人暮らしの家が多いため、急病時に、とっさに、知らせ、助けを求める手段、器具（日常の見まもり方法、知らせる方法）など、何かないか。孤独死が多いため、必要か。

【住まいについて】

- ・高齢者が、都営住宅に、容易に入居できるようにしてください。

【認知症について】

- ・75才以上になったら、健康診断に認知症の検査も入れてほしい。現在、一番心配なのは、認知症になることです。

【災害時・緊急時のことについて】

- ・高齢者への見守りは、必要かと思います。地域でどのような暮らしをしているか、把握している事が、災害時にも有効かと思います。

2 一般高齢者【重点】調査

(1) ご本人について

①調査票の記入者

<図表> 調査票の記入者

調査数	調査票の記入者			
	本人	家族	その他	無回答
1,837	1,553	45	3	236

②現在の状況（本人の不在の事情）

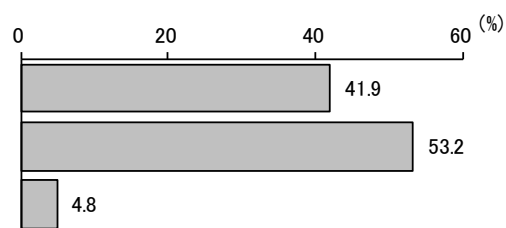
<図表> 現在の状況（本人の不在の事情）

調査数	現在の状況（本人の不在の事情）					
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	左記に該 当しない
1,837	5	2	-	-	16	1,814

③性別

<図表> 性別

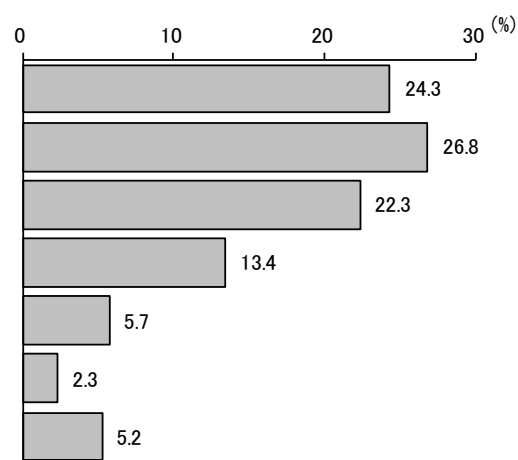
	基数	構成比
男性	770	41.9%
女性	978	53.2%
無回答	89	4.8%



④年齢

<図表> 年齢

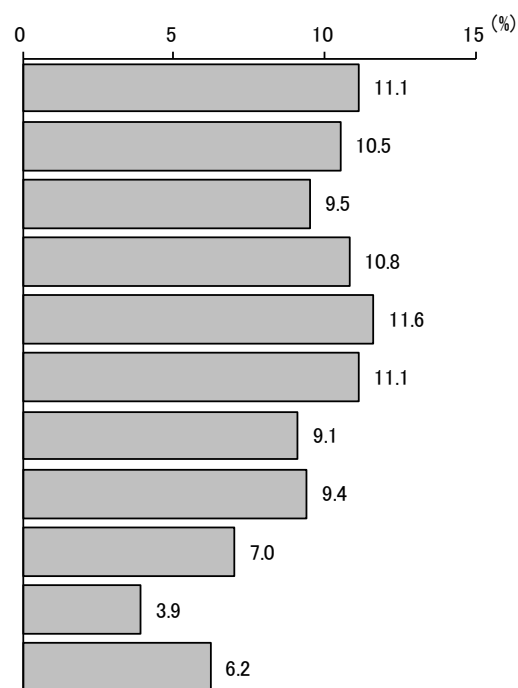
	基数	構成比
65歳～69歳	447	24.3%
70歳～74歳	493	26.8%
75歳～79歳	409	22.3%
80歳～84歳	246	13.4%
85歳～89歳	104	5.7%
90歳以上	42	2.3%
無回答	96	5.2%



⑤お住まいの地区

<図表> お住まいの地区

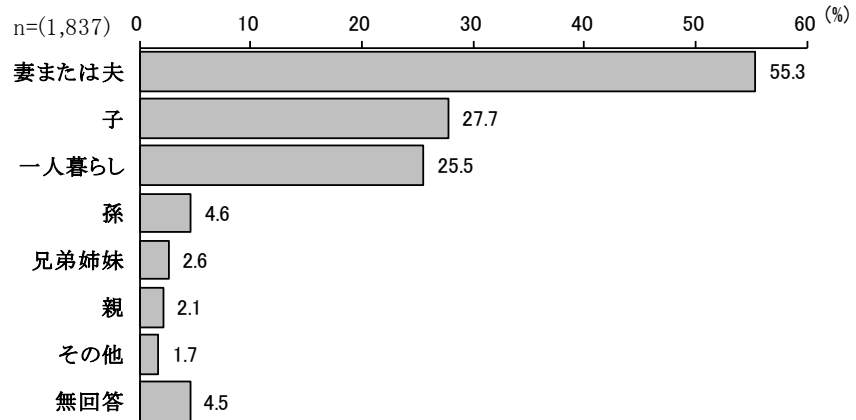
	基数	構成比
四谷	204	11.1%
簗笥町	192	10.5%
榎町	174	9.5%
若松町	198	10.8%
大久保	213	11.6%
戸塚	203	11.1%
落合第一	167	9.1%
落合第二	172	9.4%
柏木	129	7.0%
角筈	72	3.9%
無回答	113	6.2%



⑥同居者

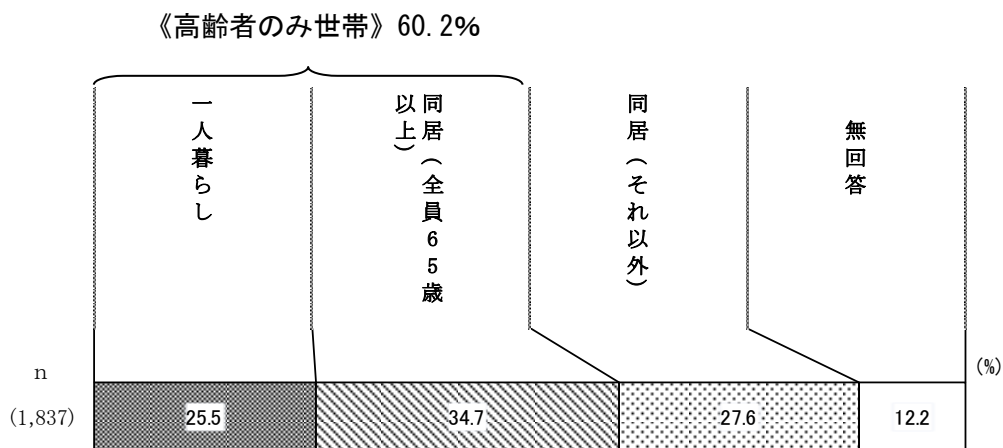
問4 現在、あなたはどなたかと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 同居者（複数回答）



同居の状態をたずねたところ、「一人暮らし」(25.5%)が2割台半ばとなっている。同居者は、「妻または夫」(55.3%)が5割台半ば、「子」(27.7%)が2割台半ばを超えている。

<図表> 世帯構成

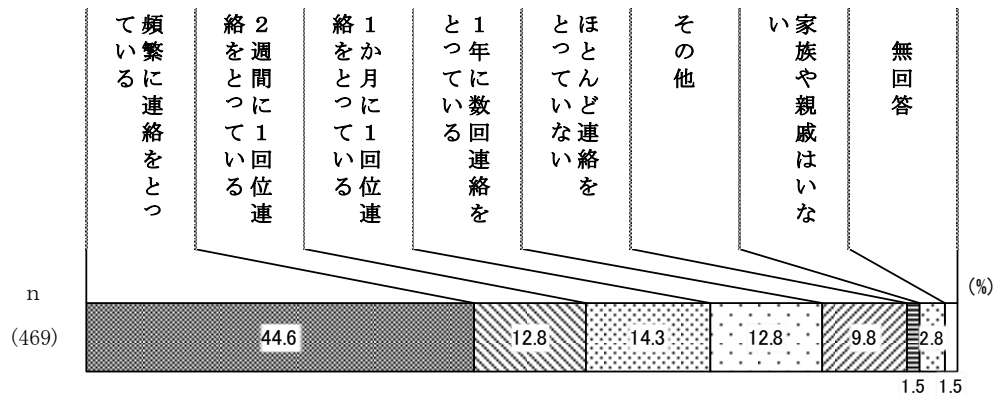


世帯構成について、「一人暮らし」(25.5%)と「同居(全員65歳以上)」(34.7%)をあわせた《高齢者のみ世帯》は60.2%となっている。

⑦家族や親戚との連絡

問4-1 《問4で「一人暮らし」を選んだ方のみお答えください》
あなたは、ご家族やご親戚と連絡をどのくらいとっていますか。
(1つに○)

<図表> 家族や親戚との連絡

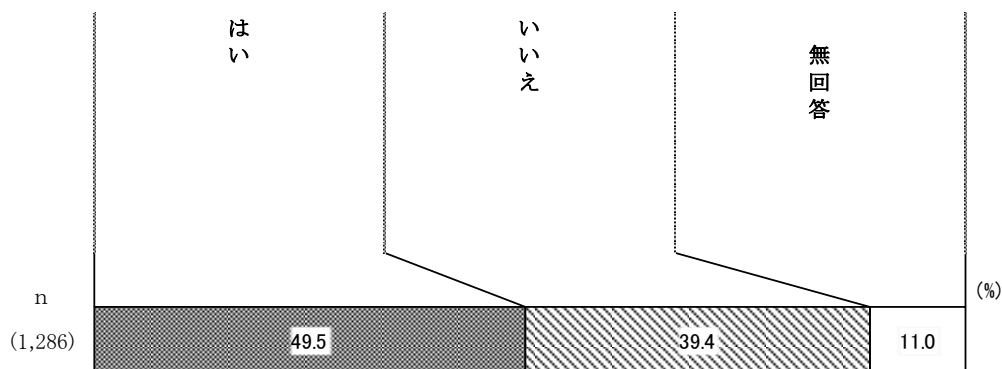


問4で「一人暮らし」と回答した人に家族や親戚と連絡をとっている頻度をたずねたところ、「頻繁に連絡をとっている」(44.6%)が4割台半ば近くで最も高くなっている。

⑧同居者の年齢（全員65歳以上か否か）

問4-2 《問4で「一人暮らし」以外を選んだ方のみお答えください》
同居の方は、全員65歳以上ですか。(1つに○)

<図表> 同居者の年齢（全員65歳以上か否か）

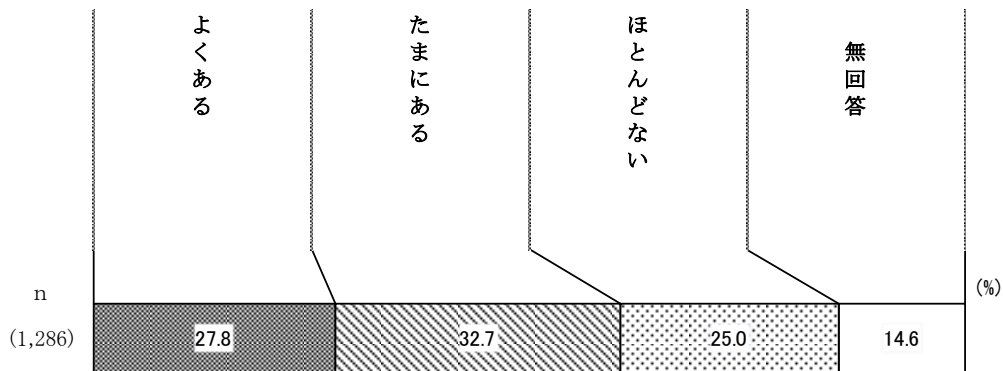


問4で《同居者がいる》と回答した人に同居者が全員65歳以上かたずねたところ、「はい」(49.5%)は5割弱となっている。

⑨日中の独居状況

問4-3 《問4で「一人暮らし」以外を選んだ方のみお答えください》
日中、一人になることはありますか。(1つに〇)

<図表> 日中の独居状況

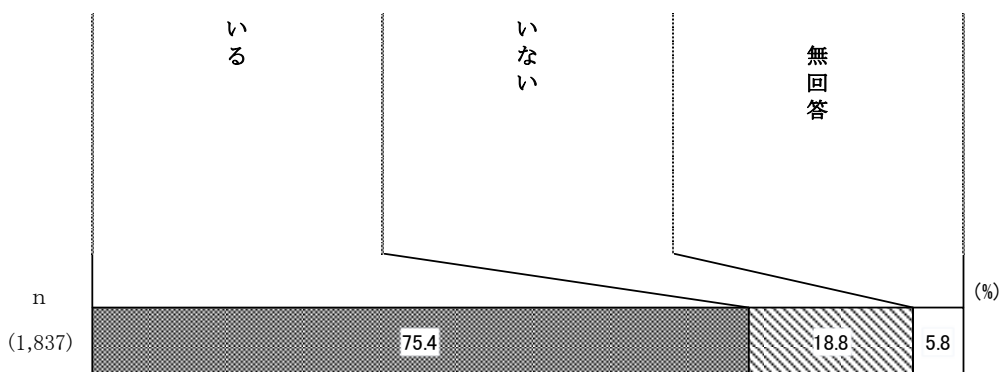


問4で《同居者がいる》と回答した人に日中一人になることがあるかたずねたところ、「たまにある」(32.7%)が3割強で最も高く、次いで、「よくある」(27.8%)、「ほとんどない」(25.0%)の順となっている。

⑩同居者以外に手助けを頼める人の有無

問5 あなたが日常生活で困ったことがあったとき、同居者以外に誰か手助けを頼める人がいますか。(1つに〇)

<図表> 同居者以外に手助けを頼める人の有無

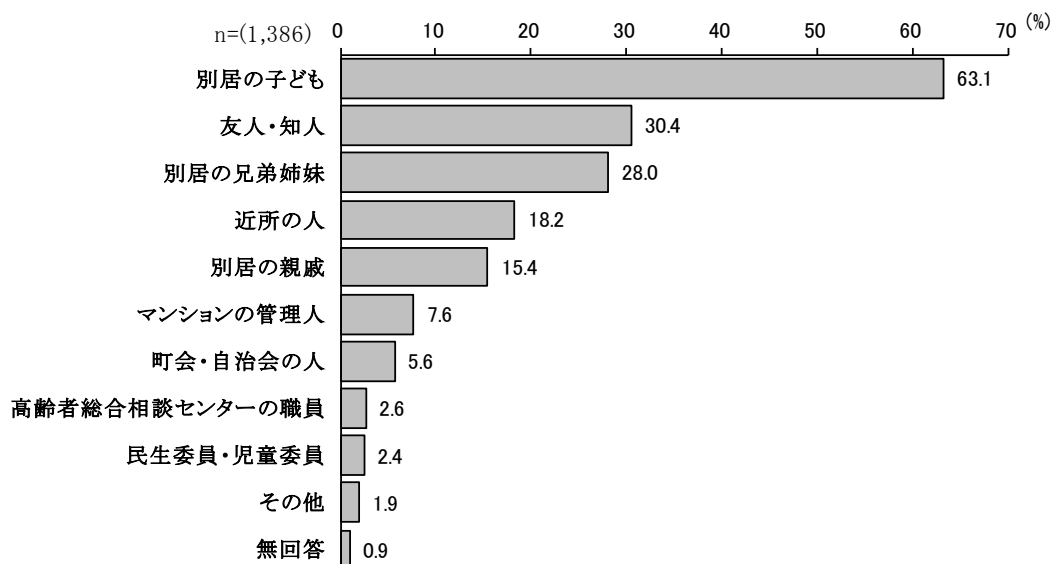


同居者以外に日常生活で困ったときに手助けを頼める人の有無をたずねたところ、「いる」(75.4%)は7割台半ばとなっている。

⑪手助けを頼める人

問5-1 <<問5で「いる」を選んだ方のみお答えください>>
手助けを頼める人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 手助けを頼める人(複数回答)

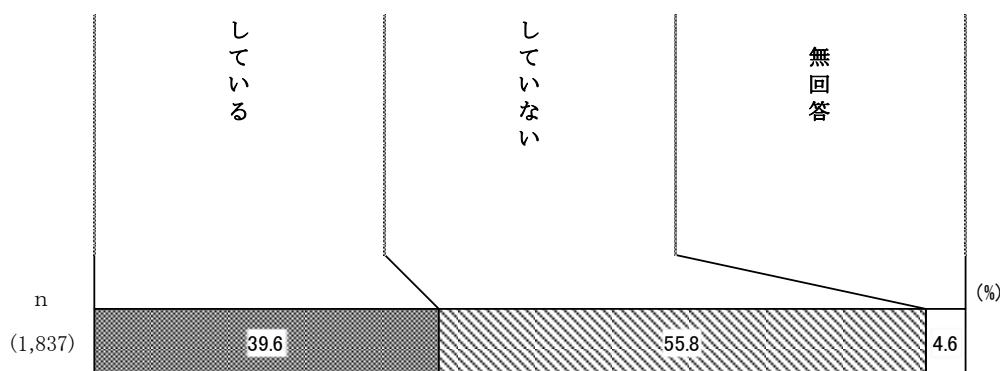


問5で同居者以外に手助けを頼める人が「いる」と回答した人に、その依頼先をたずねたところ、「別居の子ども」(63.1%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで、「友人・知人」(30.4%)、「別居の兄弟姉妹」(28.0%)の順となっている。

⑫就業状況

問6 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

<図表> 就業状況

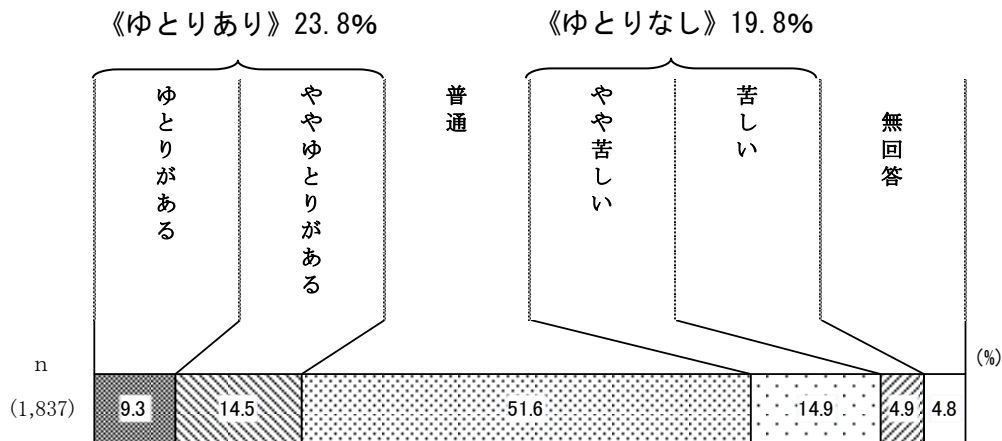


就業状況をたずねたところ、収入のある仕事を「している」(39.6%)は4割弱となっている。

⑬現在の暮らし向き

問7 あなたは、現在のご自身の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表> 現在の暮らし向き

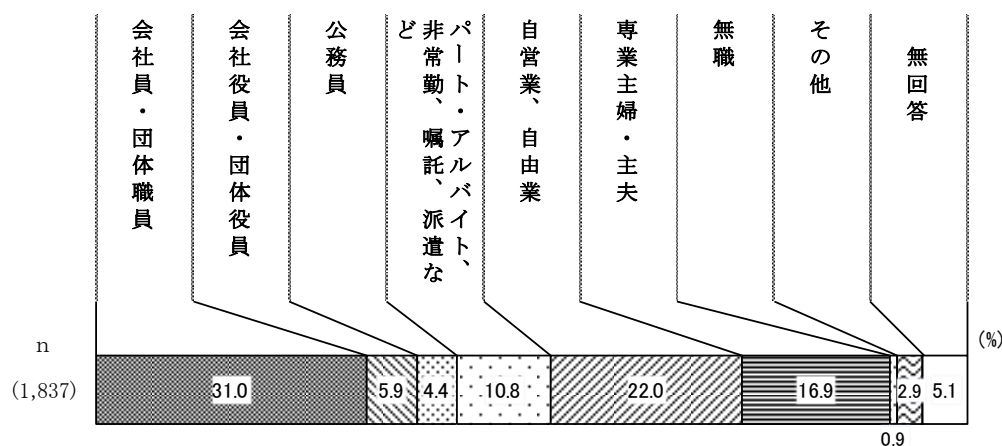


現在の暮らし向きについてたずねたところ、「普通」(51.6%)が5割強で最も高く、「ゆとりがある」(9.3%)と「ややゆとりがある」(14.5%)をあわせた《ゆとりあり》は23.8%となっている。

⑭生涯で一番長く就いていた職業

問8 あなたが生涯で一番長く就かれていた職業は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表> 生涯で一番長く就いていた職業



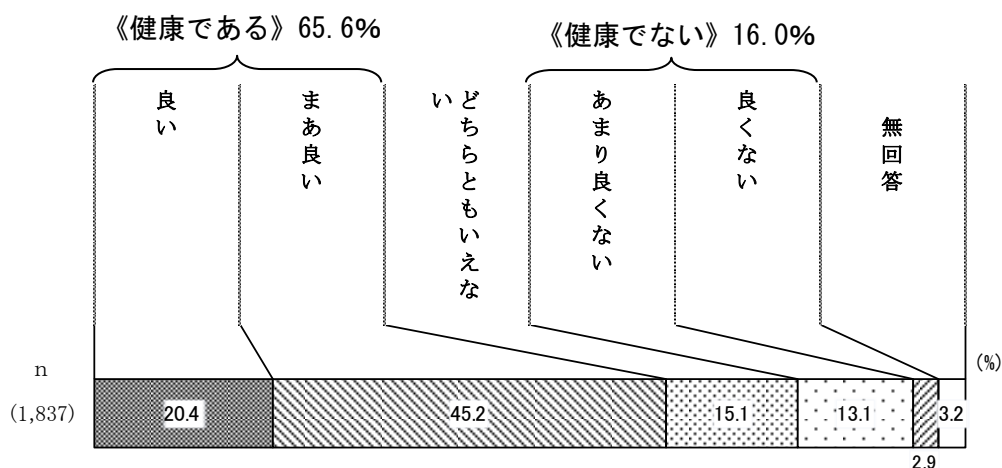
生涯で一番長く就いていた職業をたずねたところ、「会社員・団体職員」(31.0%)が3割強で最も高く、次いで、「自営業、自由業」(22.0%)、「専業主婦・主夫」(16.9%)の順となっている。

(2) 健康状態や健康づくり等について

①健康状態

問9 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(1つに○)

<図表> 健康状態

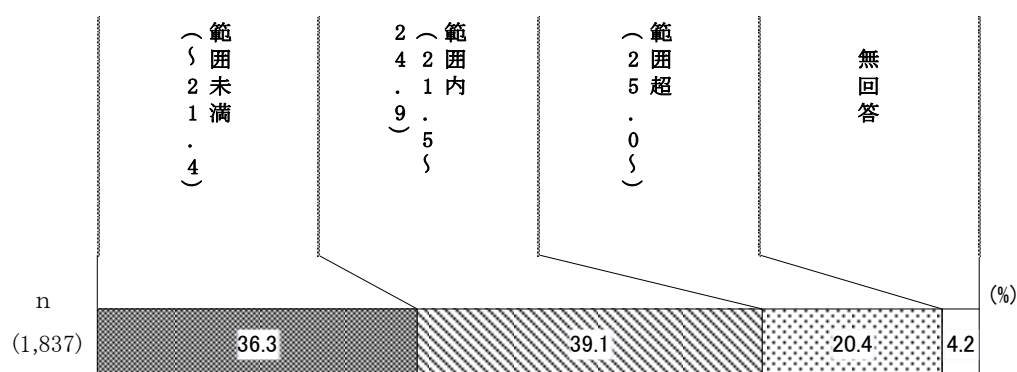


自身の健康状態についてたずねたところ、「良い」(20.4%)と「まあ良い」(45.2%)をあわせた《健康である》は65.6%となっている。

②身長と体重

問10 あなたの身長と体重をご記入ください。※数字を記入してください

<図表> BMI (目標とするBMIの範囲の分布)



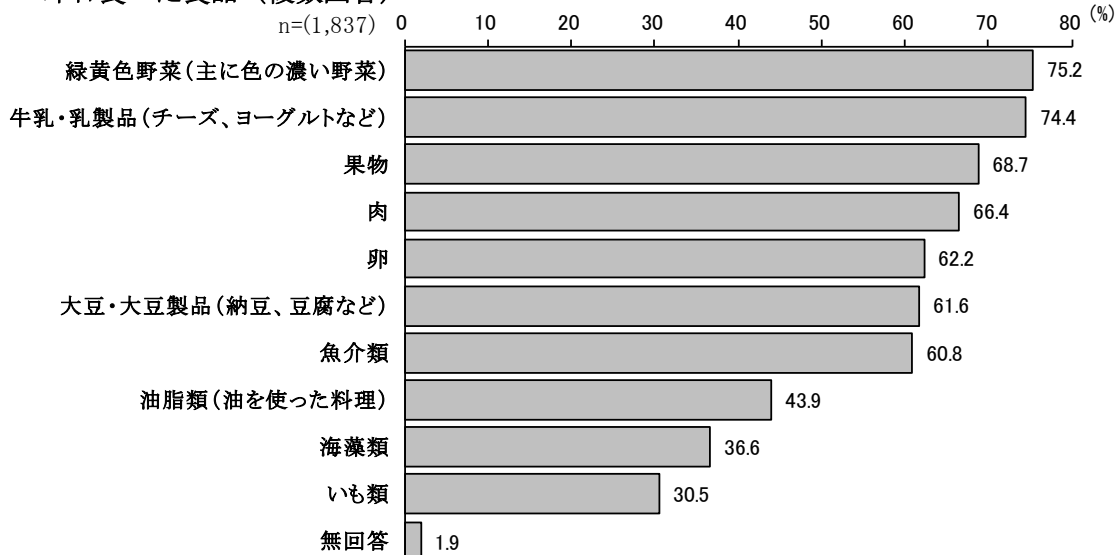
身長と体重からBMIを求め、目標とするBMIの範囲の分布をみると、「範囲未満」が36.3%、「範囲内」が39.1%、「範囲超」が20.4%となっている。

注：BMIは体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))で算出される体重(体格)の指標であり、厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書では、65歳以上では、目標とするBMIの範囲を21.5～24.9としている。

③昨日食べた食品

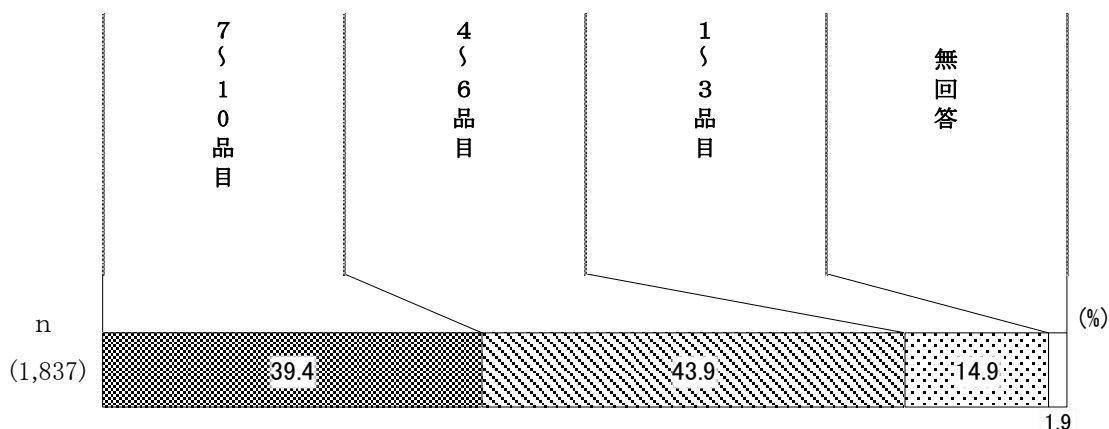
問 11 あなたが昨日食べた食品は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 昨日食べた食品 (複数回答)



昨日食べた食品をたずねたところ、「緑黄色野菜(主に色の濃い野菜)」(75.2%)が7割台半ばと最も高く、次いで、「牛乳・乳製品(チーズ、ヨーグルトなど)」(74.4%)、「果物」(68.7%)、「肉」(66.4%)の順となっている。

<図表> 昨日食べた食品数

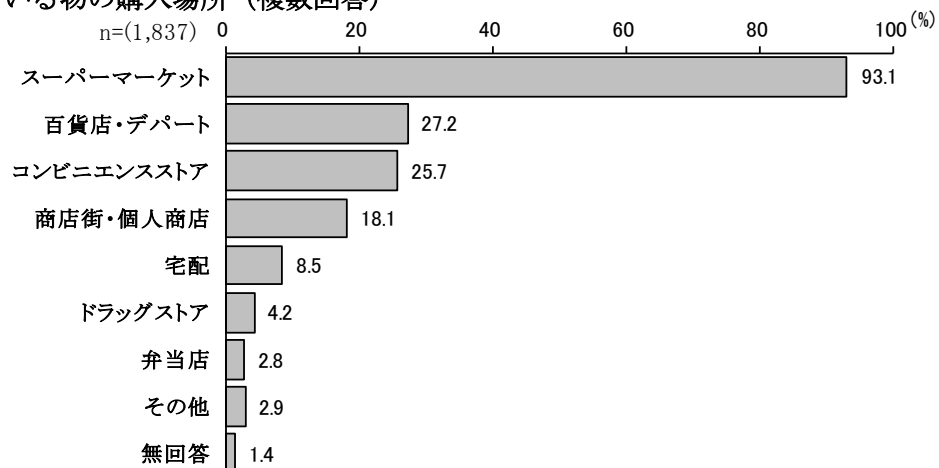


昨日食べた食品数は、「4～6品目」(43.9%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「7～10品目」(39.4%)の順となっている。

④ 普段食べている物の購入場所

問 12 あなたは、普段食べている物を主にどこで購入していますか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 普段食べている物の購入場所 (複数回答)



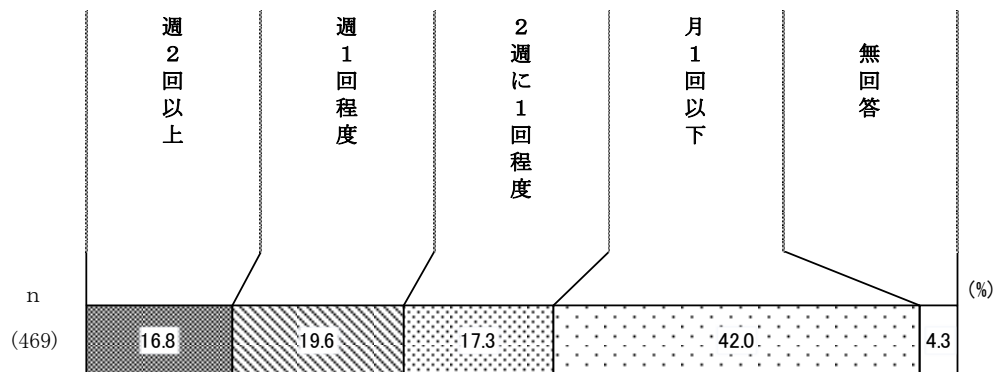
普段食べている物の購入場所をたずねたところ、「スーパーマーケット」(93.1%)が9割台半ば近くと最も高く、次いで、「百貨店・デパート」(27.2%)、「コンビニエンスストア」(25.7%)の順となっている。

⑤誰かと一緒に食事をする頻度

問 13 《一人暮らしの方のみお答えください》

あなたは、友人、知人など、誰かと一緒に食事をするのがどのくらいありますか。
(1つに○)

<図表> 誰かと一緒に食事をする頻度



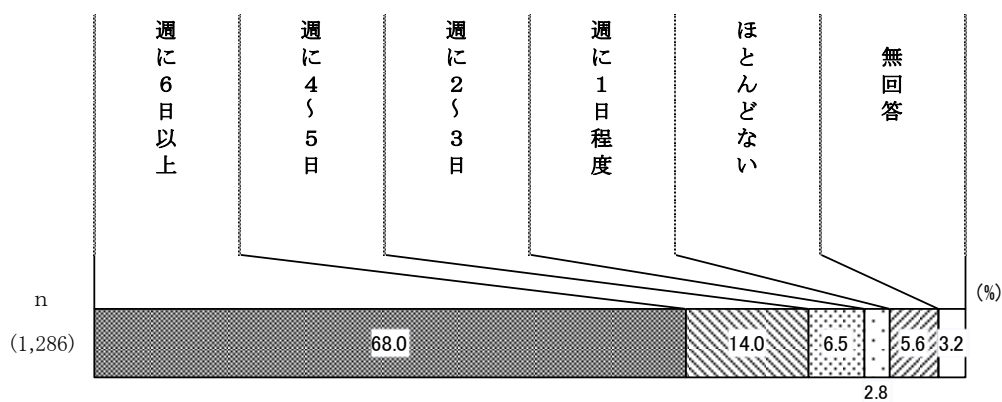
「一人暮らし」の人に、誰かと一緒に食事をする頻度をたずねたところ、「月1回以下」(42.0%)が4割強で最も高く、次いで、「週1回程度」(19.6%)、「2週に1回程度」(17.3%)の順となっている。

⑥同居している人と夕飯を食べる頻度

問 14 《二人以上でお住まいの方のみお答えください》

あなたが夕食を同居している人と一緒に食べるのは、週に何日ですか。(1つに○)

<図表> 同居している人と夕飯を食べる頻度

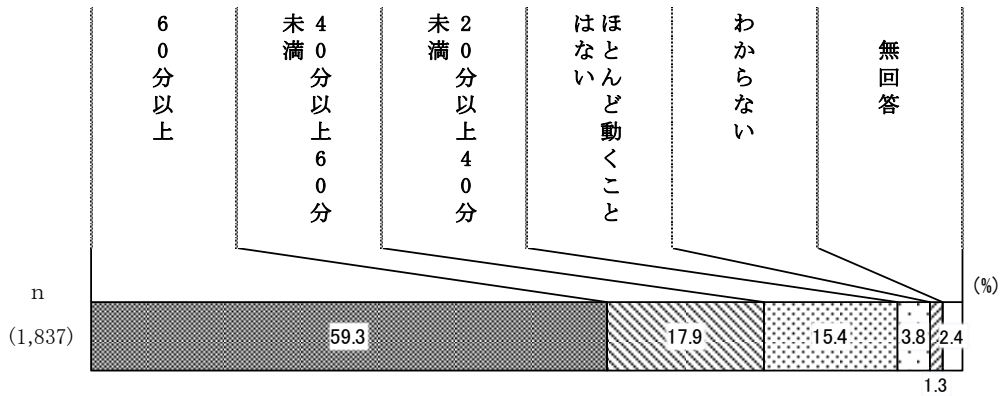


同居者がいる人に、同居している人と夕飯を食べる頻度をたずねたところ、「週に6日以上」(68.0%)が7割近くで最も高く、次いで、「週に4~5日」(14.0%)、「週に2~3回」(6.5%)の順となっている。

⑦日常生活で体を動かす1日あたりの時間

問 15 日常生活で体を動かすことについておたずねします。あなたは毎日どれくらい体を動かしていますか。(1つに○)

<図表> 日常生活で体を動かす1日あたりの時間

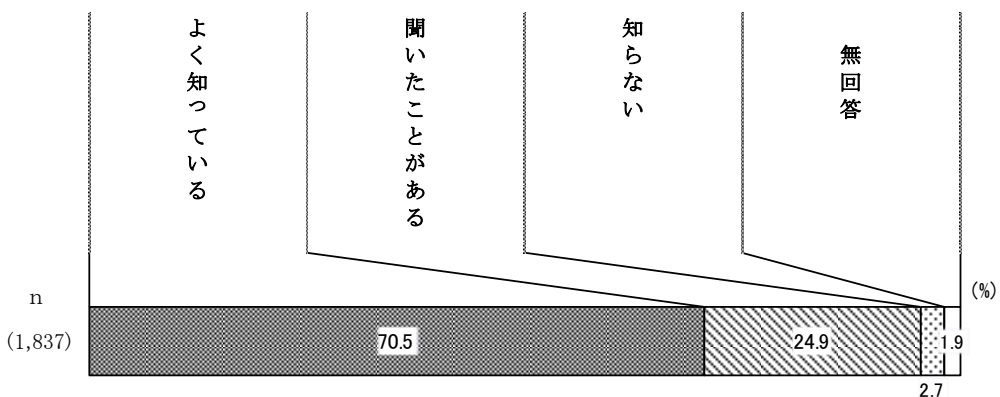


日常生活で体を動かす1日あたりの時間をたずねたところ、「60分以上」(59.3%)が6割近くで最も高く、次いで、「40分以上60分未満」(17.9%)、「20分以上40分未満」(15.4%)の順となっている。

⑧足腰を鍛えるためには、筋力トレーニングが重要であることの認知度

問 16 あなたは、足腰を鍛えるためには、歩くなどの有酸素運動だけでなく筋肉に「ややきつい」と感じる程度の負荷をかける運動(筋力トレーニング)が重要であることを知っていますか。(1つに○)

<図表> 足腰を鍛えるためには、筋力トレーニングが重要であることの認知度

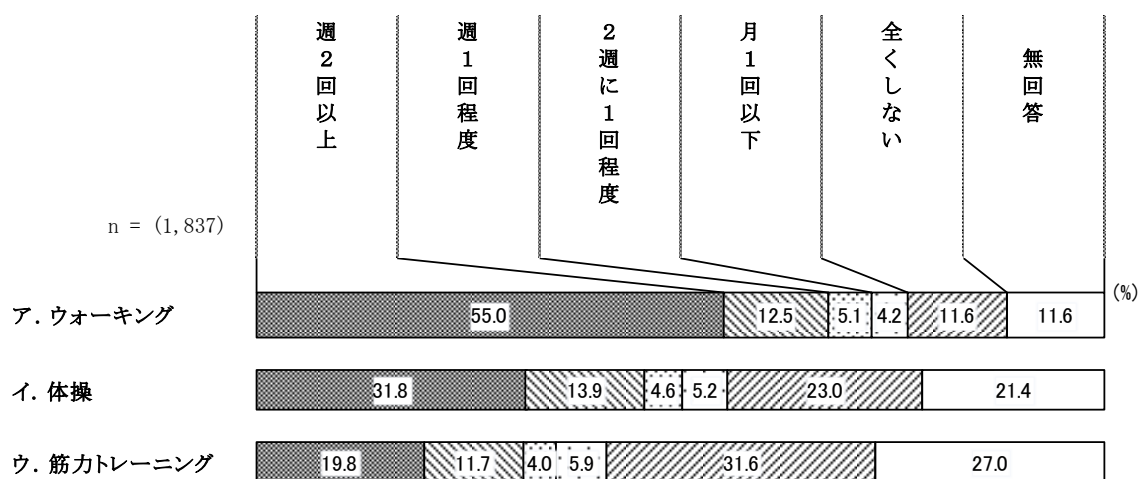


足腰を鍛えるためには、筋力トレーニングが重要であることの認知度をたずねたところ、「よく知っている」(70.5%)が約7割で最も高く、次いで、「聞いたことがある」(24.9%)、「知らない」(2.7%)の順となっている。

⑨運動の頻度

問17 あなたは以下の運動（ウォーキング、体操、筋力トレーニング）を、どれくらいの頻度でしていますか。（それぞれ1つに○）

<図表> 運動の頻度



運動の頻度をたずねたところ、ウォーキングでは「週2回以上」（55.0%）は5割台半ばとなっている。

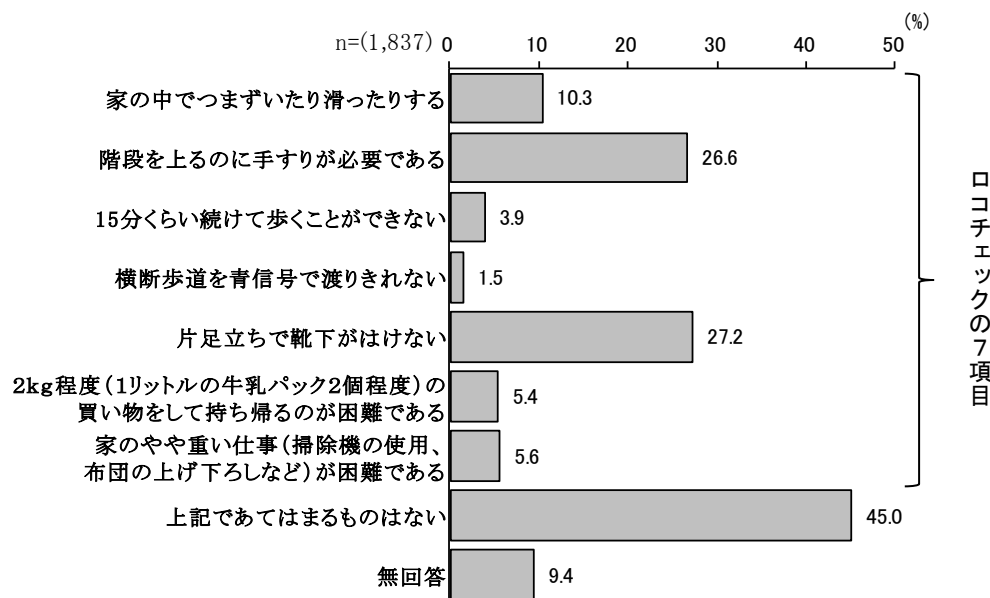
体操では、「週2回以上」（31.8%）は3割強となっている。

筋力トレーニングでは、「週2回以上」（19.8%）は2割弱となっており、「全くしない」（31.6%）が3割強となっている。

⑩日常生活であてはまること

問 18 あなたは、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 日常生活であてはまること (複数回答)

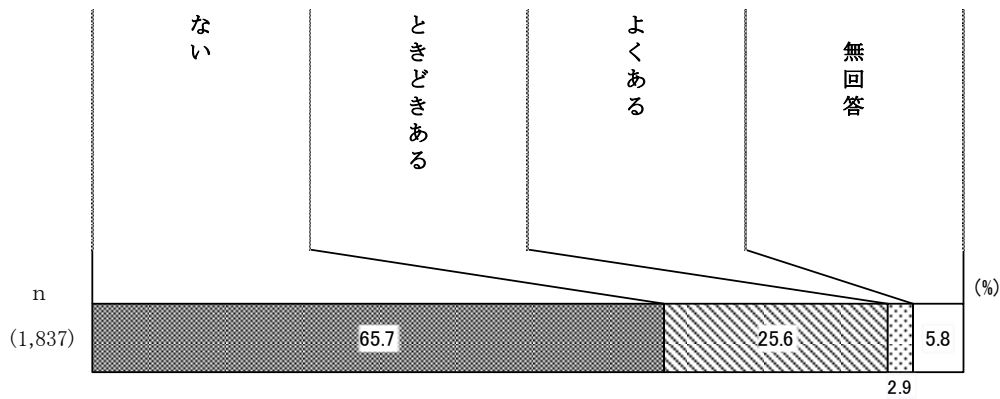


日常生活であてはまることをたずねたところ、「上記であてはまるものはない」(45.0%)が4割台半ばとなっている。あてはまる内容としては、「片足立ちで靴下がはけない」(27.2%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「階段を上るのに手すりが必要である」(26.6%)、「家の中でつまづいたり滑ったりする」(10.3%)の順となっている。

⑪日常生活の中で尿もれした経験

問 19 あなたは、日常生活の中で尿もれをすることがありますか。(1つに○)

<図表> 日常生活の中で尿もれした経験



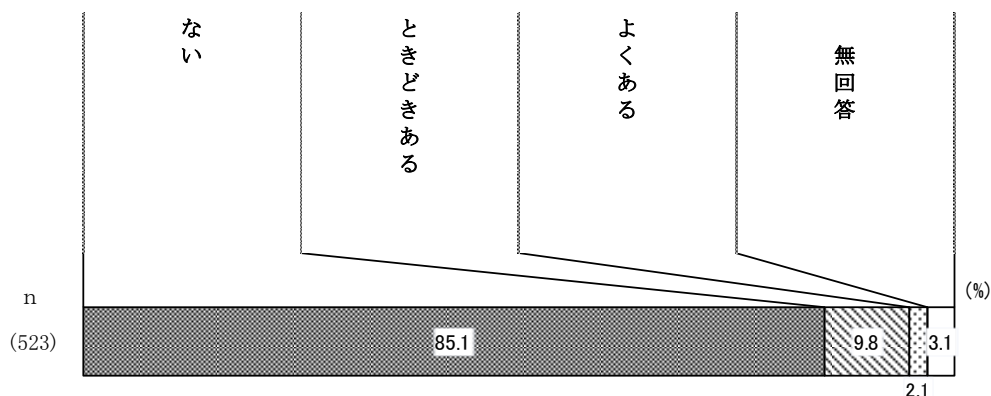
日常生活の中で尿もれした経験をたずねたところ、「ない」(65.7%)が6割台半ばで最も高く、次いで、「ときどきある」(25.6%)、「よくある」(2.9%)の順となっている。

⑫尿もれが心配で外出を控えた経験

問 19-1 <<問 19 で「ときどきある」または「よくある」を選んだ方のみお答えください>>

尿もれが心配で外出するのを控えることはありますか。(1つに○)

<図表> 尿もれが心配で外出を控えた経験

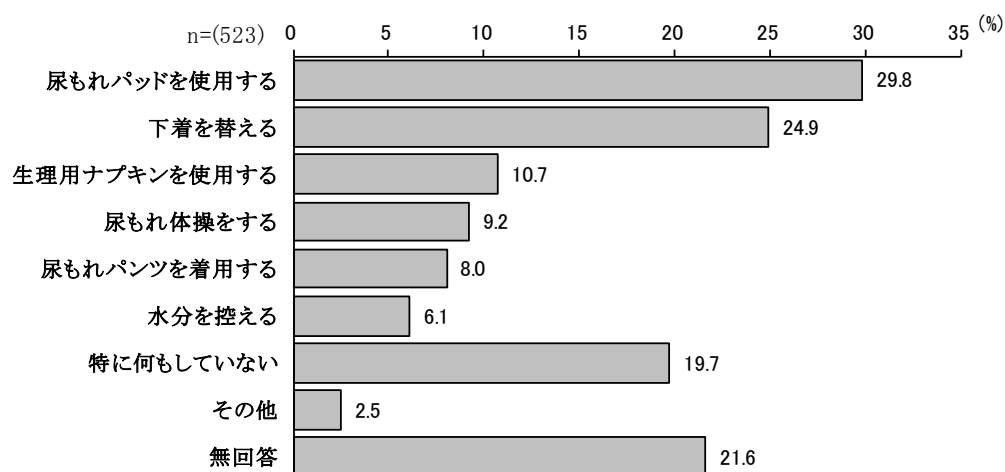


尿もれが心配で外出を控えた経験をたずねたところ、「ない」(85.1%)が8割台半ばで最も高く、次いで、「ときどきある」(9.8%)、「よくある」(2.1%)の順となっている。

⑬尿もれの対処方法

問 19-2 《問 19 で「ときどきある」または「よくある」を選んだ方のみお答えください》
尿もれにどのような対処をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 尿もれの対処方法 (複数回答)



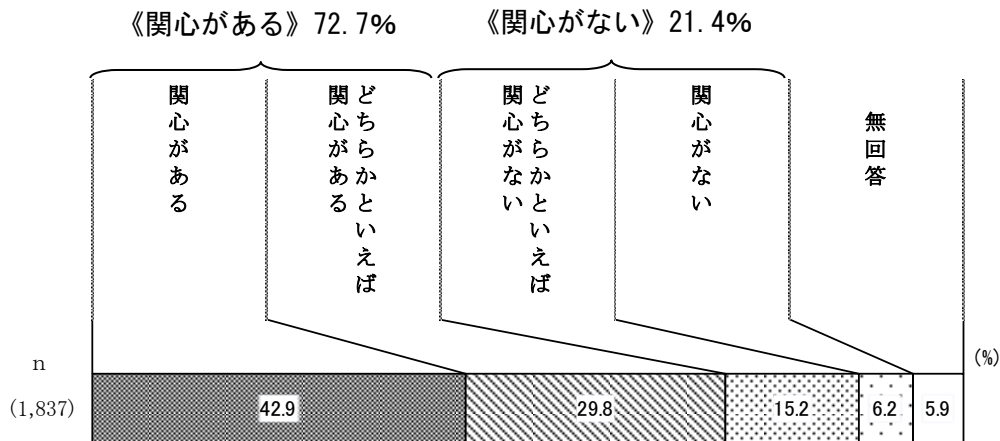
問19で日常生活の中で尿もれした経験が「ときどきある」または「よくある」と回答した人に、尿もれの対処方法をたずねたところ、「尿漏れパッドを使用する」(29.8%)が3割弱と最も高く、次いで、「下着を変える」(24.9%)、「特に何もしていない」(19.7%)の順となっている。

(3) 介護予防について

①介護予防についての関心の有無

問 20 あなたは、「介護予防」について関心がありますか。(1つに○)

<図表4> 介護予防についての関心の有無

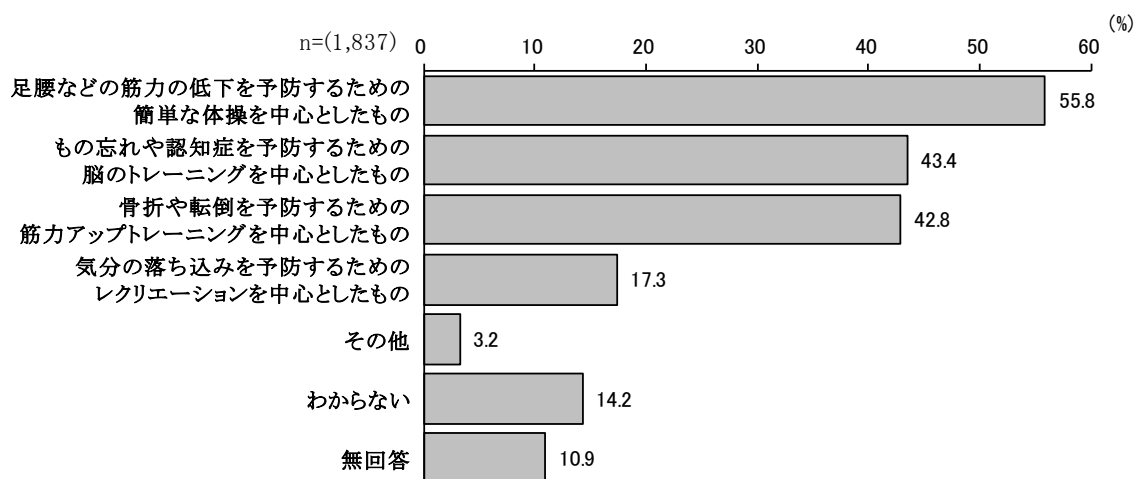


「介護予防」への関心の有無をたずねたところ、「関心がある」(42.9%)と「どちらかといえば関心がある」(29.8%)をあわせた《関心がある》は72.7%となっている。

②希望する介護予防教室の内容

問 21 あなたは、介護予防教室について、どのような内容を希望しますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 希望する介護予防教室の内容 (複数回答)



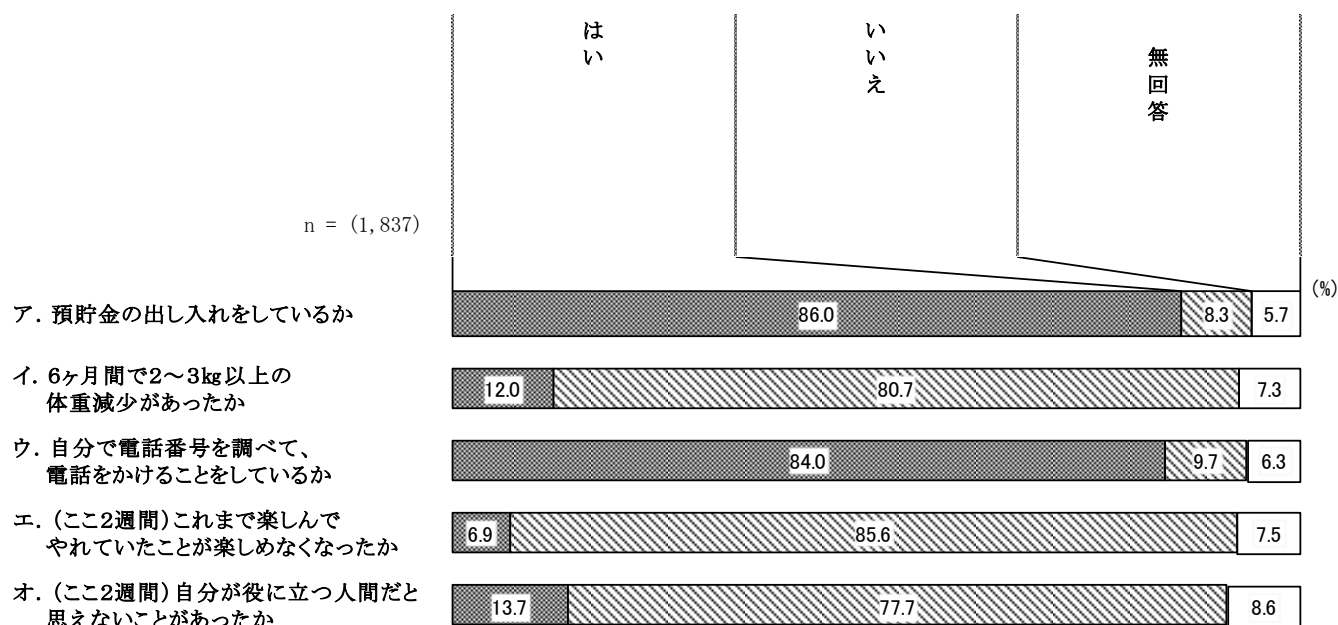
希望する介護予防教室の内容についてたずねたところ、「足腰などの筋力の低下を予防するための簡単な体操を中心としたもの」(55.8%)が5割台半ばと最も高く、次いで、「もの忘れや認知症を予防するための脳のトレーニングを中心としたもの」(43.4%)、「骨折や転倒を予防するための筋力アップトレーニングを中心としたもの」(42.8%)の順となっている。

(4) 日ごろの生活について

①日頃の状態

問 22 あなたは、以下の状態のどちらに当てはまりますか。(それぞれ1つに○)

<図表> 日頃の状態

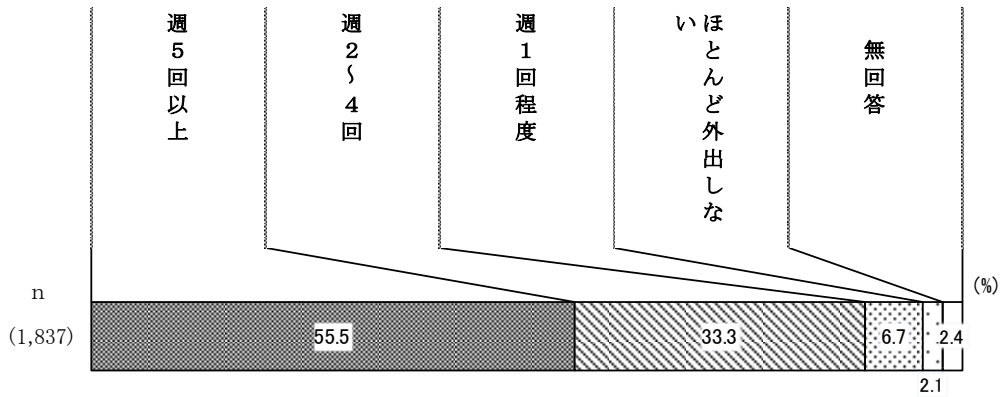


日頃の状態をたずねたところ、「預貯金の出し入れをしているか」(86.0%)、「自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているか」(84.0%)では「はい」が8割台半ば前後と高い。「6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少があったか」(80.7%)、「(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったか」(85.6%)では「いいえ」が8割を超え、「(ここ2週間)自分が役立つ人間だと思えないことがあったか」(77.7%)では「いいえ」が7割台半ばを超えている。

②外出頻度

問 23 あなたが外出する頻度はどのくらいですか。(1つに○)

<図表> 外出頻度

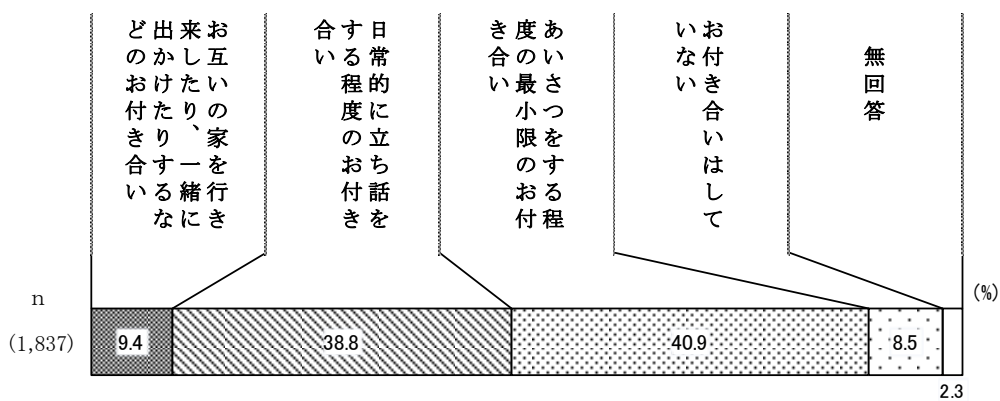


外出頻度をたずねたところ、「週5回以上」(55.5%)が5割台半ばと最も高く、次いで、「週2～4回」(33.3%)、「週1回程度」(6.7%)の順となっている。

③ご近所付き合い

問 24 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。(1つに○)

<図表> ご近所付き合い

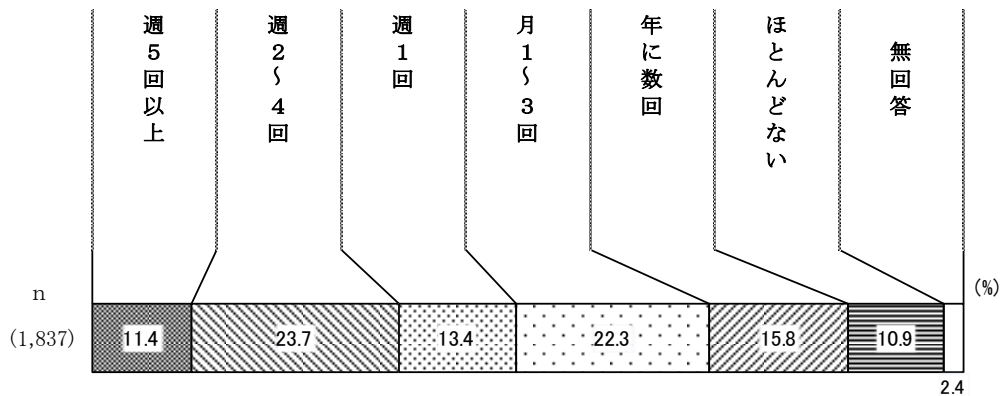


近所の方とお付き合いの程度についてたずねたところ、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」(40.9%)が約4割台と最も高く、次いで、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」(38.8%)の順となっている。一方、「お付き合いはしていない」(8.5%)は1割弱となっている。

④友人・知人と会う頻度

問 25 あなたは、友人・知人と会う頻度はどのくらいですか。(同居の親族は含みません)
(1つに○)

<図表5> 友人・知人と会う頻度

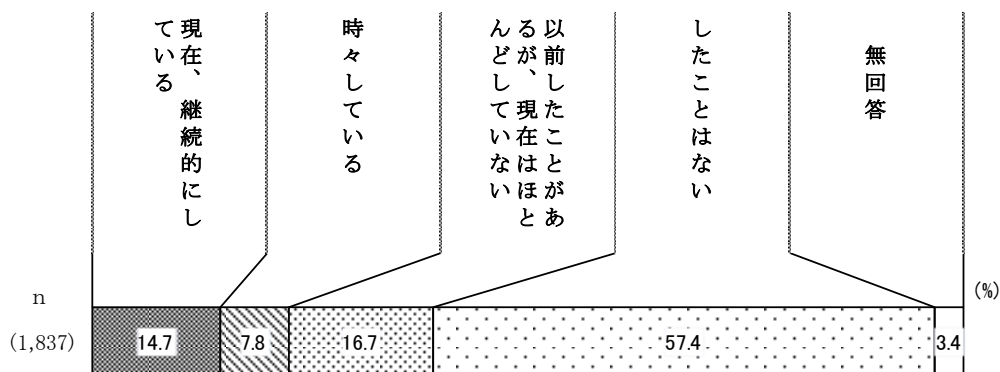


友人・知人と会う頻度についてたずねたところ、「週2〜4回」(23.7%)が2割台半ば近くと最も高く、次いで、「月1〜3回」(22.3%)、「年に数回」(15.8%)の順となっている。

⑤地域活動やボランティア活動等の状況

問 26 あなたは、現在、地域活動(町会、自治会、子ども会など、以下同様)やボランティア活動等を行っていますか。(1つに○)

<図表> 地域活動やボランティア活動等の状況

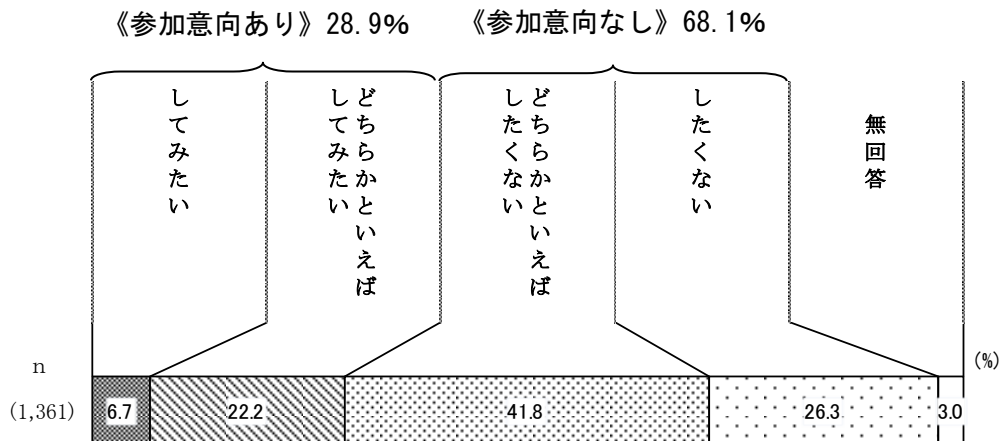


地域活動やボランティア活動等の状況をたずねたところ、「したことはない」(57.4%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」(16.7%)、「現在、継続的にしている」(14.7%)の順となっている。

⑥今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向

問 26-1 《問 26 で「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」または「したことはない」を選んだ方のみお答えください》
 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか。
 (1つに〇)

<図表> 今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向

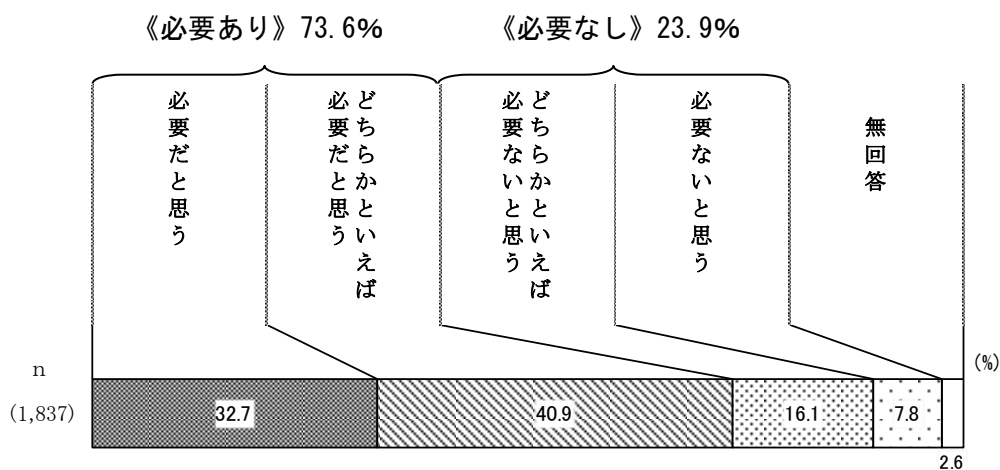


問26で「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」または「したことはない」と回答した人に今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向についてたずねたところ、「してみたい」(6.7%)と「どちらかといえばしてみたい」(22.2%)をあわせた《参加意向あり》は28.9%となっている。

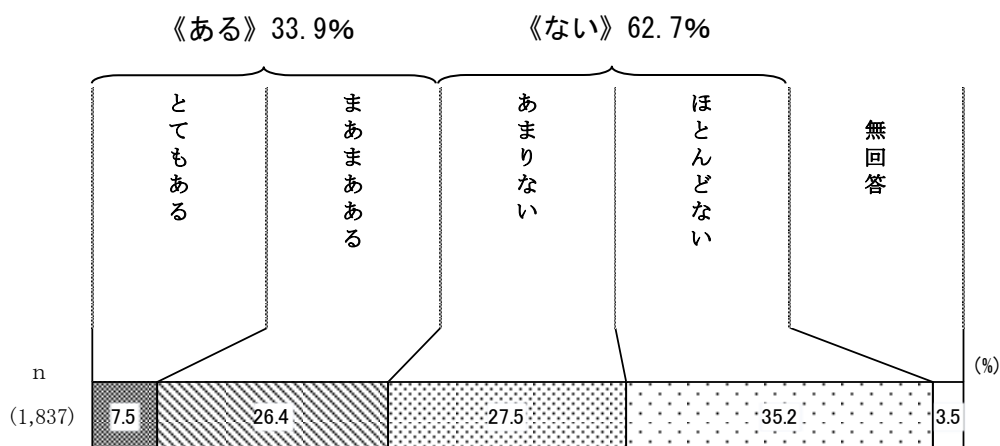
⑦多世代交流の必要性と頻度

問 27 あなたのお住まいの地域で、あなたと違う世代の方と交流する機会についておたずねします。

<図表> 多世代交流の必要性



<図表> 多世代交流の頻度



多世代交流の必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」(32.7%)と「どちらかといえば必要だと思う」(40.9%)をあわせた《必要あり》は73.6%となっている。

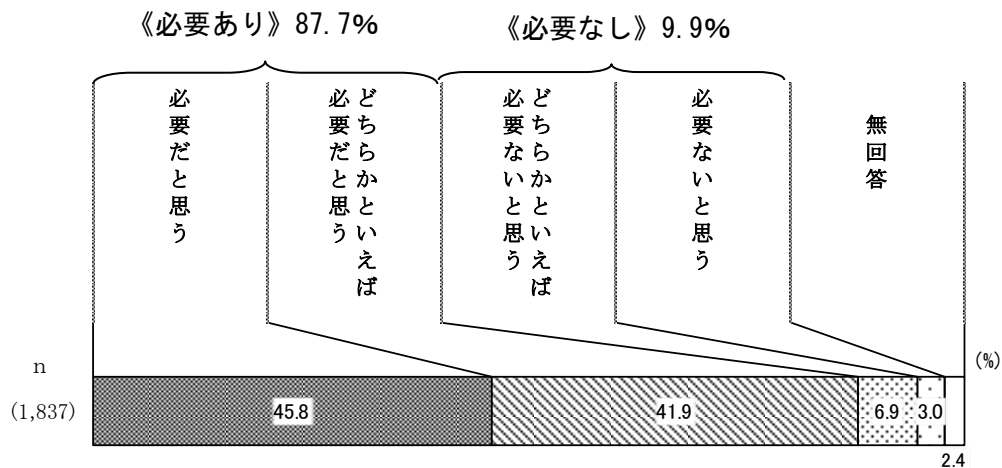
多世代交流の頻度についてたずねたところ、「とてもある」(7.5%)と「まあまあある」(26.4%)をあわせた《ある》は33.9%となっている。

(5) 地域での支え合いについて

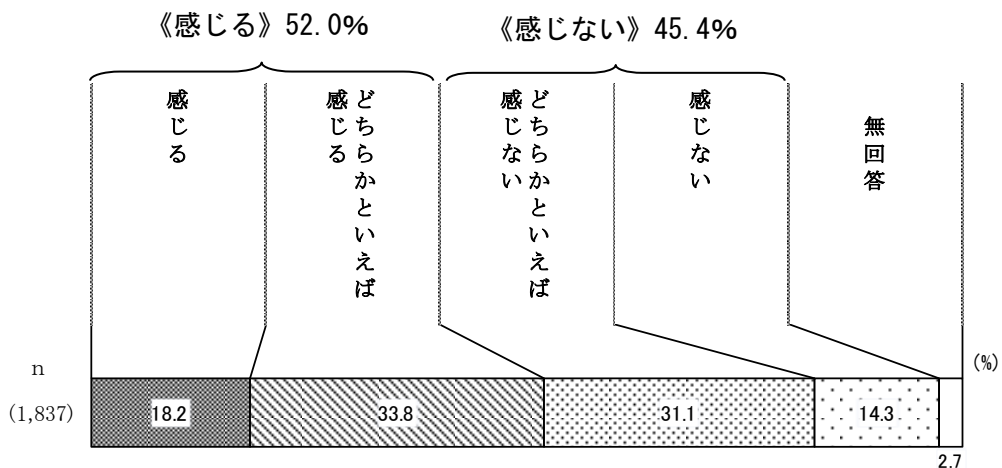
①地域のつながりの必要性と実感

問 28 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）についておたずねします。（それぞれ1つに〇）

<図表> (1) 地域のつながりの必要性



<図表> (2) 地域のつながりの実感



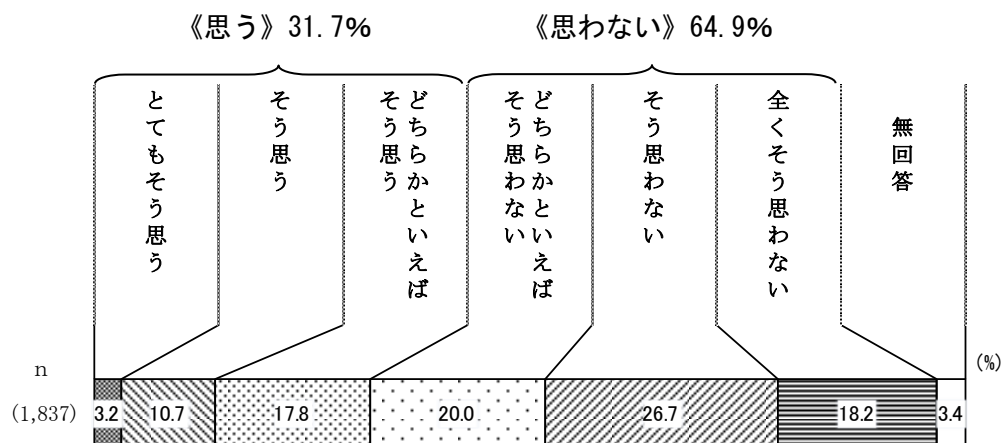
地域のつながりの必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」（45.8%）と「どちらかといえば必要だと思う」（41.9%）をあわせた《必要あり》は87.7%となっている。

地域のつながりの実感についてたずねたところ、「感じる」（18.2%）と「どちらかといえば感じる」（33.8%）をあわせた《感じる》は52.0%となっている。

②地域の人から期待、頼りにされていると思うか

問 29 あなたは、お住まいの地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。(1つに○)

<図表> 地域の人から期待、頼りにされていると思うか

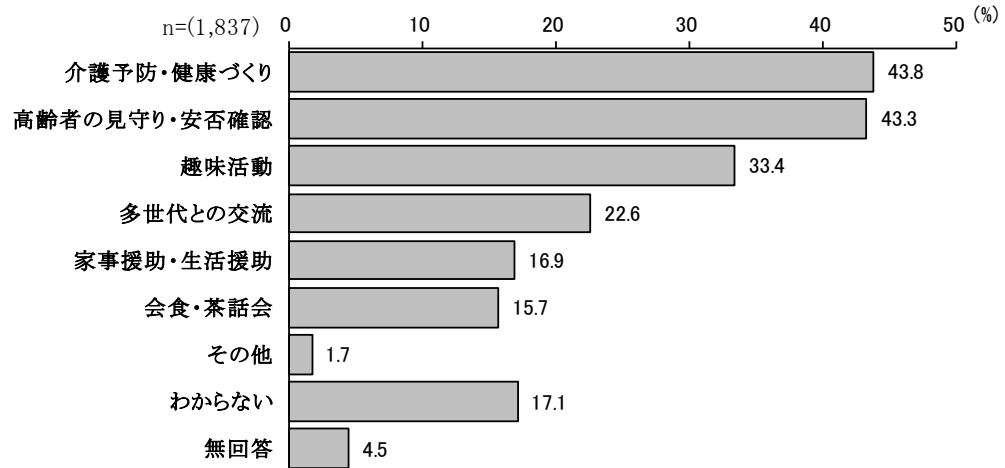


地域の人から期待、頼りにされていると思うかたずねたところ、「とてもそう思う」(3.2%)、「そう思う」(10.7%)、「どちらかといえばそう思う」(17.8%)をあわせた《思う》は31.7%となっている。

③あればよいと思う地域支え合い活動の参加内容

問 30 あなたは、どのような住民主体の地域支え合い活動があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> あればよいと思う地域支え合い活動の参加内容（複数回答）

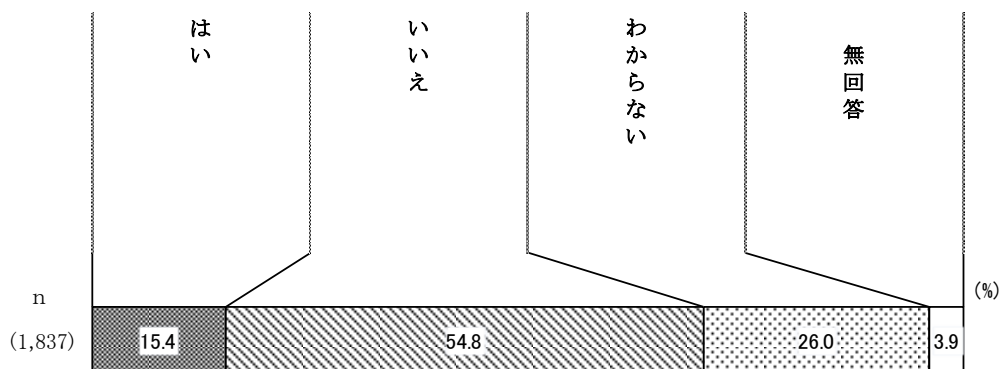


あればよいと思う地域支え合い活動の参加内容についてたずねたところ、「介護予防・健康づくり」(43.8%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで、「高齢者の見守り・安否確認」(43.3%)、「趣味活動」(33.4%)の順となっている。

④お世話役としての地域支え合い活動への参加意向

問 31 あなたは地域支え合い活動に企画・運営側（お世話役）として参加してみたいですか。(1つに○)

<図表> お世話役としての地域支え合い活動への参加意向

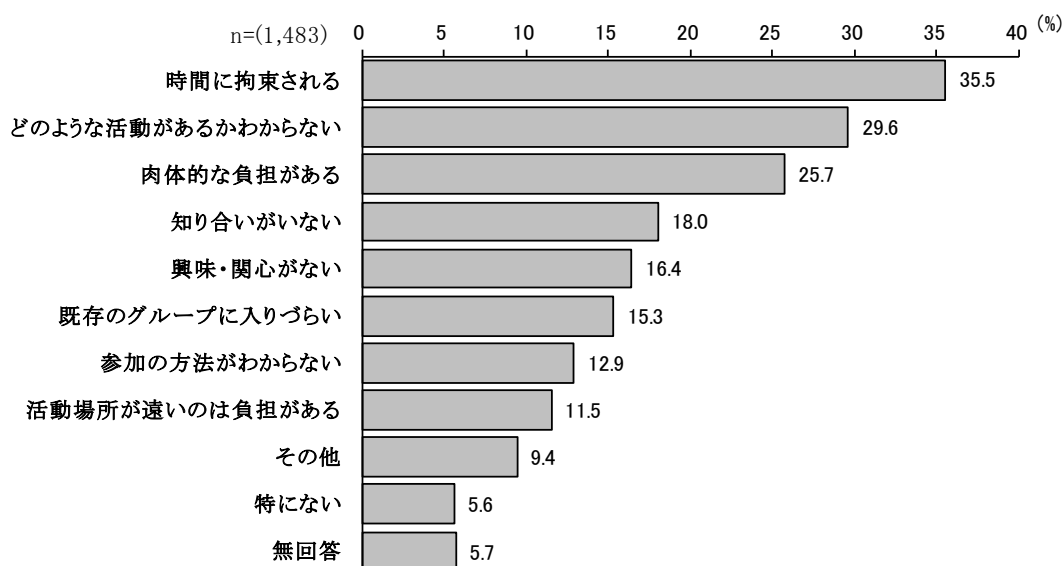


お世話役としての地域支え合い活動への参加意向をたずねたところ、「いいえ」(54.8%)が5割台半ば近くと最も高く、「はい」(15.4%)は1割台半ばとなっている。

⑤地域支え合い活動に参加する際の障壁

問 31-1 《問 31 で「いいえ」または「わからない」を選んだ方のみお答えください》
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 地域支え合い活動に参加する際の障壁（複数回答）

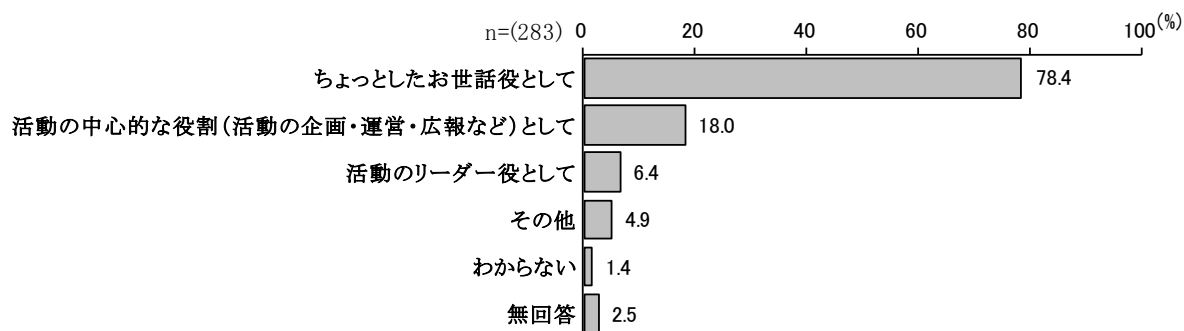


問31で「いいえ」または「わからない」と回答した人に、地域支え合い活動に参加する際の障壁についてたずねたところ、「時間に拘束される」(35.5%)が3割台半ばと最も高く、次いで、「どのような活動があるかわからない」(29.6%)、「肉体的な負担がある」(25.7%)の順となっている。

⑥地域支え合い活動に参加する際の立場

問 31-2 《問 31 で「はい」を選んだ方のみお答えください》
 あなたはどのような立場で地域支え合い活動に参加してみたいですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 地域支え合い活動に参加する際の立場 (複数回答)



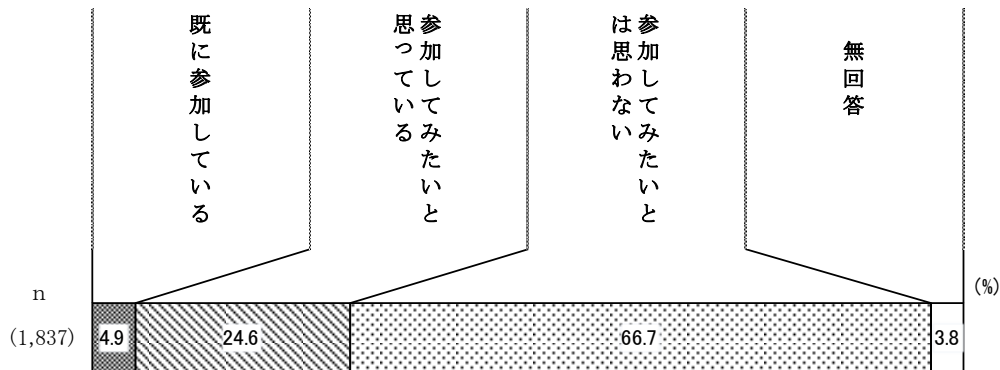
問31で「はい」と回答した人に地域支え合い活動に参加する際の立場についてたずねたところ、「ちょっとしたお世話役として」(78.4%)が8割近くと最も高く、次いで、「活動の中心的な役割(活動の企画・運営・広報など)として」(18.0%)、「活動のリーダー役として」(6.4%)の順となっている。

(6) 支援を必要とする高齢者を支えるしくみづくりについて

① 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向

問 32 あなたは、支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動に機会があれば参加してみたいですか。（1つに○）

<図表> 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向

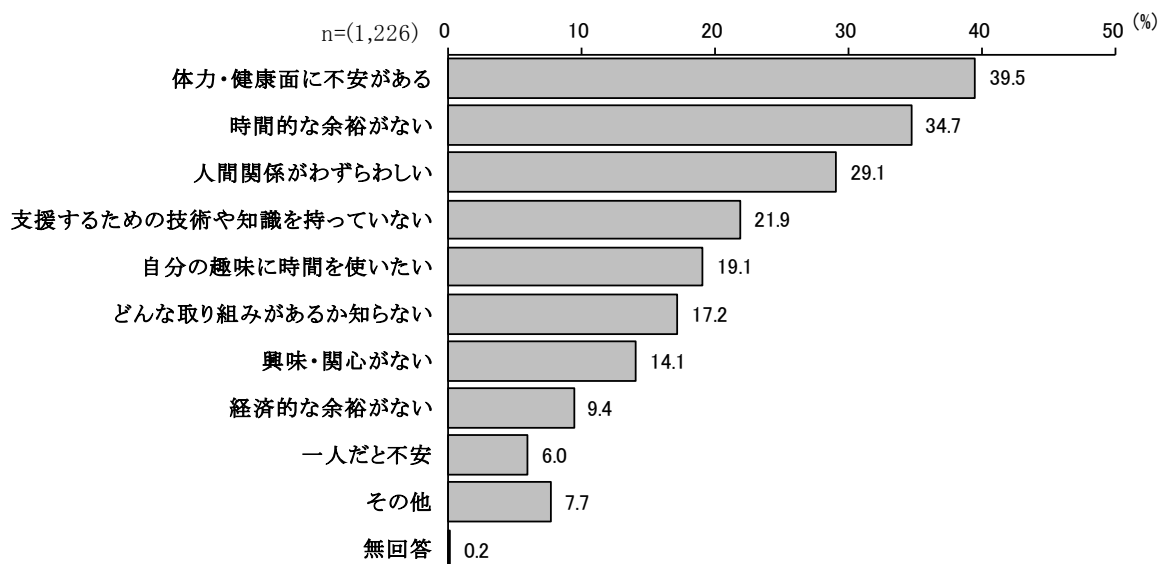


高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向をたずねたところ、「参加してみたいとは思わない」（66.7%）が6割台半ばを超え最も高く、次いで、「参加してみたいと思っている」（24.6%）、「既に参加している」（4.9%）の順となっている。

。②高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由

問 32-1 《問 32 で「参加してみたいとは思わない」を選んだ方のみお答えください》
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由（複数回答）

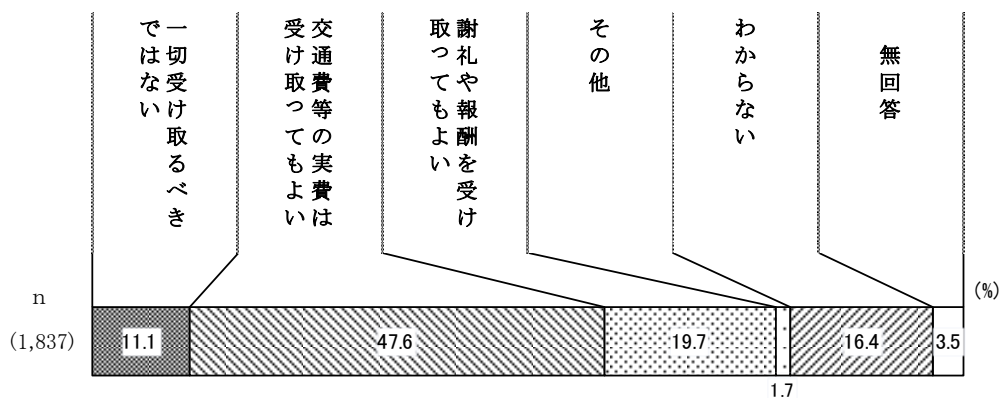


問32で高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に「参加してみたいとは思わない」と回答した人に、参加したくない理由をたずねたところ、「体力・健康面に不安がある」(39.5%)が4割弱と最も高く、次いで、「時間的な余裕がない」(34.7%)、「人間関係がわずらわしい」(29.1%)の順となっている。

③ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについて

問 33 あなたは、支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動をした人が、何らかの対価を受け取ることについて、どう思いますか。（1つに○）

<図表> ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについて

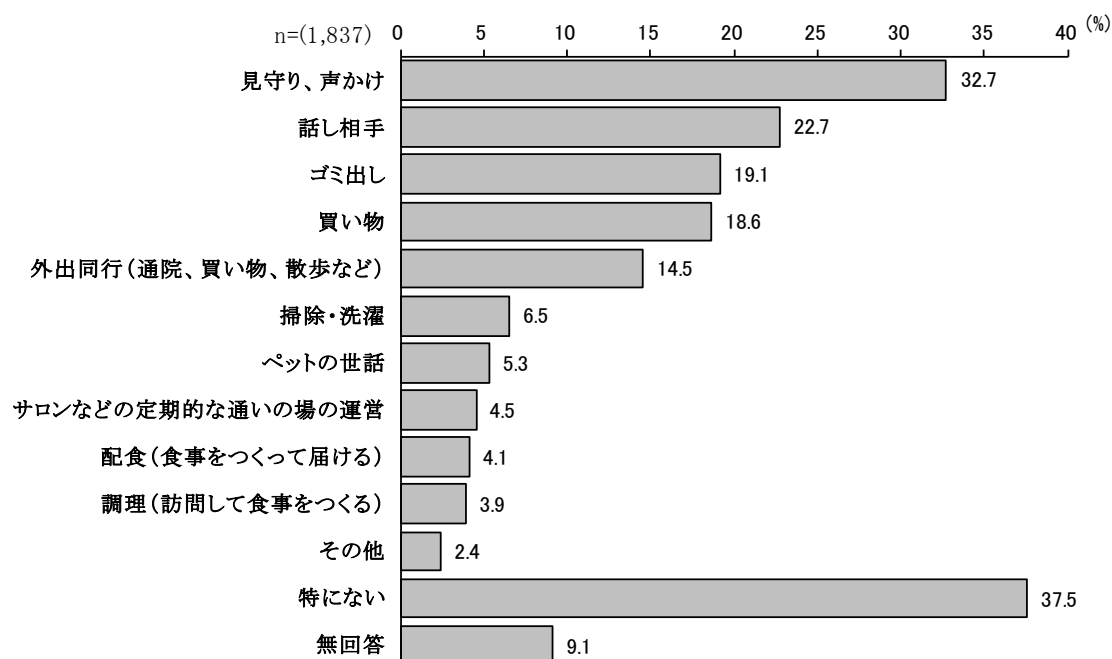


ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについてたずねたところ、「交通費等の実費は受け取ってもよい」（47.6%）が4割台半ばを超え最も高く、次いで、「謝礼や報酬を受け取ってもよい」（19.7%）、「一切受け取るべきではない」（11.1%）の順となっている。

④自分が担うことができそうな支援・サービス

問 34 支援を必要とする地域の高齢者の身の周りの世話や生活を支援するボランティア活動として、あなたが担うことのできそうな支援・サービス(現在支援しているものを含む)はありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 自分が担うことができそうな支援・サービス (複数回答)

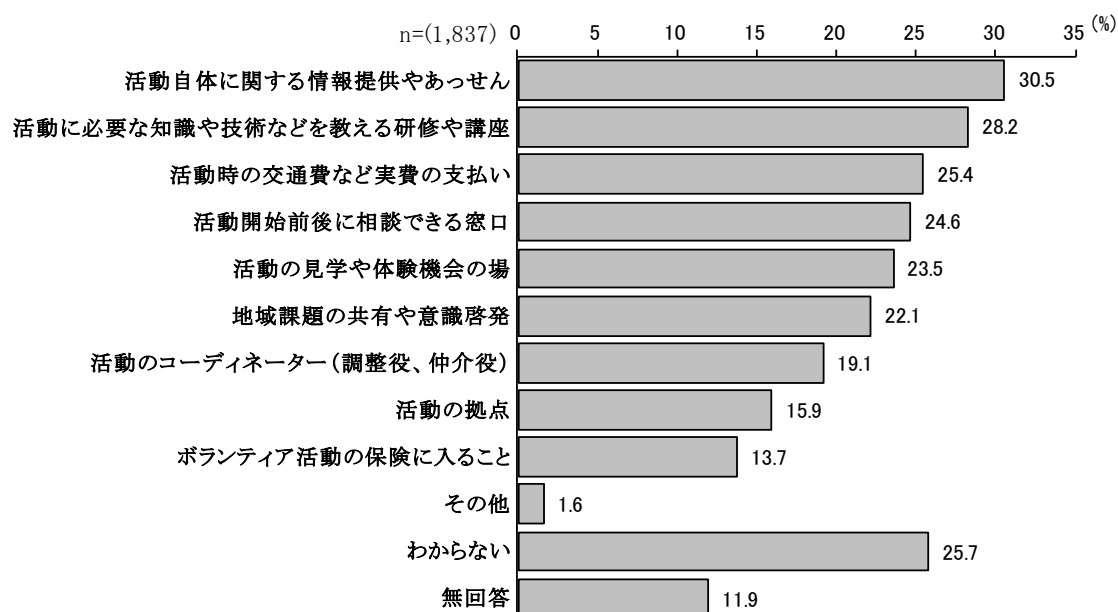


自分が担うことのできそうな支援・サービスについてたずねたところ、「見守り、声かけ」(32.7%)が3割強で最も高く、次いで、「話し相手」(22.7%)、「ゴミ出し」(19.1%)の順となっている。

⑤ボランティア活動を増やしていくために必要なサポート

問 35 あなたは、支援を必要とする高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために、どのようなサポートが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> ボランティア活動を増やしていくために必要なサポート (複数回答)



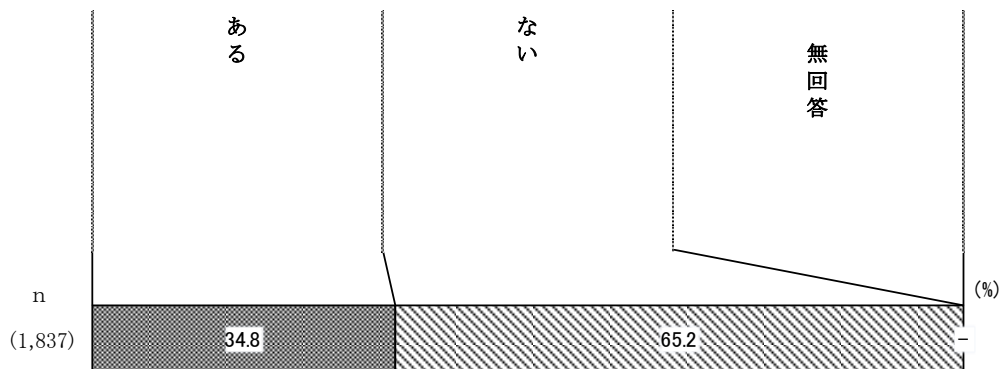
ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポートをたずねたところ、「活動自体に関する情報提供やあっせん」(30.5%)が約3割で最も高く、次いで、「活動に必要な知識や技術などを教える研修や講座」(28.2%)、「活動時の交通費など実費の支払い」(25.4%)の順となっている。

(7) 認知症について

①この1年間のもの忘れ、理解・判断力の低下の状況

問 36 あなたは、この1年間に何度も、もの忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じたことがありますか。(1つに○)

<図表> この1年間のもの忘れ、理解・判断力の低下の状況



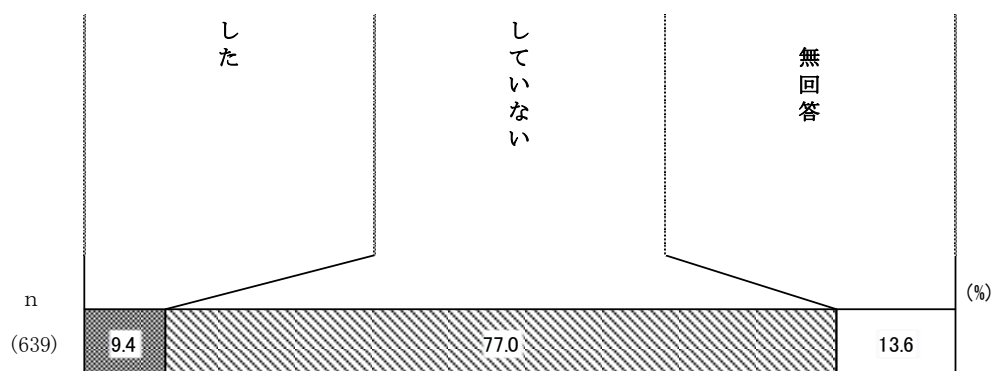
この1年間のもの忘れ、理解・判断力の低下の状況をたずねたところ、「ある」(34.8%)は3割台半ば近く、「ない」(65.2%)は6割台半ばとなっている。

②もの忘れや理解・判断力の低下についての相談の有無

問 36-1 <<問 36 で「ある」を選んだ方のみお答えください>>

もの忘れや理解・判断力の低下などについて、どこかへ相談しましたか。
(1つに○)

<図表> もの忘れや理解・判断力の低下についての相談の有無

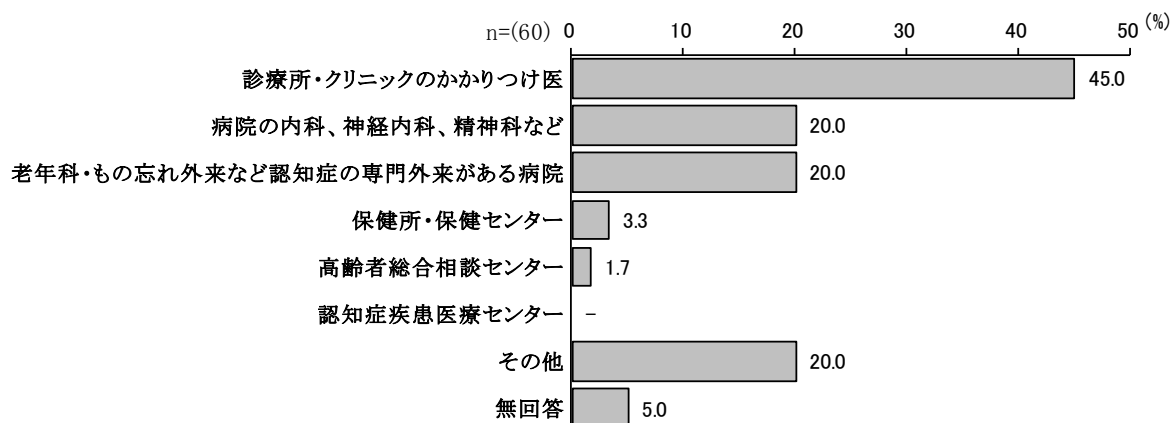


問36でもの忘れ、理解・判断力の低下が「ある」と回答した人に、もの忘れや理解・判断力の低下についての相談の有無をたずねたところ、「した」(9.4%)は1割弱、「していない」(77.0%)は7割台半ばを超えている。

③もの忘れや理解・判断能力低下についての相談先

問 36-1-1 《問 36-1 で「した」を選んだ方のみお答えください》
 どちらに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> もの忘れや理解・判断能力低下についての相談先 (複数回答)

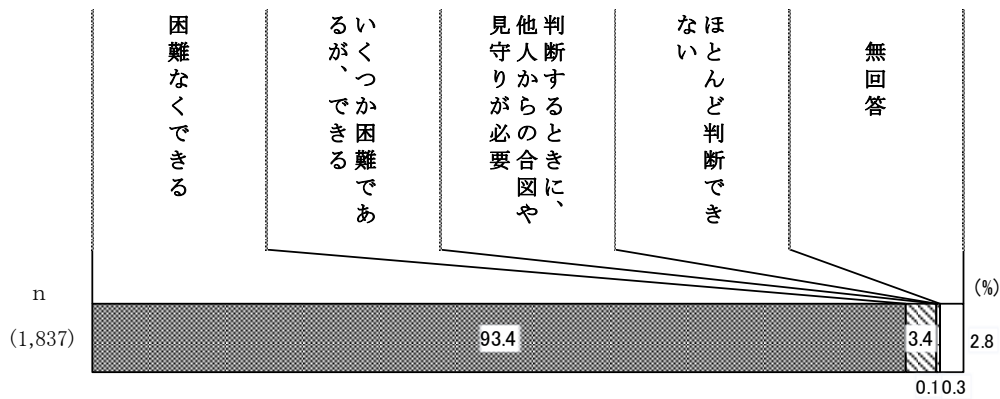


問36-1でもの忘れ、理解・判断力の低下について相談「した」と回答した人に、もの忘れや理解・判断力低下についての相談先をたずねたところ、「診療所・クリニックのかかりつけ医」(45.0%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「病院の内科、神経内科、精神科など」(20.0%)及び「老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院」(20.0%)の順となっている。

④自身でのその日の活動の判断能力

問 37 あなたは、その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。
（1つに○）

<図表> 自身でのその日の活動の判断能力

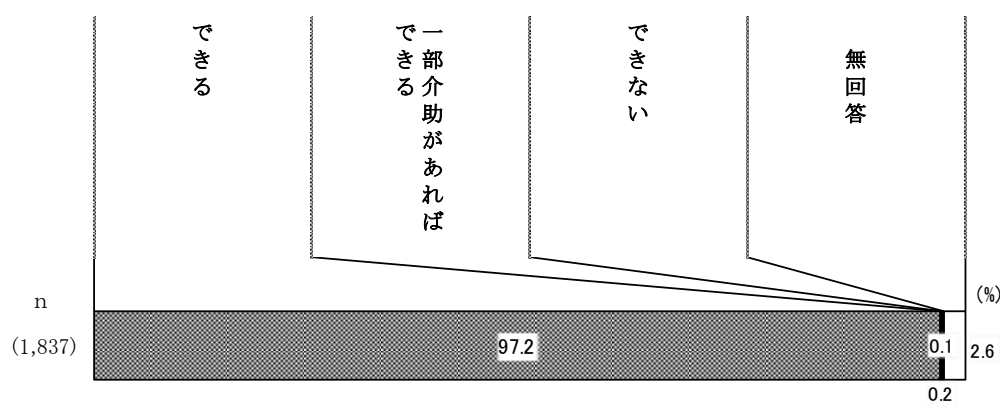


自身でのその日の活動の判断能力をたずねたところ、「困難なくできる」（93.4%）は9割台半ば近くとなっている。

⑤食事の状況

問 38 あなたは、食事を自分で食べられますか。（1つに○）

<図表> 食事の状況

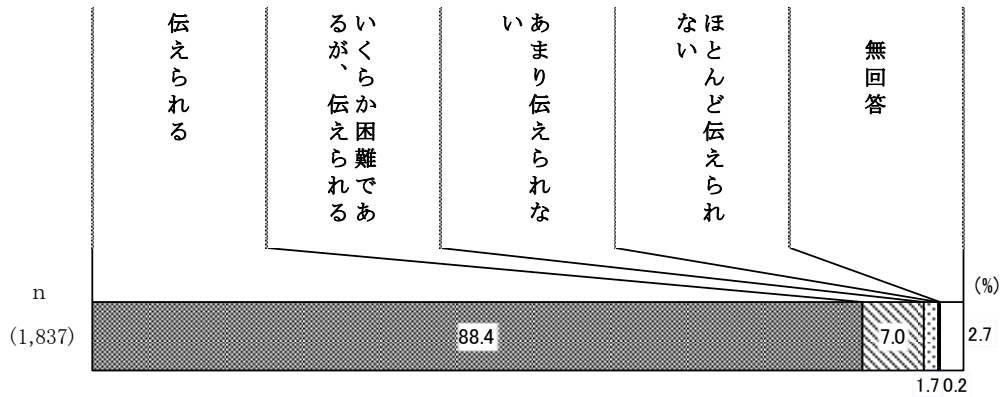


食事の状況（自分で食べられるかどうか）をたずねたところ、「できる」（97.2%）が9割台半ばを超えている。

⑥意思の伝達

問 39 あなたは、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

<図表> 意思の伝達

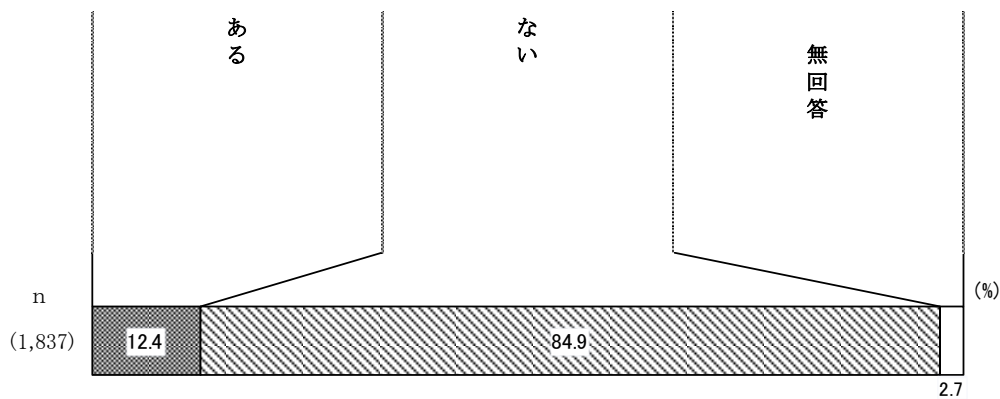


意思の伝達をたずねたところ、「伝えられる」(88.4%)が9割近くで最も高くなっている。

⑦5分前の記憶

問 40 毎日の生活で、5分前のことが思い出せないことがありますか。(1つに○)

<図表> 5分前の記憶



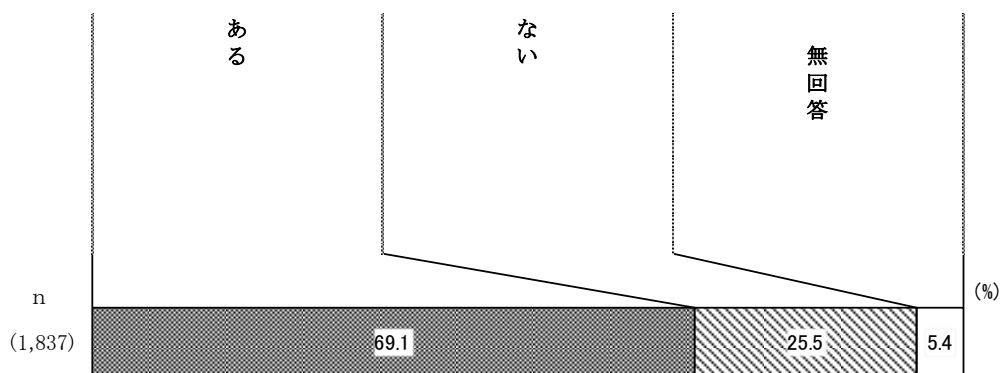
5分前の記憶をたずねたところ、思い出せないことが「ある」(12.4%)は1割強となっている

⑧認知機能障害程度 (CPS) についてはクロス集計結果参照

⑨自身や家族が認知症になったときのことについて考えたことの有無

問 41 あなたは今までに、自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことがありますか。(1つに○)

<図表> 自身や家族が認知症になったときのことについて考えたことの有無

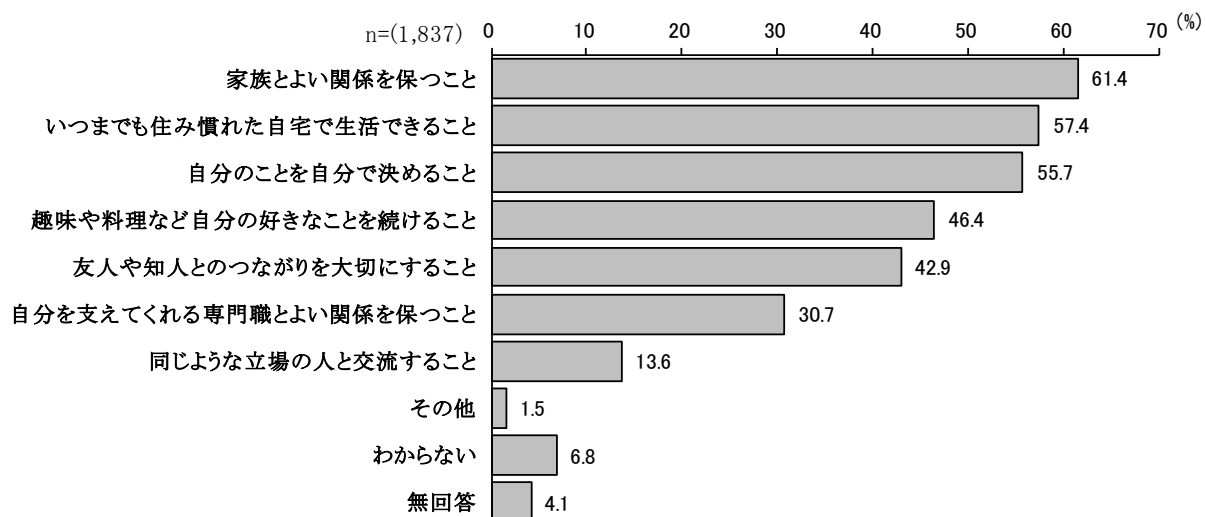


自身や家族が認知症になったときのことについて考えたことの有無をたずねたところ、「ある」(69.1%)は7割弱となっている。

⑩自身が認知症になっても大切にしたいこと

問 42 あなたが認知症になっても大切にしたいことは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 自身が認知症になっても大切にしたいこと (複数回答)

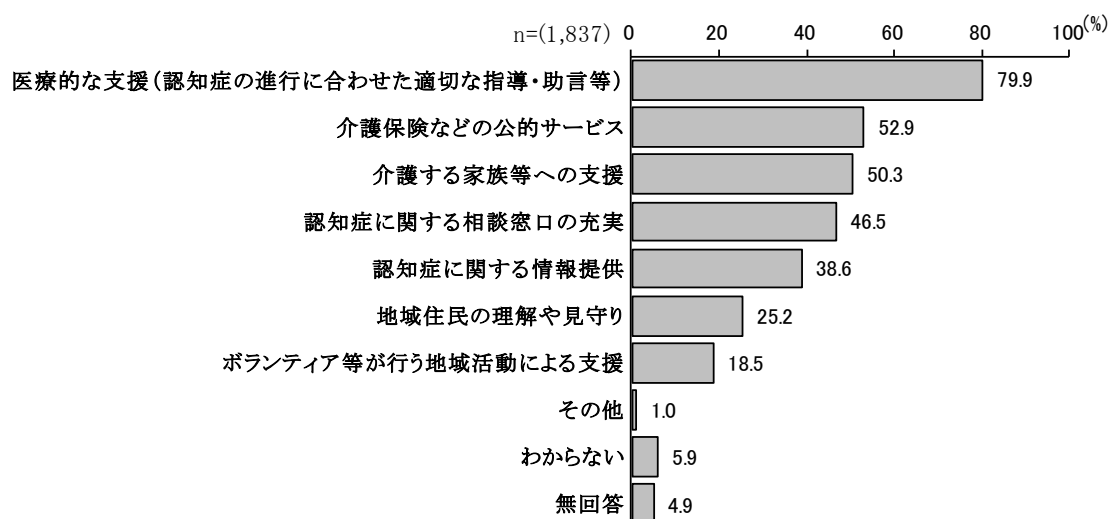


自身が認知症になっても大切にしたいことをたずねたところ、「家族とよい関係を保つこと」(61.4%)が6割強で最も高く、次いで、「いつまでも住み慣れた自宅で生活できること」(57.4%)、「自分のことを自分で決めること」(55.7%)の順となっている。

⑪認知症が早期に発見された場合、必要な支援

問 43 認知症が早期に発見された場合、進行を遅らせるなどの対応策があることがわかってきています。早期に発見された場合、どのような支援が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 認知症が早期に発見された場合、必要な支援（複数回答）

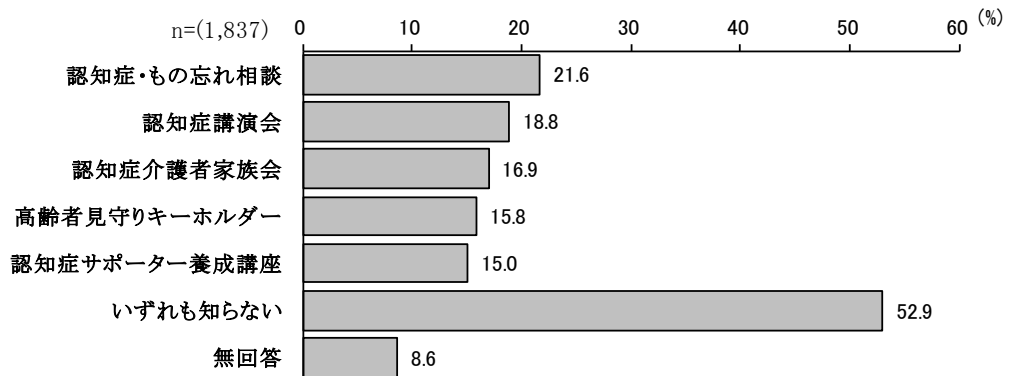


認知症が早期に発見された場合、必要な支援についてたずねたところ、「医療的な支援(認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等)」(79.9%)が8割弱と最も高く、次いで、「介護保険などの公的サービス」(52.9%)、「介護する家族等への支援」(50.3%)の順となっている。

⑫認知症に関する事業やサービスの認知度

問 44 以下の認知症に関する事業やサービスをご存知ですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 認知症に関する事業やサービスの認知度 (複数回答)



認知症に関する事業やサービスの認知度についてたずねたところ、「認知症・もの忘れ相談」(21.6%)が2割強と最も高く、次いで、「認知症講演会」(18.8%)、「認知症介護者家族会」(16.9%)の順となっている。また、「いずれも知らない」(52.9%)が5割強となっている。

⑬高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問45 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、563人からの回答があった。回答の多かった内容は、「介護保険・保険料について」「高齢者施策について」「サービスについて」の順であった。各事項（その他除く）について、回答の中からいくつかの意見を示す。

介護保険・保険料について	高齢者施策について	サービスについて	情報提供・相談について	健康・介護予防について	高齢者向け施設について	アンケートについて	認知症について	地域のコミュニティについて	医療・保健について	人材・ボランティアについて	独居高齢者について	家族等介護者のことについて	住まいについて	災害時・緊急時のことについて	その他
143	67	55	44	41	38	29	24	20	18	14	13	12	11	4	58

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【介護保険・保険料について】

- ・保険料が高すぎると思います。
- ・もし介護が必要な状態になった場合、手続きが難しいと聞きます。できるだけ簡単にしたいと聞きます。

【高齢者施策について】

- ・専門家の養成に力を入れて下さい。行政の都合ではなく介護や支援を受ける側に立った視点に重点を置いた施策を期待します。
- ・高齢になっても住みなれた場所で住み続けるには何が一番必要か？様々なサポート体制はもちろん必要ですが、それをコーディネートするキーパーソンが一番必要です。

【サービスについて】

- ・行政の窓口が多くありはっきりした分担が不明。なにか仕事の重複が多くあるような感じがします。
- ・コミュニティーバスができれば坂道の上り下りを苦にせず、もう少し行動範囲が広がって年寄りも外へ出る機会が増えると思います。

【情報提供・相談について】

- ・福祉に関する施策や介護保険等の情報提供は素早く、すべての一人暮らしの方々にもれなくお届けできるように願っております。
- ・高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての冊子等を高齢者の家庭だけではなく、全ての家庭に配布し、認知症予防などを啓蒙するような情報を区民に提供して欲しいと思います。自分の周りに認知症の人がいないので、あまり関心と知識がないので。

【健康・介護予防について】

- ・スポーツジムの月会費の支援は高齢者の健康維持のため有効な施策のように思う。それは結果として医療費負担の削減につながるのではないかと思う。
- ・介護がいつ必要になるかわかりませんが、毎日の食事の時間、買物など暇なく動いています。また、これが励みになっていると思います。一日でも先に介護を受ける日が遠くなりますよう頑張っています。

【高齢者向け施設について】

- ・少ない年金でも入所できる施設を増やして欲しい。
- ・介護施設の増設と介護者の増員。

【アンケートについて】

- ・知らないことばかりで、病気やケガなどしてからでは遅いのに、なってみないと何が必要か、何を助けて欲しいのか、自身が何の役に立てるのかも…。アンケートを読むことで、いろいろな施策を感じる事ができた。
- ・このアンケートに答えることによって、自分の老化の進みぐあいがわかりました。

【認知症について】

- ・一人で住んでいるので認知症が一番心配です。
- ・認知症の方がもっと表に出て、世の中に知っていただき生活できるようになると良いと思います。認知症の家族がいる世帯を助けてあげられるようになれば良いと思います。

【地域のコミュニティについて】

- ・現在地域の活動にあまり関わっていない人々（活動に関わっている人達と関係の薄い人）を掘り起こす努力が必要と思う。
- ・地域での支援が大切ですので活動拠点の充実を要望します。

【医療・保健について】

- ・病気をしていても、治療を受けながらも自立した生活が送れるよう、さまざまなサポートや自ら活動することが大切と考える。
- ・現役で働いていると、後期高齢者医療費が高額なので、負担が大きい。

【人材・ボランティアについて】

- ・高齢を迎えることで誰もが体力、気力、知力等の衰えを感じるようになります。家族や地域の見守り、支援が必要だということが当たり前のこととして認識される地域であつたらいいと思います。次は我が家の番かしらと気軽に支援の手伝いをしたり、支援を受けるときが来たりと、そのときでできる人が、そのとき必要な人が利用できるシステムがあつたらいいと思います。
- ・ボランティア活動はしたいと思うが、最近体力、聴力が低下し自信が持てない。

【独居高齢者について】

- ・一人暮らしですので、これからのことがとても心配です。
- ・一人暮らしの高齢者に対する訪問、チェック、若年層との交流のチャンスを作してほしい。

【家族等介護者のことについて】

- ・自宅介護の場合、家族に何らかの支援がほしい。
- ・老々介護が多くなっていますが、親が認知症になった場合に生活を看てもらう子供の援助が絶対に必要と思っています。親を看て子供が仕事を失職する事だけは避けたいと思っています。

【住まいについて】

- ・高齢者ばかりでなく、色々な世代の人達と共に住める、医療の施設が充実している所を紹介してほしい。高齢者が住みやすいまちづくりを希望します。
- ・公的年金で安心して入居できる高齢者住宅を増やしていただきたいです。都営住宅や団地の空室を上手に利用してほしいと思います。

【災害時・緊急時のことについて】

- ・今回の台風のようなことが都心部にも起こりうる訳ですから、どれだけ一人暮らしの高齢者の把握をしているのか、起きたときの対応ができるのかが心配です。

2-3 要支援・要介護認定者調査

(1) ご本人について

①調査票の記入者

<図表> 調査票の記入者

調査数	調査票の記入者			
	本人	家族	その他	無回答
837	466	266	5	100

②現在の状況（本人の不在の事情）

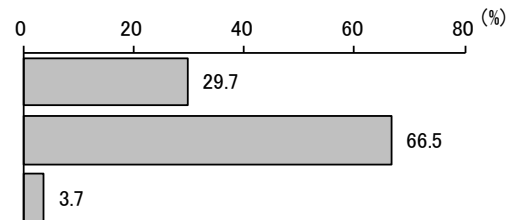
<図表> 現在の状況（本人の不在の事情）

調査数	現在の状況（本人の不在の事情）					
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	左記に該 当しない
837	18	5	-	2	13	799

③性別

<図表> 性別

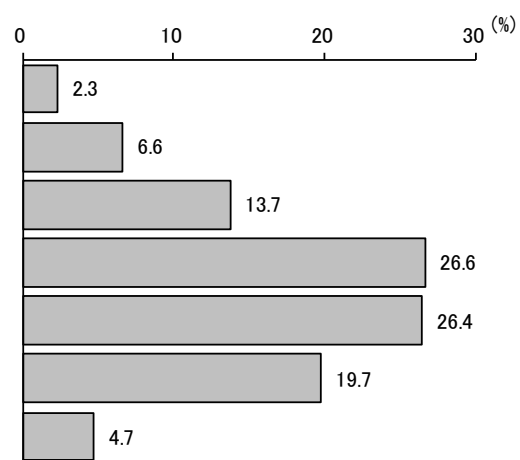
	基数	構成比
男性	249	29.7%
女性	557	66.5%
無回答	31	3.7%



④年齢

＜図表＞ 年齢

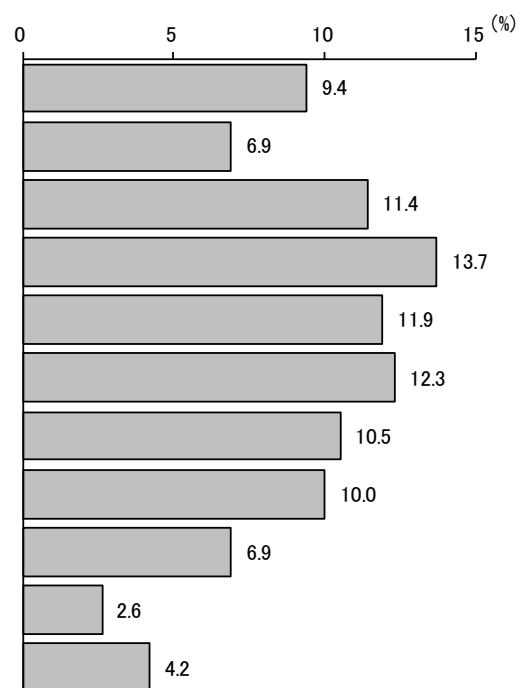
	基数	構成比
65歳～69歳	19	2.3%
70歳～74歳	55	6.6%
75歳～79歳	115	13.7%
80歳～84歳	223	26.6%
85歳～89歳	221	26.4%
90歳以上	165	19.7%
無回答	39	4.7%



⑤お住まいの地区

＜図表＞ お住まいの地区

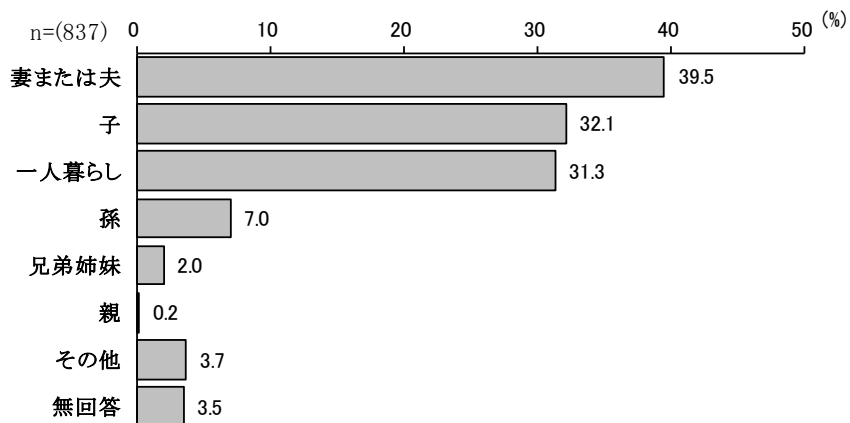
	基数	構成比
四谷	79	9.4%
籠筍町	58	6.9%
榎町	95	11.4%
若松町	115	13.7%
大久保	100	11.9%
戸塚	103	12.3%
落合第一	88	10.5%
落合第二	84	10.0%
柏木	58	6.9%
角筍	22	2.6%
無回答	35	4.2%



⑥同居者

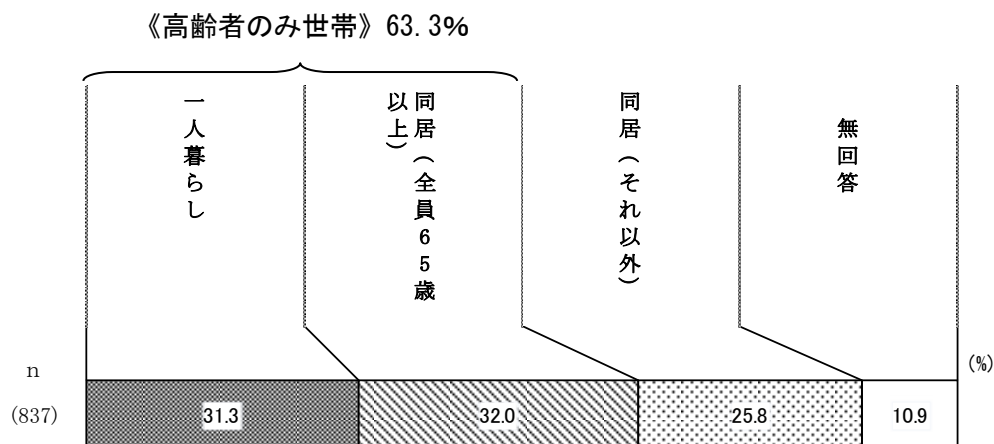
問4 現在、あなたはどなたかと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 同居者



同居の状態をたずねたところ、「一人暮らし」(31.3%)が3割強となっている。同居者は、「妻または夫」(39.5%)が4割弱、「子」(32.1%)が3割強となっている。

<図表> 世帯構成

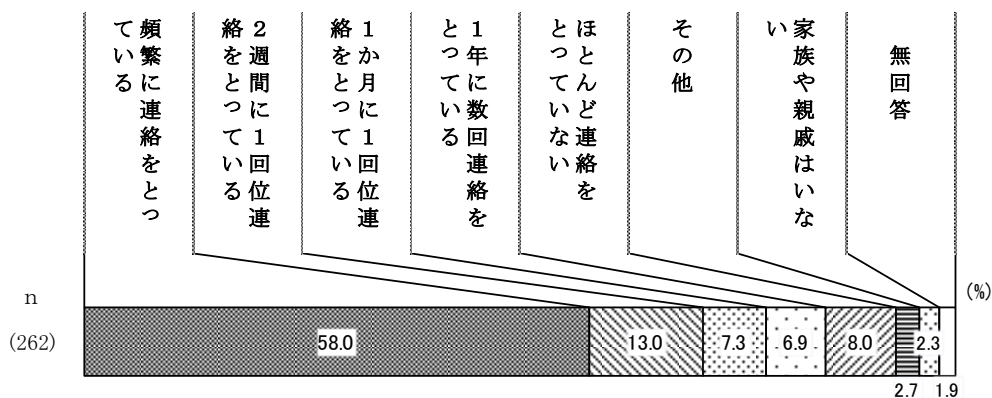


世帯構成をたずねたところ、「一人暮らし」(31.3%)と「同居(全員65歳以上)」(32.0%)をあわせた《高齢者のみ世帯》は63.3%となっている。

⑦家族や親戚との連絡

問4-1 《問4で「一人暮らし」を選んだ方のみお答えください》
 あなたは、ご家族やご親戚と連絡をどのくらいとっていますか。
 (1つに○)

<図表> 家族や親戚との連絡

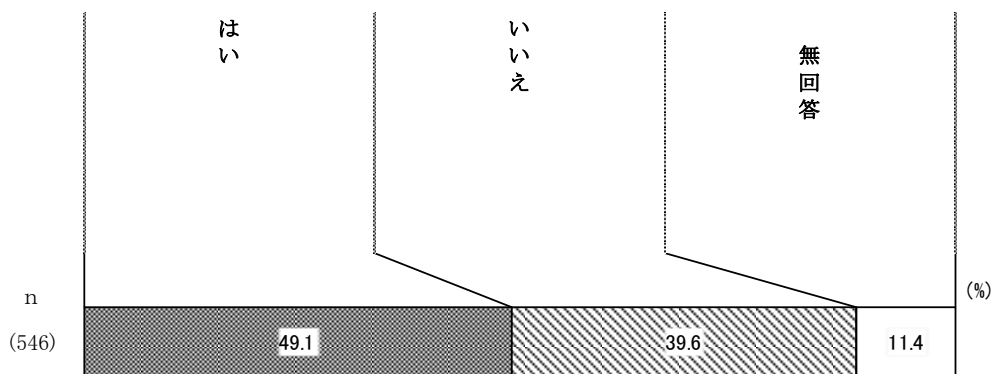


問4で「一人暮らし」と回答した人に家族や親戚と連絡をとっている頻度をたずねたところ、「頻繁に連絡をとっている」(58.0%)が6割近くで最も高くなっている。

⑧同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

問4-2 《問4でどなたかと同居している方のみお答えください》
 同居の方は、全員65歳以上ですか。(1つに○)

<図表> 同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

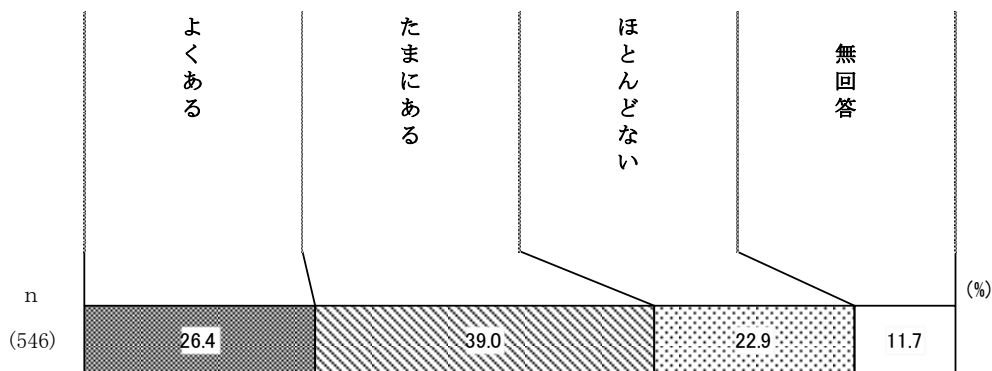


問4で《同居者がいる》と回答した人に同居者が全員65歳以上かたずねたところ、「はい」(49.1%)は5割弱、「いいえ」(39.6%)は4割弱となっている。

⑨日中の独居状況

問4-3 《問4でどなたかと同居している方のみお答えください》
日中、一人になることはありますか。(1つに○)

<図表> 日中の独居状況

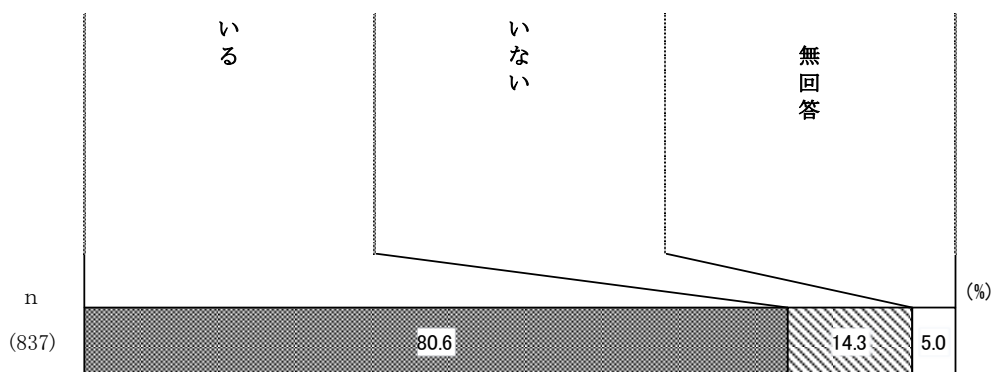


問4で《同居者がいる》と回答した人に日中一人になることがあるかたずねたところ、「たまにある」(39.0%)が4割近くで最も高く、次いで、「よくある」(26.4%)、「ほとんどない」(22.9%)の順となっている。

⑩同居者以外に手助けを頼める人の有無

問5 あなたが日常生活で困ったことがあったとき、同居者以外に誰か手助けを頼める人がいますか。(1つに○)

<図表> 同居者以外に手助けを頼める人の有無

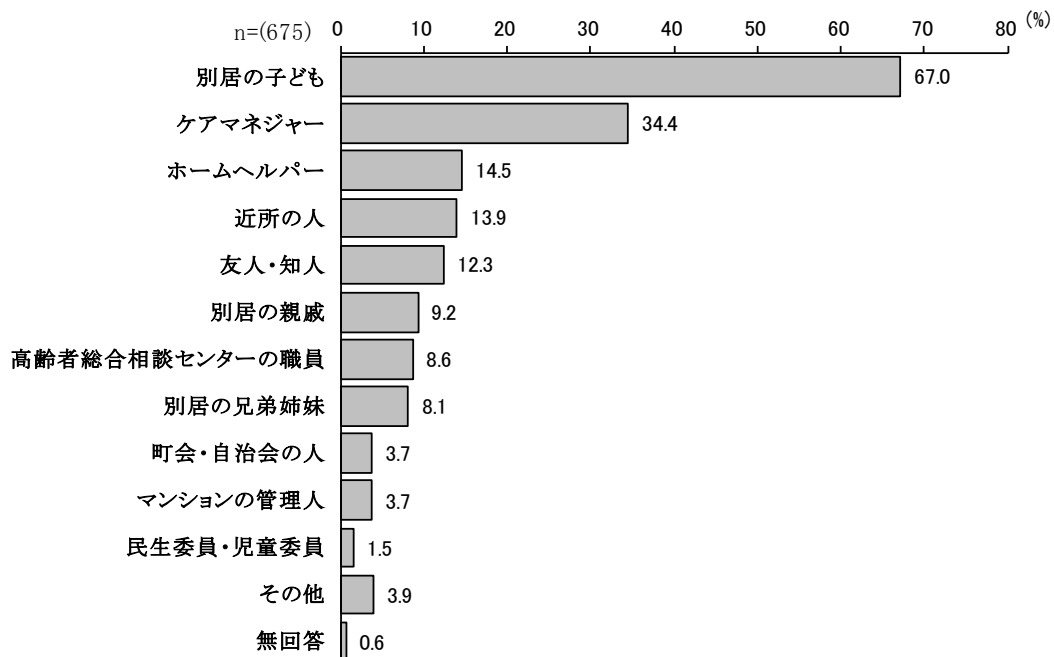


同居者以外に日常生活で困ったときに手助けを頼める人の有無をたずねたところ、「いる」(80.6%)は約8割となっている。

⑪手助けを頼める人

問5-1 <<問5で「いる」を選んだ方のみお答えください>>
手助けを頼める人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 手助けを頼める人 (複数回答)

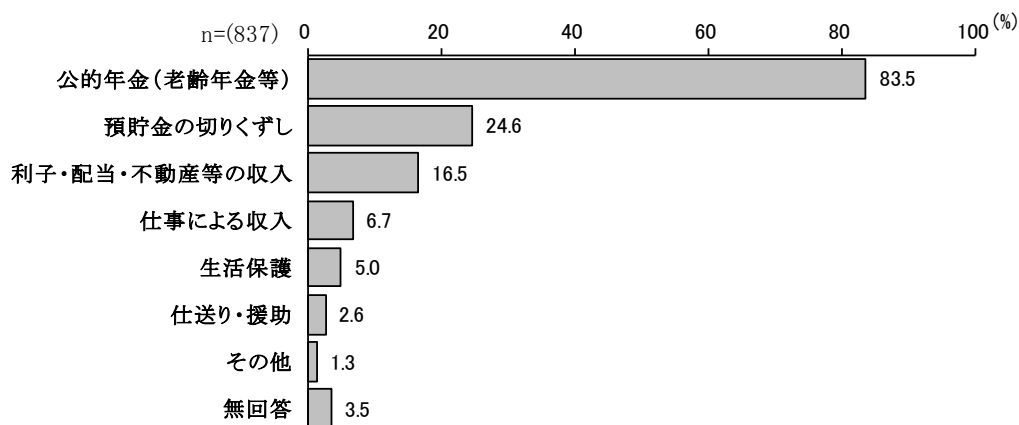


問5で同居者以外に手助けを頼める人が「いる」と回答した人に、その相手をたずねたところ、「別居の子ども」(67.0%)が6割台半ばを超えて最も高く、次いで、「ケアマネジャー」(34.4%)、「ホームヘルパー」(14.5%)の順となっている。

⑫自身の収入源

問6 あなたご本人の収入は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 自身の収入源 (複数回答)

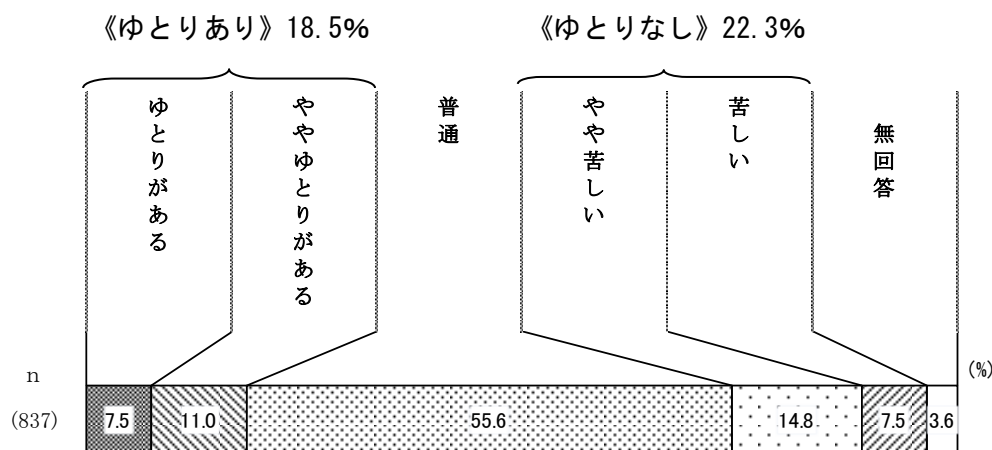


自身の収入源についてたずねたところ、「公的年金 (老齢年金等)」(83.5%) が8割台半ば近くと最も高く、次いで、「預貯金の切りくずし」(24.6%)、「利子・配当・家賃・不動産等の収入」(16.5%)の順となっている。

⑬現在の暮らし向き

問7 あなたは、現在のご自身の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表> 現在の暮らし向き



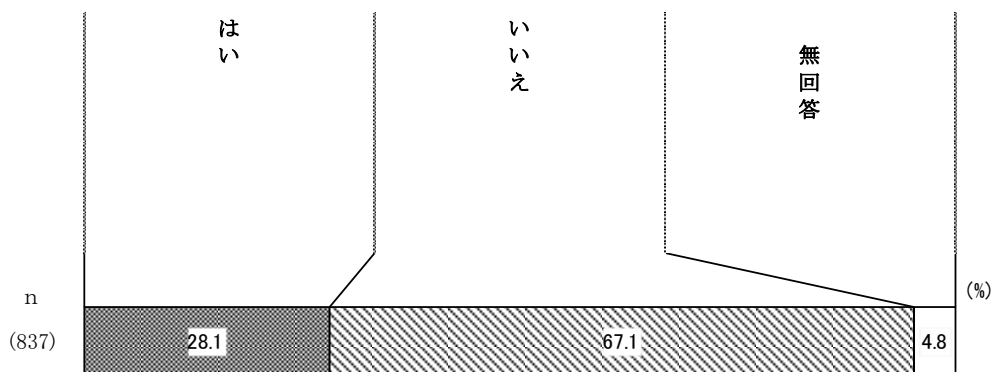
現在の暮らし向きについてたずねたところ、「普通」(55.6%) が5割台半ばと最も高く、「ゆとりがある」(7.5%)と「ややゆとりがある」(11.0%)をあわせた《ゆとりあり》は18.5%となっている。

(2) お住まいについて

①住まいにおける不便・不安の有無

問8 あなたは、現在のお住まいに不便や不安を感じていますか。(1つに○)

<図表> 住まいにおける不便・不安の有無

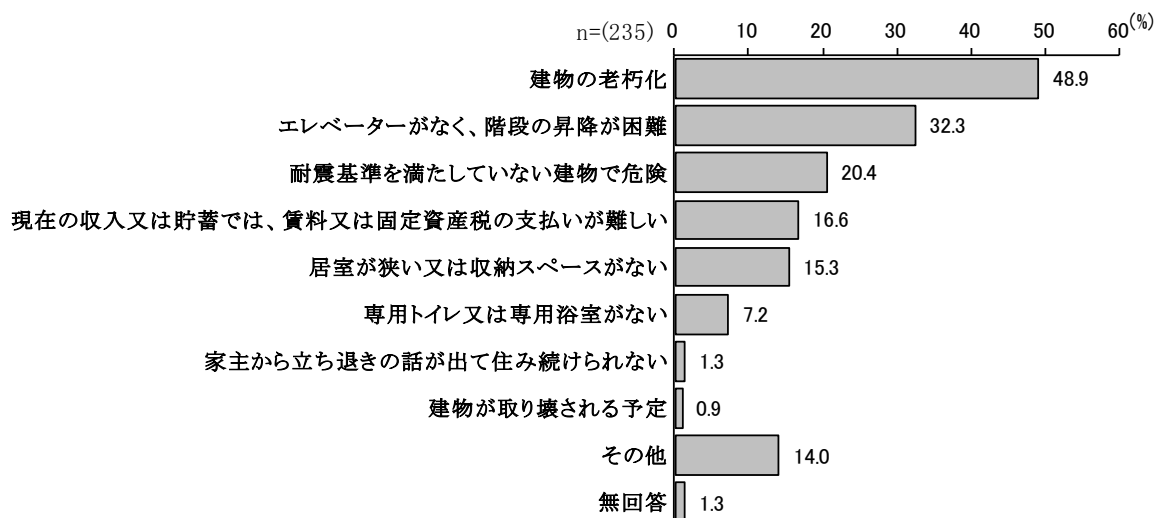


住まいにおける不便・不安の有無をたずねたところ、「はい」(28.1%)は3割近く、「いいえ」(67.1%)は6割台半ばを超えている。

②住まいにおける不便・不安を感じる理由

問8-1 《問8で「はい」を選んだ方のみお答えください》
その理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 住まいにおける不便・不安を感じる理由 (複数回答)

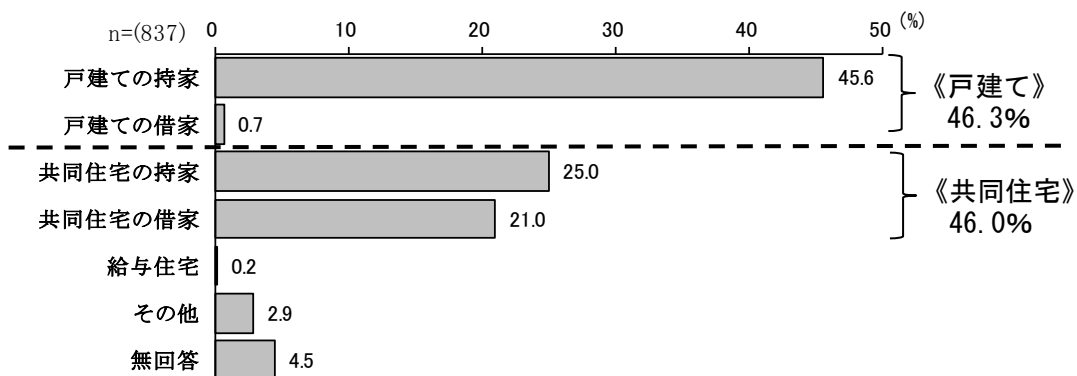


問8で住まいにおける不便・不安を感じているかについて「はい」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「建物の老朽化」(48.9%)が5割近くと最も高く、次いで、「エレベーターがなく、階段の昇降が困難」(32.3%)、「耐震基準を満たしていない建物で危険」(20.4%)の順となっている。

③住まいの形態

問9 現在のお住まいは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表> 住まいの形態

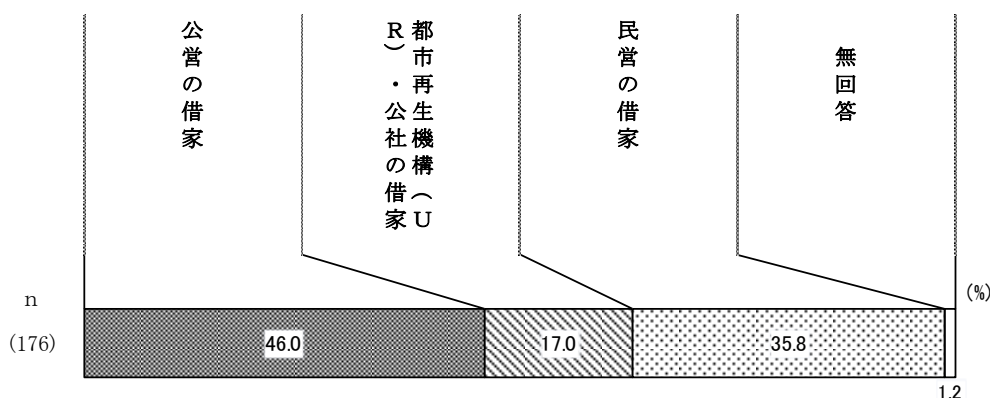


住まいの形態についてたずねたところ、「戸建ての持家」(45.6%)が4割台半ばと最も高く、次いで、「共同住宅の持家」(25.0%)の順となっている。《戸建て》(46.3%)は4割台半ばを超えており、《共同住宅》(46.0%)より0.3ポイント高くなっている。

④借家の種類

問9-1 《問9で「共同住宅の借家」を選んだ方のみお答えください》
該当する借家をお答えください。(1つに○)

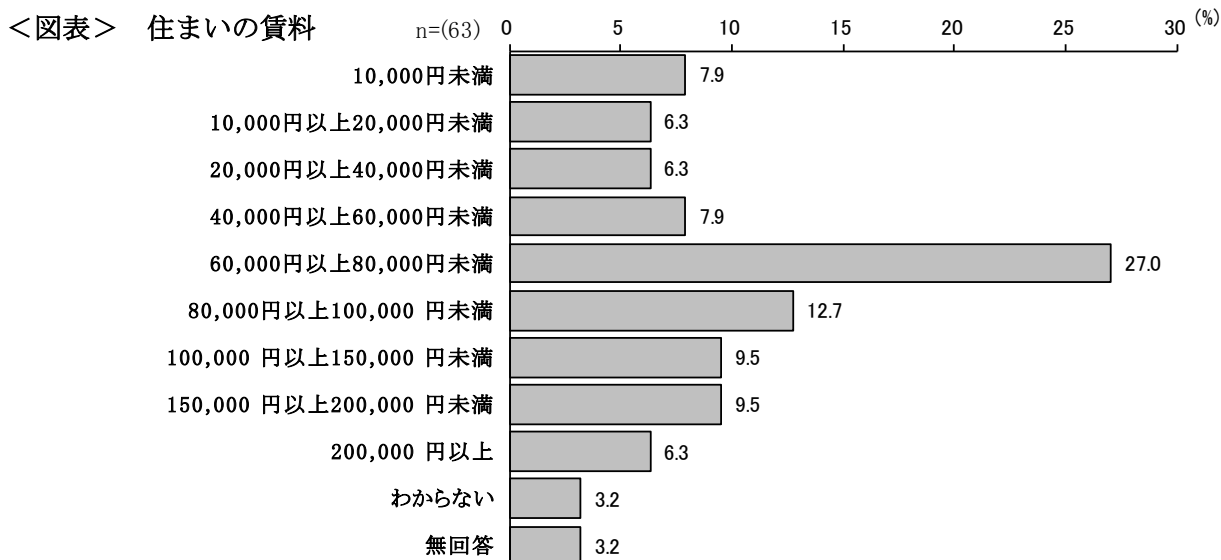
<図表> 借家の種類



問9で「共同住宅の借家」と回答した人に、借家の種類をたずねたところ、「公営の借家」(46.0%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「民間の借家」(35.8%)、「都市再生機構(U R)・会社の借家」(17.0%)の順となっている。

⑤住まいの賃料

問9-2 <<問9-1で「民営の借家」を選んだ方のみお答えください>>
 民営の借家（民間賃貸住宅）にお住まいの方の賃料負担の実態を把握させていただくため、お住まいの賃料についてお答え下さい。（1つに○）

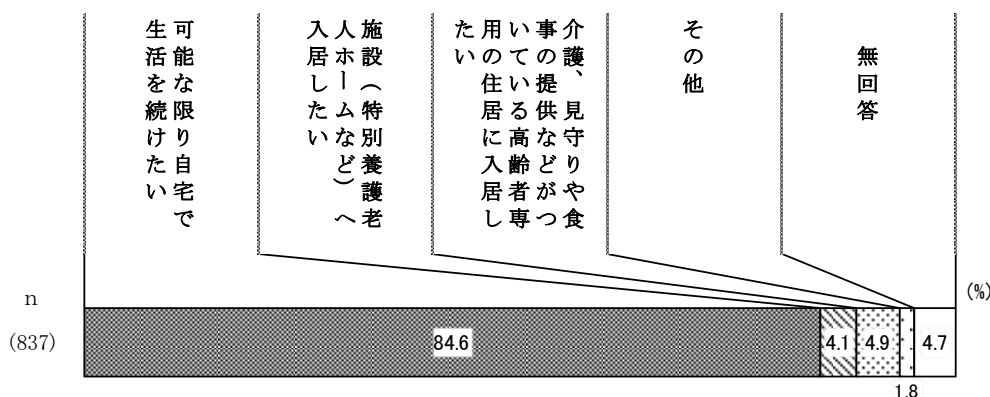


問9-1で「民営の借家」と回答した人に住まいの賃料をたずねたところ、「60,000円以上80,000円未満」(27.0%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「80,000円以上100,000円未満」(12.7%)、「100,000円以上150,000円未満」及び「150,000円以上200,000円未満」(9.5%)の順となっている。

⑥現在の住まいに住み続けること

問10 あなたは、これからも今のお住まい（自宅等）で生活を続けたいと思いますか。
 （1つに○）

<図表> 現在の住まいに住み続けること

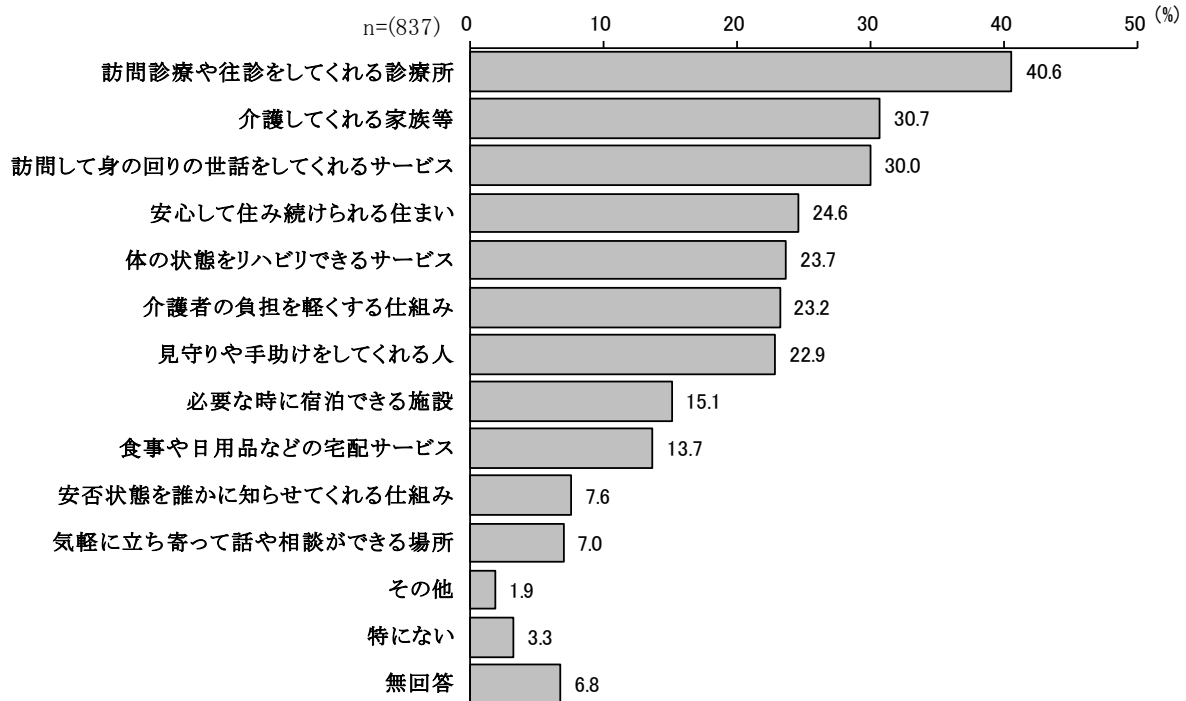


現在の住まいに住み続けることについてたずねたところ、「可能な限り自宅で生活を続けたい」(84.6%)は8割台半ば近くで最も高くなっている。

⑦在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの

問 11 今後も在宅で暮らし続けるために、あなたが特に重要だと思うものは、次のうちどれですか。(あてはまるもの3つに〇)

<図表> 在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの (複数回答)



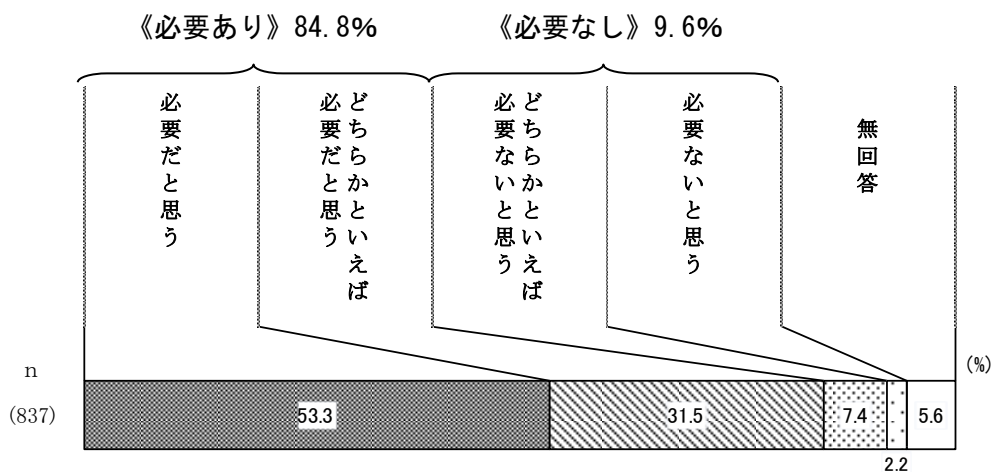
在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うものをたずねたところ、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」(40.6%)が約4割で最も高く、次いで、「介護してくれる家族等」(30.7%)、「訪問して身の回りの世話をしてくれるサービス」(30.0%)、「安心して住み続けられる住まい」(24.6%)の順となっている。

(3) 地域での支え合いについて

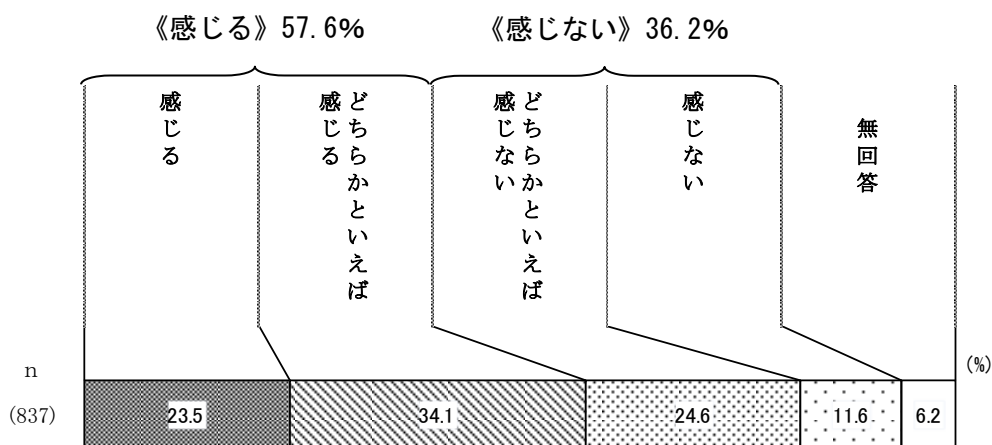
①地域のつながりの必要性と実感

問 12 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）についておたずねします。（どれか1つに○）

<図表> 地域のつながりの必要性



<図表> 地域のつながりの実感



地域のつながりの必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」（53.3%）と「どちらかといえば必要だと思う」（31.5%）をあわせた《必要あり》は84.8%となっている。

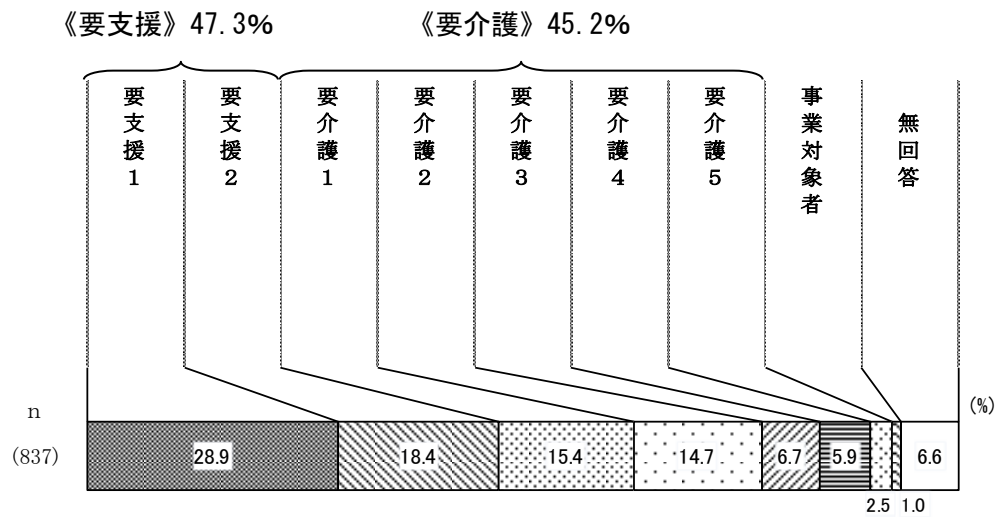
地域のつながりの実感についてたずねたところ、「感じる」（23.5%）と「どちらかといえば感じる」（34.1%）をあわせた《感じる》は57.6%となっている。

(4) 要介護認定について

①現在の要介護度

問 13 あなたの現在の要介護度は、次のうちどれですか。おわかりにならない場合は、ご家族やケアマネジャーにおたずねになり、必ず記入してください。(1つに○)

<図表> 現在の要介護度

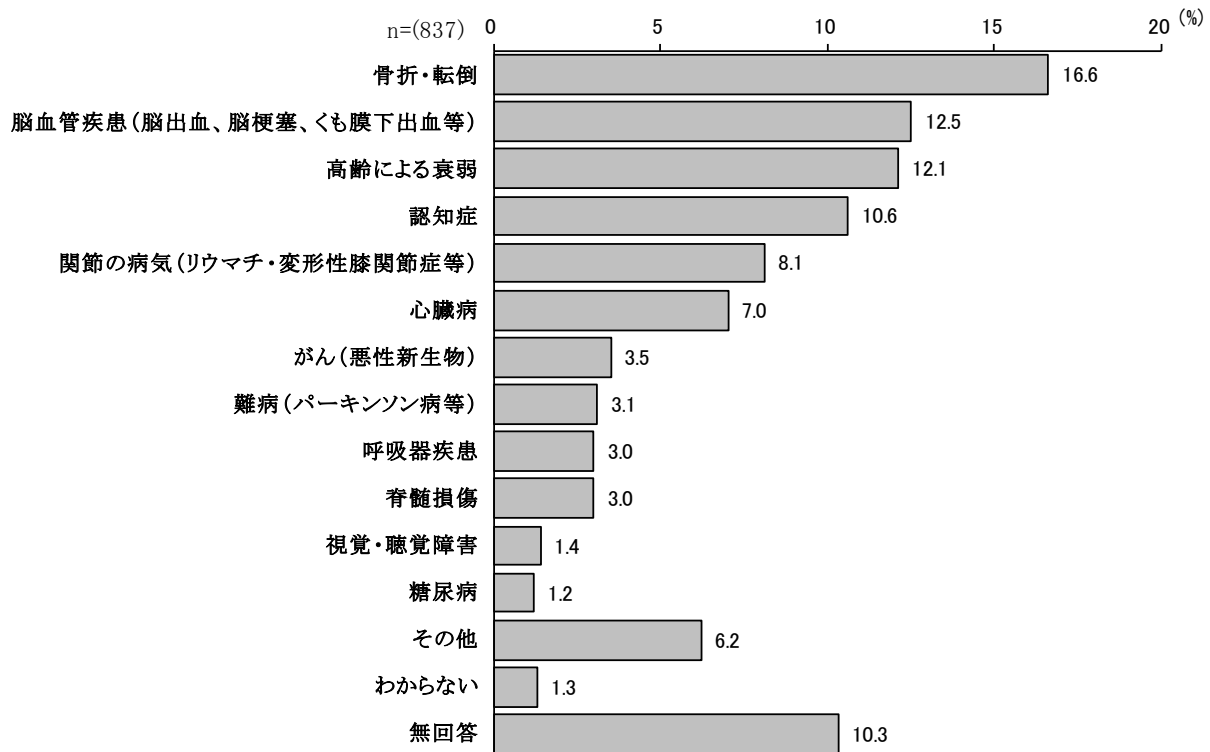


要介護度をたずねたところ、「要支援1」(28.9%)と「要支援2」(18.4%)をあわせた《要支援》は47.3%となっている。

②介護が必要となった主な原因

問 14 あなたが、介護を必要とするようになった主な原因は、次のうちどれですか。
(1つに○)

<図表> 介護が必要となった主な原因



介護が必要となった主な原因をたずねたところ、「骨折・転倒」(16.6%)が1割台半ばを超えて最も高く、次いで「脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等)」(12.5%)、「高齢による衰弱」(12.1%)の順となっている。

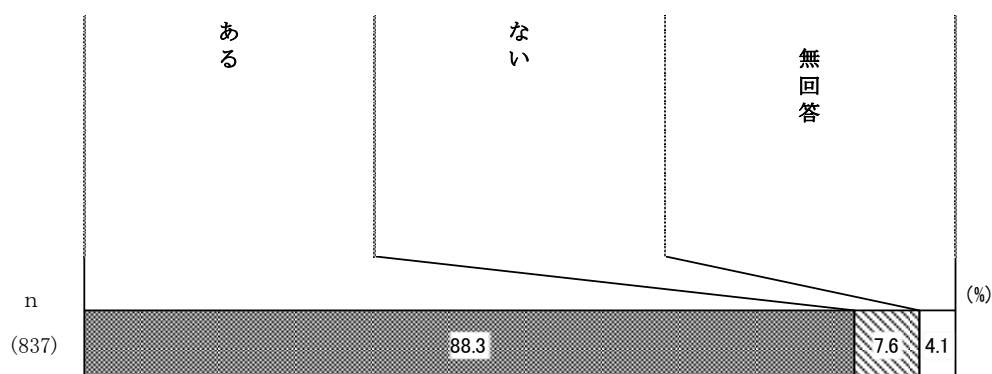
性別でみると、「骨折・転倒」は、女性の方が11.3ポイント高くなっている。また、「脳血管疾患(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等)」は、男性の方が14.4ポイント高くなっている。

(5) 健康状態や健康づくり等について

①治療中の病気の有無

問 15 あなたは、現在治療中の病気がありますか。(1つに○)

<図表> 治療中の病気の有無

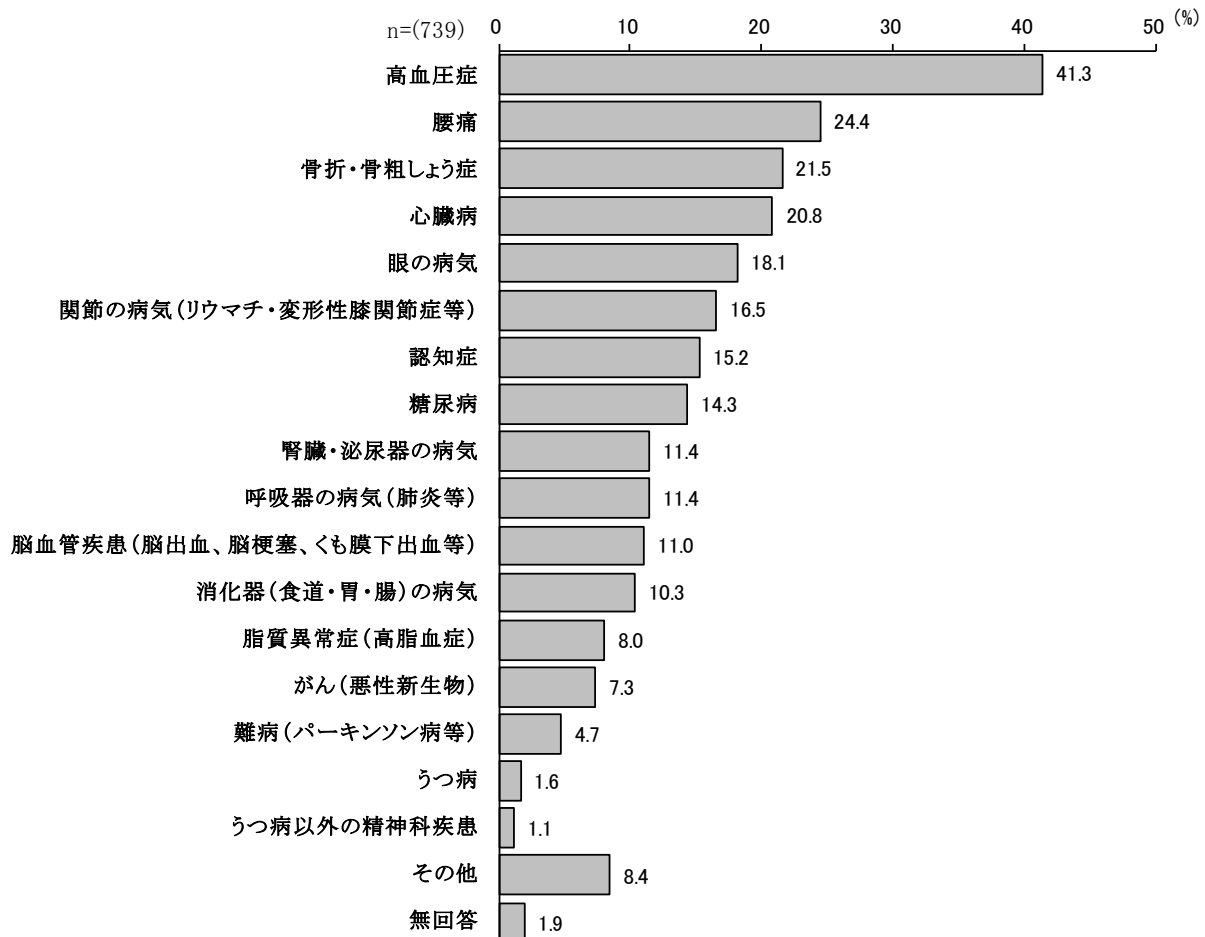


現在治療中の病気の有無をたずねたところ、「ある」(88.3%)が9割近くとなっている。

②治療中の病気の種類

問 15-1 《問 15 で「ある」を選んだ方のみお答えください》
治療中の病気は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 治療中の病気の種類 (複数回答)

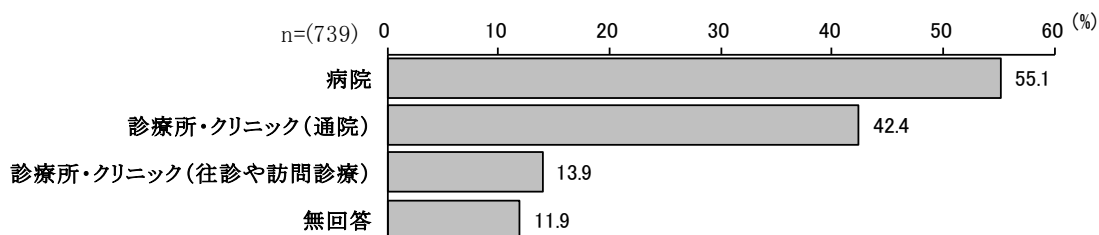


問15で治療中の病気が「ある」と回答した人に治療中の病気についてたずねたところ、「高血圧症」(41.3%)が4割強で最も高く、次いで、「腰痛」(24.4%)、「骨折・骨粗しょう症」(21.5%)の順となっている。

③受診している医療機関

問 15-2 《問 15 で「ある」を選んだ方のみお答えください》
 受診している医療機関は、次のうちどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 受診している医療機関 (複数回答)

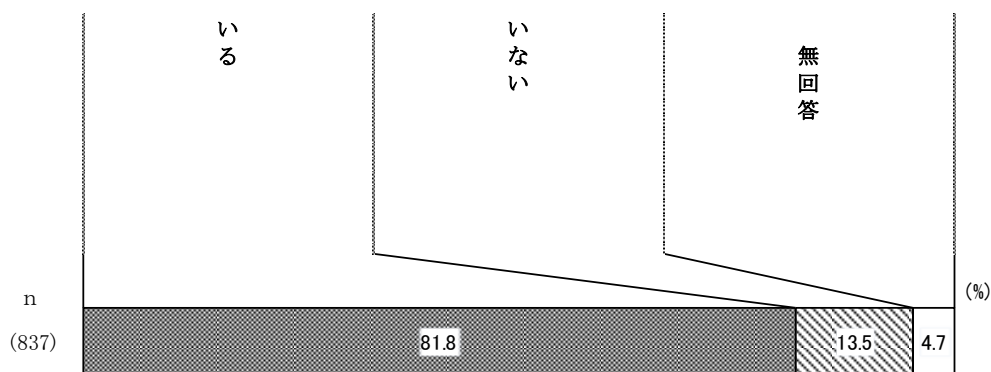


問15で治療中の病気が「ある」と回答した人に受診している医療機関についてたずねたところ、「病院」(55.1%)が5割台半ばで最も高く、次いで「診療所・クリニック(通院)」(42.4%)の順となっている。

④かかりつけ医の有無

問 16 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる
診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

<図表> かかりつけ医の有無

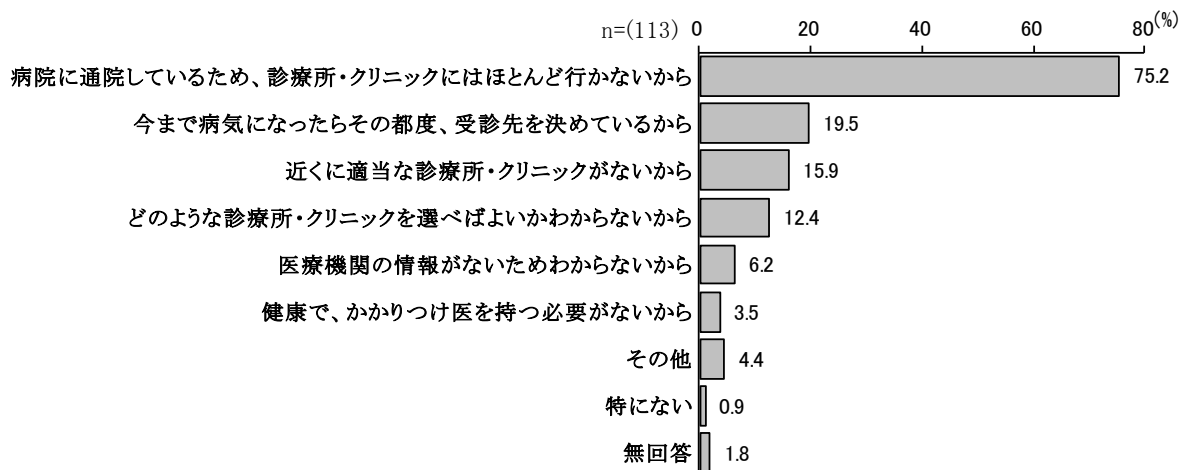


かかりつけ医の有無をたずねたところ、「いる」(81.8%)が8割強となっている。

⑤かかりつけ医がない理由

問 16-1 《問 16 で「いない」を選んだ方のみお答えください》
 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> かかりつけ医がない理由 (複数回答)



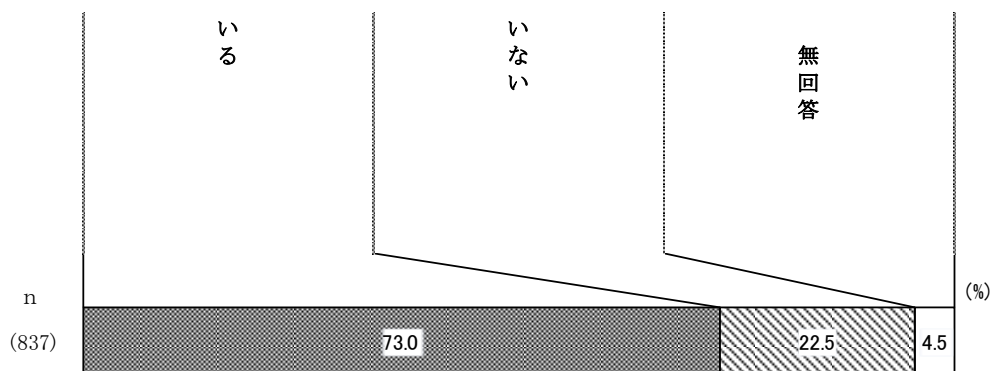
問16でかかりつけ医が「いない」と回答した人に、かかりつけ医がない理由をたずねたところ、「病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから」(75.2%)が7割台半ばで最も高く、次いで、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」(19.5%)、「近くに適切な診療所・クリニックがないから」(15.9%)の順となっている。

(6) 歯科について

① かかりつけ歯科医の有無

問 17 あなたは、治療や予防のために気軽に受診できる「かかりつけ歯科医」がいますか。
(1つに○)

<図表> かかりつけ歯科医の有無

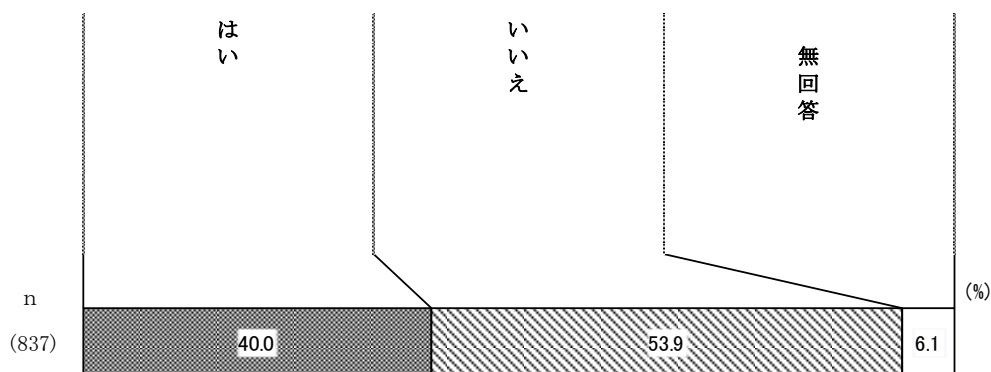


かかりつけ歯科医の有無をたずねたところ、「いる」(73.0%)が7割台半ば近くとなっている。

② 往診してくれる歯科医院の認知度

問 18 あなたは、往診してくれる歯科医院があることをご存じですか。(1つに○)

<図表> 往診してくれる歯科医院の認知度



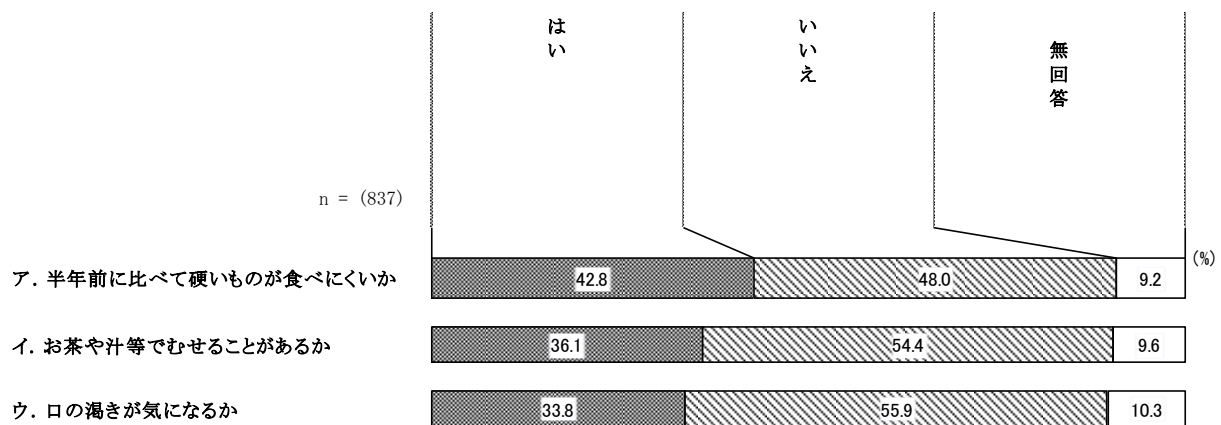
往診してくれる歯科医の認知度をたずねたところ、「はい」(40.0%)が4割となっている。

(7) 摂食嚥下（食べる機能）について

① 食べる機能について

問 19 あなたの食べる機能について、ア～ウのすべての質問にお答えください。
 （それぞれ1つに○）

<図表> 食べる機能について

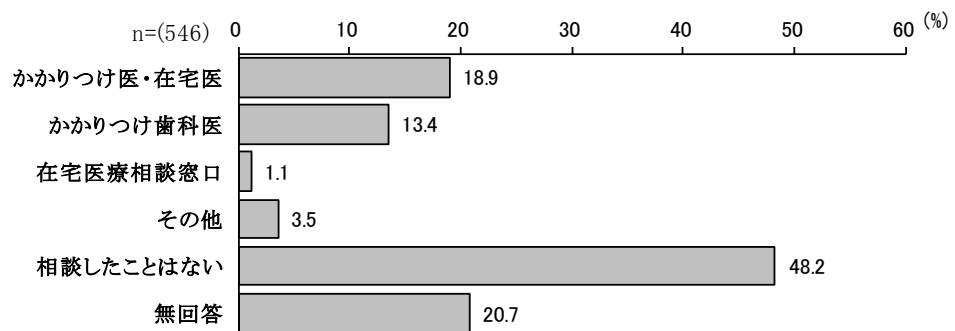


硬いものの食べにくさの有無をたずねたところ、「はい」(42.8%)が4割強となっている。
 お茶や汁等でむせることの有無をたずねたところ、「はい」(36.1%)が3割台半ばを超えている。
 口の渇きの有無をたずねたところ、「はい」(33.8%)が3割台半ば近くとなっている。

②食べる機能について相談したことの有無

問 19-1 《問 19 のア～ウのいずれかまたはすべてで「はい」を選んだ方のみお答えください》
 摂食嚥下についてどこかに相談したことはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 食べる機能について相談したことの有無 (複数回答)



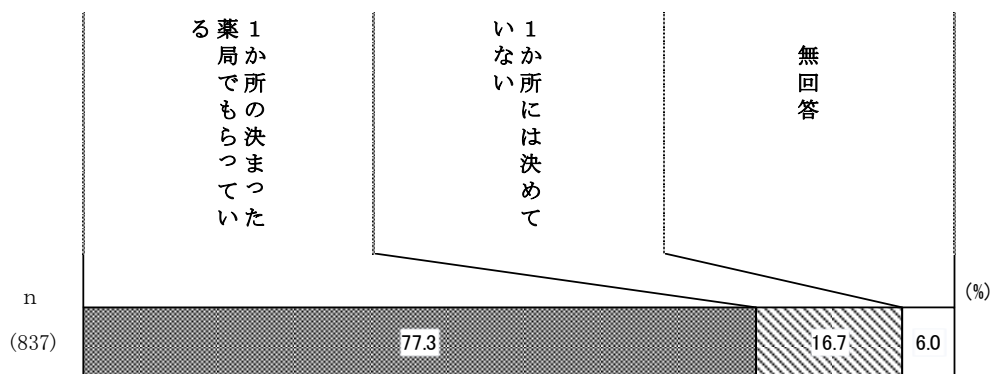
問19のいずれかまたはすべてで「はい」を選んだ人に摂食嚥下についての相談先をたずねたところ、「相談したことはない」(48.2%)が5割近くで最も高かった。「かかりつけ医、在宅医」は18.9%、「かかりつけ歯科医」は13.4%となっている。

(8) 薬局について

①薬をもらう薬局の特定

問 20 あなたは、病院・診療所から処方された薬をもらう薬局を1か所に決めていますか。
(1つに○)

<図表> 薬をもらう薬局を1か所に決めているか

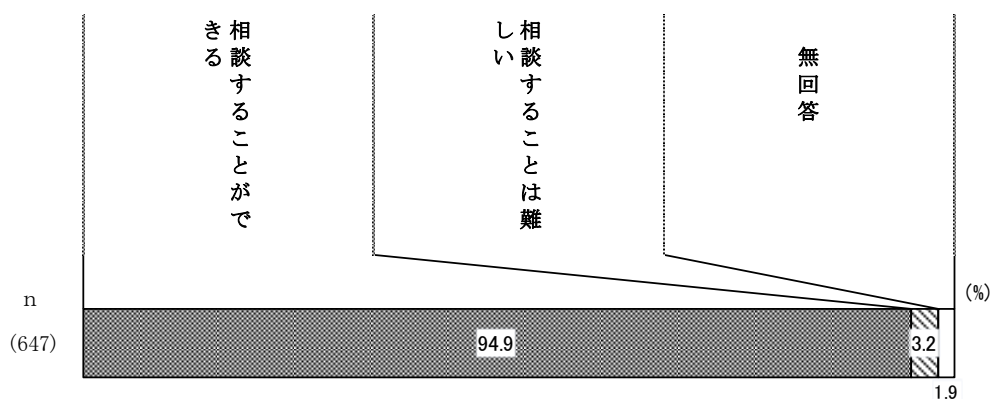


薬をもらう薬局を1か所に決めているかたずねたところ、「1か所の決まった薬局でもらっている」(77.3%)が7割台半ばを超え、「1か所には決めていない」(16.7%)が1割台半ばを超えている。

②薬の説明を聞いたり、相談をすることの可能性

問 20-1 <<問 20で「1か所の決まった薬局でもらっている」を選んだ方のみお答えください>>
その薬局では、薬の説明を聞いたり、相談したりすることができますか。
(1つに○)

<図表> 薬局で薬の説明を聞いたり、相談をすることができるか

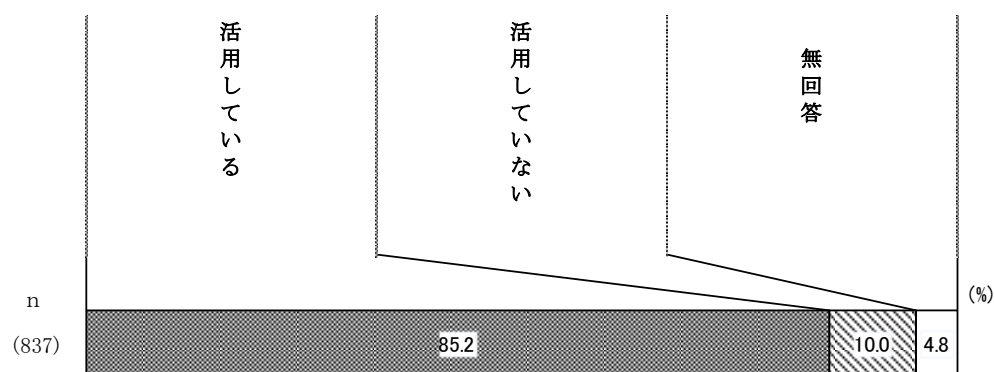


問20で「1か所の決まった薬局でもらっている」と回答した人に、薬局で薬の説明を聞いたり、相談することができるかたずねたところ、「相談することができる」(94.9%)が9割台半ば近くとなっている。

③お薬手帳の活用状況

問 21 医師や薬剤師に見せることであなたの薬の情報が正しく伝わり、治療方針を検討する役に立てることができる「お薬手帳」を活用していますか。(1つに○)

<図表6> お薬手帳の活用状況



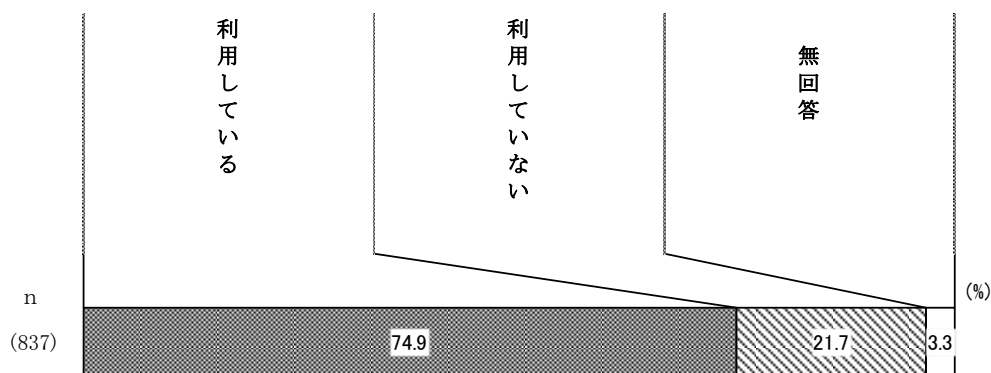
お薬手帳の活用状況をたずねたところ、「活用している」(85.2%)は8割台半ば、「活用していない」(10.0%)は1割となっている。

(9) 介護保険サービスの利用状況と利用意向

①介護保険サービスの利用状況

問 22 あなたは、現在介護保険サービスを利用していますか。(1つに○)

<図表> 介護保険サービスの利用状況

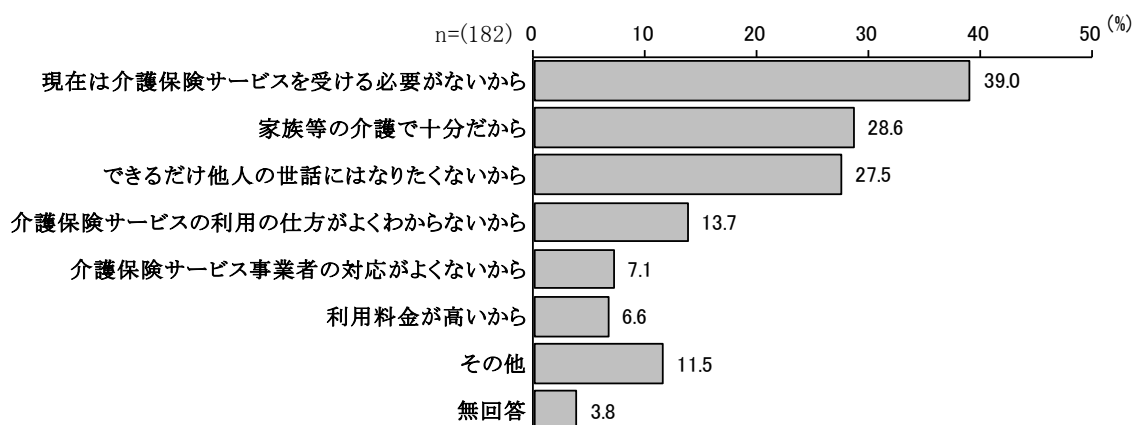


介護保険サービスの利用状況をたずねたところ、「利用している」(74.9%)は7割台半ば近くとなっている。

②介護保険サービスを利用していない理由

問 22-1 <<問 22 で「利用していない」を選んだ方のみお答えください>>
介護保険サービスを利用していない理由は、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 介護保険サービスを利用していない理由 (複数回答)

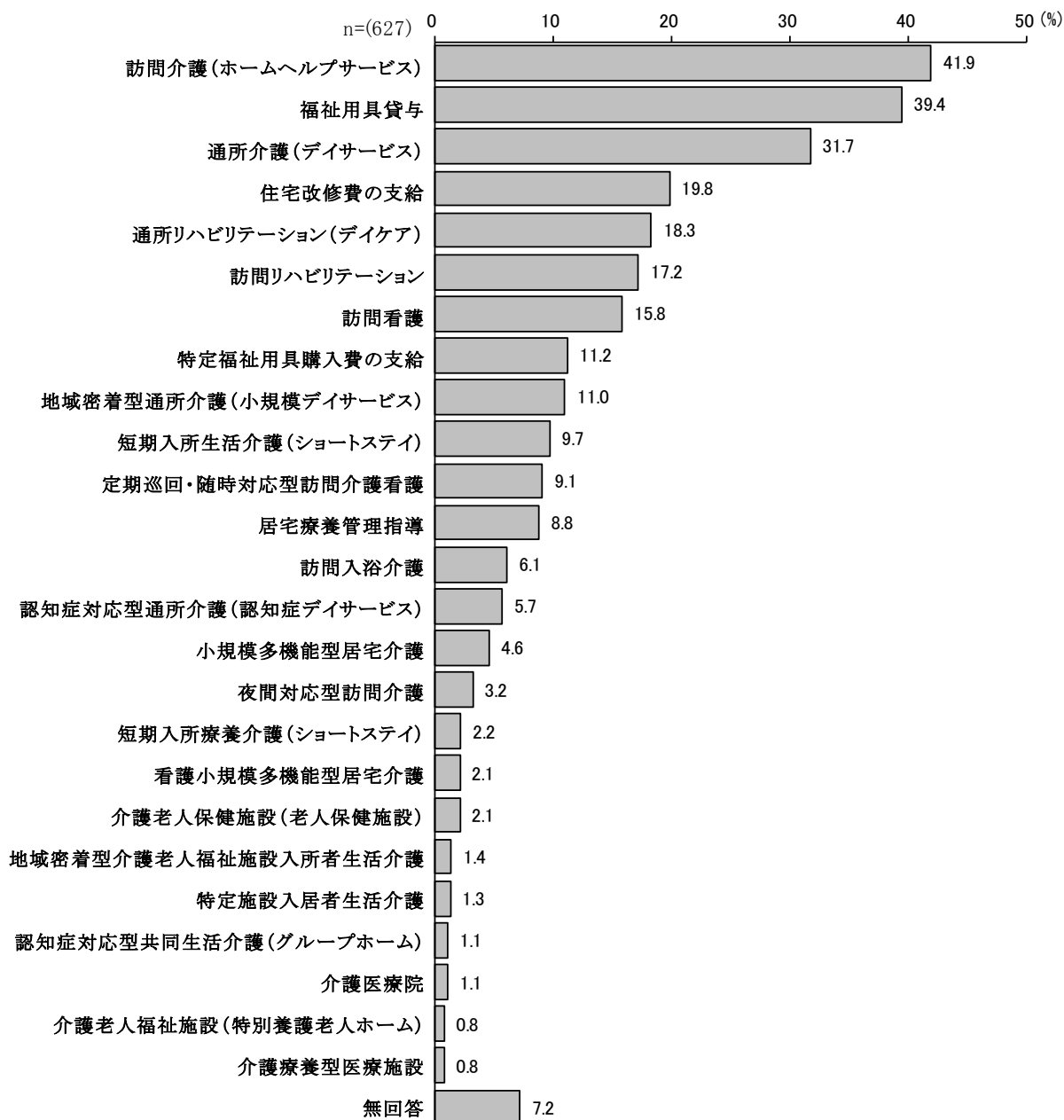


問22で介護保険サービスを「利用していない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「現在は介護保険サービスを受ける必要がないから」(39.0%)が4割弱で最も高く、次いで、「家族等の介護で十分だから」(28.6%)、「できるだけ他人の世話にはなりたくないから」(27.5%)の順となっている。「その他」では、入院しているため、自分でできる間は自力でやりたい、といった内容があげられた。

③利用している介護保険サービスと満足度

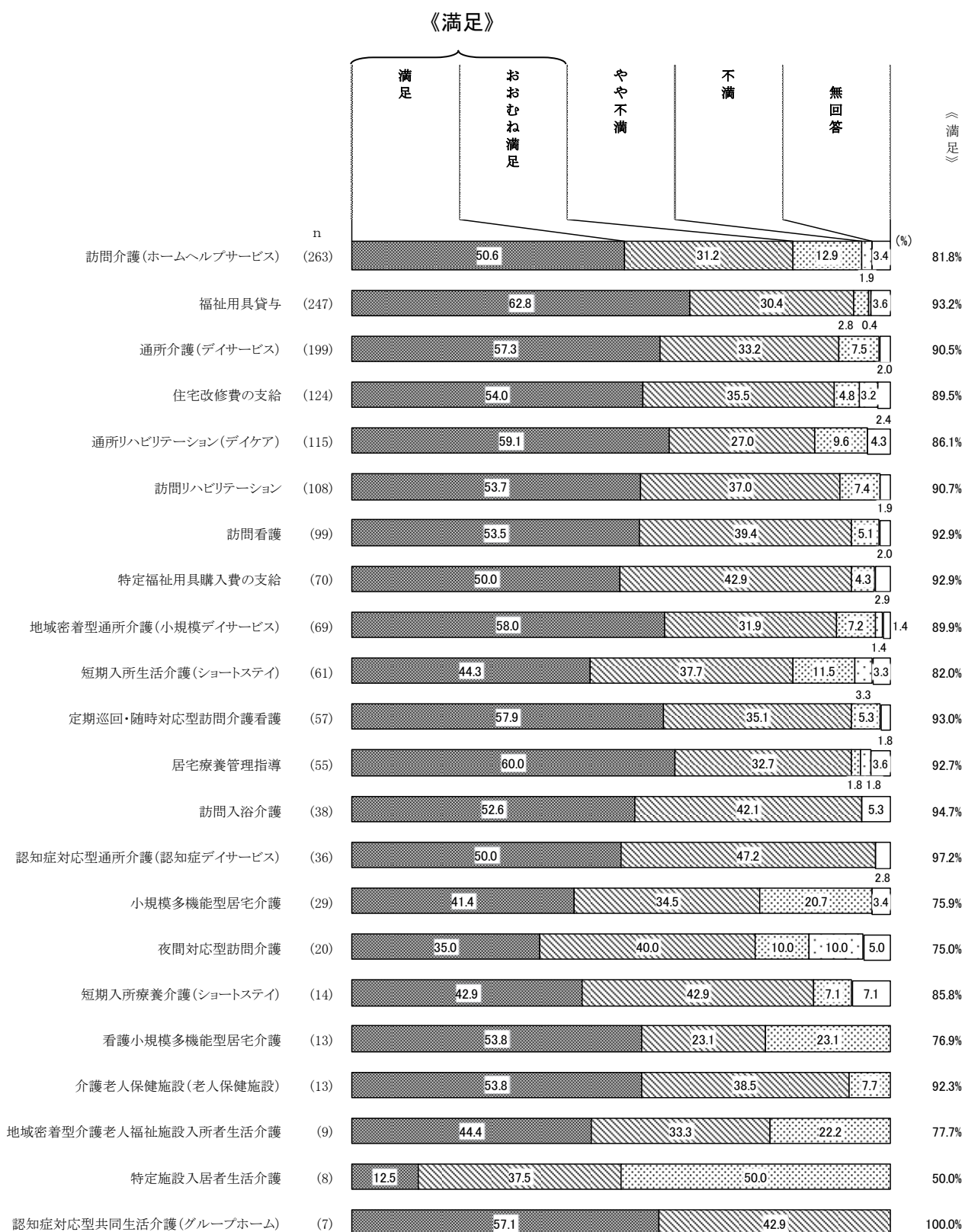
問 22-2 《問 22 で「利用している」を選んだ方のみお答えください》
現在ご利用の介護保険サービスと利用満足度についておたずねします。

<図表> 利用している介護保険サービス（複数回答）

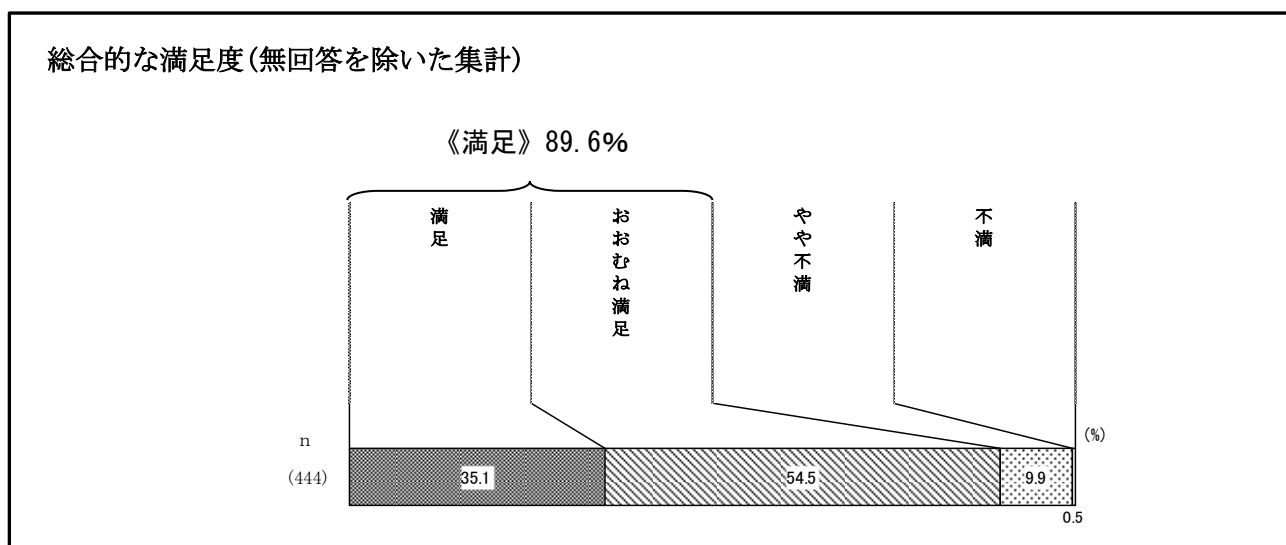
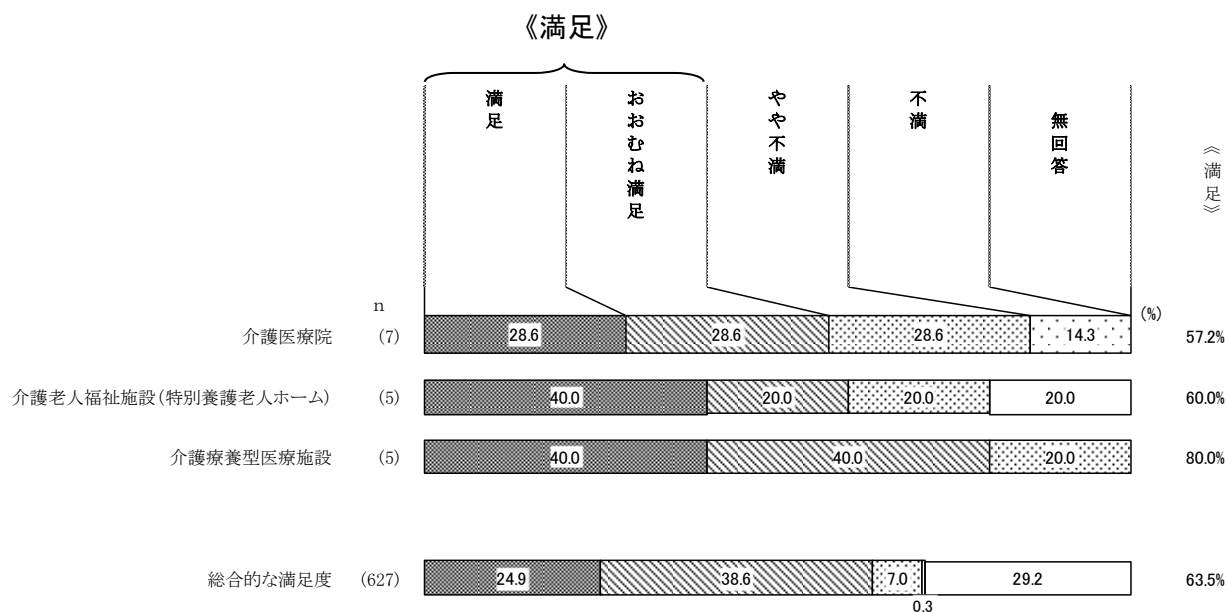


問22で介護保険サービスを「利用している」と回答した人に利用しているサービスについてたずねたところ、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」(41.9%)が4割強で最も高く、次いで、「福祉用具貸与」(39.4%)、「通所介護(デイサービス)」(31.7%)の順となっている。

<図表> 利用している介護保険サービスの満足度



利用している介護保険サービスの満足度（前ページの続き）



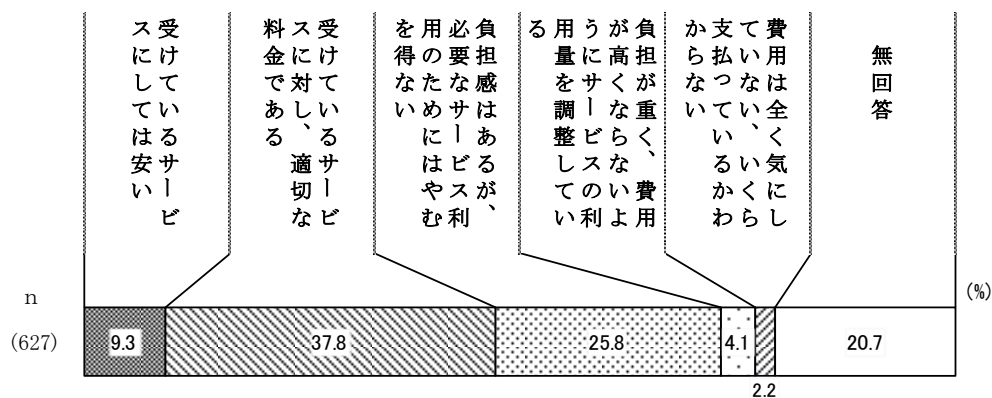
現在利用しているサービスの満足度についてたずねたところ、「満足」と「おおむね満足」をあわせた《満足》は、回答件数が10件以上のサービスでは、「認知症対応型通所介護（認知症デイサービス）」（97.2%）が9割台半ばを超えて最も高く、次いで「訪問入浴介護」（94.7%）、「福祉用具貸与」（93.2%）の順となっている。

また、総合的な満足度についてたずねたところ、無回答を除いた場合、「満足」と「おおむね満足」をあわせた《満足》は89.6%となっている。

④介護保険サービスの利用に要する費用について

問 22-3 《問 22 で「利用している」を選んだ方のみお答えください》
 介護保険サービスの利用に要する費用（1割～3割の利用者負担）について、どのようにお感じですか。（1つに○）

<図表> 介護保険サービスの利用に要する費用について

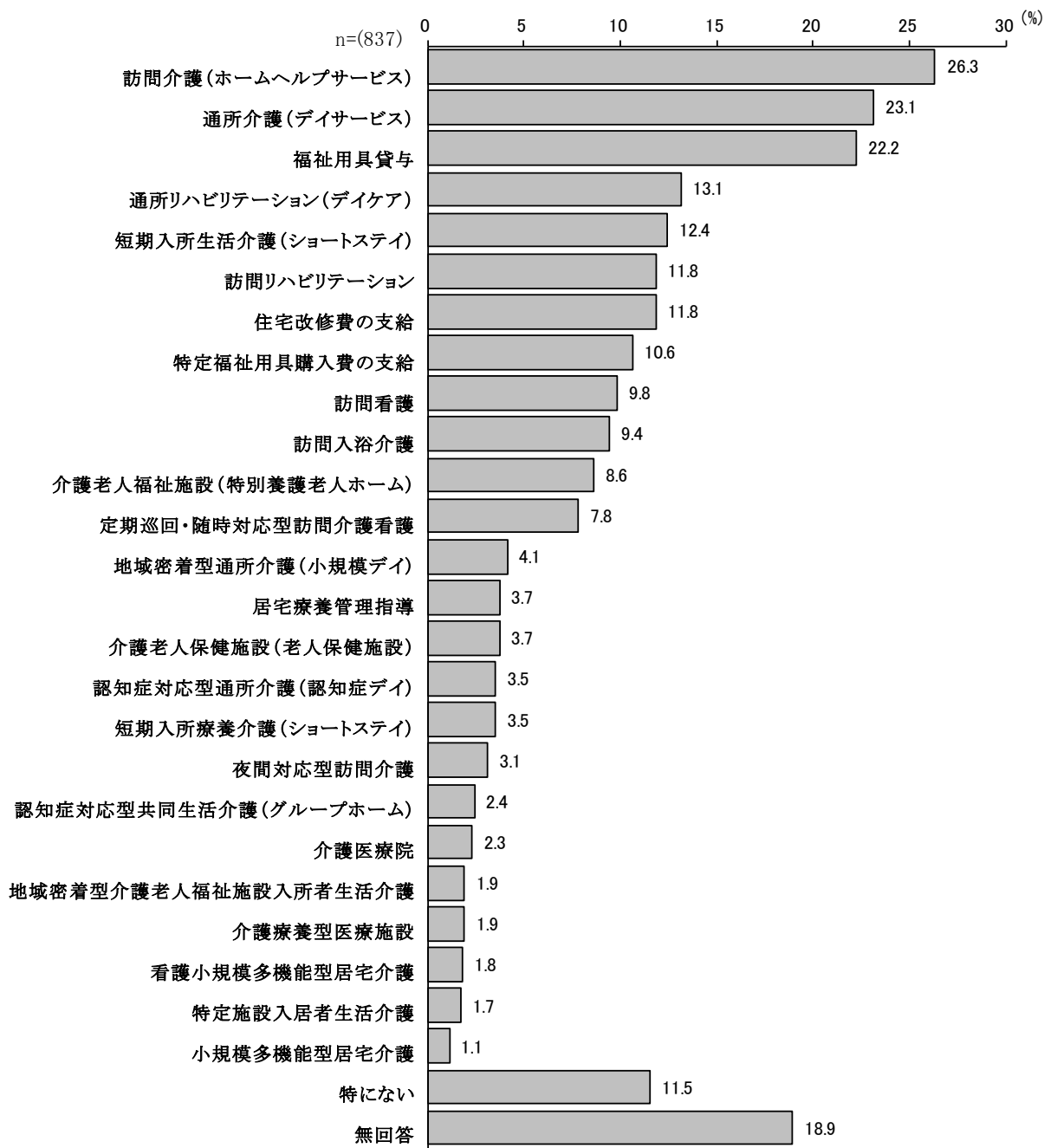


介護保険サービスの利用に要する費用についてたずねたところ、「受けているサービスに対し、適切な料金である」(37.8%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「負担感はあるが、必要なサービス利用のためにはやむを得ない」(25.8%)、「受けているサービスにしては安い」(9.3%)の順となっている。

⑤新たに利用してみたい(続けたい)介護保険サービス

問 23 介護保険サービスで、あなたが今後新たに利用してみたい（または続けたい）ものは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

<図表> 新たに利用してみたい(続けたい)介護保険サービス（複数回答）

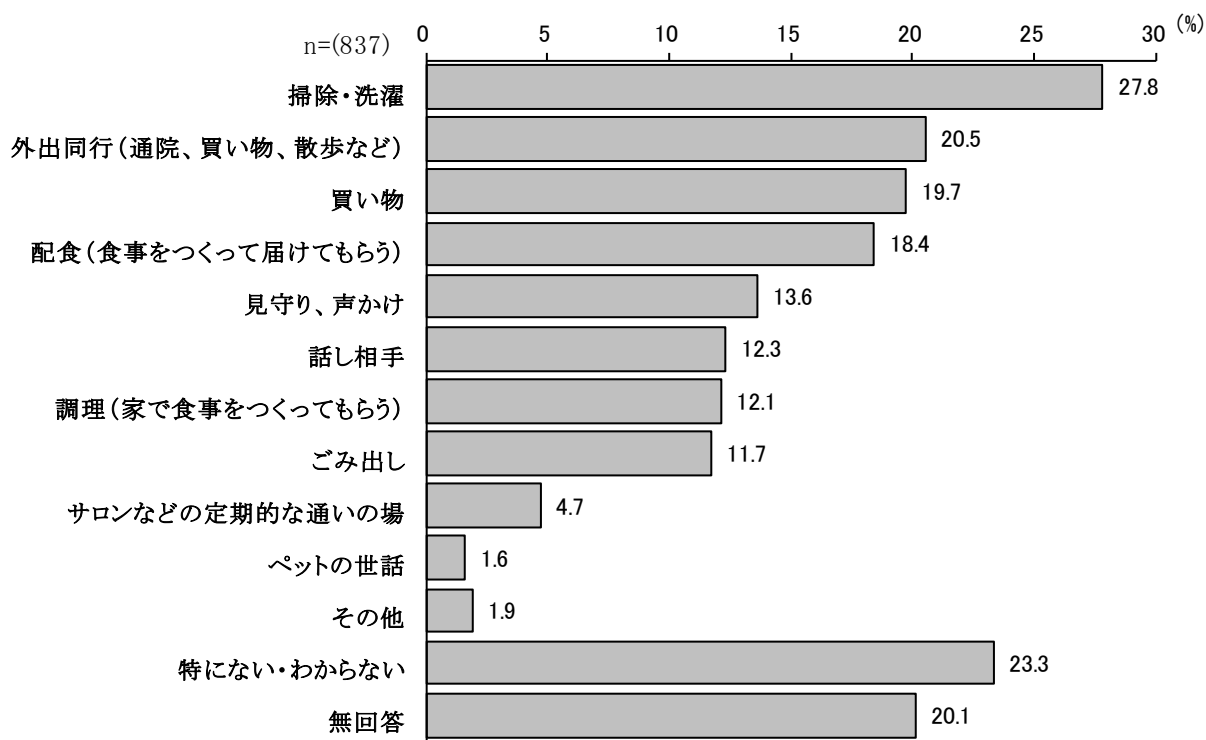


新たに利用してみたい(続けたい)介護保険サービスをたずねたところ、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」(26.3%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「通所介護(デイサービス)」(23.1%)、「福祉用具貸与」(22.2%)の順となっている。

⑥在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

問 24 あなたが、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じるものも含む）はありますか。（あてはまるものすべてに○）

<図表> 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（複数回答）

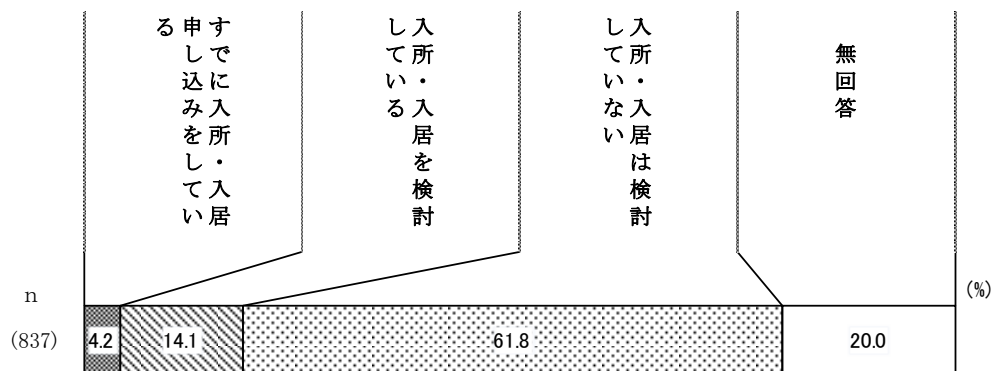


在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスをたずねたところ、「掃除・洗濯」（27.8%）が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「外出同行（通院、買い物、散歩など）」（20.5%）、「買い物」（19.7%）の順となっている。

⑦施設等への入所・入居についての考え

問 25 現時点で施設等への入所・入居について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表> 施設等への入所・入居についての考え

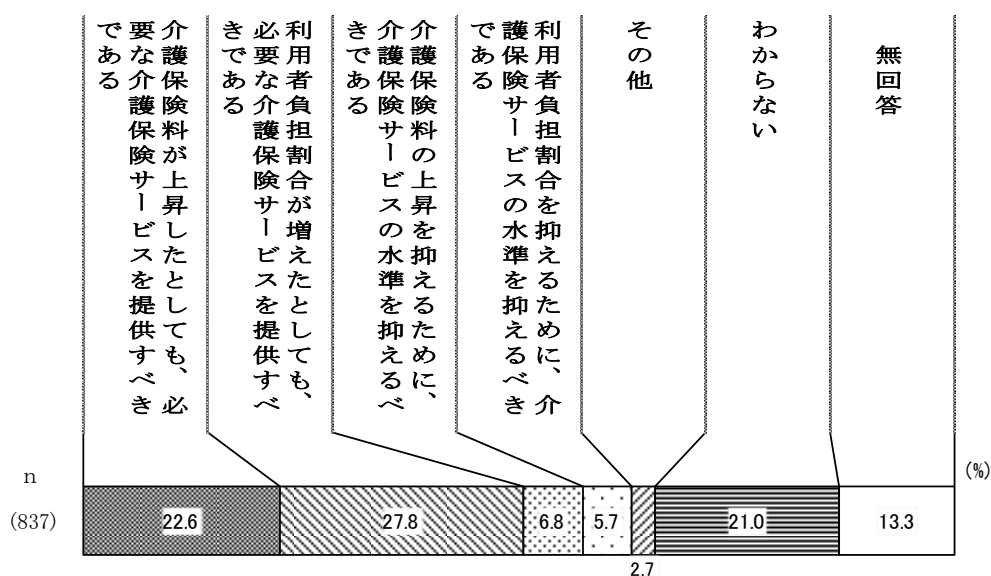


施設等への入所・入居についての考えについてたずねたところ、「入所・入居は検討していない」(61.8%)が6割強と最も高く、「入所・入居を検討している」(14.1%)、「すでに入所・入居申し込みをしている」(4.2%)となっている。

⑧介護保険のサービスと費用負担について

問 26 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表> 介護保険のサービスと費用負担について



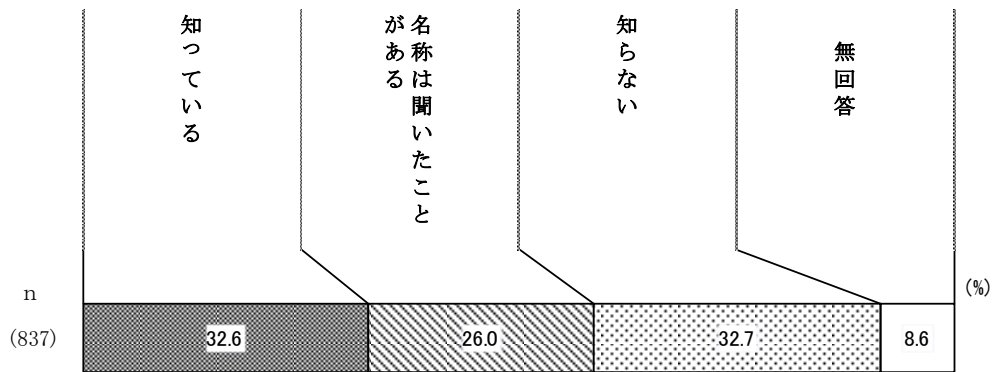
介護保険のサービスと費用負担についてたずねたところ、「利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(27.8%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(22.6%)、「わからない」(21.0%)の順となっている。

(10) 緩和ケアについて

① 「緩和ケア」の認知度

問 27 あなたは、「緩和ケア」について、ご存じですか。(1つに○)

<図表> 「緩和ケア」の認知度

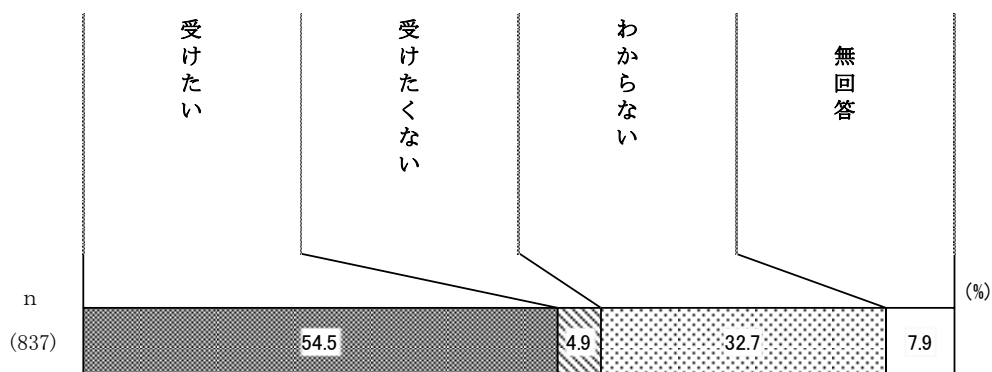


「緩和ケア」の認知度をたずねたところ、「知っている」(32.6%)は3割強、「名称は聞いたことがある」(26.0%)は2割台半ばを超えている。

② 「緩和ケア」の利用意向

問 28 あなたは、重い病と診断された場合、治療と併せて、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表> 「緩和ケア」の利用意向

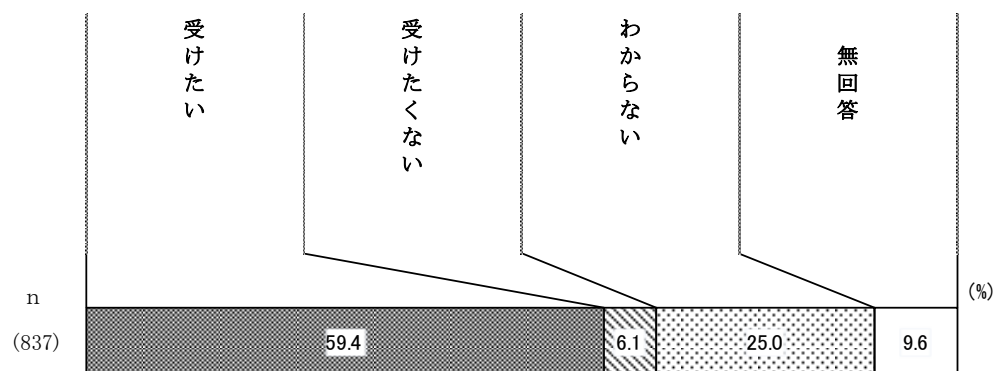


「緩和ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」(54.5%)は5割台半ば近くとなっている。

③症状の緩和を主とした「緩和ケア」の利用意向

問 29 あなたは、重い病で、回復が期待できない場合、痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表> 症状の緩和を主とした「緩和ケア」の利用意向



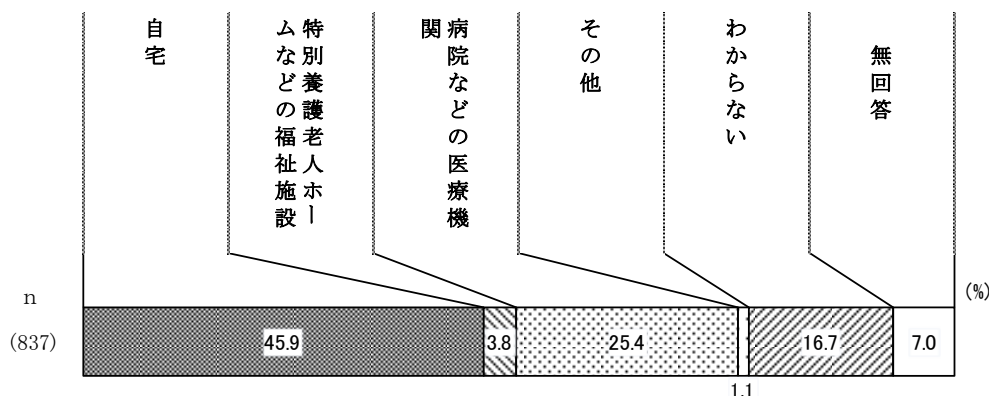
回復が期待できない場合の症状の緩和を主とした「緩和ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」(59.4%)は6割弱となっている。

(11) 人生の最終段階における医療について

① 最期を迎えたい場所

問 30 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

<図表> 最期を迎えたい場所

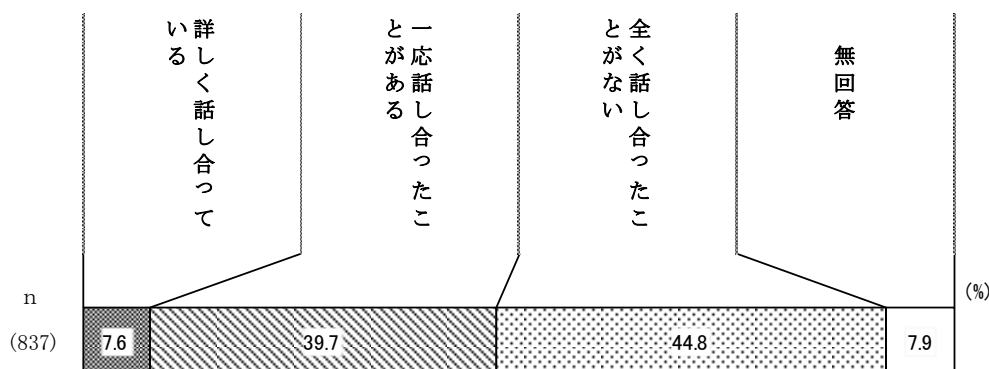


最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」(45.9%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「病院などの医療機関」(25.4%)の順となっている。

② ご家族と話し合った経験

問 31 あなたは、人生の最終段階において受けたい医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。(1つに○)

<図表> ご家族と話し合った経験

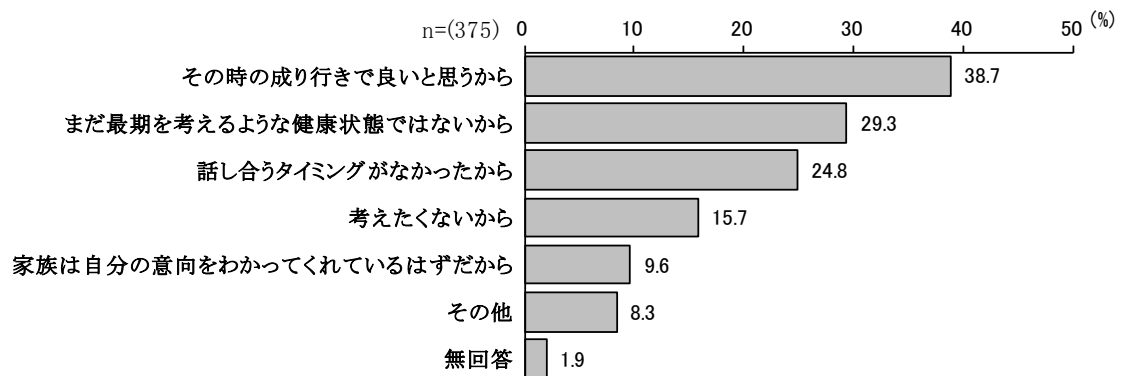


人生の最終段階において受けたい医療・受けたくない医療について、ご家族と話し合った経験をたずねたところ、「全く話し合ったことがない」(44.8%)が4割台半ば近くとなっている。

③全く話し合ったことがない理由

問 31-1 《問 31 で「全く話し合ったことがない」を選んだ方のみお答えください
 》
 それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 全く話し合ったことがない理由 (複数回答)

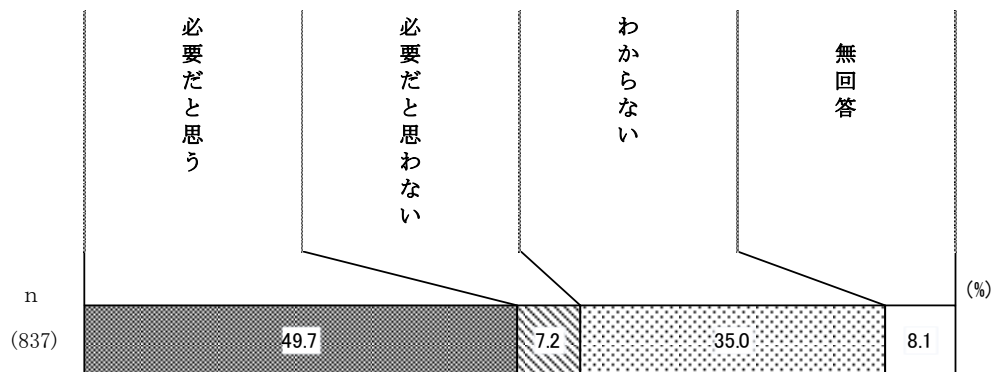


問31で「全く話し合ったことがない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「その時の成り行きで良いと思うから」(38.7%)が4割近くで最も高く、次いで、「まだ最期を考えるような健康状態ではないから」(29.3%)、「話し合うタイミングがなかったから」(24.8%)の順となっている。

④エンディングノートなどの作成

問 32 あなたは、自分で判断できなくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面（エンディングノートなど）をあらかじめ作成しておくことについて、どう思いますか。（1つに○）

<図表> エンディングノートなどの作成



エンディングノートなどの作成についてたずねたところ、「必要だと思う」（49.7％）が5割弱となっている。

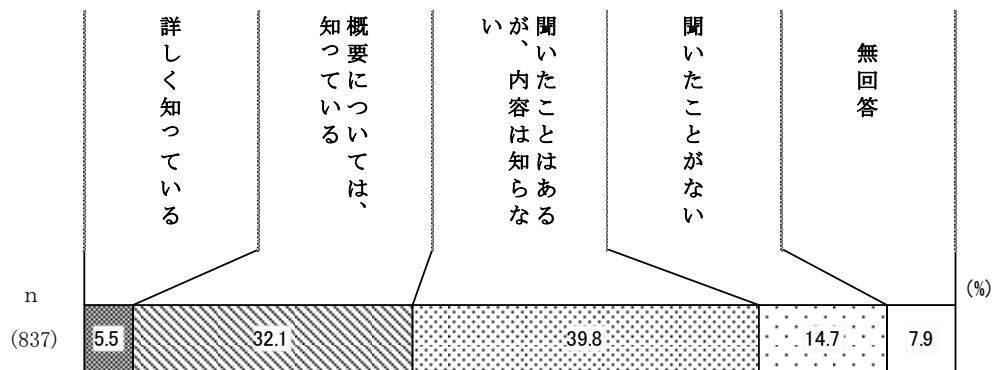
ご家族との話し合いの程度別でみると、「必要だと思う」との回答は、ご家族との話し合いの程度が深くなるほど、増加する傾向にある。

(12) 権利擁護について

① 成年後見制度の認知度

問 33 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

<図表> 成年後見制度の認知度

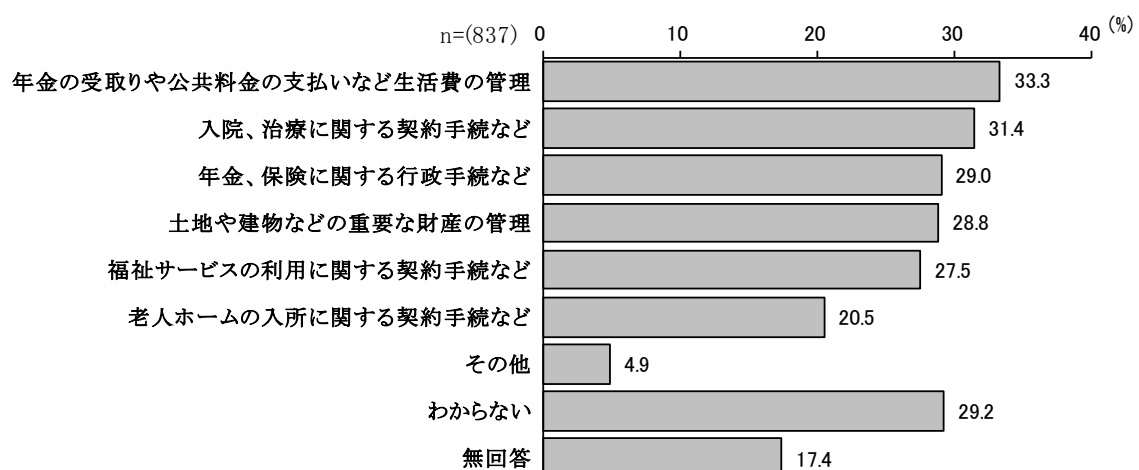


成年後見制度の認知度をたずねたところ、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(39.8%)が4割弱で最も高く、次いで、「概要については、知っている」(32.1%)、「聞いたことがない」(14.7%)の順となっている。

② 成年後見制度に期待する役割

問 34 あなたが成年後見制度に期待する役割は何ですか。すでに利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 成年後見制度に期待する役割 (複数回答)

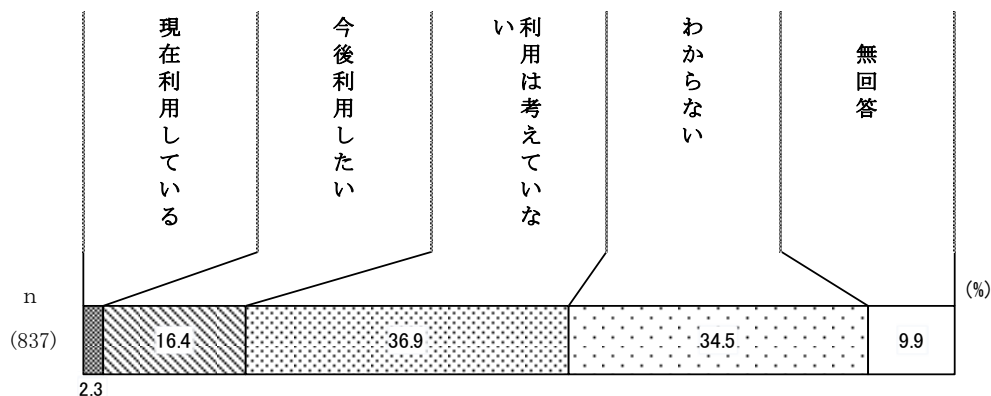


成年後見制度に期待する役割をたずねたところ、「年金の受取りや公共料金の支払いなど生活費の管理」(33.3%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで、「入院、治療に関する契約手続など」(31.4%)、「年金、保険に関する行政手続など」(29.0%)の順となっている。

③成年後見制度の利用意向

問 35 あなたは、あなた自身が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

<図表> 成年後見制度の利用意向

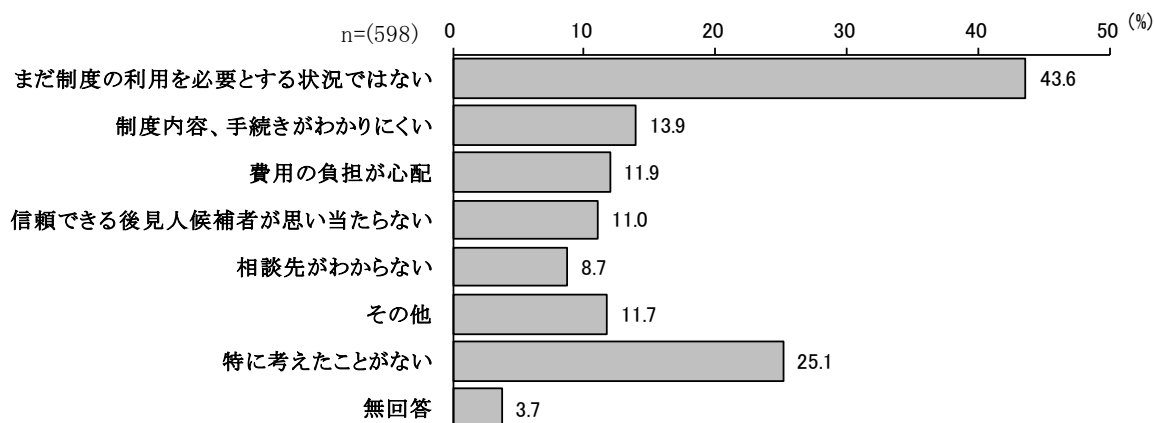


成年後見制度の利用意向をたずねたところ、「利用は考えていない」(36.9%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「わからない」(34.5%)、「今後利用したい」(16.4%)の順となっている。

④成年後見制度を利用しない理由

問 35-1 <<問 35 で「利用は考えていない」または「わからない」を選んだ方のみお答えください>>あなた自身が、成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 成年後見制度を利用しない理由 (複数回答)

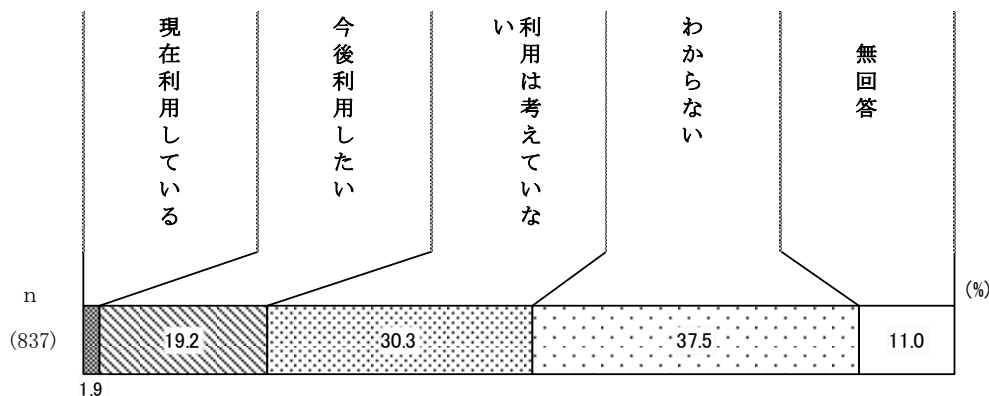


問35で成年後見制度の「利用は考えていない」「わからない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」(43.6%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「特に考えたことがない」(25.1%)、「制度内容、手続きがわかりにくい」(13.9%)の順となっている。

⑤家族・親族の成年後見制度の利用意向

問 36 あなたは、家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

<図表> 家族・親族の成年後見制度の利用意向

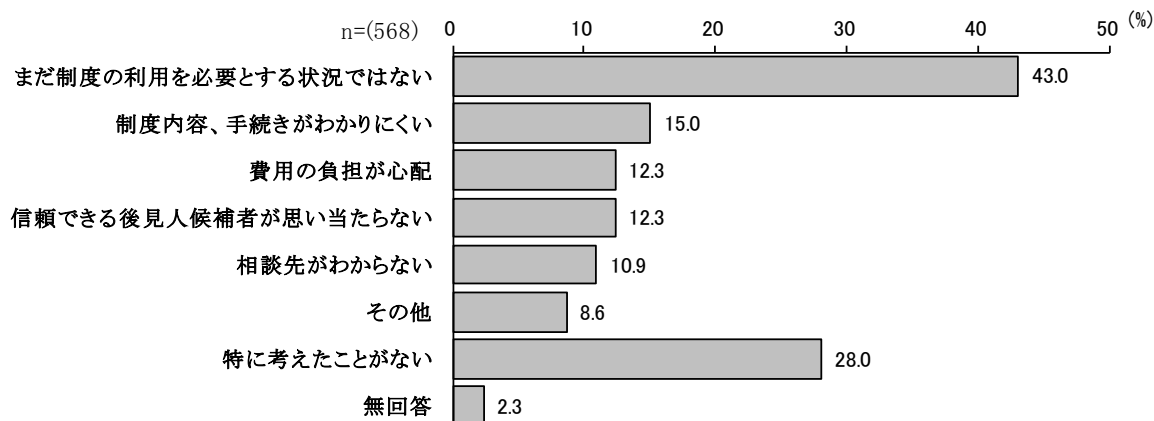


家族・親族の成年後見制度の利用意向をたずねたところ、「わからない」(37.5%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「利用は考えていない」(30.3%)、「今後利用したい」(19.2%)の順となっている。

⑥家族・親族の成年後見制度を利用しない理由

問 36-1 <<問 36 で「利用は考えていない」または「わからない」を選んだ方のみお答えください>> 家族・親族が、成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 家族・親族の成年後見制度を利用しない理由 (複数回答)



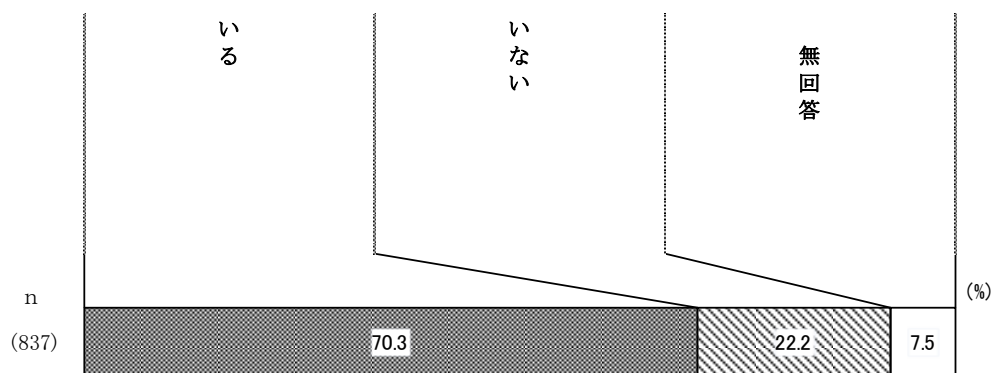
問36で成年後見制度の「利用は考えていない」「わからない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」(43.0%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「特に考えたことがない」(28.0%)、「制度内容、手続きがわかりにくい」(15.0%)の順となっている。

(13) 災害時の支援について

①災害時に同居者以外で頼りになる人の有無

問 37 災害で困った時、同居者以外で頼りになる人がいますか。(1つに○)

<図表> 災害時に同居者以外で頼りになる人の有無

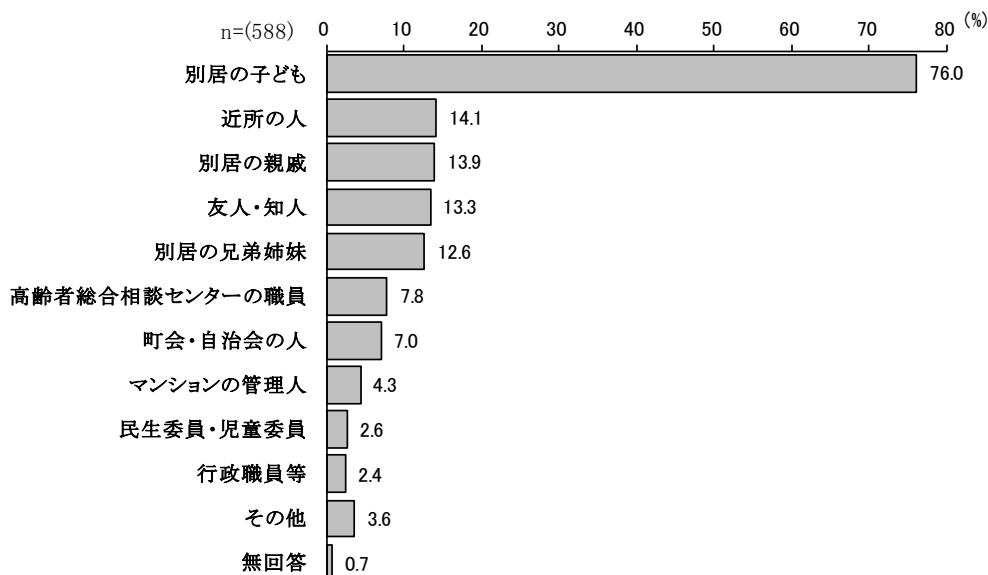


災害時に同居者以外で頼りになる人の有無をたずねたところ、「いる」(70.3%)は約7割となっている。

②災害時に同居者以外で頼りになる人の続柄

問 37-1 《問 37 で「いる」を選んだ方のみお答えください》
それはどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 災害時に同居者以外で頼りになる人の続柄 (複数回答)

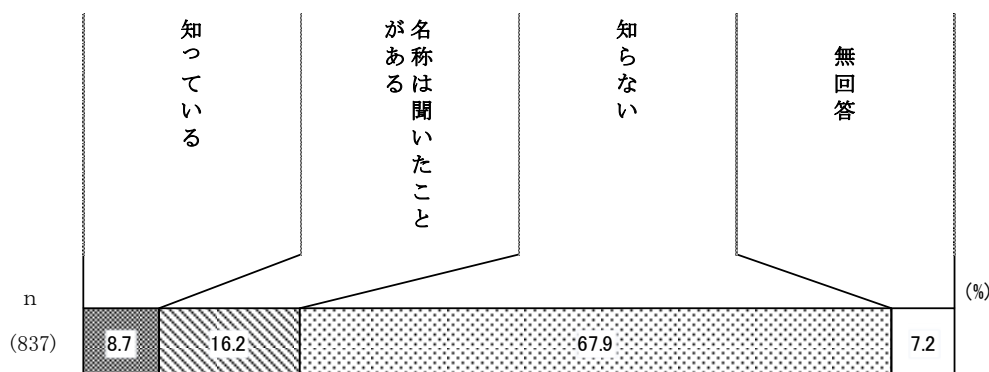


問37で災害時に同居者以外で頼りになる人が「いる」と回答した人に、その続柄をたずねたところ、「別居の子ども」(76.0%)が7割台半ばを超え最も高く、次いで、「近所の人」(14.1%)、「別居の親戚」(13.9%)の順となっている。

③災害時要援護者名簿の認知度

問 38 あなたは、災害時における安否確認などの支援を必要とする方が事前に登録する「災害時要援護者名簿」をご存知ですか。(1つに○)

<図表> 災害時要援護者名簿の認知度



災害時要援護者名簿の認知度をたずねたところ、「知らない」(67.9%)は6割台半ばを超えて最も高く、次いで「名称は聞いたことがある」(16.2%)、「知っている」(8.7%)の順となっている。

(14) 健康・福祉サービスの情報や相談窓口について

①高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度

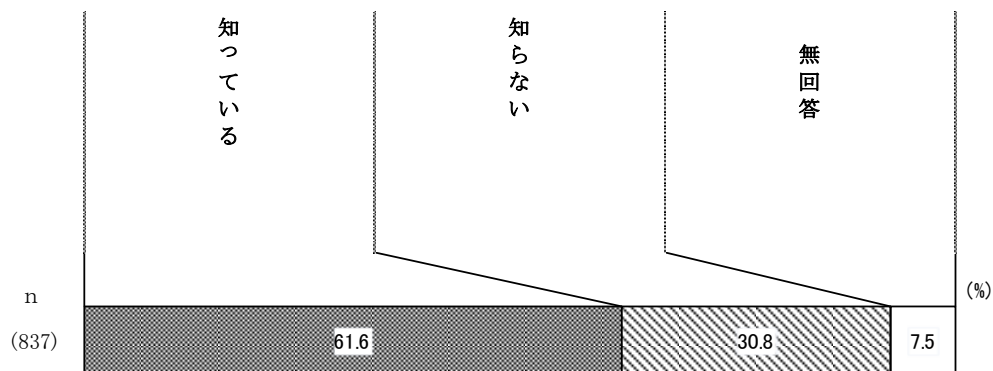
問 39 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか。(1つに○)

問 40 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか。(1つに○)

問 41 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか。(1つに○)

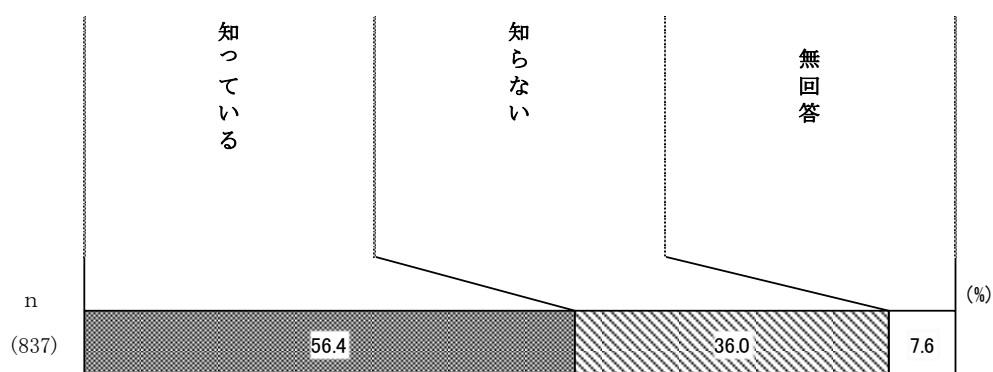
<図表> 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度

○名称の認知度



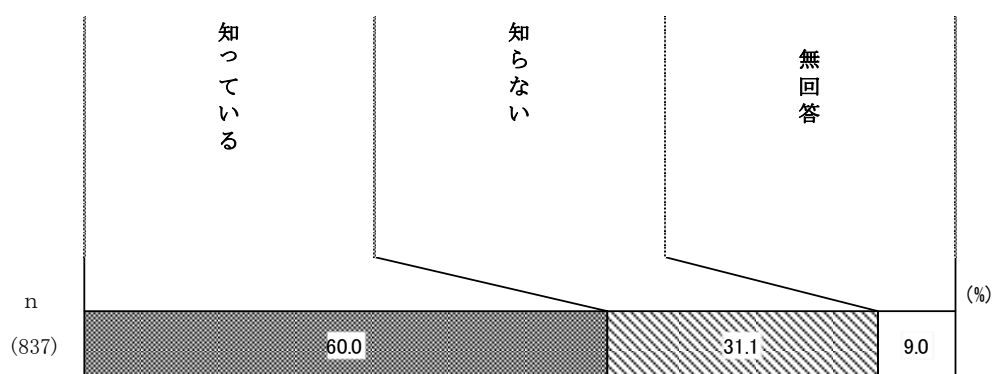
高齢者総合相談センターの名称の認知度をたずねたところ、「知っている」(61.6%)は6割強となっている。

○機能の認知度



高齢者総合相談センターの機能の認知度をたずねたところ、「知っている」(56.4%)は5割台半ばを超えている。

○所在地の認知度

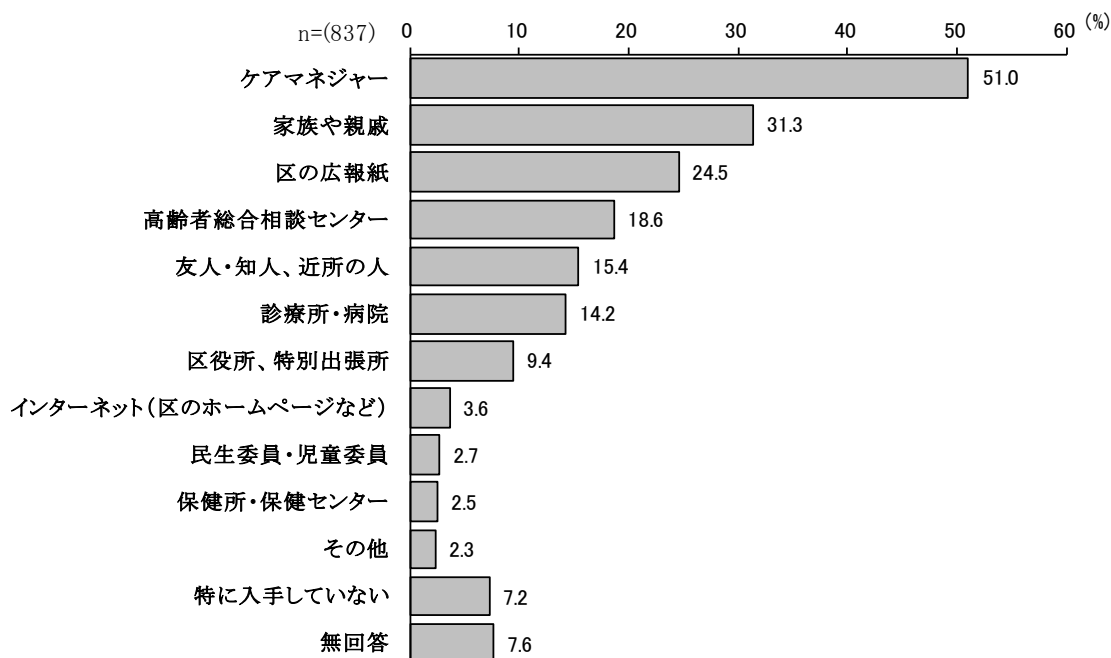


高齢者総合相談センターの所在地の認知度をたずねたところ、「知っている」(60.0%)は6割となっている。

②健康や福祉サービスに関する情報の入手手段

問 42 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 健康や福祉サービスに関する情報の入手手段 (複数回答)

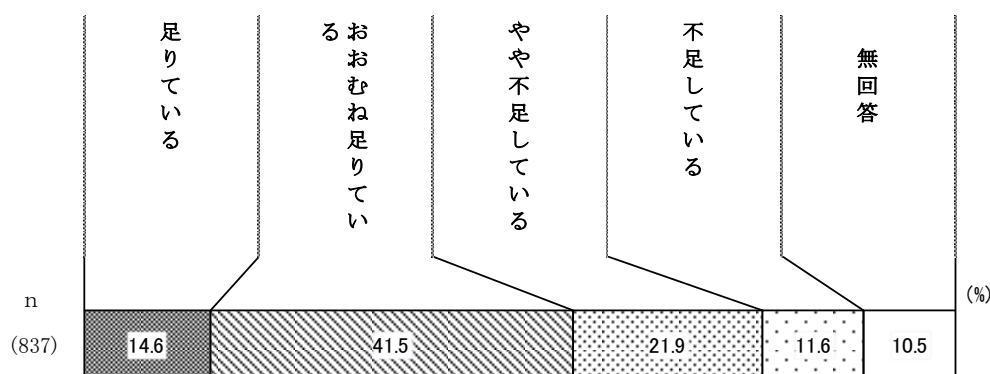


健康や福祉サービスに関する情報の入手手段についてたずねたところ、「ケアマネジャー」(51.0%)が5割強と最も高く、次いで、「家族や親戚」(31.3%)、「区の広報紙」(24.5%)の順となっている。

③健康や福祉サービスに関する情報量の充実度

問 43 あなたの入手している健康や福祉サービスに関する情報量は足りていると思いますか。(1つに○)

<図表> 健康や福祉サービスに関する情報量の充実度



健康や福祉サービスに関する情報量の充実度についてたずねたところ、「おおむね足りている」(41.5%)が4割強と最も高く、次いで、「やや不足している」(21.9%)、「足りている」(14.6%)の順となっている。

④高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問 44 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、106人からの回答があった。回答の多かった内容は、「介護保険・保険料について」「サービスについて」「高齢者施策について」の順であった。各事項(その他除く)について、回答の中からいくつかの意見を示す。

介護保険・保険料について	サービスについて	高齢者施策について	情報提供・相談について	高齢者向け施設について	医療・保健について	住まいについて	アンケートについて	家族等介護者のことについて	地域のコミュニティについて	独居高齢者について	その他
30	26	9	9	8	5	5	4	2	2	2	6

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【介護保険・保険料について】

- ・保険料が高額すぎる。気軽に利用できない。
- ・介護保険サービスをもっときめ細かいものにしてほしい。

【サービスについて】

- ・利用できるものがない。あっても気に入らないものだったり、結局、自費で購入するかサービスを受けることになってしまう。
- ・ケアマネジャーの育成に力を入れてもらいたい。福祉や介護はやはり担当する人により変わるので、おだやかな人、優しい人、笑顔で接してほしい。

【高齢者施策について】

- ・福祉のバラまきではなく、本当に、どの程度の助けが必要なのか、ケアマネジャーの力量がとても大切に感じます。

【情報提供・相談について】

- ・各担当部所からの封筒（お知らせ等々）が、たくさんありすぎ、失くしてしまいます。1冊にまとめて、見出しをつけてわかりやすく、大きな字のパンフレットにしていただけると助かります。

【高齢者向け施設について】

- ・少し近いところに高齢者が集まれる場所がほしいです。

【医療・保健について】

- ・怪我などの場合、病院より退院した後のケアをきちんとしていただける制度の仕組みをお願いします。

【住まいについて】

- ・動けなくなったとき入所できる、ケア付き老人ホームの充実をお願いしたいと思います。

【アンケートについて】

- ・アンケートを記入しながら、エンディングノートの必要性を痛感しています。

【家族等介護者のことについて】

- ・兄弟の長男ですが年1、2回位で用事がないと連絡なし。そのときになってみないとわかりません。

【地域のコミュニティについて】

- ・近所5～6軒の皆さん、お会いできませんし、お顔を見たこともございませんので、移って来て5～6年になりますが、何事が起きたら、近所のつながりもないので困っています。

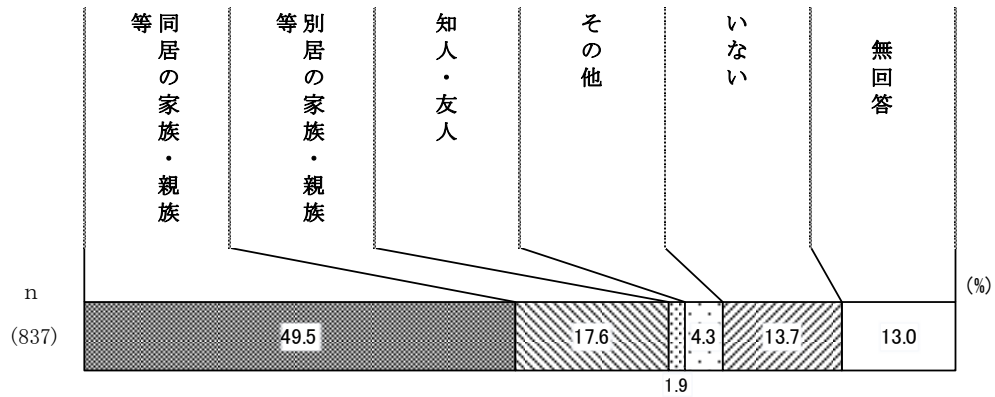
【独居高齢者について】

- ・知人に孤独死をした人がいて、今の状況だと私も同様の状況になると思い、一日一度決まった時間に電話をして安否確認をしてくれるようにしてほしい。

⑤主な介護者

問 45 あなたを主に介護している方はどなたですか。(1つに〇)

<図表> 主な介護者



主な介護者をたずねたところ、「同居の家族・親族等」(49.5%)が5割弱で最も高く、次いで、「別居の家族・親族等」(17.6%)の順となっている。一方、「いない」(13.7%)は1割台半ば近くとなっている。

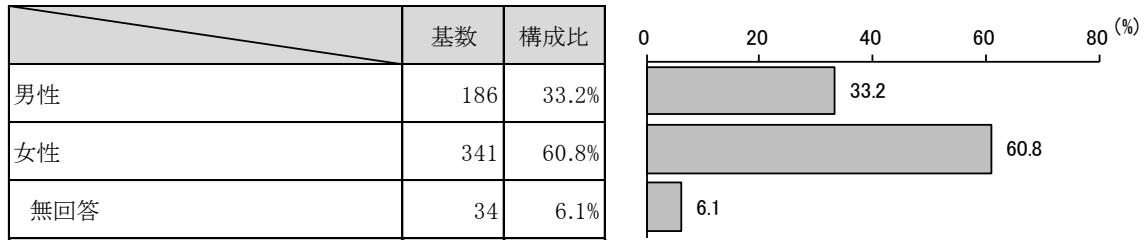
(15) 家族等介護者の状況について

《問 46 から問 58 までは、主な介護者の方（以下、「あなた」）におたずねします。》

①主な介護者の性別

問 46 あなたの性別をお選びください。（1つに○）

＜図表＞ 主な介護者の性別



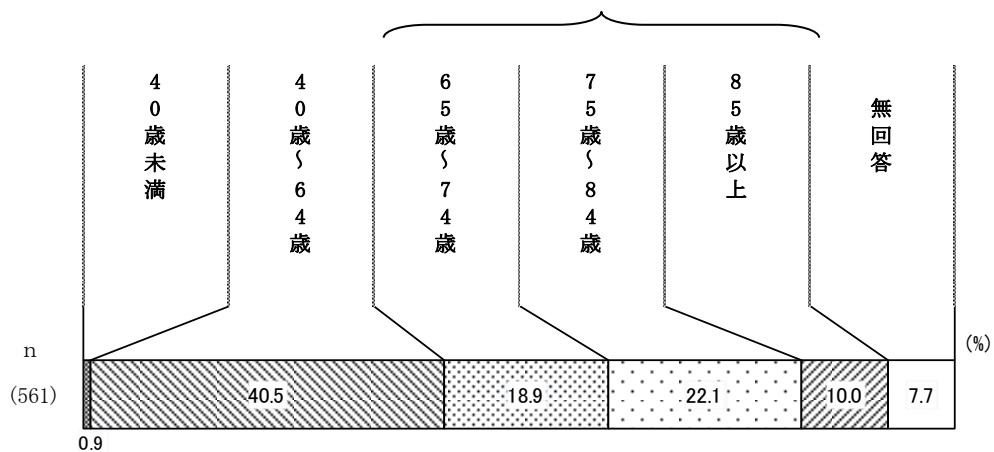
主な介護者の性別をたずねたところ、「男性」（33.2%）は3割台半ば近く、「女性」（60.8%）は約6割となっている。

②主な介護者の年齢

問 47 あなたの年齢をご記入ください。 ※令和元年9月1日現在の年齢でお答えください。

＜図表＞ 主な介護者の年齢

介護者の年齢《65歳以上》51.0%

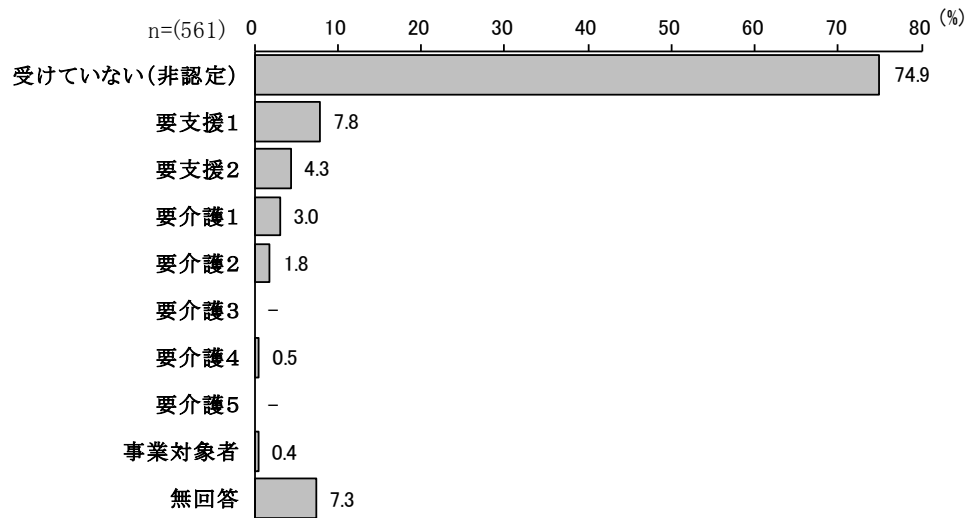


主な介護者の年齢をたずねたところ、「40歳～64歳」（40.5%）が約4割で最も高くなっている。また、「65歳～74歳」（18.9%）、「75歳～84歳」（22.1%）、「85歳以上」（10.0%）を合わせた《65歳以上》は51.0%となっている。

③主な介護者の要介護認定

問 48 あなたは、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)

<図表> 主な介護者の要介護認定

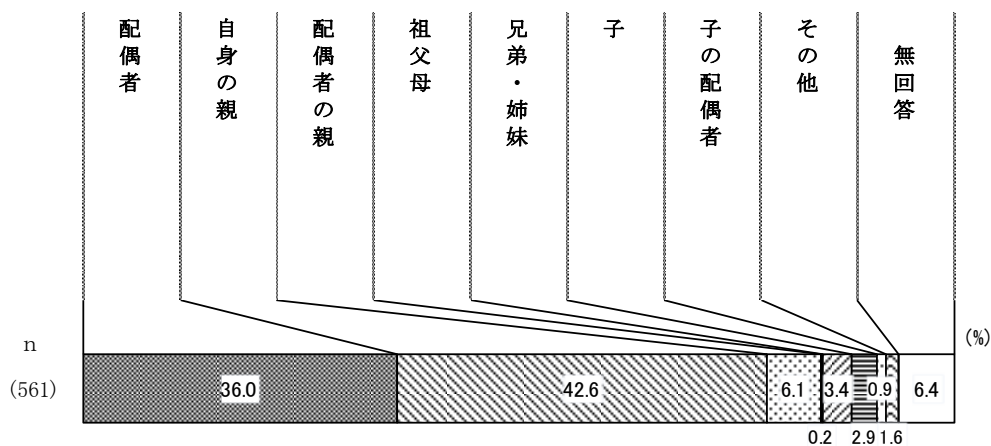


主な介護者の要介護認定をたずねたところ、「受けていない（非認定）」（74.9%）が7割台半ば近くで最も高くなっている。

④宛名のご本人との関係

問 49 あなたからみて、宛名のご本人はどちらにあたりますか。(1つに○)

<図表> 宛名のご本人との関係

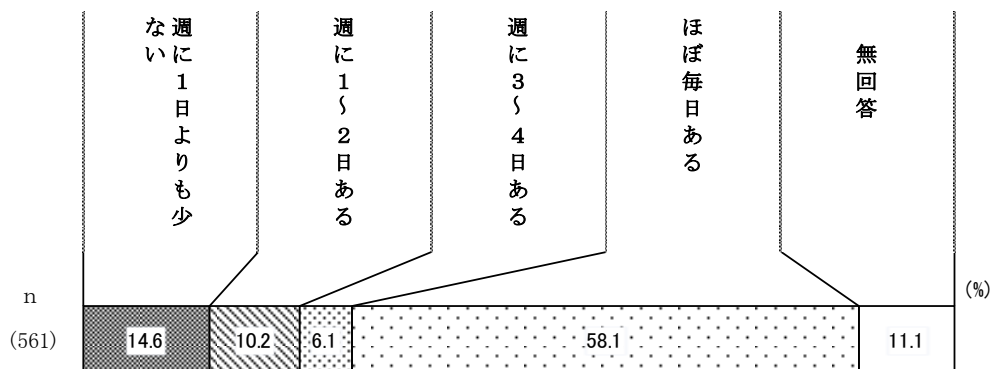


宛名のご本人との関係をたずねたところ、「自身の親」（42.6%）が4割強で最も高く、次いで、「配偶者」（36.0%）の順となっている。

⑤介護頻度

問 50 あなたは、宛名のご本人を週にどのくらい介護していますか。(1つに○)

<図表> 介護頻度

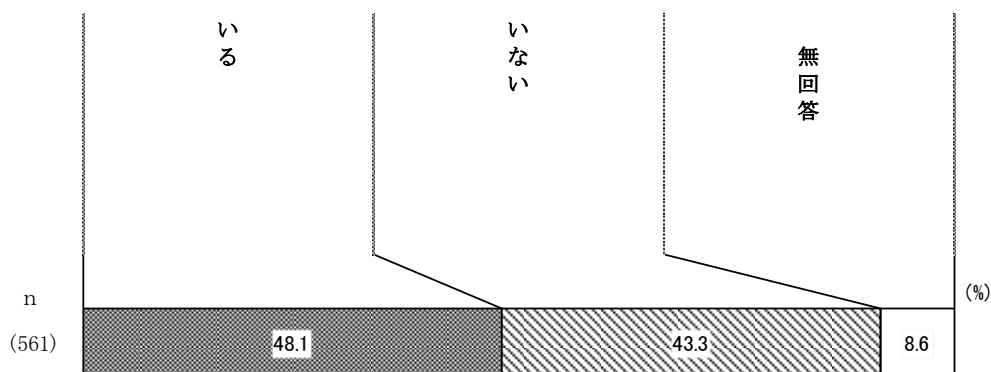


介護頻度をたずねたところ、「ほぼ毎日ある」(58.1%)が6割近くで最も高く、次いで、「週に1日よりも少ない」(14.6%)、「週に1～2日ある」(10.2%)の順となっている。

⑥副介護者の有無

問 51 あなたを手助けするような、副介護者の方はいますか。(1つに○)

<図表> 副介護者の有無



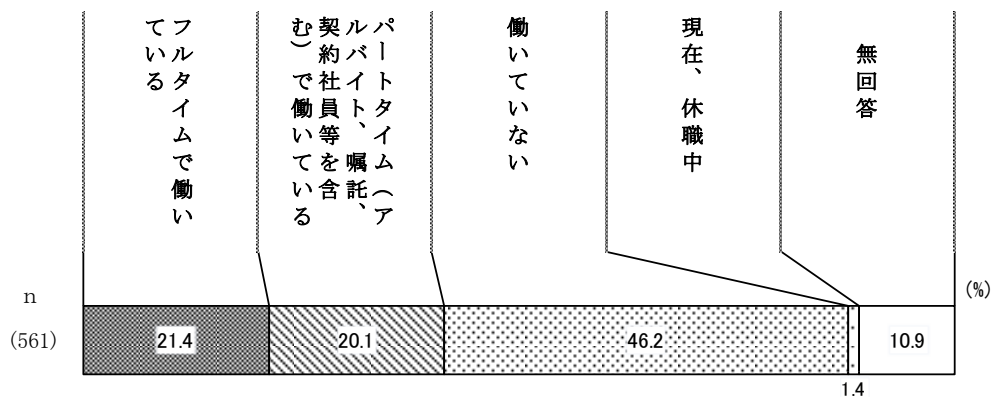
副介護者の有無をたずねたところ、「いる」(48.1%)は5割近く、「いない」(43.3%)は4割台半ば近くとなっている。

⑦現在の勤務形態

問 52 あなたの現在の勤務形態は、次のどれですか。(1つに○)

※自営業・フリーランスの場合も、就労時間等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

<図表> 現在の勤務形態



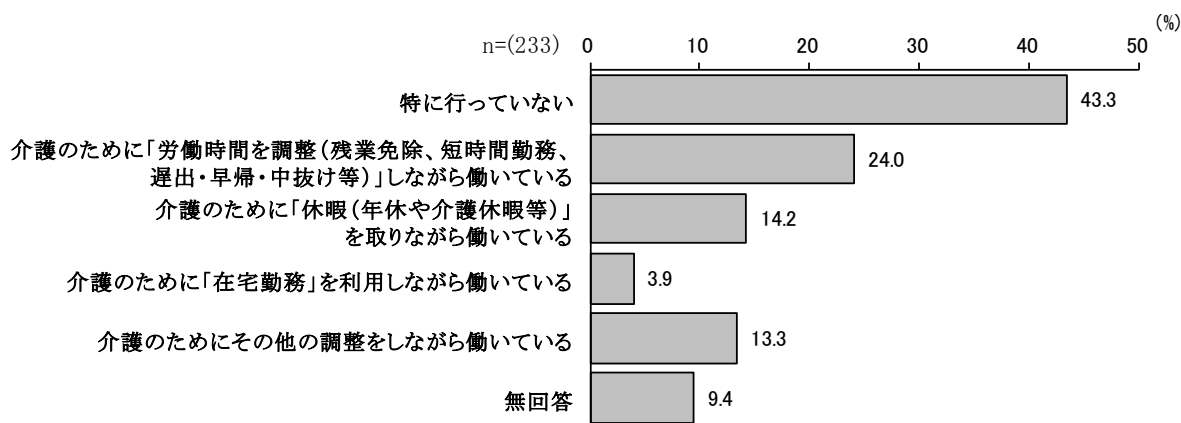
現在の勤務形態をたずねたところ、「働いていない」(46.2%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「フルタイムで働いている」(21.4%)、「パートタイム(アルバイト、嘱託、契約社員等を含む)で働いている」(20.1%)の順となっている。

⑧働き方の調整

問 52-1 «問 52 で「フルタイムで働いている」または「パートタイム（アルバイト、嘱託、契約社員等を含む）で働いている」を選んだ方のみお答えください»

介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。
（あてはまるものすべてに○）

<図表> 働き方の調整（複数回答）

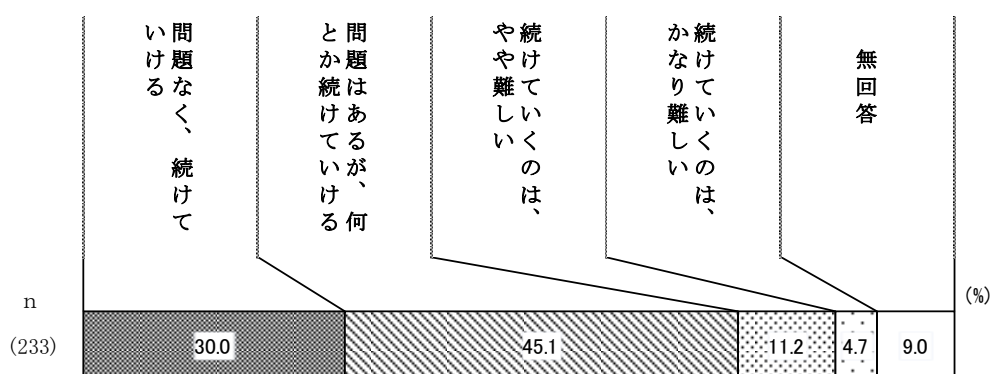


問52で「フルタイムで働いている」または「パートタイム（アルバイト、嘱託、契約社員等を含む）で働いている」と回答した人に、働き方の調整についてたずねたところ、「特に行っていない」（43.3%）が4割台半ば近くとなっている。働き方の調整等の内容は、「介護のために「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら働いている」（24.0%）が2割台半ば近くとなっている。

⑨今後も働きながら介護を続けていくこと

問 52-2 《問 52 で「フルタイムで働いている」または「パートタイム（アルバイト、嘱託、契約社員等を含む）で働いている」を選んだ方のみお答えください》
 今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（1つに○）

<図表> 今後も働きながら介護を続けていくこと

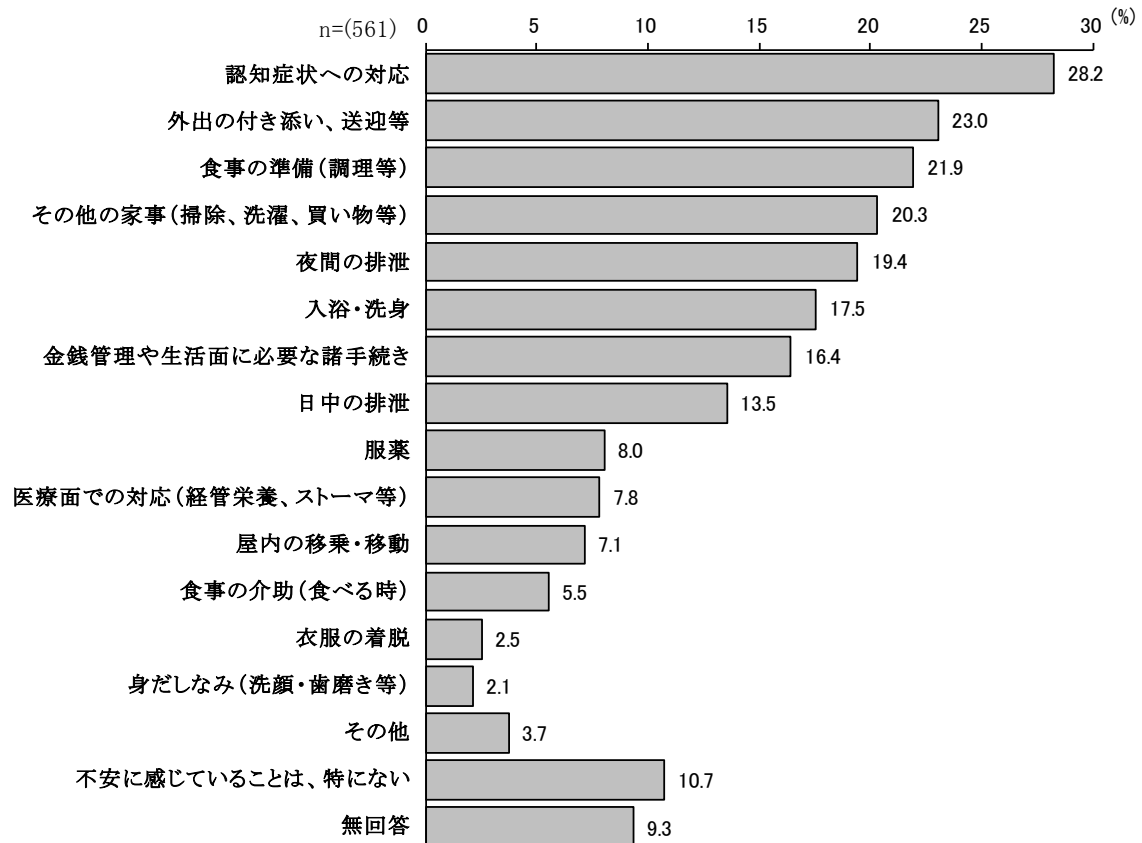


今後も働きながら介護を続けていくことについてたずねたところ、「問題はあがあるが、何とか続けていける」(45.1%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「問題なく、続けていける」(30.0%)、「続けるのは、やや難しい」(11.2%)の順となっている。

⑩現在の生活を継続していくうえで不安を感じる介護

問 53 現在の生活を継続していくにあたって、不安を感じる介護等は次のうちどれですか。
 (現状で行っているか否かは問いません) (あてはまるもの3つまでに○)

<図表> 現在の生活を継続していくうえで不安を感じる介護 (複数回答)

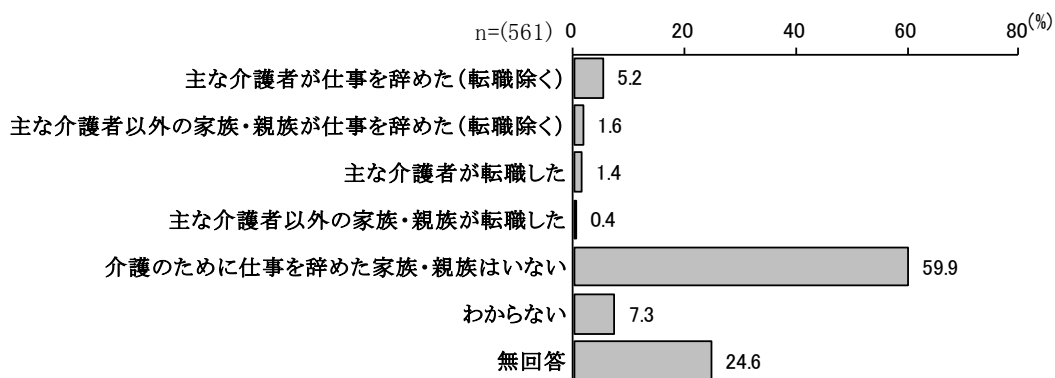


現在の生活を継続していくうえで不安を感じる介護についてたずねたところ、「認知症状への対応」(28.2%)が3割強と最も高く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」(23.0%)、「食事の準備(調理等)」(21.9%)の順となっている。

⑪家族や親戚の介護を主な理由として退職した人の有無

問 54 宛名のご本人の介護を主な理由として、過去1年の間にご家族やご親族の中で仕事を辞めた方はいますか。(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 家族や親戚の介護を主な理由として退職した人の有無 (複数回答)

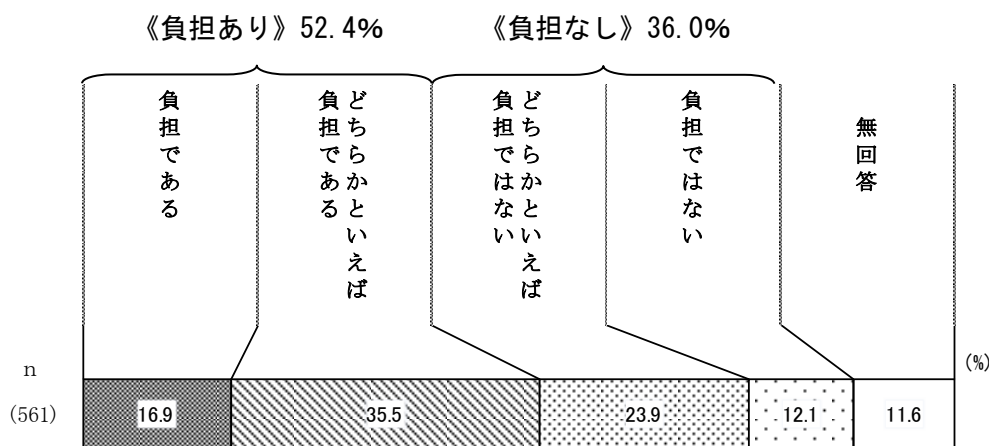


家族や親戚の介護を主な理由として退職した人の有無についてたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(59.9%)が6割弱となっている。退職した人については、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が5.2%となっている。

⑫介護負担感

問 55 あなたの介護負担感は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表> 介護負担感

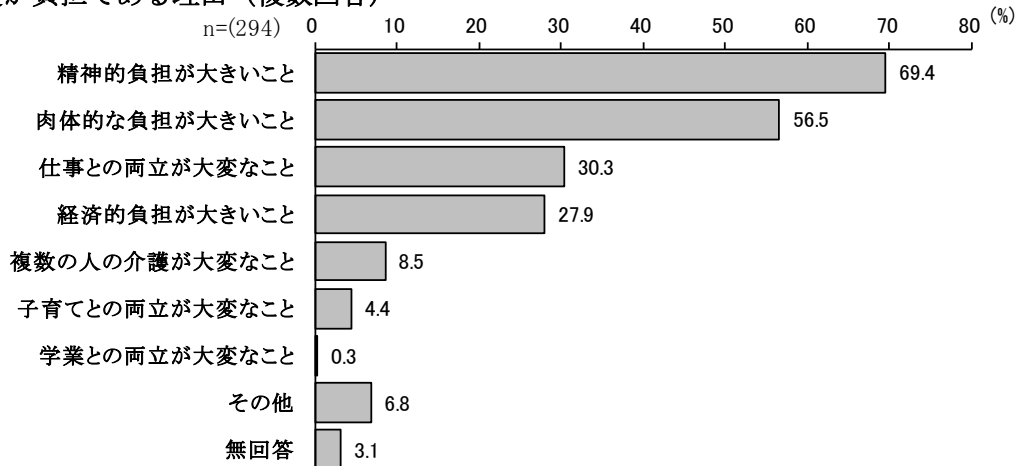


介護負担感をたずねたところ、「負担である」(16.9%)と「どちらかといえば負担である」(35.5%)をあわせた《負担あり》は52.4%となっている。

⑬介護が負担である理由

問 55-1 «問 55 で「負担である」または「どちらかといえば負担である」を選んだ方のみお答えください»
それはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 介護が負担である理由 (複数回答)

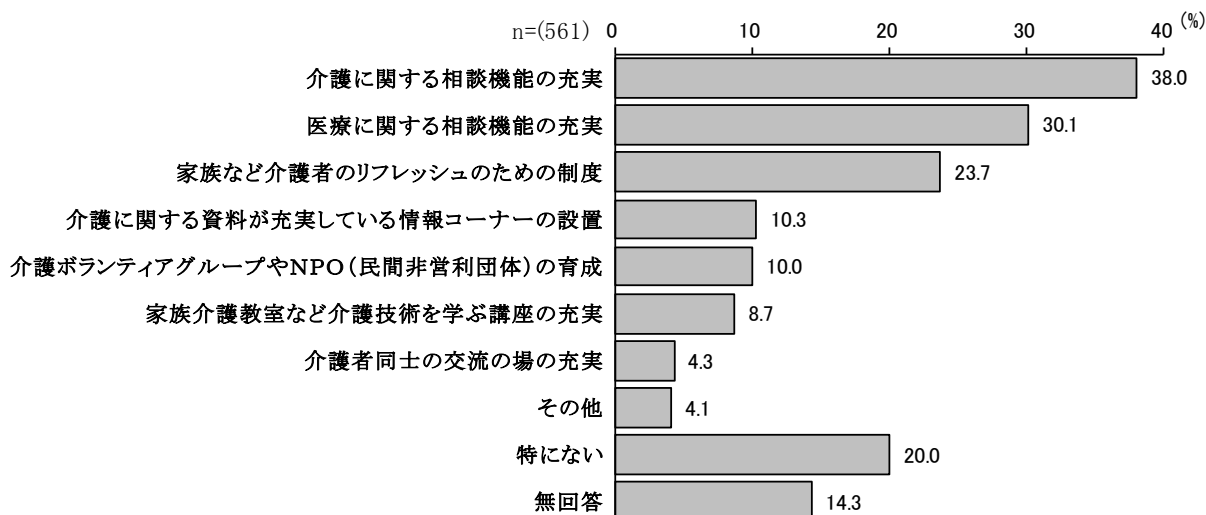


介護が負担である理由をたずねたところ、「精神的負担が大きいこと」(69.4%)が7割弱で最も高く、次いで、「肉体的な負担が大きいこと」(56.5%)、「仕事との両立が大変なこと」(30.3%)の順となっている。

⑭介護者への支援として、新宿区に力を入れてほしいこと

問 56 介護者(あなた)への支援として、区に力を入れてほしいことは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表7> 介護者への支援として、新宿区に力を入れてほしいこと (複数回答)



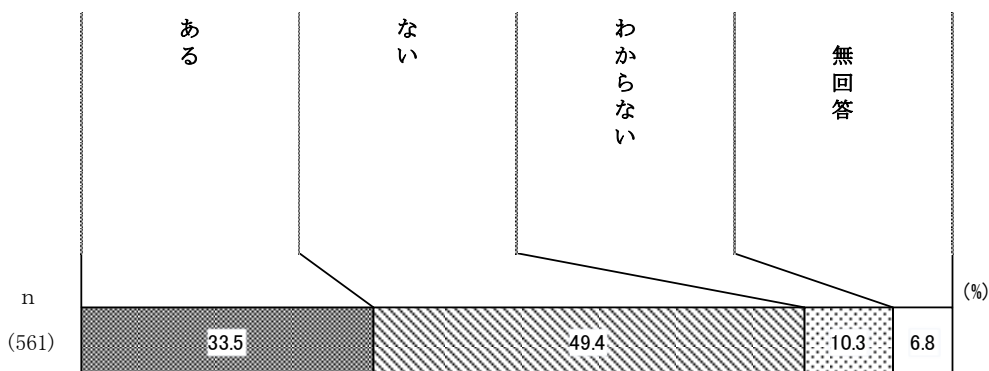
介護者への支援として、新宿区に力を入れてほしいことをたずねたところ、「介護に関する相談機能の充実」(38.0%)が4割近くで最も高く、次いで、「医療に関する相談機能の充実」(30.1%)、「家族など介護者のリフレッシュのための制度」(23.7%)の順となっている。

(16) (宛名のご本人の) 認知症について

① 認知症の症状の有無

問 57 あなたが介護をしている方(宛名のご本人)には、認知症の症状がありますか。
(1つに○)

<図表> 認知症の症状の有無

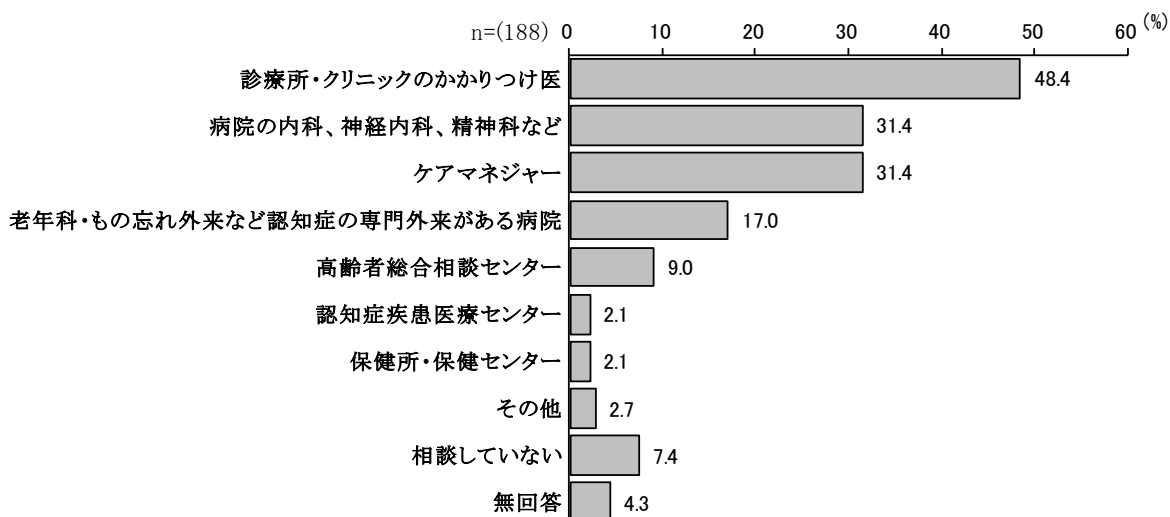


認知症の症状の有無をたずねたところ、「ある」(33.5%)は3割台半ば近くとなっている。

② 認知症についての相談先

問 57-1 <<問 57 で「ある」を選んだ方のみお答えください>>
あなたは、介護している方が認知症ではないかと気づいた、あるいは不安になったときに、どちらに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 認知症についての相談先 (複数回答)

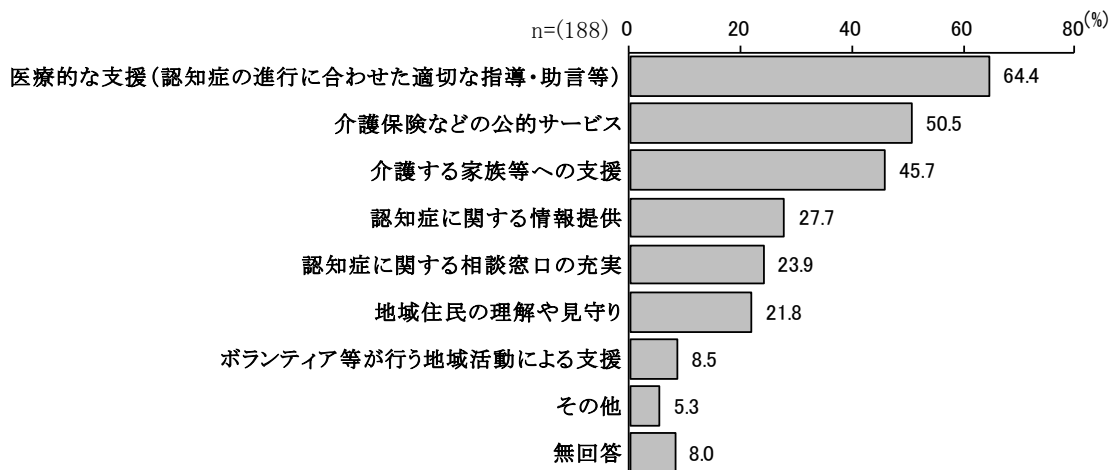


問57で認知症の症状が「ある」と回答した人に、認知症についての相談先をたずねたところ、「診療所・クリニックのかかりつけ医」(48.4%)が5割近くと最も高く、次いで、「病院の内科、神経内科、精神科など」及び「ケアマネジャー」(ともに31.4%)の順となっている。

③認知症の介護で必要と思うこと

問 57-2 《問 57 で「ある」を選んだ方のみお答えください》
 認知症のご本人の介護において、必要と思うことは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 認知症の介護で必要と思うこと (複数回答)



問57で認知症の症状が「ある」と回答した人に、認知症の介護で必要と思うものについてたずねたところ、「医療的な支援(認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等)」(64.4%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「介護保険などの公的サービス」(50.5%)、「介護する家族等への支援」(45.7%)の順となっている。

④高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問 58 介護者の立場から、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、141人からの回答があった。回答の多かった内容は、「サービスについて」「家族等介護者のことについて」「介護保険・保険料について」の順であった。

各事項（その他除く）について、回答の中からいくつかの意見を示す。

サービスについて	家族等介護者のことについて	介護保険・保険料について	情報提供・相談について	高齢者施策について	高齢者向け施設について	アンケートについて	医療・保健について	認知症について	その他
39	23	16	13	12	9	9	6	6	13

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【サービスについて】

- ・家族が介護していますが、レスパイト入院や、ショートステイを充実していただきたい。
- ・ヘルパーさんのできる仕事を増やしてほしい。

【家族等介護者のことについて】

- ・老々介護に対する生活支援。介護者が介護認定を受けていない場合、介護者が年を重ねても生活支援が受けられない。
- ・区で行っているリフレッシュ（介護者のための）対策をもう少し考えてもらえたらと思います。

【介護保険・保険料について】

- ・介護保険を利用していないので、その利用しない者への配慮があってもいいのではないのでしょうか。
- ・高齢化社会の加速を感じていて、もう少し支援、介護のしくみを簡素化できたらありがたいです。

【情報提供・相談について】

- ・色々な制度について、アンケート内に説明がなされているが、今後の参考に、別に手元における小冊子も用意してほしい。読んでもすぐに忘れる。
- ・補助金の情報など、区の方から教えてほしい。知らないうちに、期限が過ぎてしまったりしているため、わかりやすく通知してほしい。

【高齢者施策について】

- ・福祉に携わる人達がゆとりある生活ができるバックアップの充実。
- ・生活介助については、もう少し柔軟に対応して欲しい。通院介助（病院の中も付き添う）も介護保険の対応になって欲しい。

【高齢者向け施設について】

- ・将来を考えるとショートステイ等、家族が安心してあずけられる家庭的で暖かい環境の施設を作っていただきたい。

【アンケートについて】

- ・このアンケート調査に答えるにあたり、改めて、自分のしていること、しなければならないこと、聞いておいた方が良いことを再認識しました。

【医療・保健について】

- ・訪問医療が可能な医院が増えること。

【認知症について】

- ・認知症の対応と判断が難しい。

4 第2号被保険者調査

(1) ご本人について

①調査票の記入者

<図表> 調査票の記入者

調査数	調査票の記入者			
	本人	家族	その他	無回答
540	487	20	-	33

②現在の状況

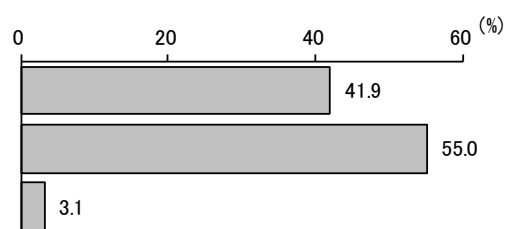
<図表> 現在の状況（本人の不在の事情）

調査数	現在の状況（本人の不在の事情）					
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	左記に該 当しない
540	-	-	1	-	1	538

③性別

<図表> 性別

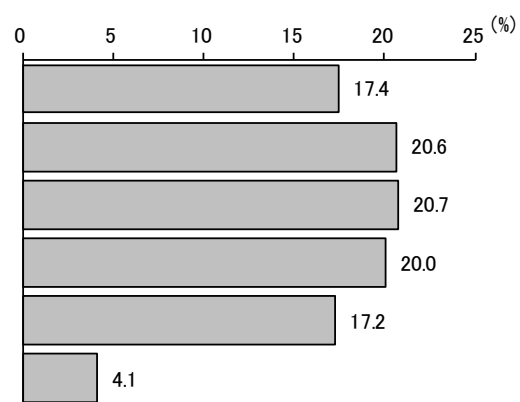
	基数	構成比
男性	226	41.9%
女性	297	55.0%
無回答	17	3.1%



④年齢

<図表> 年齢

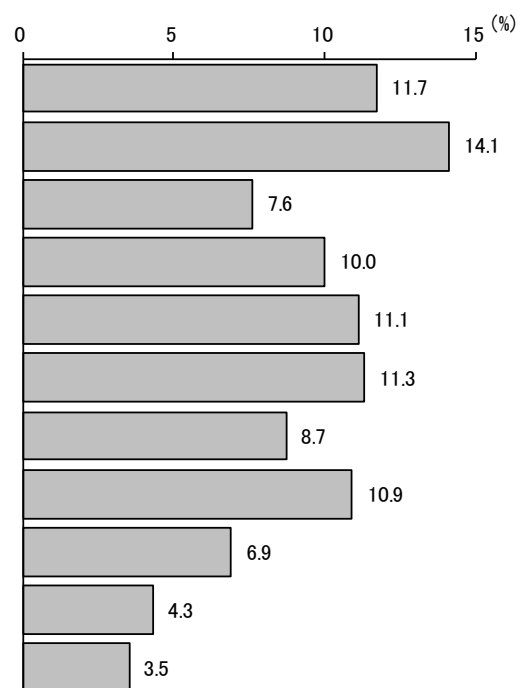
	基数	構成比
40歳～44歳	94	17.4%
45歳～49歳	111	20.6%
50歳～54歳	112	20.7%
55歳～59歳	108	20.0%
60歳～64歳	93	17.2%
無回答	22	4.1%



⑤お住まいの地区

<図表> お住まいの地区

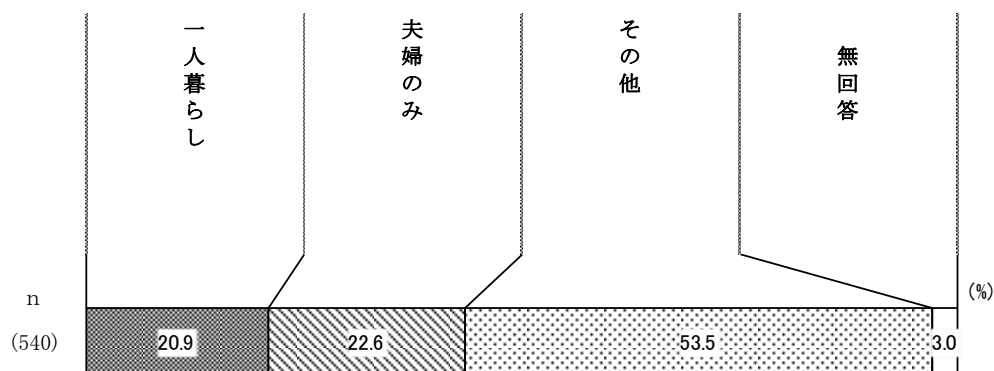
	基数	構成比
四谷	63	11.7%
簗筒町	76	14.1%
榎町	41	7.6%
若松町	54	10.0%
大久保	60	11.1%
戸塚	61	11.3%
落合第一	47	8.7%
落合第二	59	10.9%
柏木	37	6.9%
角筈	23	4.3%
無回答	19	3.5%



⑥世帯構成

問4 あなたの世帯の構成をお選びください。(1つに○)

<図表> 世帯構成

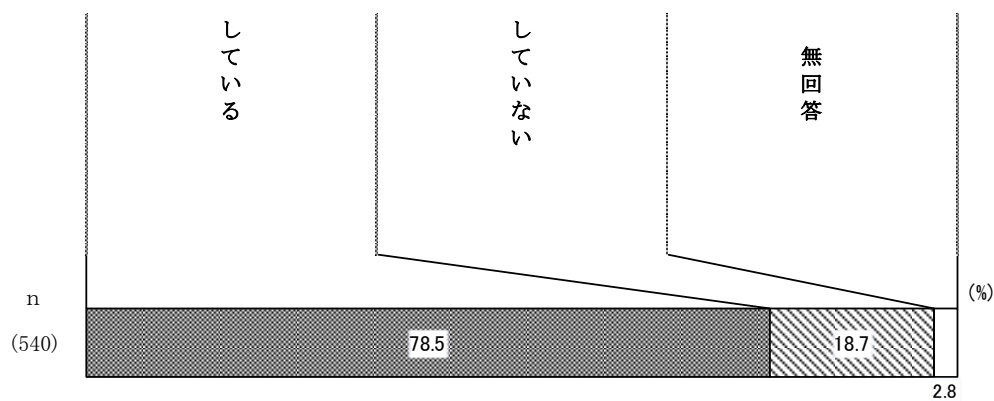


世帯構成をたずねたところ、「夫婦のみ」(22.6%)が2割強、「一人暮らし」(20.9%)が約2割となっている。

⑦就業状況

問5 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

<図表> 就業状況

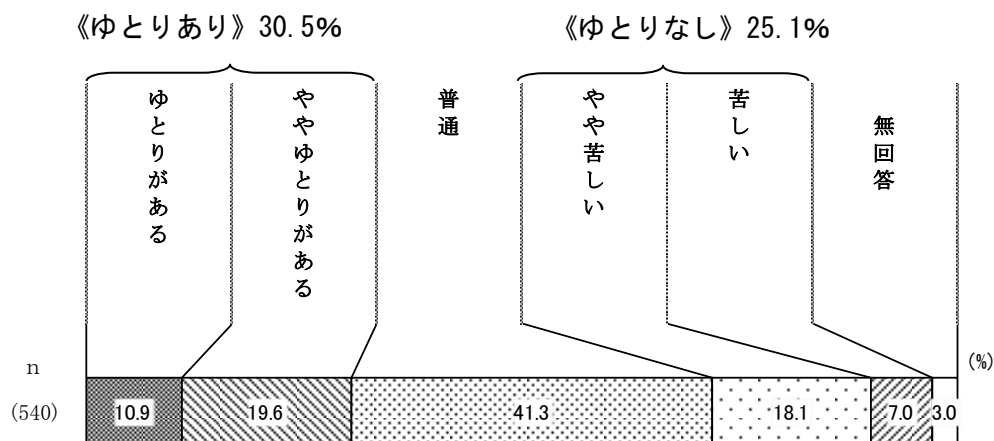


就業状況をたずねたところ、収入のある仕事を「している」(78.5%)は8割近く、「していない」(18.7%)は2割近くとなっている。

⑧現在の暮らし向き

問6 あなたは、現在のご自身の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表> 現在の暮らし向き

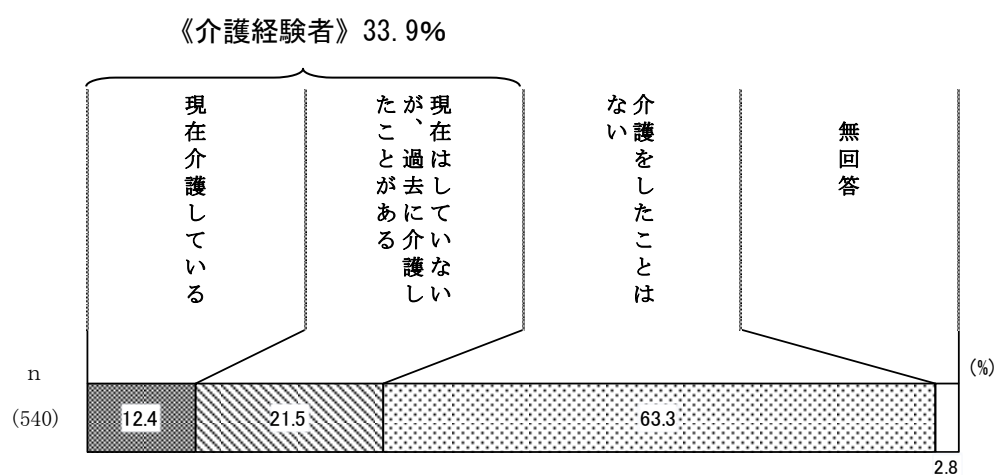


現在の暮らし向きについてたずねたところ、「ゆとりがある」(10.9%)と「ややゆとりがある」(19.6%)をあわせた《ゆとりあり》は30.5%となっている。

⑨家族等の高齢者の介護の経験

問7 あなたは、ご家族等の高齢者の介護をしたことがありますか。(1つに○)

<図表> 家族等の高齢者の介護の経験



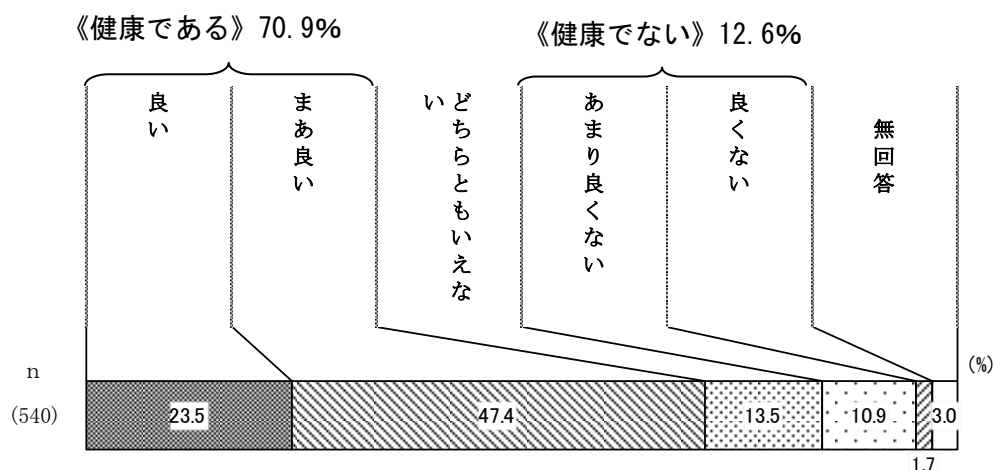
家族等の高齢者の介護経験をたずねたところ、「普通」(63.3%)が6割台半ば近くと最も高く、「現在介護している」(12.4%)と「現在はしていないが、過去に介護したことがある」(21.5%)をあわせた《介護経験者》は33.9%となっている。

(2) 健康状態や健康づくり等について

①健康状態

問8 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(1つに○)

<図表> 健康状態

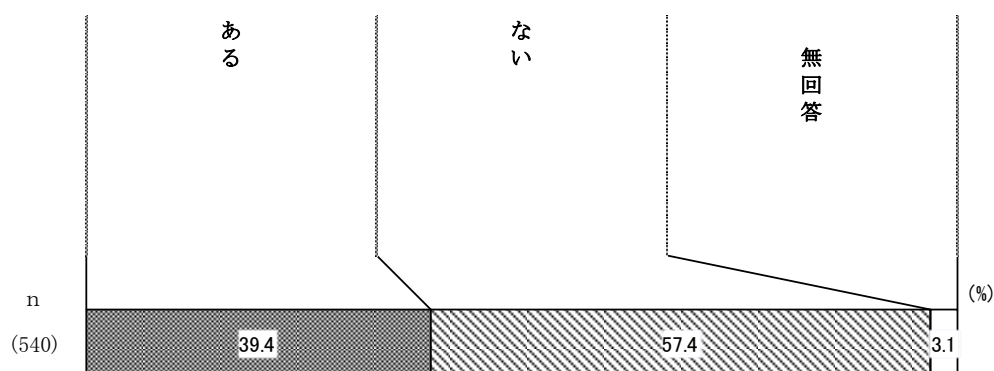


自身の健康状態についてたずねたところ、「良い」(23.5%)と「まあ良い」(47.4%)をあわせた《健康である》は70.9%となっている。

②治療中の病気の有無

問9 あなたは、現在治療中の病気がありますか。(1つに○)

<図表> 治療中の病気の有無

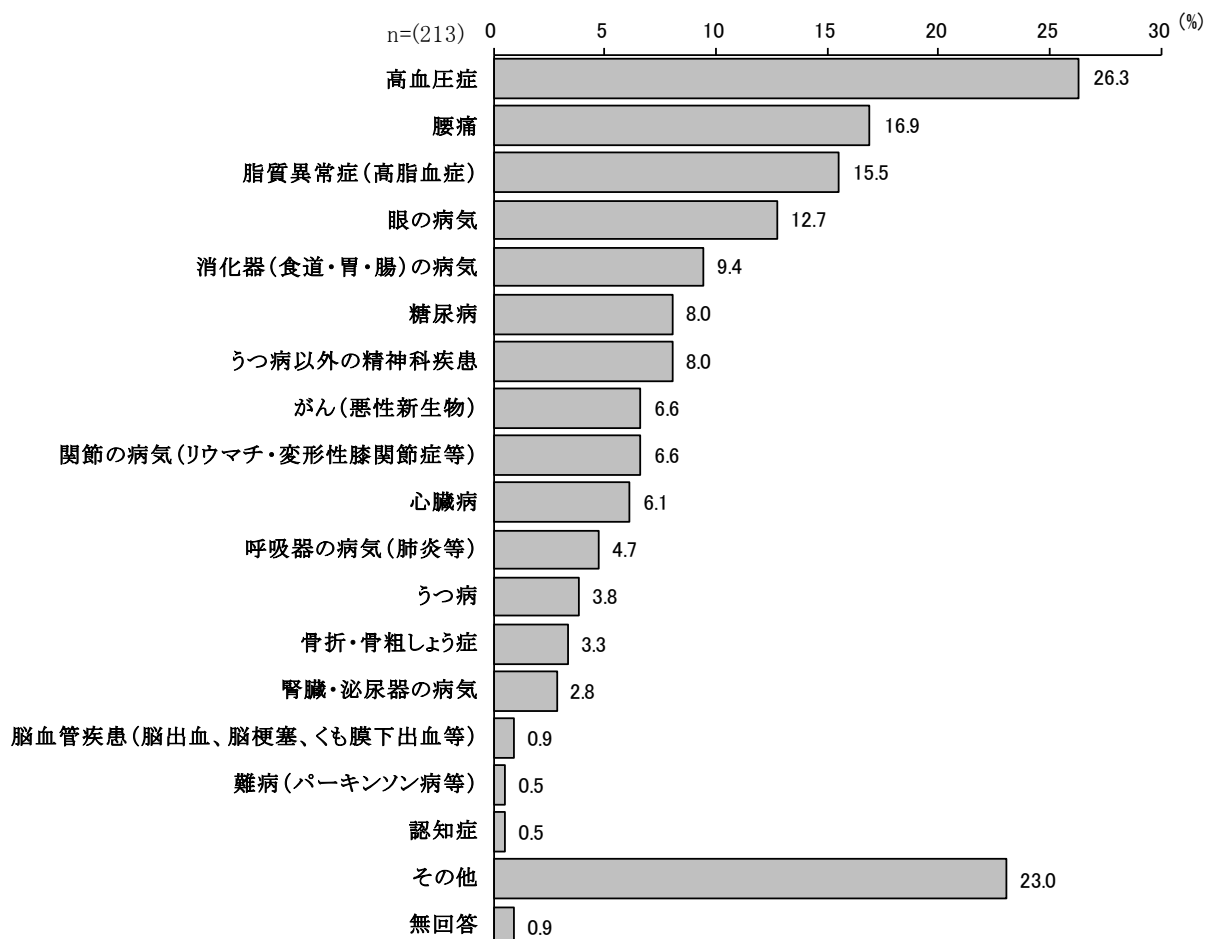


現在治療中の病気の有無をたずねたところ、「ある」(39.4%)が4割弱となっている。

③治療中の病気の種類

問9-1 <<問9で「ある」を選んだ方のみお答えください>>
治療中の病気は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 治療中の病気の種類 (複数回答)

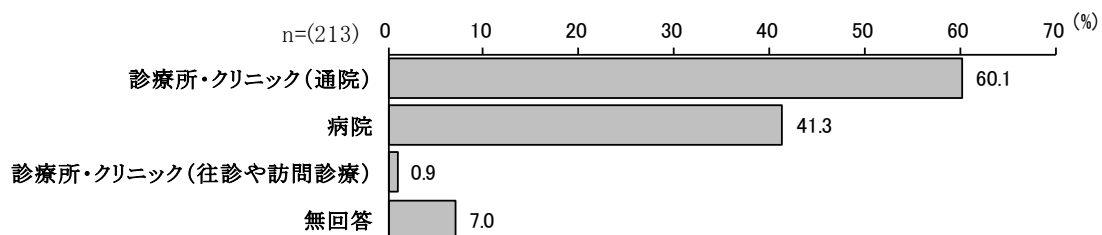


問9で治療中の病気が「ある」と回答した人に治療中の病気についてたずねたところ、「高血圧症」(26.3%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「腰痛」(16.9%)、「脂質異常症(高脂血症)」(15.5%)の順となっている。「その他」では、甲状腺、痛風、関節痛といった内容があげられた。

④受診している医療機関

問9-2 <<問9で「ある」を選んだ方のみお答えください>>
 受診している医療機関は、次のうちどれですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 受診している医療機関 (複数回答)

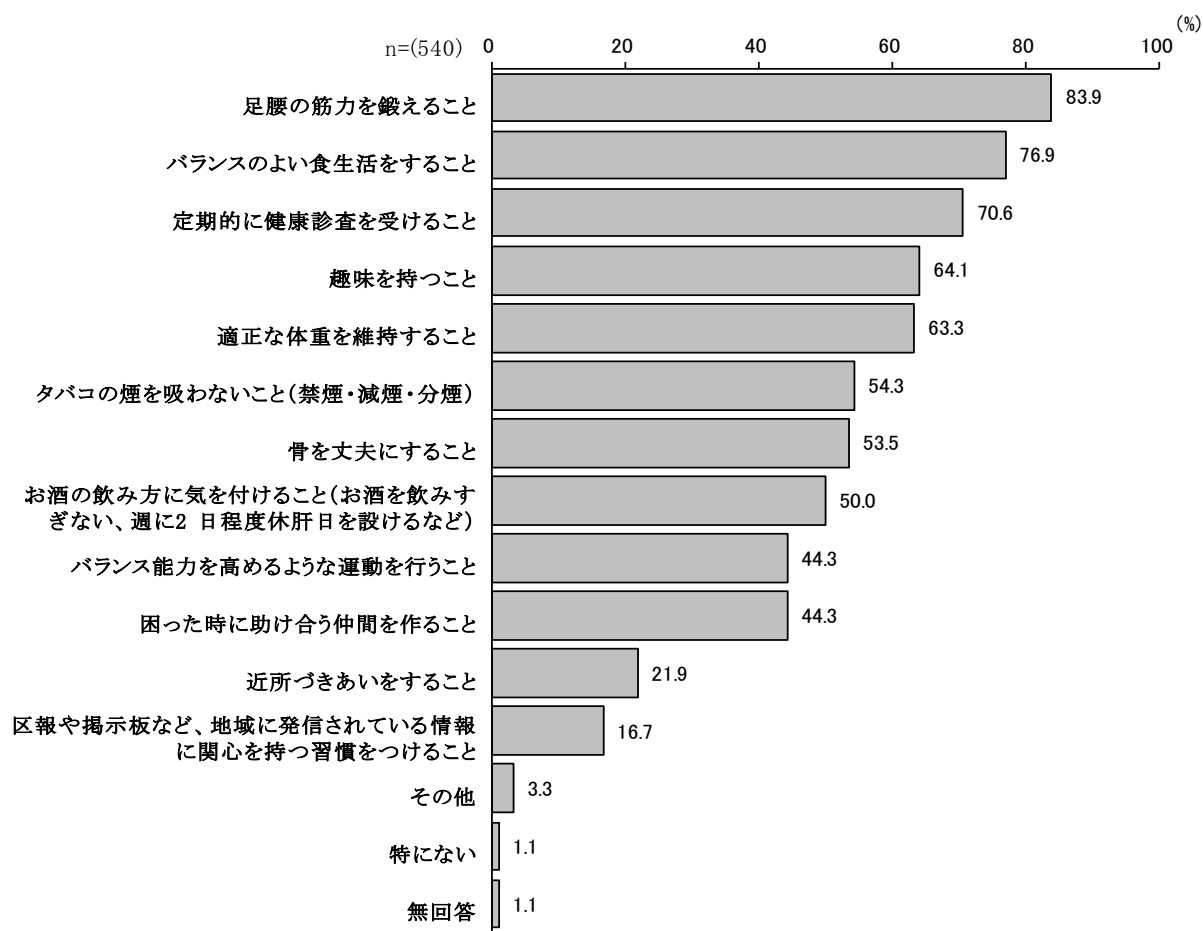


問9で治療中の病気が「ある」と回答した人に受診している医療機関についてたずねたところ、「診療所・クリニック(通院)」(60.1%)が約6割で最も高く、次いで「病院」(41.3%)の順となっている。

⑤40代から取り組んだほうがよいこと

問10 いきいきと充実した活動的な高齢期を実現するために、40代から取り組んだほうがよいことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 40代から取り組んだほうがよいこと (複数回答)

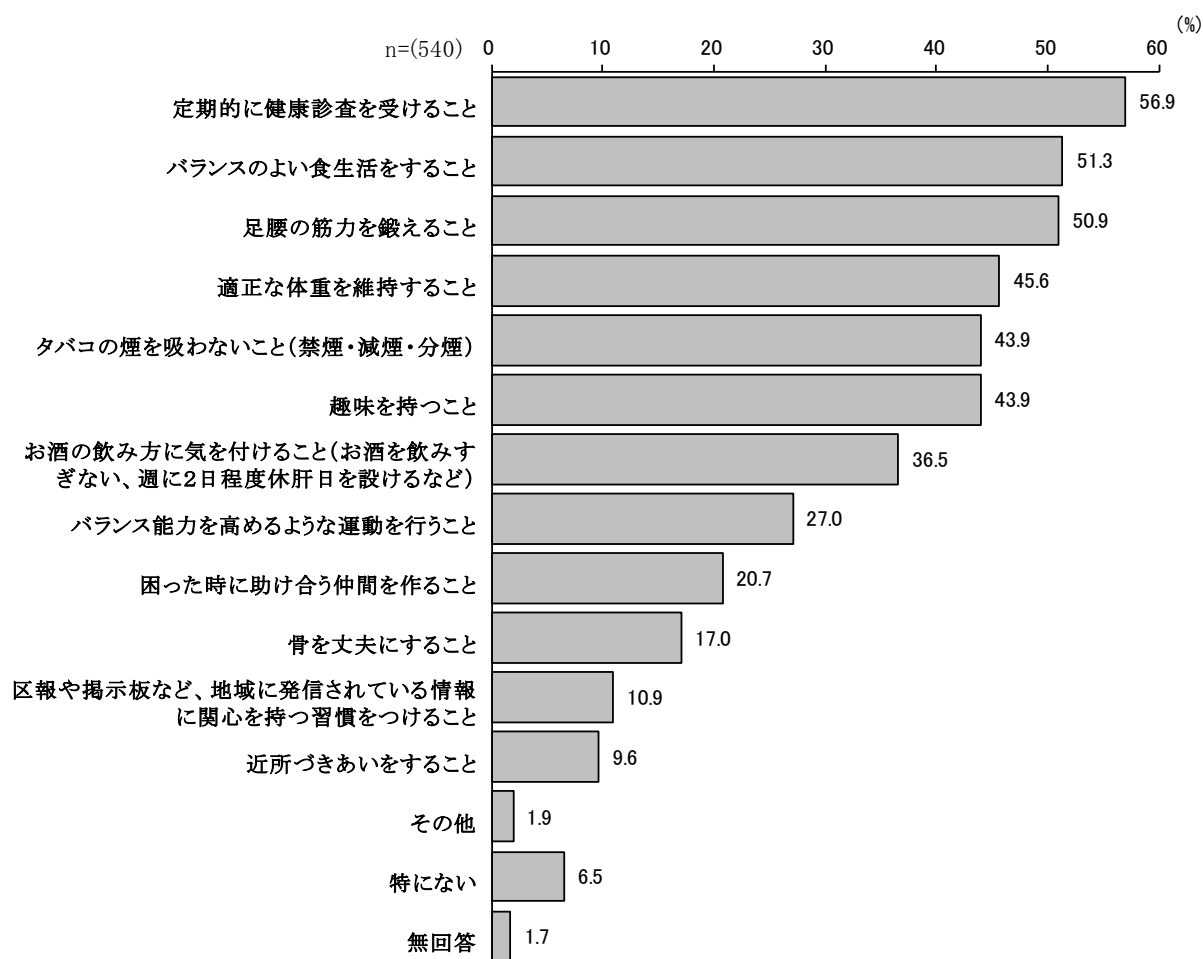


40代から取り組んだほうがよいことについてたずねたところ、「足腰の筋力を鍛えること」(83.9%)が8割半ば近くで最も高く、次いで、「バランスのよい食生活をする」(76.9%)、「定期的に健康診査を受けること」(70.6%)の順となっている。

⑥現在、実践していること

問11 あなたが現在、実践していることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 現在、実践していること (複数回答)

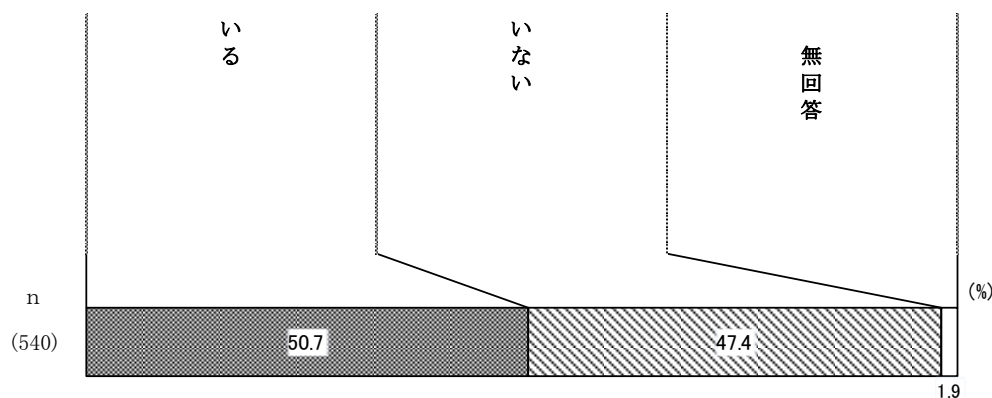


現在、実践していることについてたずねたところ、「定期的健康診断を受けること」(56.9%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「バランスのよい食生活をする」(51.3%)、「足腰の筋力を鍛えること」(50.9%)の順となっている。

⑦かかりつけ医の有無

問12 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

<図表> かかりつけ医の有無

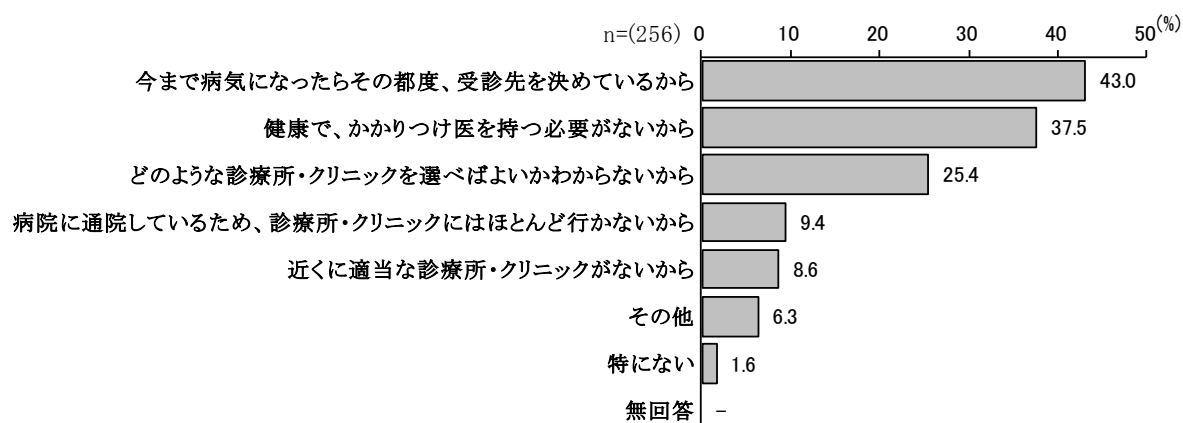


かかりつけ医の有無をたずねたところ、「いる」(50.7%)は約5割となっている。

⑧かかりつけ医がない理由

問12-1 <<問12で「いない」を選んだ方のみお答えください>>
かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> かかりつけ医がない理由 (複数回答)



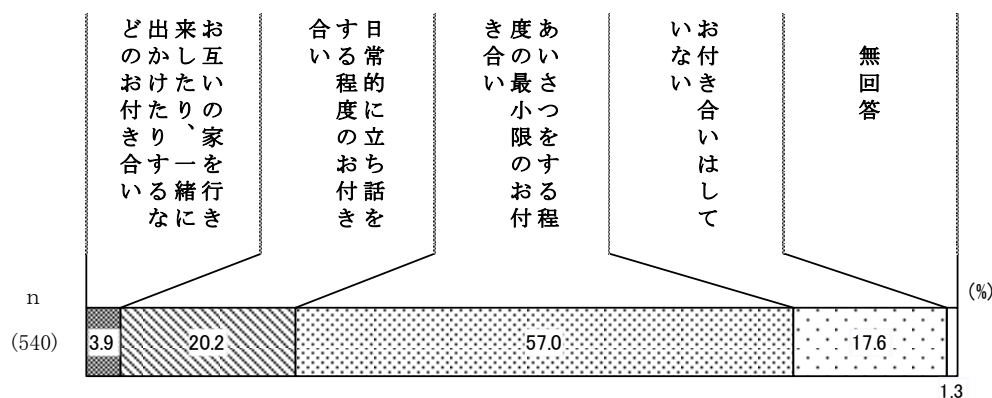
問12でかかりつけ医が「いない」と回答した人に、かかりつけ医がない理由をたずねたところ、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」(43.0%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」(37.5%)、「どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから」(25.4%)の順となっている。

(3) 日ごろの生活について

① ご近所付き合い

問13 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。(1つに○)

<図表> ご近所付き合い

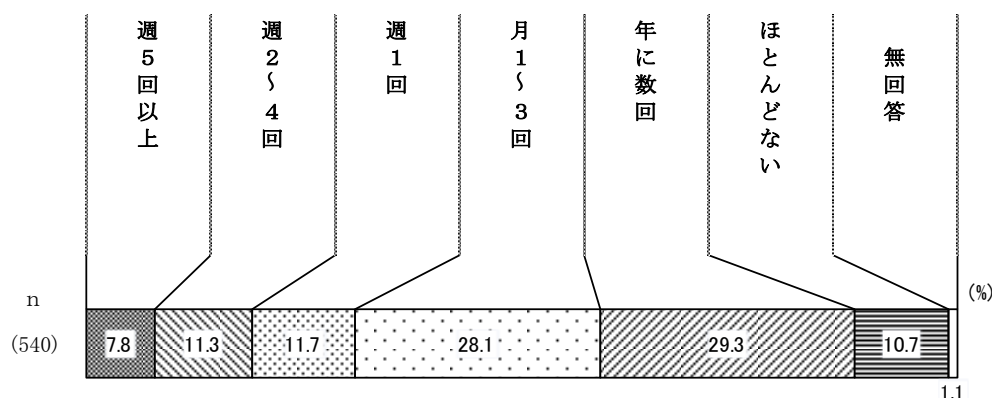


近所の方とお付き合いの程度についてたずねたところ、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」(57.0%)が6割弱と最も高く、次いで「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」(20.2%)、「お付き合いはしていない」(17.6%)の順となっている。

② 友人・知人と会う頻度

問14 あなたは、友人・知人と会う頻度はどのくらいですか。(同居の親族は含みません)
(1つに○)

<図表> 友人・知人と会う頻度

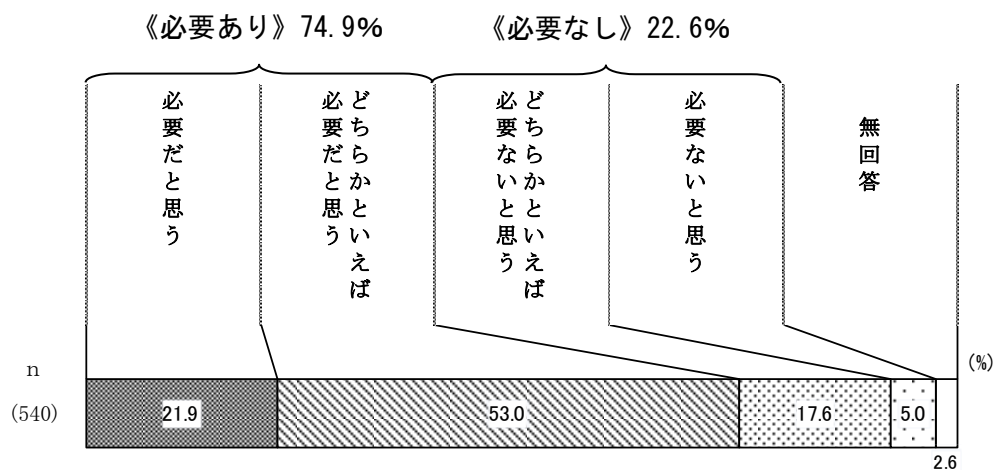


友人・知人と会う頻度についてたずねたところ、「年に数回」(29.3%)が3割弱と最も高く、次いで、「月1～3回」(28.1%)、「週1回」(11.7%)の順となっている。

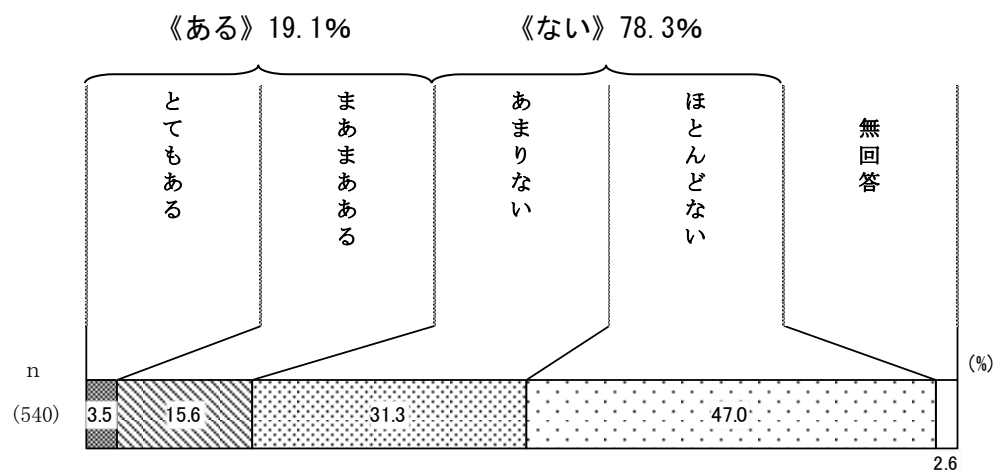
③多世代交流の必要性と頻度

問 15 あなたの住まいの地域で、あなたと違う世代の方と交流する機会についておたずねします。(どれか1つに○)

<図表> 多世代交流の必要性



<図表> 多世代交流の頻度



多世代交流の必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」(21.9%)と「どちらかといえば必要だと思う」(53.0%)をあわせた《必要あり》は74.9%となっている。

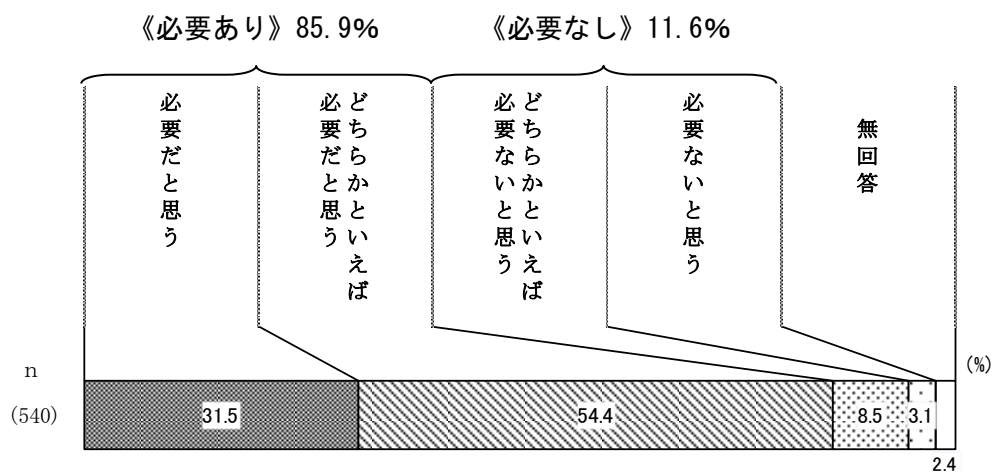
多世代交流の頻度についてたずねたところ、「とてもある」(3.5%)と「まあまあある」(15.6%)をあわせた《ある》は19.1%となっている。

(4) 地域での支え合いについて

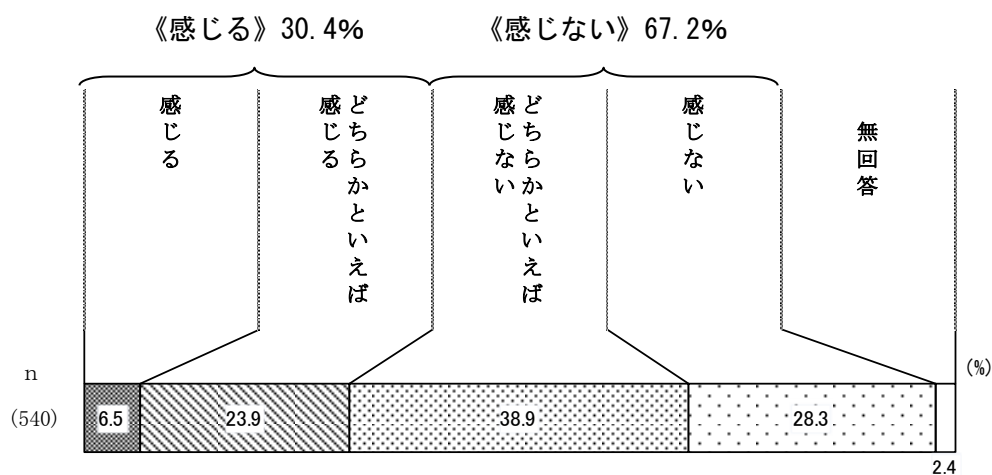
①地域のつながりの必要性と実感

問 16 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）についておたずねします。（どれか1つに○）

<図表> 地域のつながりの必要性



<図表> 地域のつながりの実感



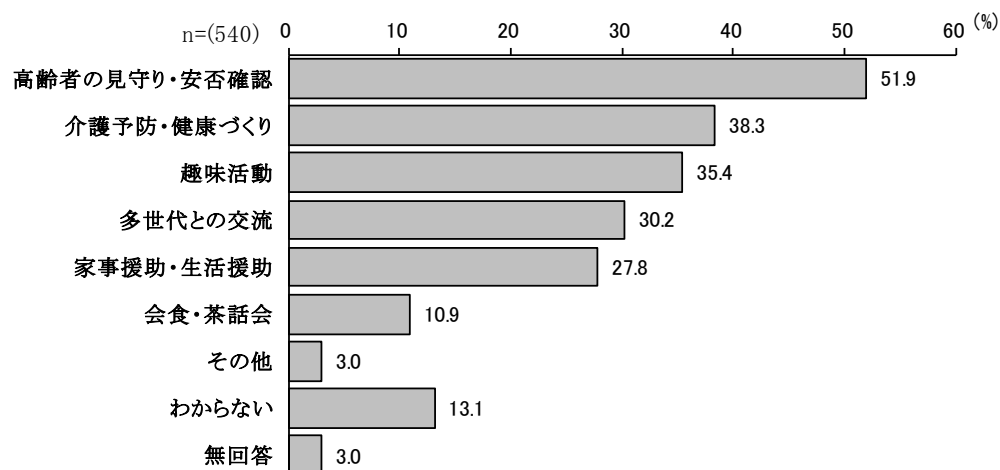
地域のつながりの必要性についてたずねたところ、「必要だと思う」（31.5%）と「どちらかといえば必要だと思う」（54.4%）をあわせた《必要あり》は85.9%となっている。

地域のつながりの実感についてたずねたところ、「感じる」（6.5%）と「どちらかといえば感じる」（23.9%）をあわせた《感じる》は30.4%となっている。

②あればよいと思う地域支え合い活動の参加内容

問17 あなたは、どのような住民主体の地域支え合い活動があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> あればよいと思う住民主体の地域支え合い活動（複数回答）

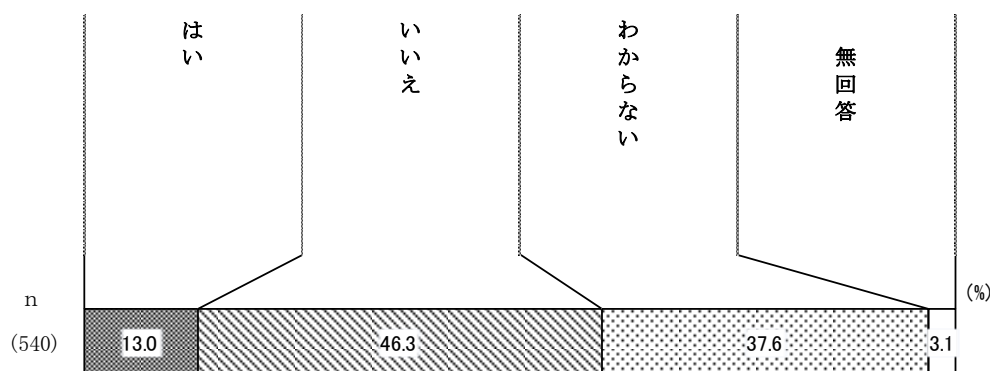


あればよいと思う地域支え合い活動の参加内容をたずねたところ、「高齢者の見守り・安否確認」(51.9%)が5割強で最も高く、次いで、「介護予防・健康づくり」(38.3%)、「趣味活動」(35.4%)の順となっている。

③お世話役としての地域支え合い活動への参加意向

問18 あなたは地域支え合い活動に企画・運営側（お世話役）として参加してみたいですか。
(1つに○)

<図表> 企画・運営側（お世話役）としての地域支え合い活動への参加意向

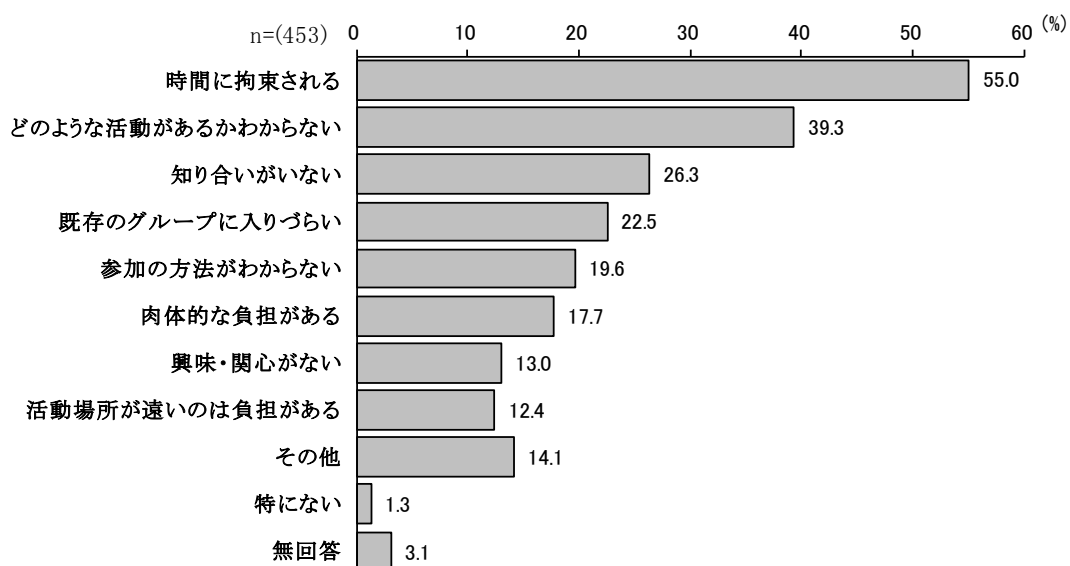


企画・運営側（お世話役）としての地域支え合い活動への参加意向についてたずねたところ、「いいえ」(46.3%)が4割半ばを超えて最も高く、次いで、「わからない」(37.6%)、「はい」(13.0%)の順となっている。

④地域支え合い活動に参加する際の障壁

問 18-1 《問 18 で「いいえ」または「わからない」を選んだ方のみお答えください》
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 地域支え合い活動に参加する際の障壁（複数回答）

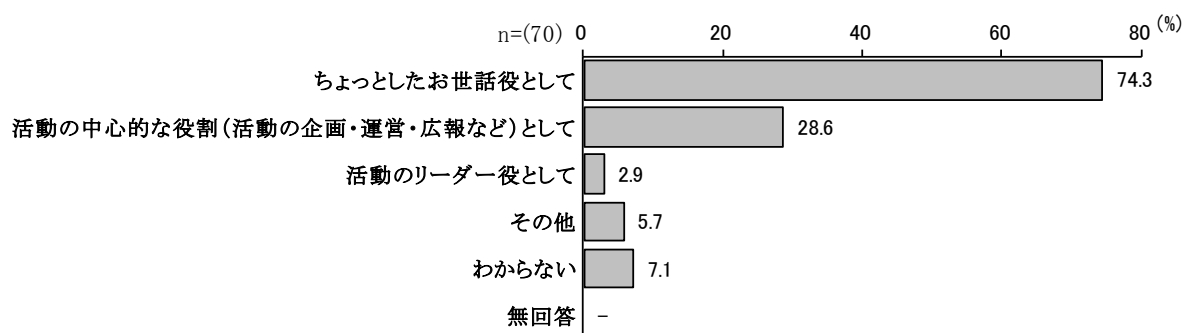


問18で「いいえ」または「わからない」と回答した人に、地域支え合い活動に参加する際の障壁をたずねたところ、「時間に拘束される」(55.0%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「どのような活動があるかわからない」(39.3%)、「知り合いがいない」(26.3%)の順となっている。

⑤地域支え合い活動に参加する際の立場

問 18-2 《問 18 で「はい」を選んだ方のみお答えください》
 あなたはどのような立場で地域支え合い活動に参加してみたいですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 地域支え合い活動に参加する際の立場 (複数回答)



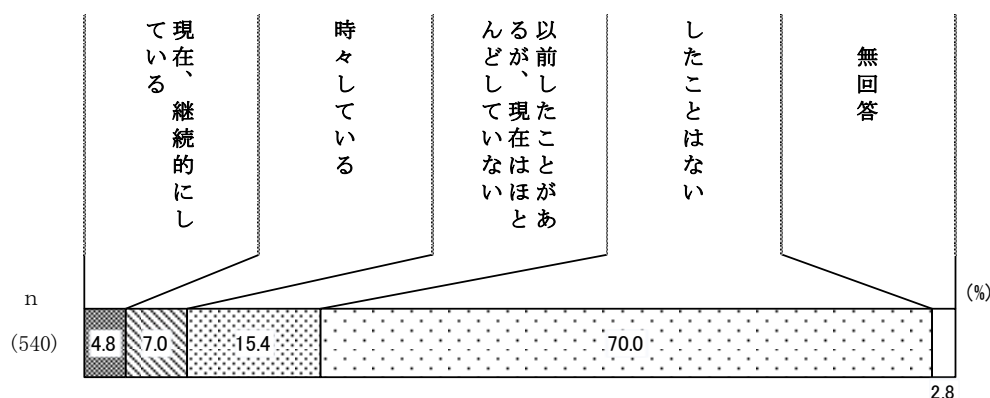
問18で「はい」と回答した人に、地域支え合い活動に参加する際の立場をたずねたところ、「ちょっとしたお世話役として」(74.3%)が7割台半ば近くで最も高く、次いで、「活動の中心的な役割(活動の企画・運営・広報など)として」(28.6%)となっている。

(5) 支援を必要とする高齢者を支えるしくみづくりについて

①地域活動やボランティア活動等の状況

問 19 あなたは、現在、地域活動（町会、自治会、子ども会など、以下同様）やボランティア活動等をしていますか。（1つに○）

<図表> 地域活動やボランティア活動等の状況

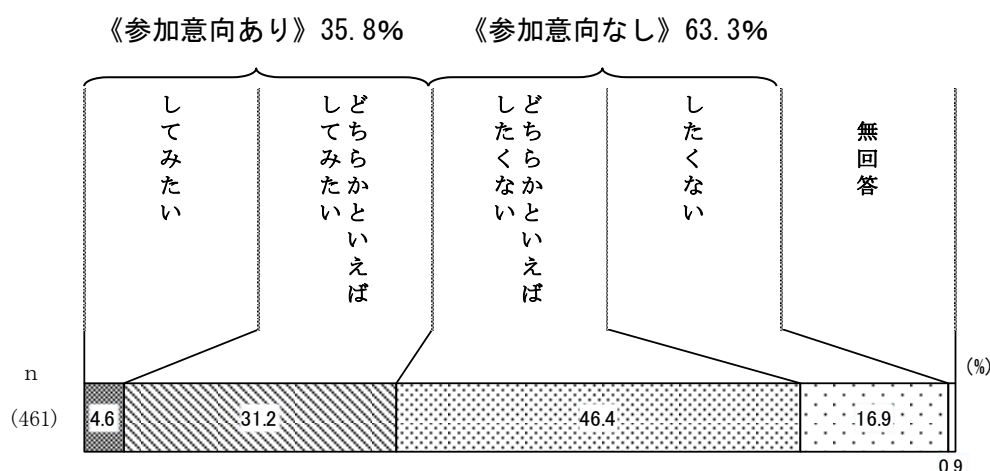


地域活動やボランティア活動等の状況をたずねたところ、「したことはない」(70.0%)が7割と最も高く、次いで、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」(15.4%)、「時々している」(7.0%)の順となっている。

②今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向

問 19-1 《問 19 で「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」または「したことはない」を選んだ方のみお答えください》
あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか。
(1つに○)

<図表> 今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向

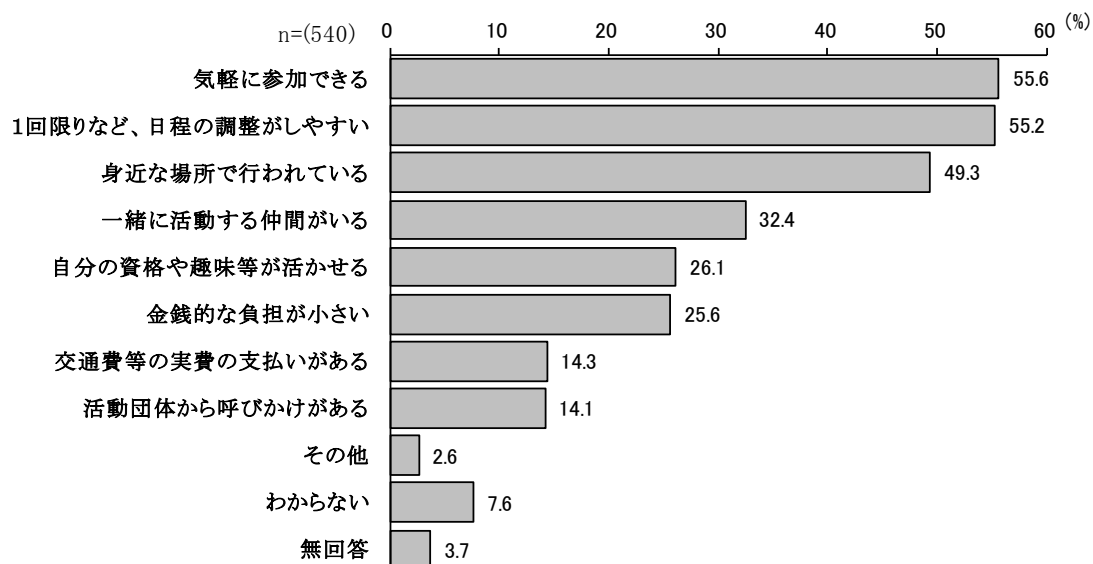


問19で「以前したことがあるが、現在はしていない」または「したことはない」と回答した人に今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向についてたずねたところ、「してみたい」(4.6%)と「どちらかといえばしてみたい」(31.2%)をあわせた《参加意向あり》は35.8%となっている。

③地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形

問 20 あなたはどのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形 (複数回答)

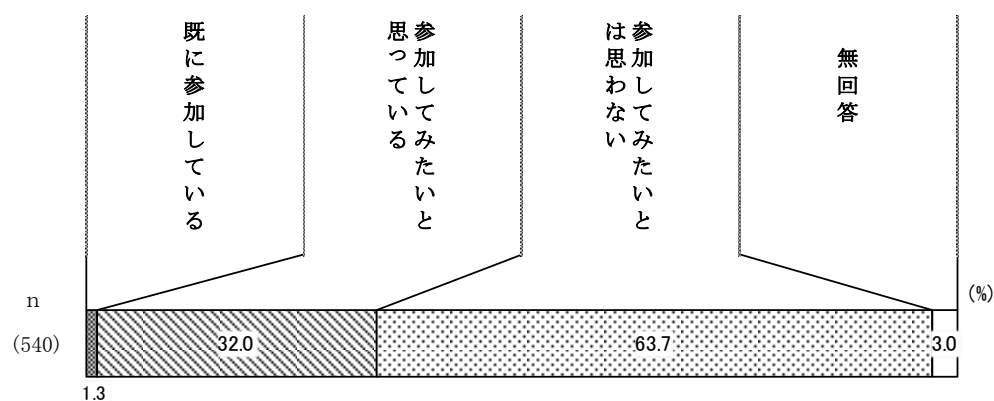


地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形をたずねたところ、「気軽に参加できる」(55.6%)が5割台半ばで最も高く、次いで、「1回限りなど、日程の調整がしやすい」(55.2%)、「身近な場所で行われている」(49.3%)の順となっている。

④高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向

問 21 あなたは、支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動に機会があれば参加してみたいですか。（1つに○）

<図表> 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向

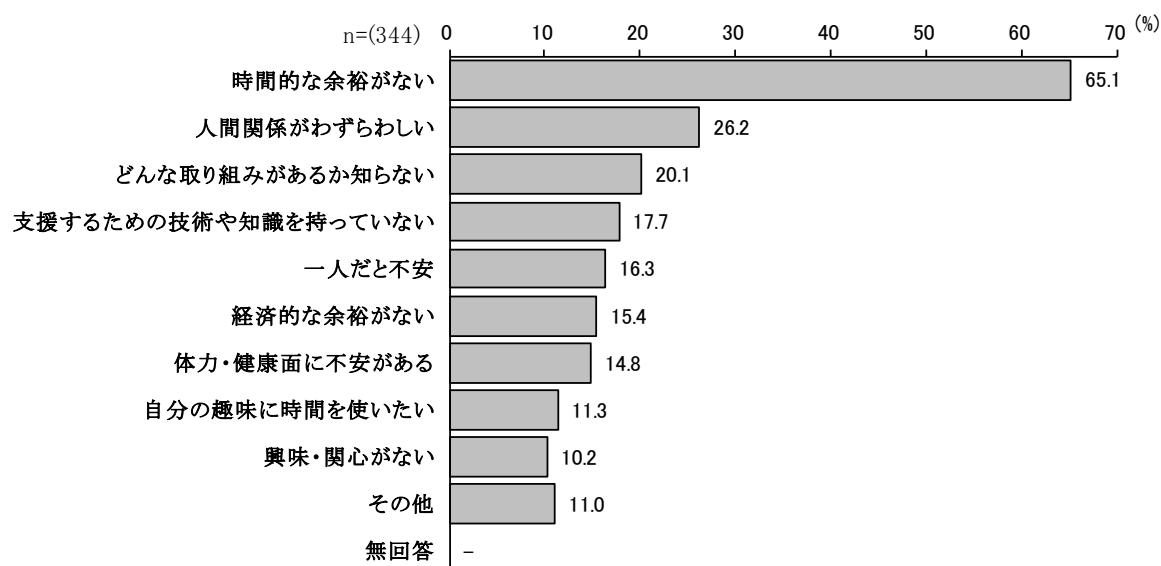


高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向をたずねたところ、「参加してみたいとは思わない」（63.7%）が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「参加してみたいと思っている」（32.0%）、「既に参加している」（1.3%）の順となっている。

⑤高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由

問 21-1 《問 21 で「参加してみたいとは思わない」を選んだ方のみお答えください》
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由（複数回答）

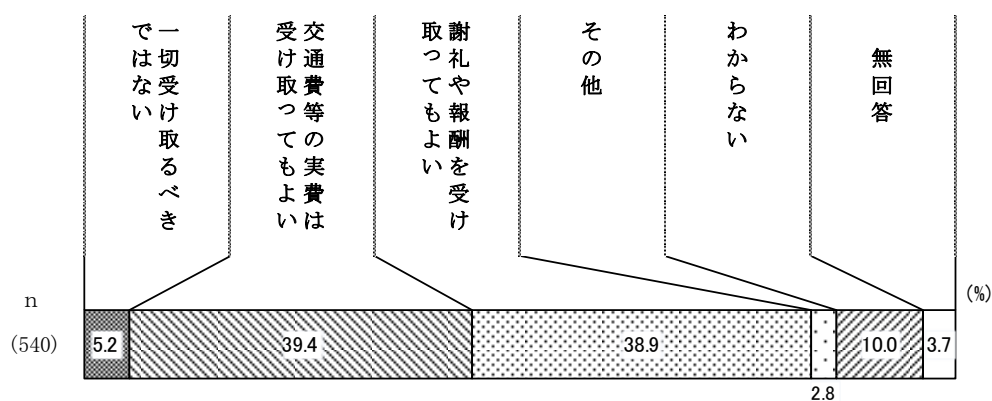


問21で「参加してみたいとは思わない」と回答した人に高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由をたずねたところ、「時間的な余裕がない」(65.1%)が6割台半ばで最も高く、次いで、「人間関係がわずらわしい」(26.2%)、「どんな取り組みがあるから知らない」(20.1%)の順となっている。「その他」では、仕事があるため、家族の介護のため、子育てのためといった内容があげられた。

⑥ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについて

問 22 支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動をした人が、何らかの対価を受け取ることについて、あなたはどのように思いますか。（1つに〇）

<図表> ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについて

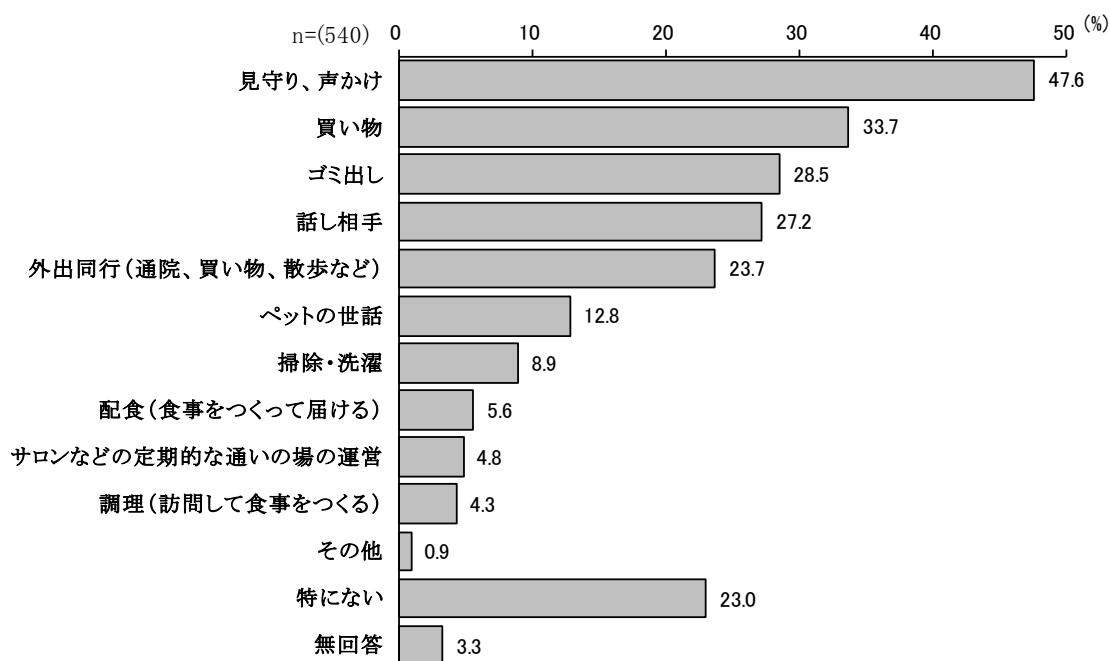


ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについてたずねたところ、「交通費等の実費は受け取ってもよい」（39.4%）が4割弱で最も高く、次いで、「謝礼や報酬を受け取ってもよい」（38.9%）、「一切受け取るべきではない」（5.2%）の順となっている。

⑦自分が担うことのできそうな支援・サービス

問 23 支援を必要とする地域の高齢者の身の周りの世話や生活を支援するボランティア活動として、あなたが担うことのできそうな支援・サービス(現在支援しているものを含む)はありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 自分が担うことのできそうな支援・サービス (複数回答)

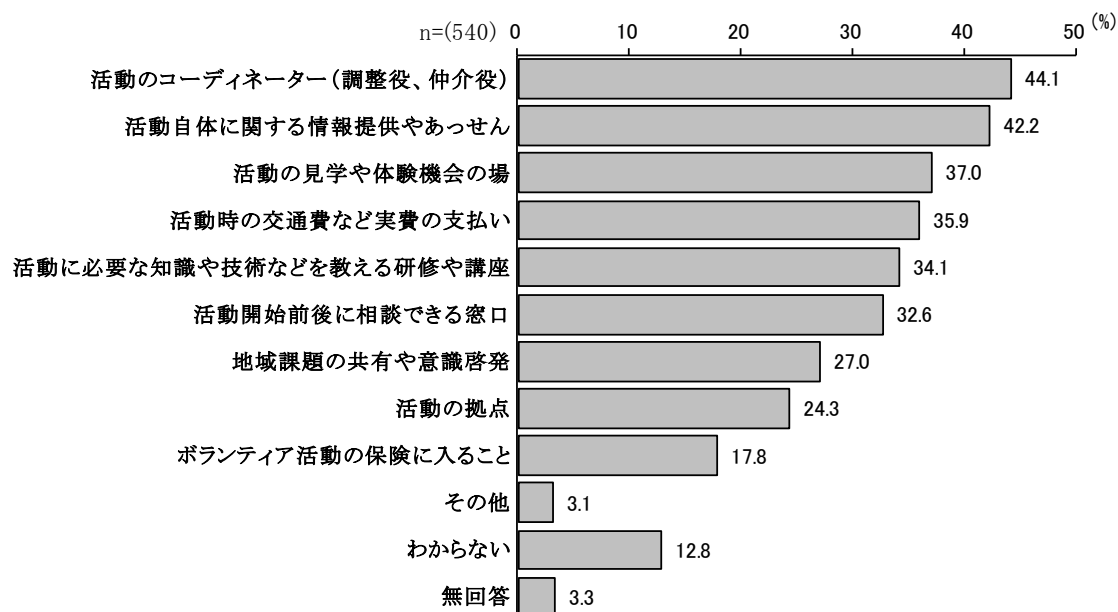


自分が担うことのできそうな支援・サービスについてたずねたところ、「見守り、声かけ」(47.6%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「買い物」(33.7%)、「ゴミ出し」(28.5%)の順となっている。

⑧ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポート

問 24 あなたは、支援を必要とする高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために、どのようなサポートが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポート (複数回答)



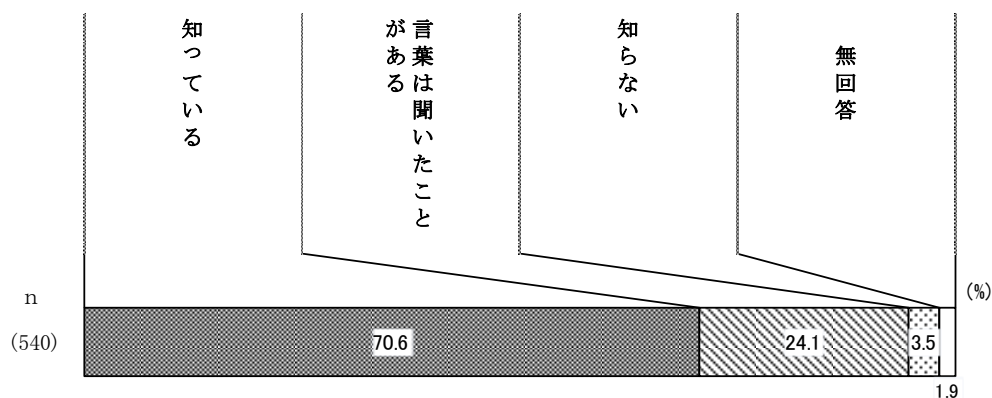
ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポートをたずねたところ、「活動のコーディネーター(調整役、仲介役)」(44.1%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「活動自体に関する情報提供やあっせん」(42.2%)、「活動の見学や体験機会の場」(37.0%)の順となっている。

(6) 若年性認知症について

①若年性認知症の認知度

問 25 あなたは「若年性認知症」という病気をご存じですか。(1つに○)

<図表> 若年性認知症の認知度

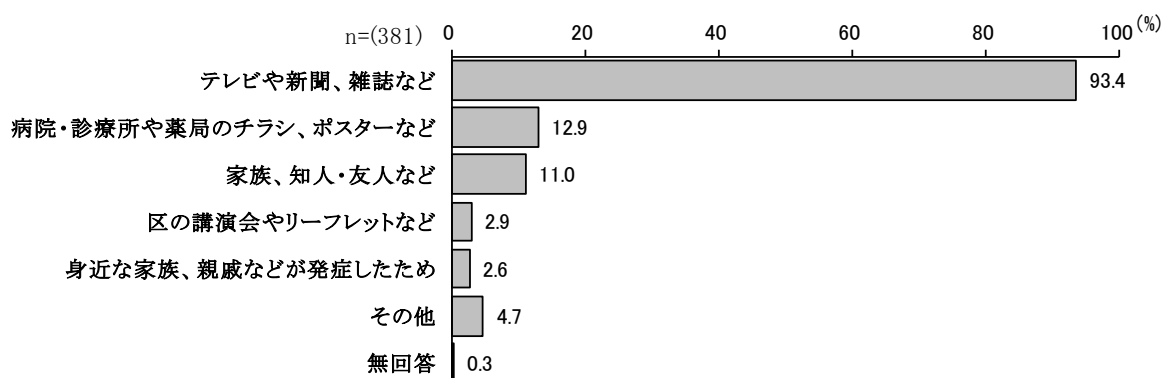


若年性認知症の認知度をたずねたところ、「知っている」(70.6%)が約7割と最も高くなっている。

②若年性認知症を知ったきっかけ

問 25-1 <<問 25 で「知っている」を選んだ方のみお答えください>>
「若年性認知症」を何でお知りになりましたか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 若年性認知症を知ったきっかけ(複数回答)

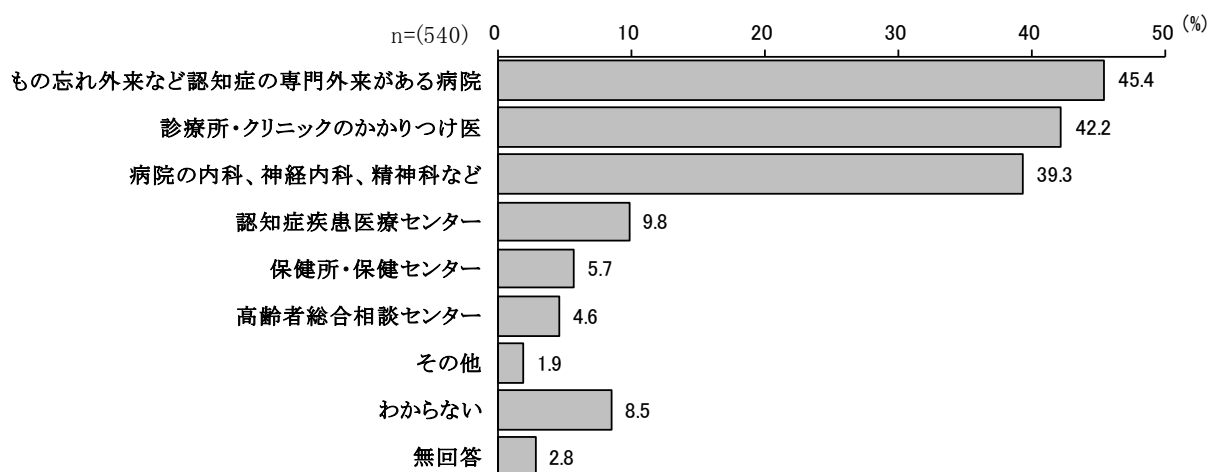


問25で若年性認知症を「知っている」と回答した人に、そのきっかけをたずねたところ、「テレビや新聞、雑誌などを通じて知った」(93.4%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。

③もの忘れ等気になる症状があったときの相談先

問 26 あなたは、もの忘れや理解・判断力の低下、そのことによる仕事上のトラブルなど気になる症状があったとき、どちらに相談しようと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> もの忘れ等気になる症状があったときの相談先（複数回答）

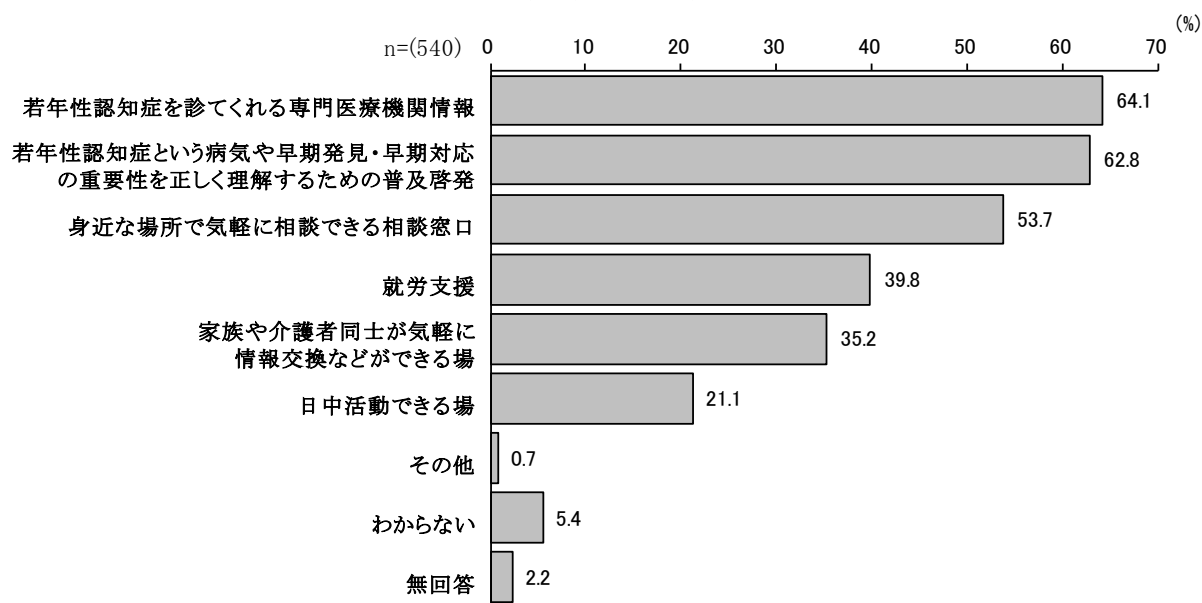


もの忘れ等気になる症状があったときの相談先をたずねたところ、「もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院」（45.4%）が4割台半ばと最も高く、次いで、「診療所・クリニックのかかりつけ医」（42.2%）、「病院の内科、神経内科、精神科など」（39.3%）の順となっている。

④若年性認知症に対して必要な支援

問 27 あなたは、若年性認知症の支援には何が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 若年性認知症に対して必要な支援（複数回答）



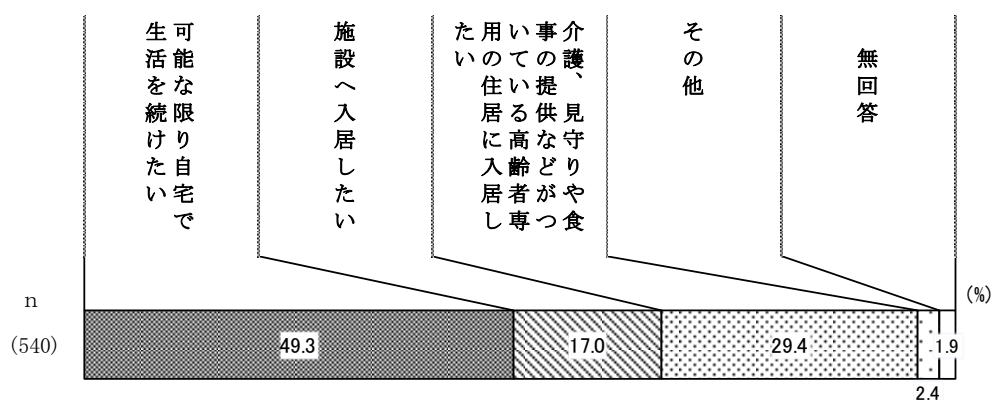
若年性認知症に対して必要な支援をたずねたところ、「若年性認知症を診てくれる専門医療機関情報」(64.1%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「若年性認知症という病気や早期発見・早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発」(62.8%)、「身近な場所で気軽に相談できる相談窓口」(53.7%)の順となっている。

(7) 在宅療養等について

①介護が必要になった場合の生活場所

問 28 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。
(1つに○)

<図表> 介護が必要になった場合の生活場所

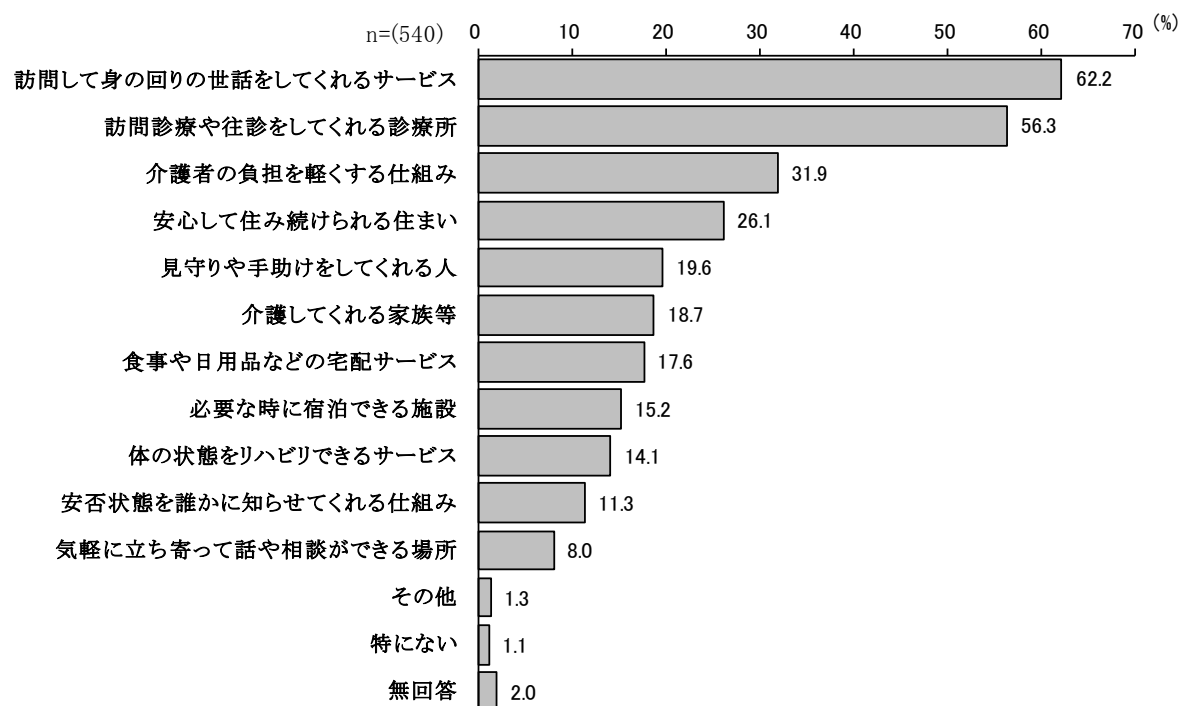


介護が必要になった場合の生活場所をたずねたところ、「可能な限り自宅で生活を続けたい」(49.3%)が5割近くとなっている。

②高齢者が在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの

問 29 介護や医療が必要になっても、高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものは何ですか。(あてはまるもの3つに〇)

<図表> 高齢者が在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うもの(複数回答)

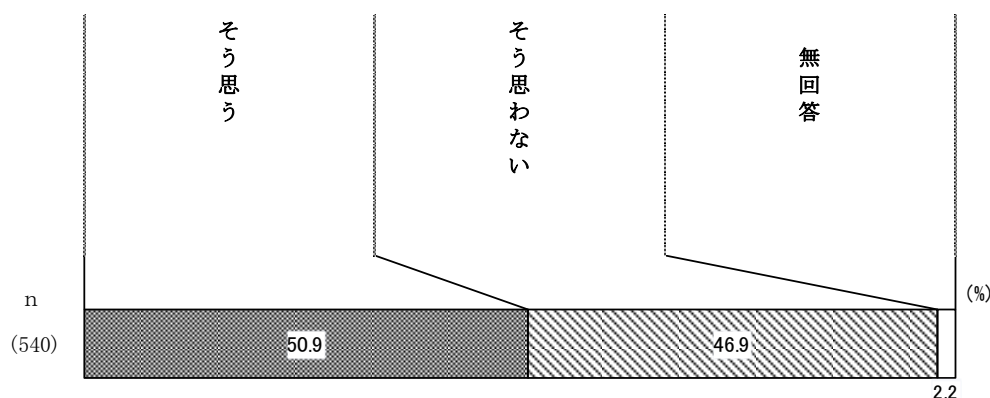


高齢者が在宅で暮らし続けるために特に重要だと思うものをたずねたところ、「訪問して身の回りの世話をしてくれるサービス」(62.2%)が6割強と最も高く、次いで、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」(56.3%)、「介護者の負担を軽くする仕組み」(31.9%)の順となっている。

③在宅療養の意向

問 30 あなたは、脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、理想として自宅で療養を続けたいと思いますか。(1つに〇)

<図表> 在宅療養の意向

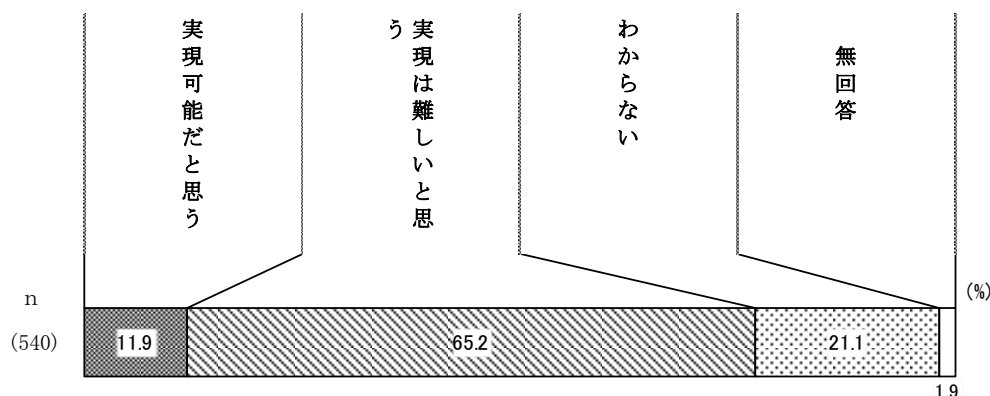


在宅療養の意向をたずねたところ、「そう思う」(50.9%)は約5割となっている。

④在宅療養の可能性

問 31 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。(1つに○)

<図表> 在宅療養の可能性

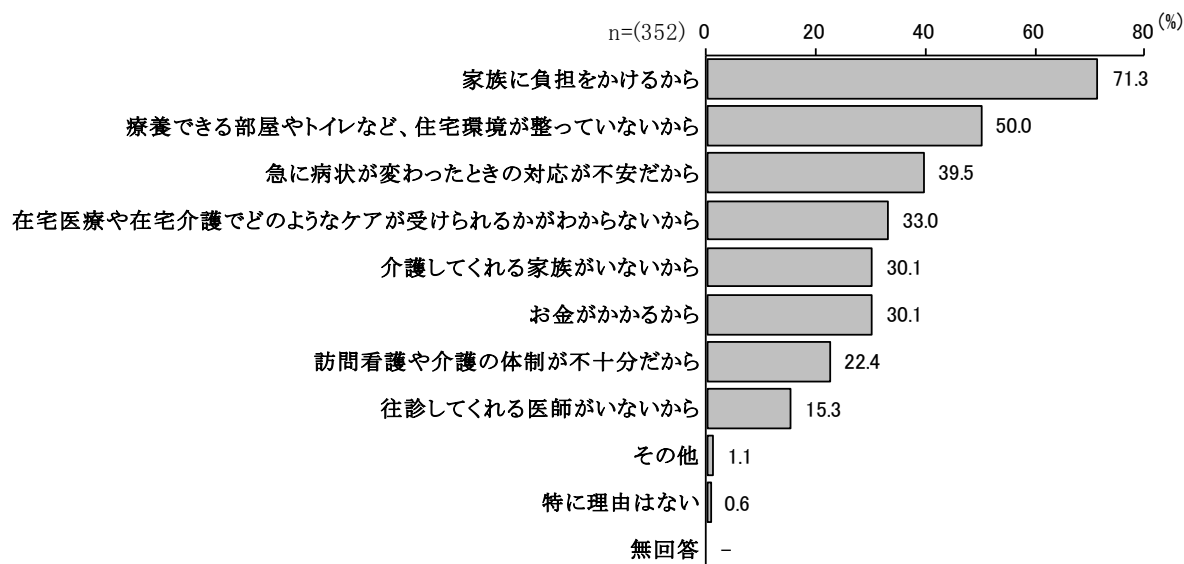


自宅での療養の可能性をたずねたところ、「実現は難しいと思う」(65.2%)は6割台半ばとなっている。

⑤在宅療養が難しいと思う理由

問 31-1 <<問 31 で「実現は難しいと思う」を選んだ方のみお答えください>>
実現は難しいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 在宅療養が難しいと思う理由 (複数回答)



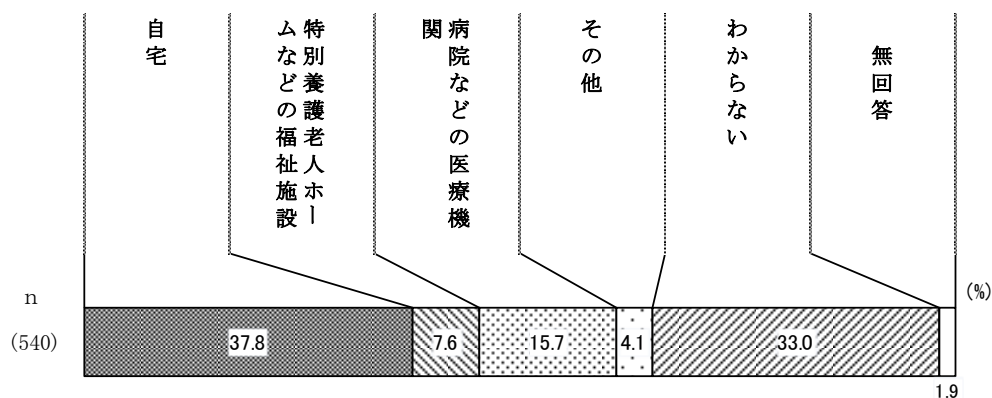
問31で「実現は難しいと思う」と回答した人に、在宅療養が難しいと思う理由をたずねたところ、「家族に負担をかけるから」(71.3%)が7割強で最も高く、次いで、「療養できる部屋やトイレなど、住宅環境が整っていないから」(50.0%)、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」(39.5%)の順となっている。

(8) 人生の最終段階における医療について

① 最期を迎えたい場所

問 32 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

<図表> 最期を迎えたい場所

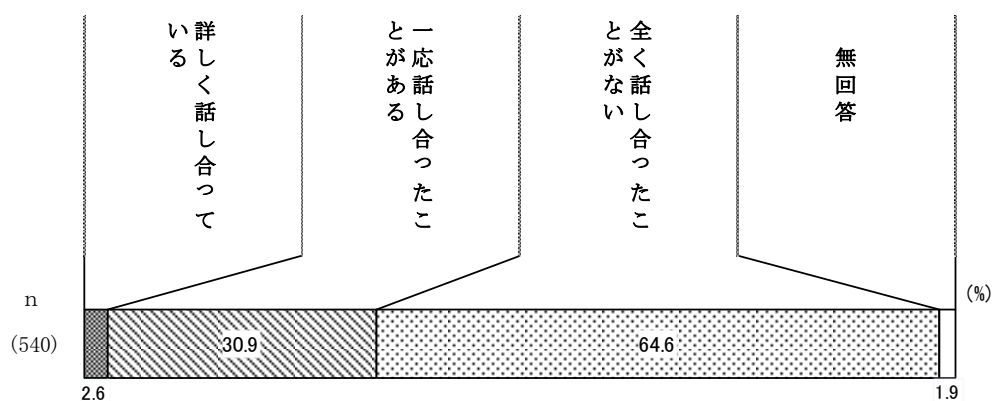


最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」(37.8%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「わからない」(33.0%)、「病院などの医療機関」(15.7%)の順となっている。

② ご家族と話し合った経験

問 33 あなたは、人生の最終段階において受けた医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。(1つに○)

<図表> ご家族と話し合った経験

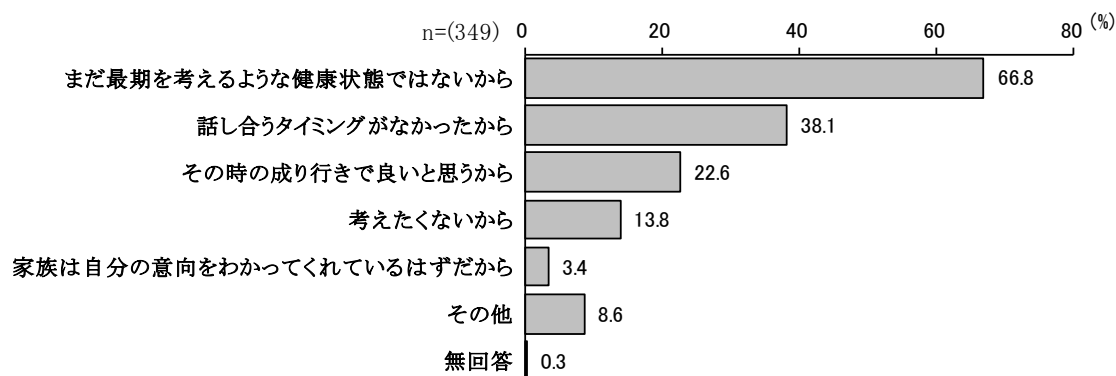


人生の最終段階で受けた医療・受けたくない医療についてご家族と話し合った経験をたずねたところ、「全く話し合ったことがない」(64.6%)が6割台半ば近くとなっている。

③全く話し合ったことがない理由

問 33-1 <<問 33 で「全く話し合ったことがない」を選んだ方のみお答えください
>>
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 全く話し合ったことがない理由 (複数回答)

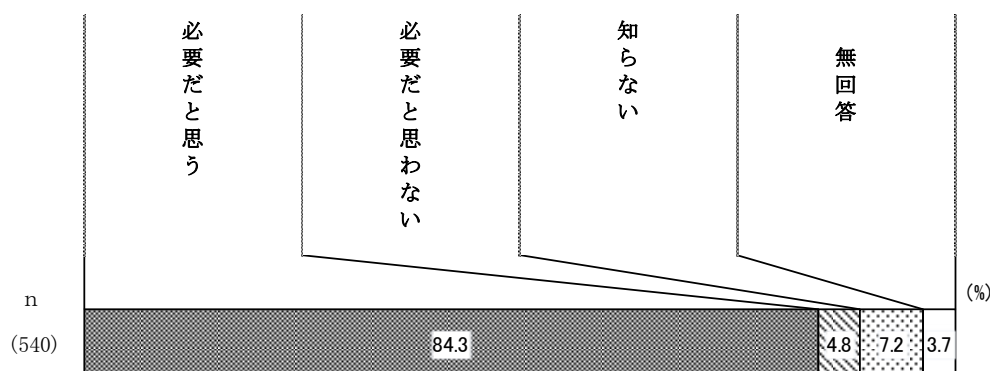


問33で「全く話し合ったことがない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「まだ最期を考えるような健康状態ではないから」(66.8%)が6割台半ばを超えて最も高く、次いで、「話し合うタイミングがなかったから」(38.1%)、「その時の成り行きで良いと思うから」(22.6%)の順となっている。

④エンディングノートなどの作成

問 34 あなたは、自分で判断できなくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいか、あるいは受けたくないかなどを記載した書面(エンディングノートなど)をあらかじめ作成しておくことについて、どう思いますか。(1つに○)

<図表> エンディングノートなどの作成



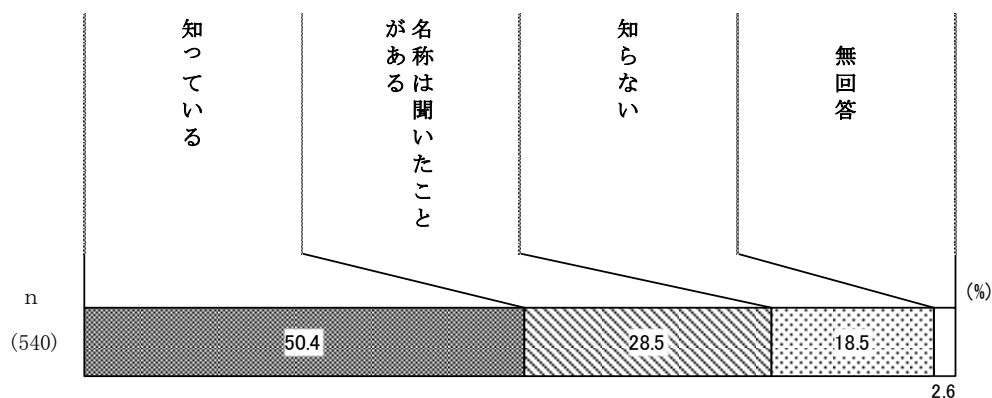
エンディングノートなどの作成についてたずねたところ、「必要だと思う」(84.3%)が8割台半ば近くとなっている。

(9) 緩和ケアについて

① 「緩和ケア」の認知度

問 35 あなたは、「緩和ケア」について、ご存じですか。(1つに○)

<図表> 「緩和ケア」の認知度

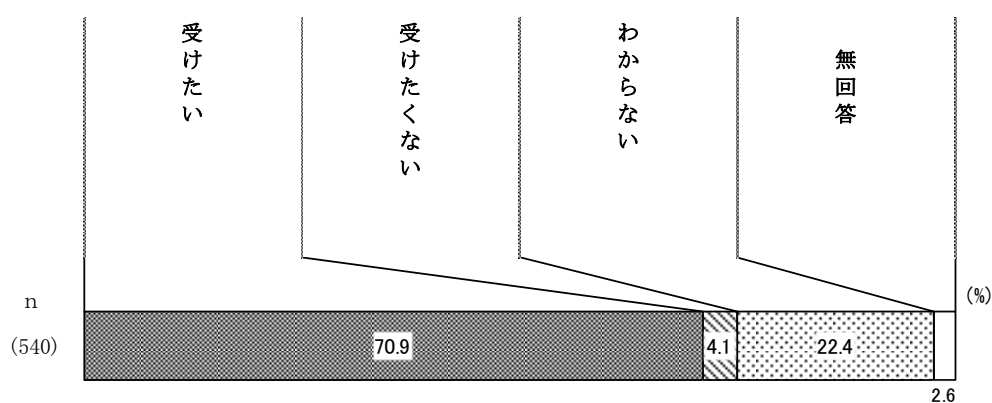


「緩和ケア」の認知度をたずねたところ、「知っている」(50.4%)は約5割、「名称は聞いたことがある」(28.5%)は3割近くとなっている。

② 「緩和ケア」の利用意向

問 36 あなたは、重い病と診断された場合、治療と併せて、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表> 「緩和ケア」の利用意向

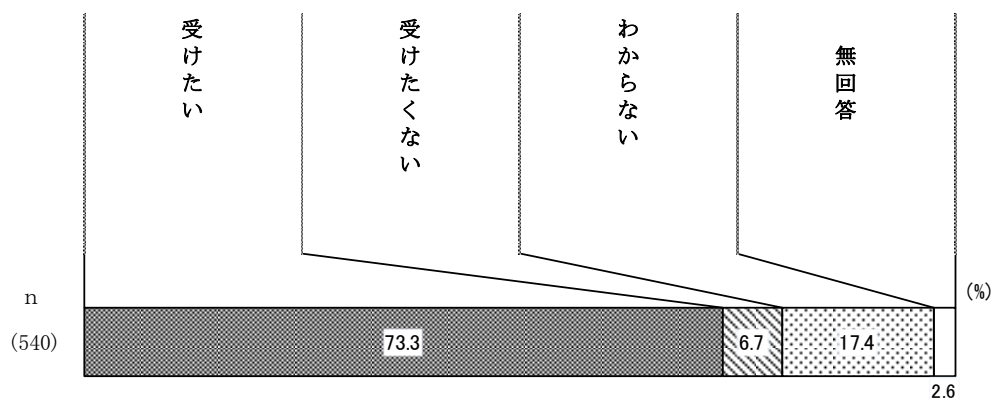


「緩和ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」(70.9%)は約7割となっている。

③症状の緩和を主とした医療・ケアの利用意向

問 37 あなたは、重い病で、回復が期待できない場合、痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表> 症状の緩和を主とした医療・ケアの利用意向



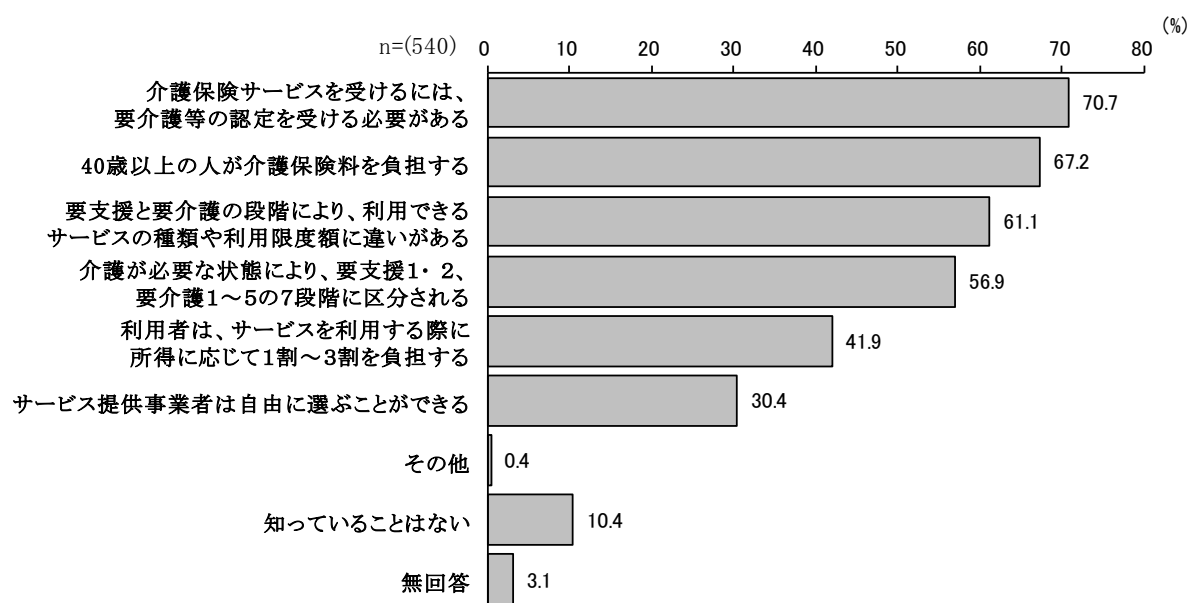
回復が期待できない場合の症状の緩和を主とした「緩和ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」(73.3%)は7割台半ば近くとなっている。

(10) 介護保険制度について

①介護保険制度の周知状況

問 38 あなたは「介護保険制度」について、どのようなことをご存じですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 介護保険制度の周知状況（複数回答）

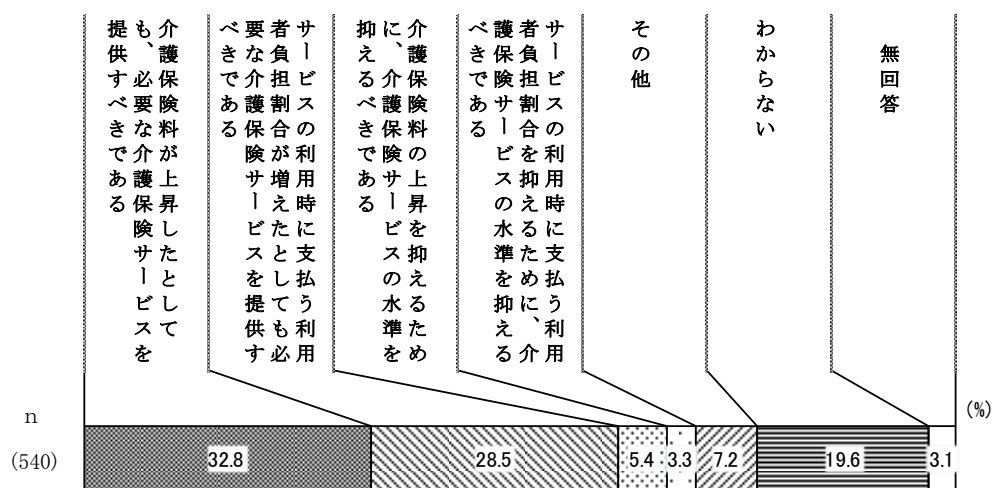


介護保険制度の周知状況をたずねたところ、「介護保険サービスを受けるには、要介護等の認定を受ける必要がある」（70.7%）が約7割で最も高く、次いで、「40歳以上の方が介護保険料を負担する」（67.2%）、「要支援と要介護の段階により、利用できるサービスの種類や利用限度額に違いがある」（61.1%）の順となっている。

②介護保険のサービスと費用負担について

問 39 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表> 介護保険のサービスと費用負担について



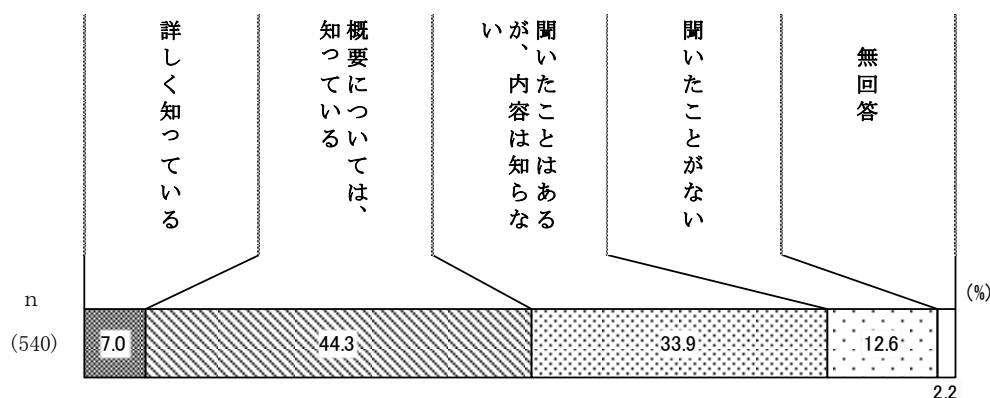
介護保険のサービスと費用負担についてたずねたところ、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(32.8%)が3割強と最も高く、次いで、「サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」(28.5%)の順となっている。

(11) 権利擁護について

① 成年後見制度の認知度

問 40 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

<図表> 成年後見制度の認知度

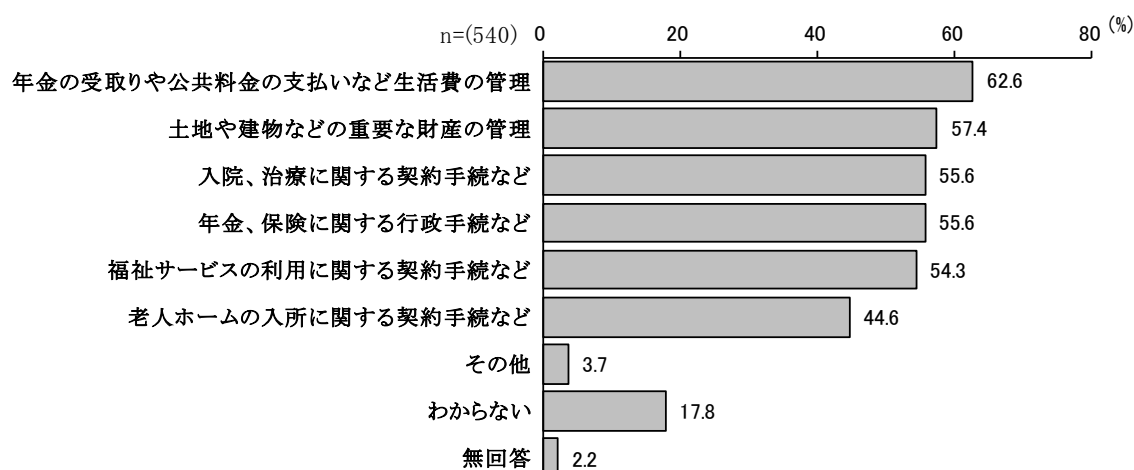


成年後見制度の認知度をたずねたところ、「概要については、知っている」(44.3%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(33.9%)、「詳しく知っている」(7.0%)の順となっている。

② 成年後見制度に期待する役割

問 41 あなたが成年後見制度に期待する役割は何ですか。
すでに利用している方もお答えください。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 成年後見制度に期待する役割 (複数回答)

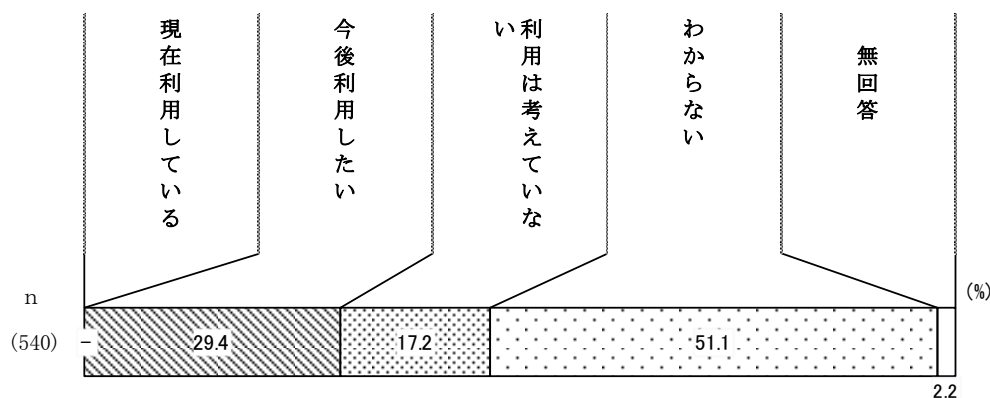


成年後見制度に期待する役割をたずねたところ、「年金の受取りや公共料金の支払いなど生活費の管理」(62.6%)が6割強と最も高く、次いで、「土地や建物などの重要な財産の管理」(57.4%)となっている。

③成年後見制度の利用意向

問 42 あなたは、あなた自身が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

<図表> 成年後見制度の利用意向



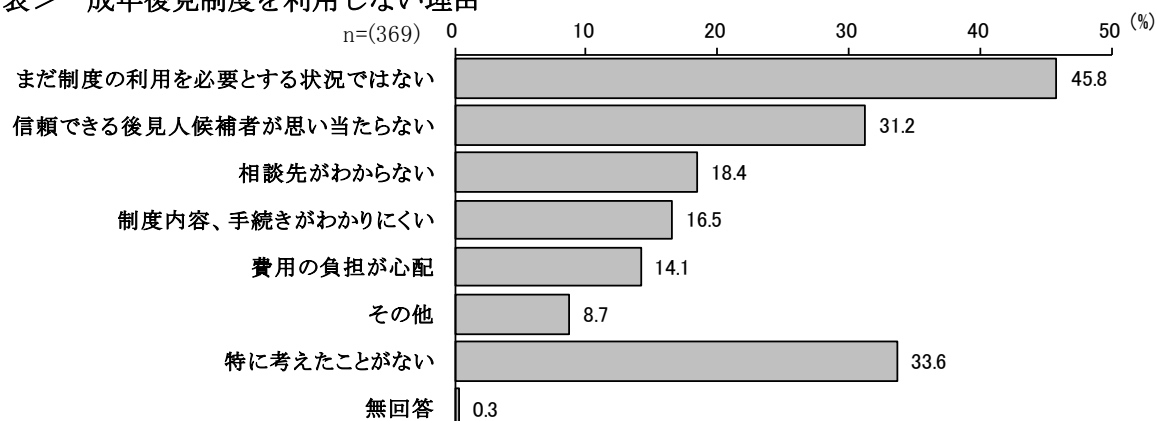
成年後見制度の利用意向をたずねたところ、「わからない」(51.1%)が5割強で最も高く、次いで、「今後利用したい」(29.4%)が3割弱、「利用は考えていない」(17.2%)が約3割の順となっている。

④成年後見制度を利用しない理由

問 42-1 <<問 42 で「利用は考えていない」または「わからない」を選んだ方のみお答えください>>

あなた自身が、成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 成年後見制度を利用しない理由

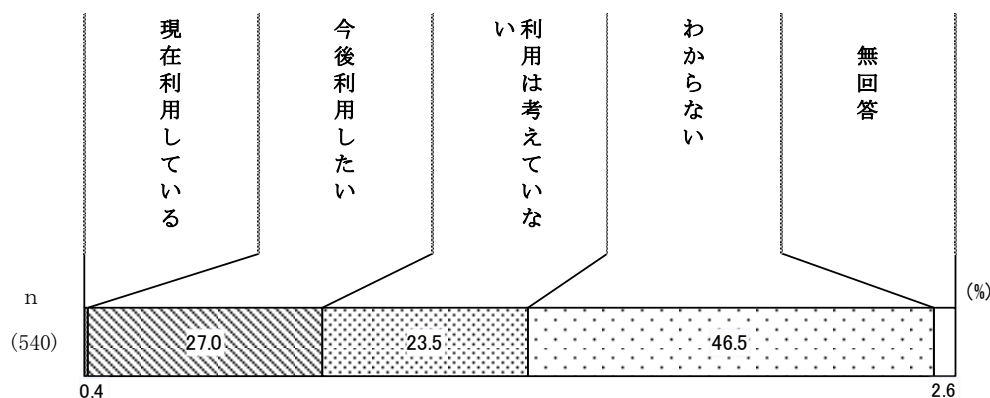


問42で「利用は考えていない」または「わからない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」(45.8%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「信頼できる後見人候補者が思い当たらない」(31.2%)、「相談先がわからない」(18.4%)の順となっている。

⑤家族・親族への成年後見制度の利用意向

問 43 あなたは、家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

<図表> 家族・親族への成年後見制度の利用意向



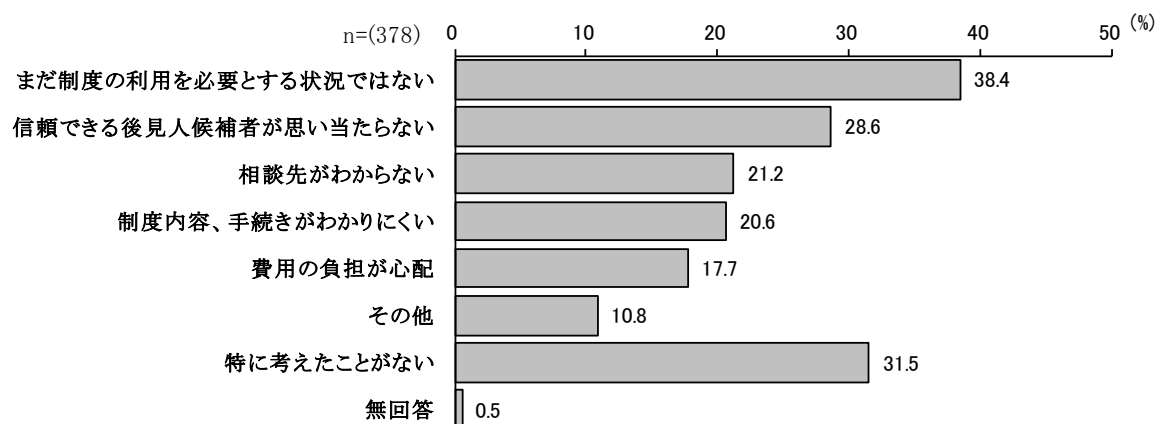
家族・親族への成年後見制度の利用意向をたずねたところ、「わからない」(46.5%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「今後利用したい」(27.0%)、「利用は考えていない」(23.5%)となっている。

⑥家族・親族の成年後見制度を利用しない理由

問 43-1 <<問 43 で「利用は考えていない」または「わからない」を選んだ方のみお答えください>>

家族・親族が、成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表8> 家族・親族への成年後見制度を利用しない理由



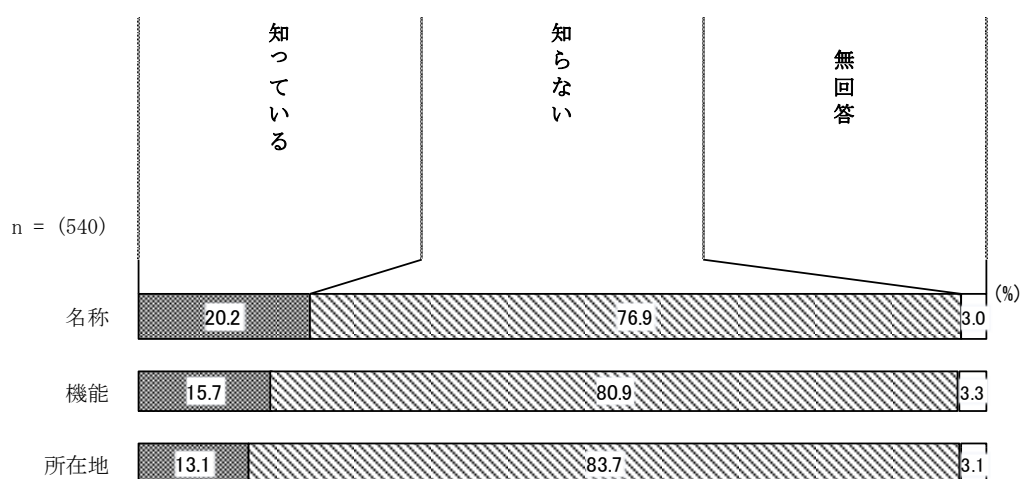
問43で「利用は考えていない」または「わからない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」(38.4%)が4割近くで最も高く、次いで、「信頼できる後見人候補者が思い当たらない」(28.6%)、「相談先がわからない」(21.2%)の順となっている。

(12) 健康・福祉サービスの相談窓口について

① 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度

- 問 44 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか。(1つに○)
- 問 45 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか。(1つに○)
- 問 46 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか。(1つに○)

<図表> 高齢者総合相談センターの名称・機能・所在地の認知度



高齢者総合相談センターの名称の認知度をたずねたところ、「知っている」(20.2%)は約2割となっている。

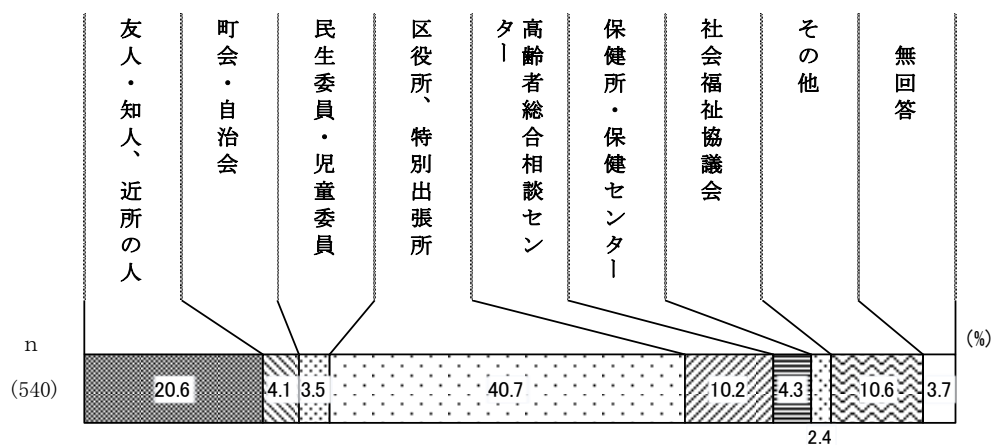
機能の認知度をたずねたところ、「知っている」(15.7%)は1割台半ばとなっている。

所在地の認知度をたずねたところ、「知っている」(13.1%)は1割台半ば近くとなっている。

②地域で困っている高齢者を見かけたときの相談先

問 47 あなたは、地域で困っている高齢者を見かけたり、異変に気付いたとき、どちらに相談しますか（1つに○）

<図表9> 地域で困っている高齢者を見かけたときの相談先



地域で困っている高齢者を見かけたときの相談先をたずねたところ、「区役所、特別出張所」(40.7%)が約4割と最も高く、次いで、「友人・知人、近所の人」(20.6%)、「高齢者総合相談センター」(10.2%)の順となっている。

③高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問 48 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、140人からの回答があった。回答の多かった内容は、「施策全般について」「情報提供・相談について」「介護保険・サービスについて」の順であった。

各事項（その他除く）について、回答の中からいくつかの意見を示す。

施策全般について	情報提供・相談について	介護保険・サービスについて	アンケートについて	人材・ボランティアについて	就労・地域活動について	施設等について	家族等介護者について	医療・保健について	住まいについて	健康・介護予防について	その他
36	24	24	10	9	8	7	6	4	2	2	8

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【施策全般について】

- ・今後様々なサービスを受けなくては暮らせない高齢者が急速に増加することに、漠然とした不安を感じる。
- ・高齢者福祉には金がかかるが、しっかり予算措置をしてとり組んでもらいたい。

【情報提供・相談について】

- ・地域の区民センターなどで、定期的に高齢者の保健と福祉に関するセミナーなどを開催して欲しい。
- ・自分で調べてするのでなく、ある年齢になったらこのような制度があると区から連絡して欲しい。

【介護保険・サービスについて】

- ・介護認定を受ける際の手続きや、期間の簡略化に期待。申請して認定が下りるまでの期間で悪化してしまったりする。
- ・介護士の地位、収入を向上させて、質の高い安心して任せられる介護制度のしくみの構築を望みます。

【アンケートについて】

- ・必要にならなければ知識を得ることもない。つい後回しにしてしまいがちな内容であると思う。自分に気付かされるアンケートでした。
- ・健康状態も悪くないので、あまり深く介護の備えについて考えておりませんでした。今日のアンケートをきっかけに、家族とも少しずつ話し合ってみたいと思います。

【人材・ボランティアについて】

- ・地域の支え合いやボランティアを考えたときには、現実的に時間と金銭的、精神的な負担が極力少ないことが必要な条件になってくると思います。

【就労・地域活動について】

- ・高齢者との交流を、仕事などをリタイヤした準高齢者が世話ができると良いと思う。そういったサイクルが生まれると良いと思う。

【施設等について】

- ・高額ではなく、安心して入居できる施設を設けていただきたい。

【家族等介護者について】

- ・高齢者の自立支援と共に介護家族の支援も必要かと思えます。

【医療・保健について】

- ・エンディングノートの作成が一般的になるように、何らかの働きかけをした方がよいのではないか。望まない延命により医療費が増えるのを抑えるため。

【住まいについて】

- ・高齢の一人世帯の人間が、家を借りやすくするとか、区で買い上げ、借り上げの集合住宅をそういった人たちに貸すとか、そういったことも考えていただければありがたいと思いました。

【健康・介護予防について】

- ・自分の健康は自らが守るという観点から、スポーツ、ランニング、散歩や歩くことを推奨。

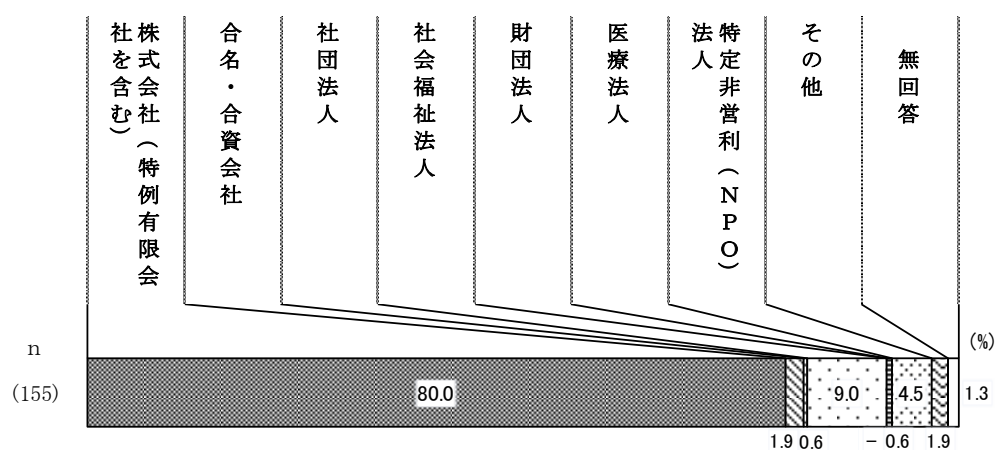
5 ケアマネジャー調査

(1) 貴事業所の概要について

①事業所の組織(法人格)

問1 あなたの所属する事業所の組織(法人格)は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表> 事業所の組織(法人格)

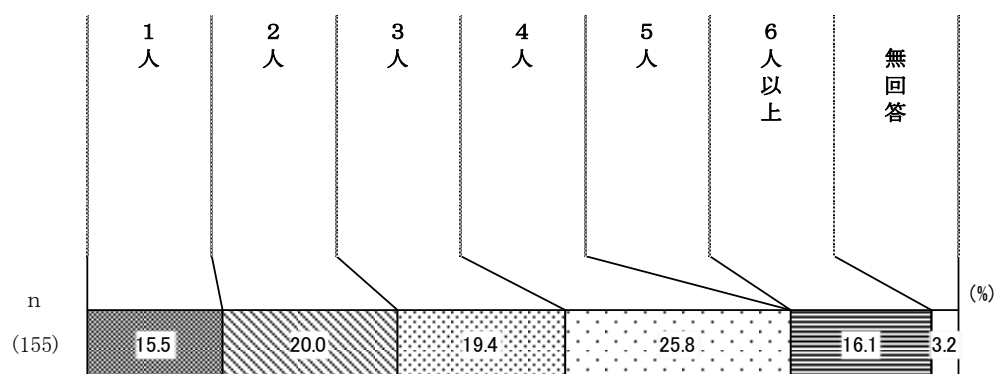


事業所の組織(法人格)をたずねたところ、「株式会社(特例有限会社を含む)」(80.0%)が8割となっている。

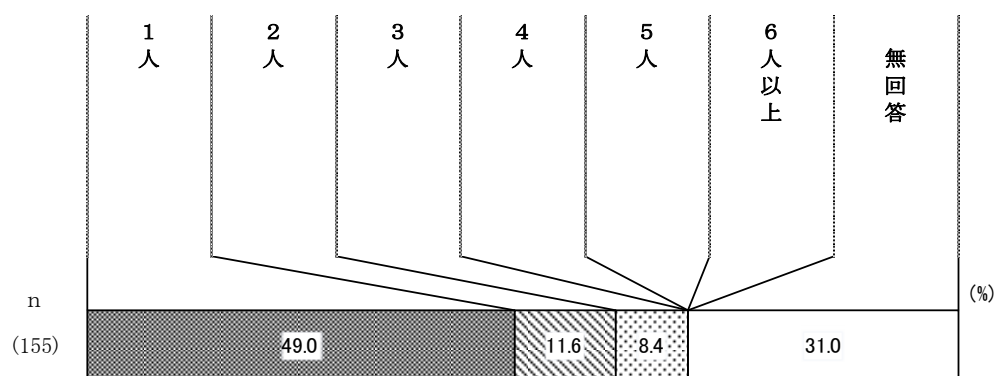
②居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数

問2 あなたの居宅介護支援事業所のケアマネジャーは、あなたも含めて何人ですか。そのうち、主任ケアマネジャーは何人ですか。
※ 勤務形態等を問わず、実人数を記入してください。

＜図表＞ 居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数



＜図表＞ 主任ケアマネジャーの人数



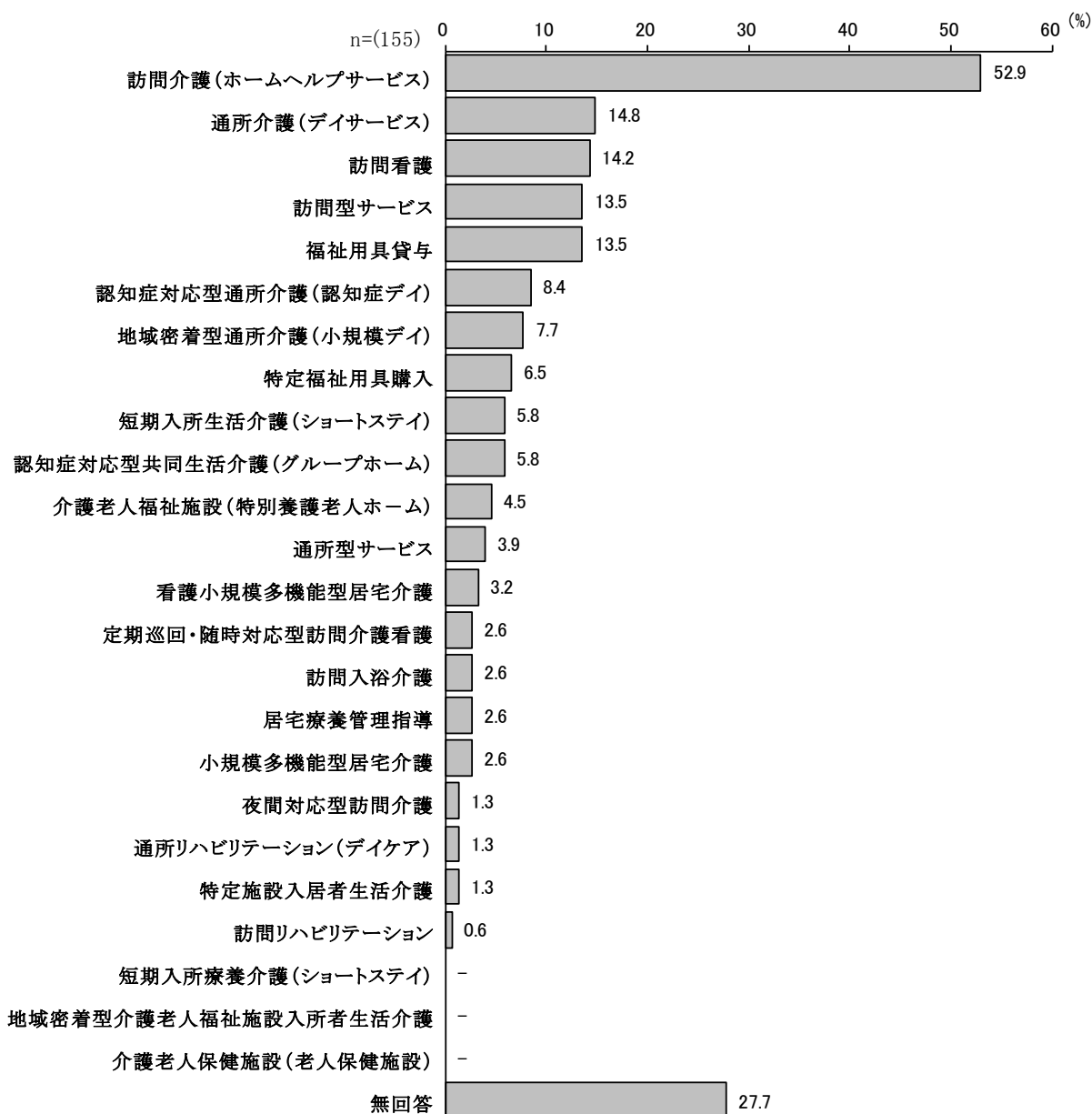
居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数をたずねたところ、「4人」(25.8%)が2割台半ば、「2人」(20.0%)が2割となっている。

主任ケアマネジャーの人数をたずねたところ、「1人」(49.0%)が5割弱となっている。

③運営しているサービス内容

問3 あなたの所属する事業所が、居宅介護支援事業の他に提供しているサービスは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)
 ※下記サービスには介護予防も含めてお答えください。

<図表> 運営しているサービス内容 (複数回答)



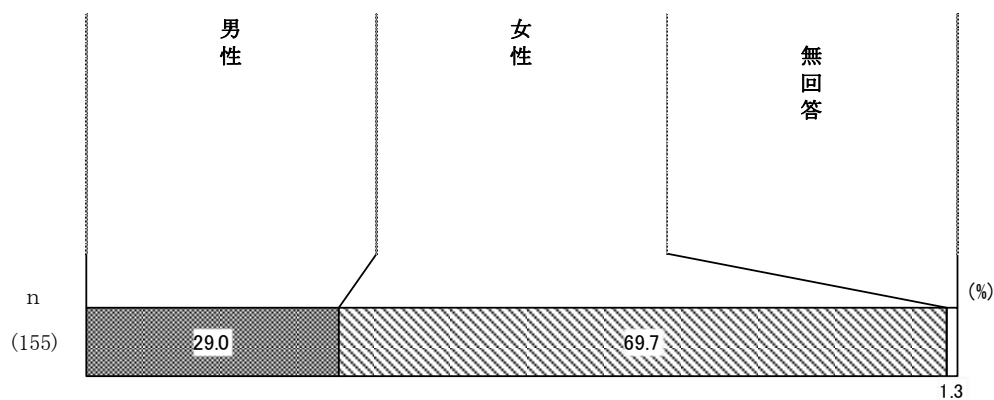
運営しているサービス内容をたずねたところ、「訪問介護 (ホームヘルプサービス)」(52.9%)が5割強と最も高く、次いで、「通所介護 (デイサービス)」(14.8%)、「訪問看護」(14.2%)の順となっている。

(2) あなたご自身のことについて

①性別

問4 あなたの性別をお選びください。(1つに○)

<図表> 性別

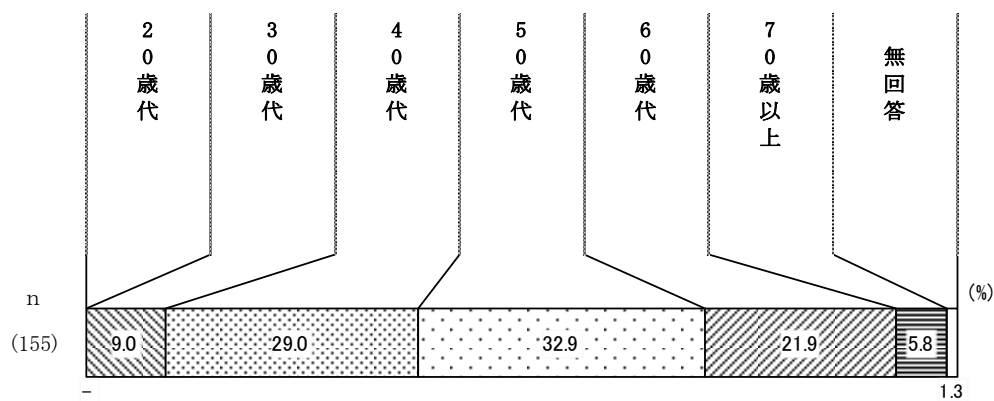


ケアマネジャーの性別をたずねたところ、「女性」(69.7%)が7割弱となっている。

②年齢

問5 あなたの年齢をお選びください。(1つに○)

<図表> 年齢

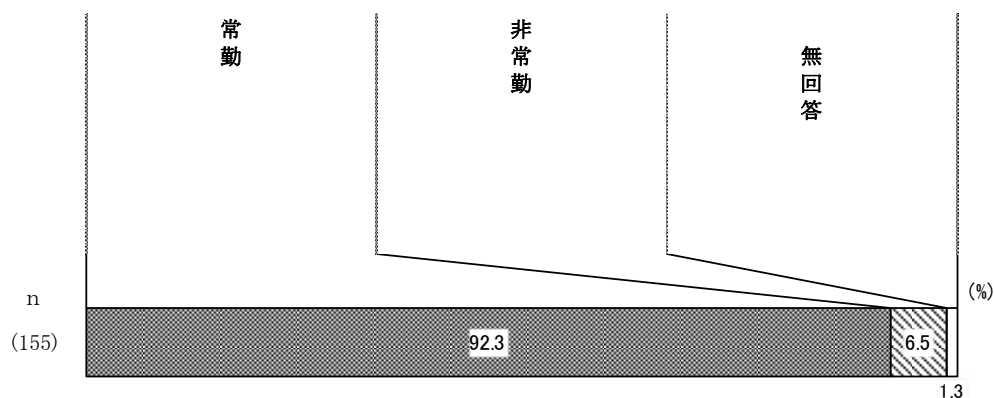


ケアマネジャーの年齢をたずねたところ、「50歳代」(32.9%)が3割強となっている。

③勤務形態

問6 あなたの勤務形態をお選びください。(1つに○)

<図表> 勤務形態

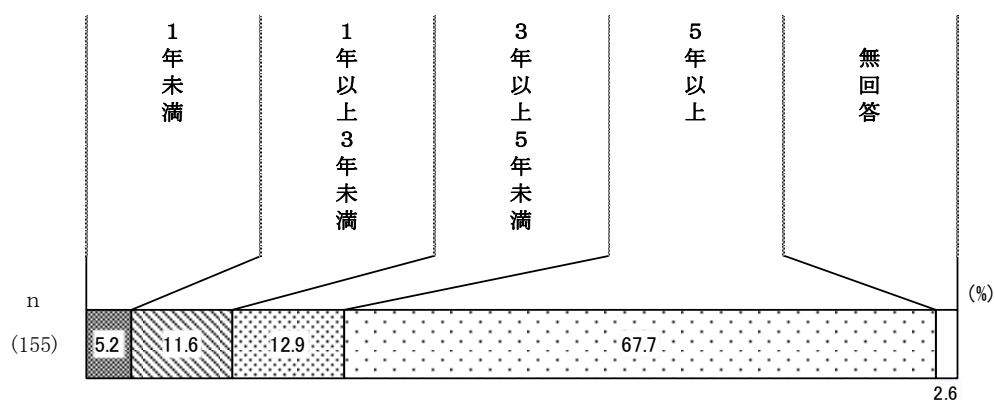


ケアマネジャーの勤務形態をたずねたところ、「常勤」(92.3%)が9割強となっており、「非常勤」(6.5%)は1割未満となっている。

④経験年数

問7 あなたのケアマネジャーの経験年数をお選びください。※他事業所での年数も含む(1つに○)

<図表> 経験年数

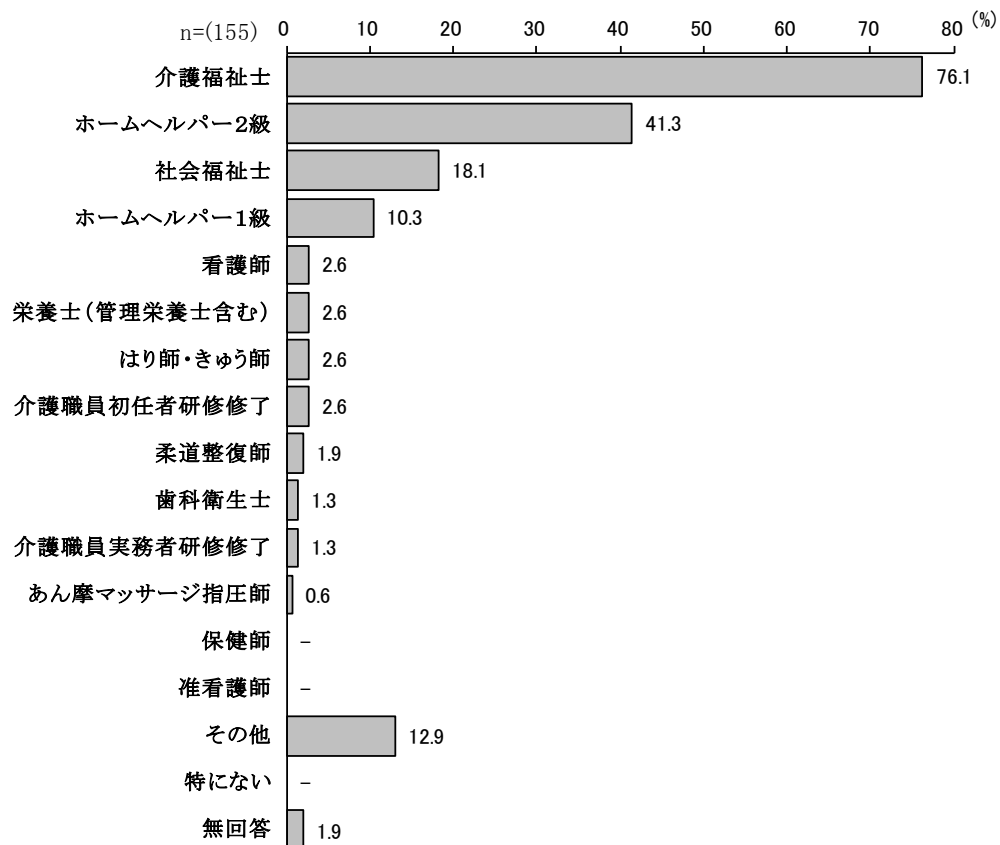


ケアマネジャーの経験年数をたずねたところ、「5年以上」(67.7%)が6割台半ばを超えて最も高くなっている。

⑤介護支援専門員以外に所有している資格

問8 あなたは、介護支援専門員以外にどのような資格をお持ちですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 介護支援専門員以外に所有している資格 (複数回答)



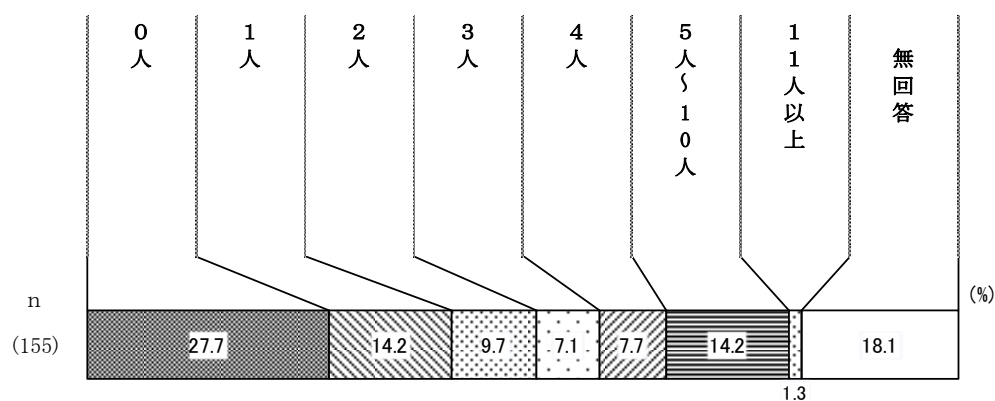
介護支援専門員以外に所有している資格をたずねたところ、「介護福祉士」(76.1%)が7割台半ばを超えて最も高く、次いで、「ホームヘルパー2級」(41.3%)、「社会福祉士」(18.1%)の順となっている。

(3) ケアマネジメントの状況について

①担当している人数

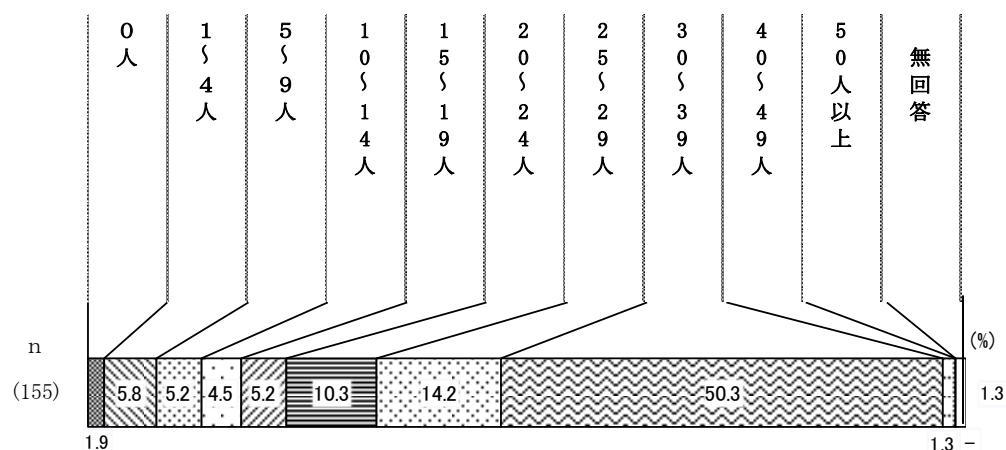
問9 あなたが9月1日現在、担当している人数を教えてください。

<図表> 担当している予防支援者数



担当している予防支援者数をたずねたところ、「0人」(27.7%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで「1人」(14.2%)、「5人～10人」(14.2%)となっている。

<図表> 担当している介護支援者数

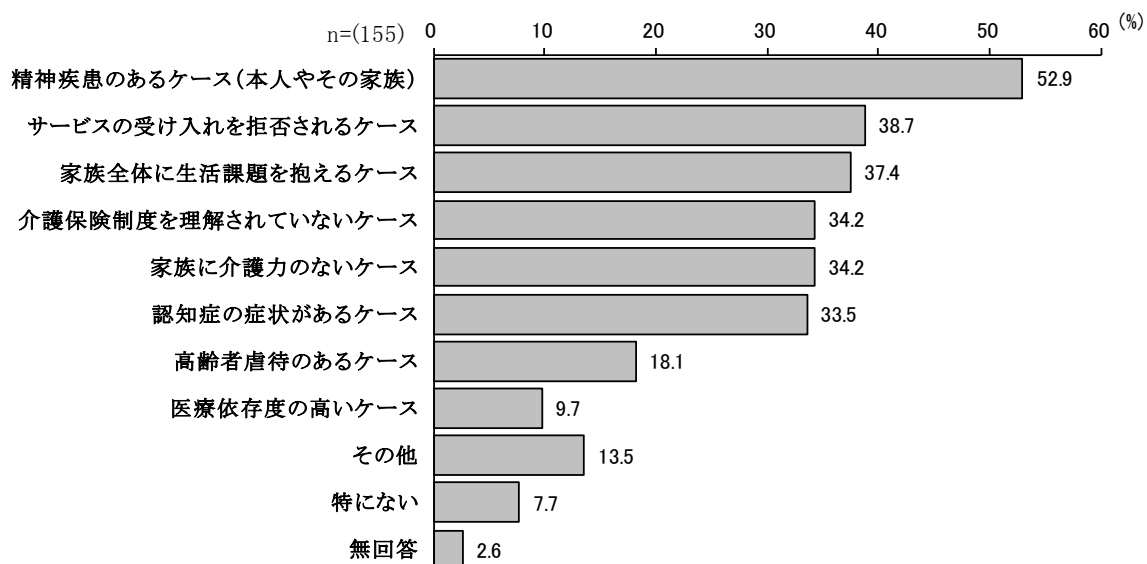


担当している介護支援者数をたずねたところ、「30～39人」(50.3%)が約5割と最も高くなっている。

②過去1年間で、支援困難と感じたケース

問10 過去1年間で、あなたが支援困難と感じたケースは、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 過去1年間で、支援困難と感じたケース（複数回答）

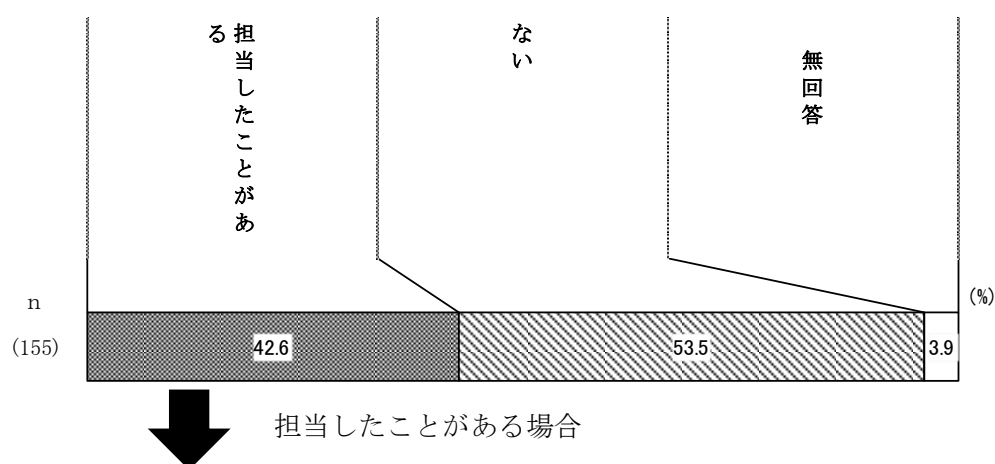


過去1年間で、支援困難と感じたケースをたずねたところ、「精神疾患のあるケース(本人やその家族)」(52.9%)が5割強で最も高く、次いで、「サービスの受け入れを拒否されるケース」(38.7%)、「家族全体に生活課題を抱えるケース」(37.4%)の順となっている。

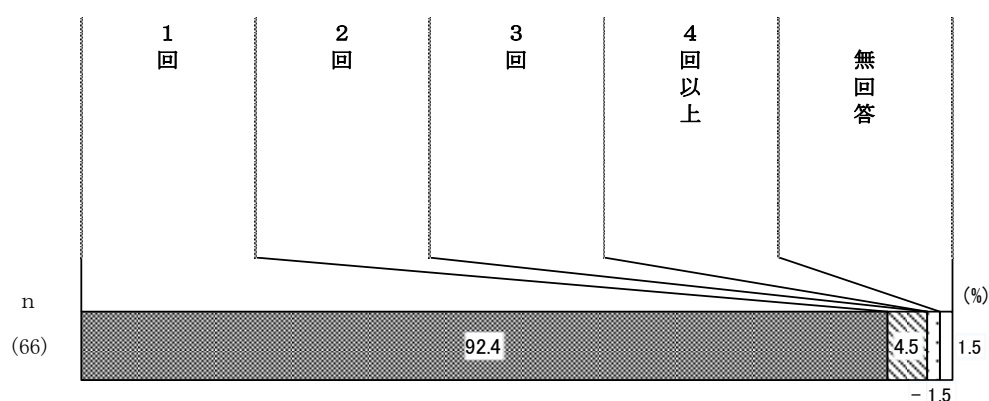
③過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当した経験及び回数

問11 あなたは、過去1年間で、虐待に繋がる可能性のあるケースを担当したことがありますか。なお、ある場合は、回数をご記入ください。

<図表> 過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことの有無



<図表> 過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当した回数



過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことの有無をたずねたところ、「担当したことがある」(42.6%)は4割強となっている。

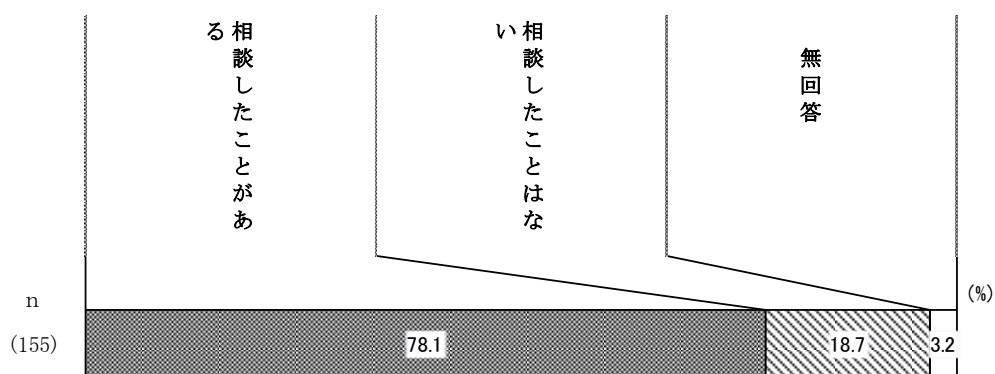
過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当した回数をたずねたところ、「1回」(92.4%)が9割弱となっている。

(4) 高齢者総合相談センターのケアマネジャーへの支援について

①過去1年間の高齢者総合相談センターの利用状況

問12 過去1年間で、あなたは、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。(1つに○)

<図表> 過去1年間の高齢者総合相談センターの利用状況

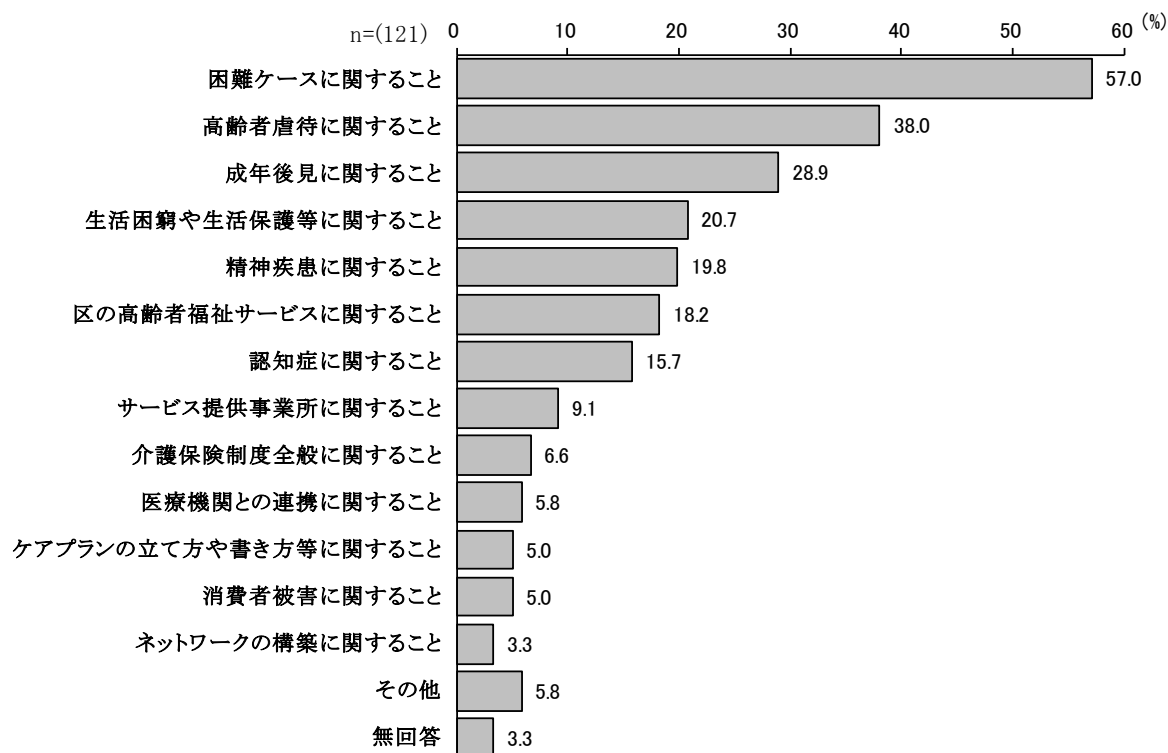


過去1年間の高齢者総合相談センターの利用状況をたずねたところ、「相談したことがある」(78.1%)は8割弱となっている。

②高齢者総合相談センターに相談した分野

問 12-1 《問 12 で「相談したことがある」を選んだ方のみお答えください》
相談した分野は、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

<図表> 高齢者総合相談センターに相談した分野（複数回答）

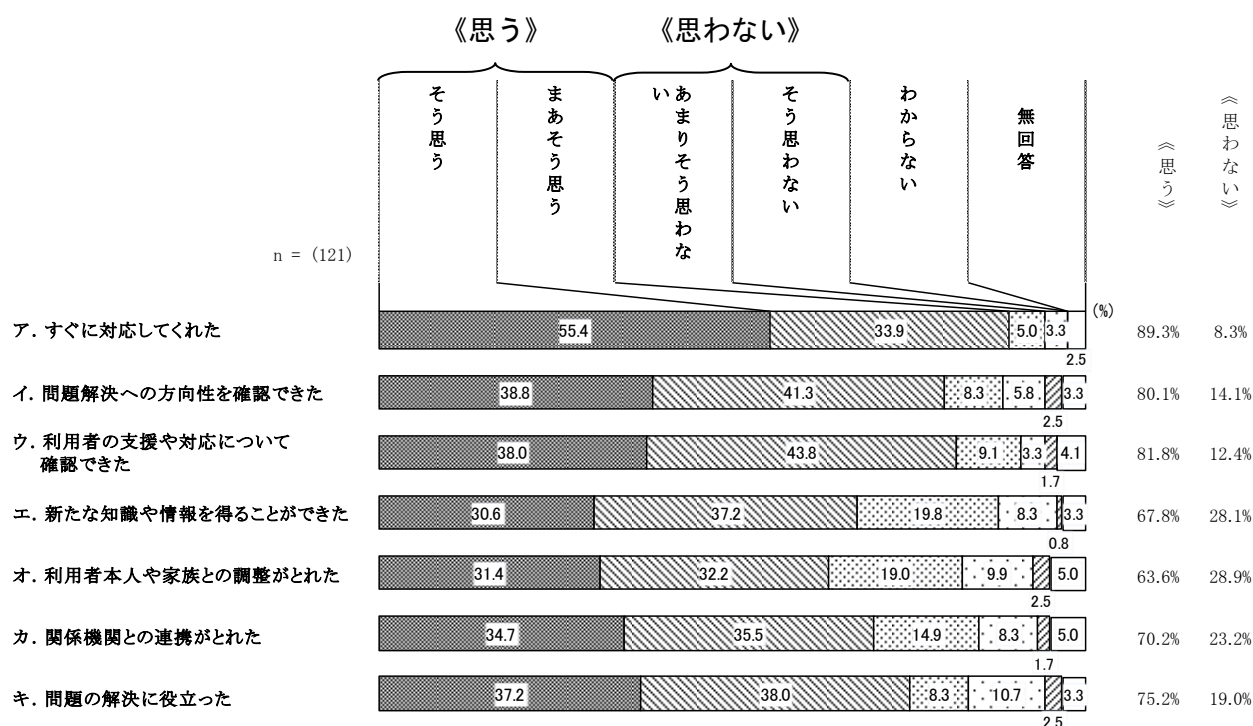


問12で高齢者総合相談センターに「相談したことがある」と回答した人に、相談した分野をたずねたところ、「困難ケースに関すること」（57.0%）が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「高齢者虐待に関すること」（38.0%）、「成年後見に関すること」（28.9%）の順となっている。

③高齢者総合相談センターに対する評価

問 12-2 《問 12 で「相談したことがある」を選んだ方のみお答えください》
 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。(それぞれ1つに○)

<図表> 高齢者総合相談センターに対する評価



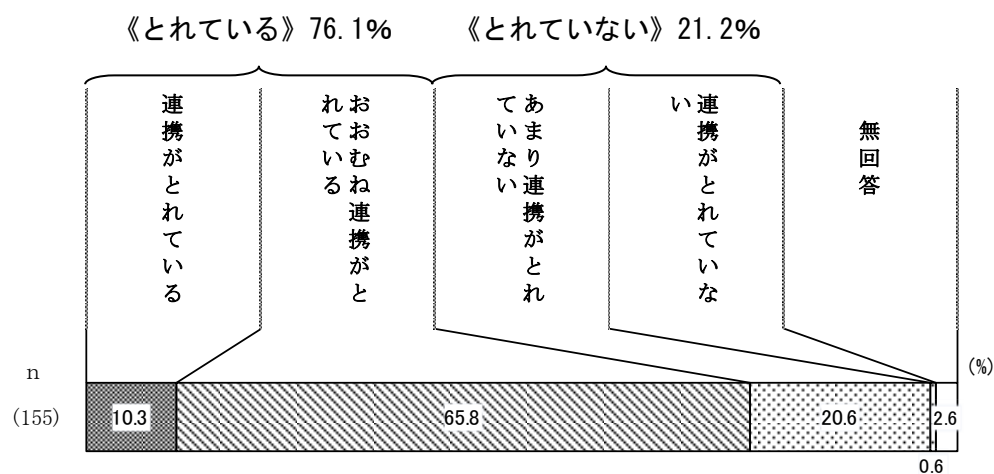
問12で高齢者総合相談センターに「相談したことがある」と回答した人に、高齢者総合相談センターに対する評価をたずねたところ、「そう思う」と「まあそう思う」をあわせた《思う》は、【ア. すぐに対応してくれた】(89.3%)で9割弱と最も高く、次いで【ウ. 利用者の支援や対応について確認できた】(81.8%)、【イ. 問題解決への方向性を確認できた】(80.1%)の順となっている。

(5) 各種連携の状況について

①主治医との連携状況

問 13 あなたはケアマネジャーとして、主治医（かかりつけ診療所・クリニック）との連携はとれていますか。（1つに○）

<図表> 主治医との連携状況

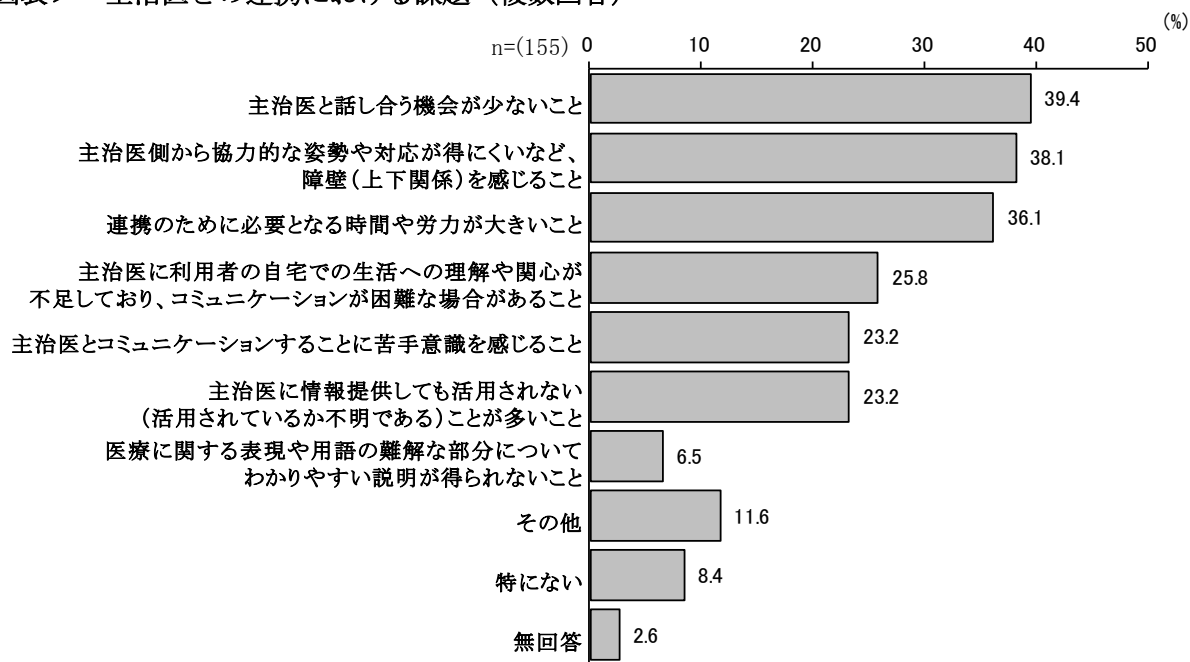


主治医との連携状況をたずねたところ、「連携がとれている」(10.3%)と「おおむね連携がとれている」(65.8%)をあわせた《とれている》(76.1%)が7割台半ばを超えている。

②主治医との連携における課題

問 14 あなた自身の、主治医（かかりつけ診療所・クリニック）との連携における課題は何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

<図表> 主治医との連携における課題（複数回答）

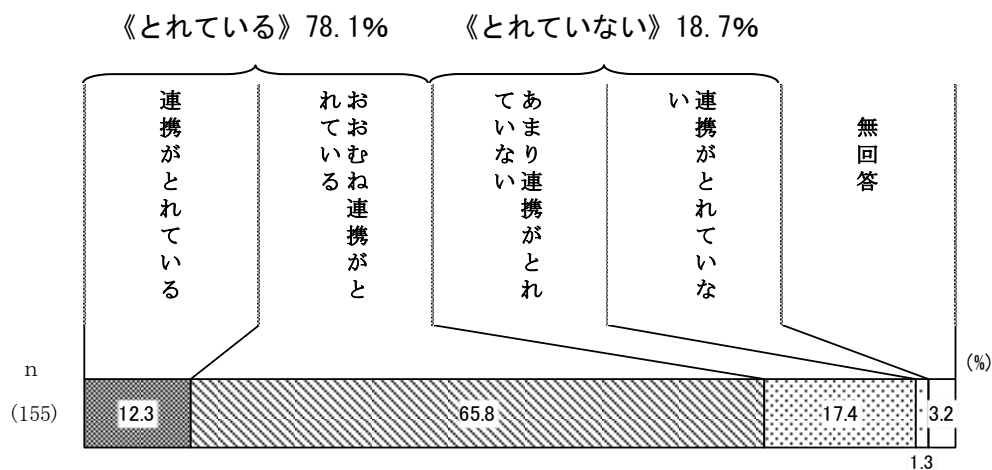


主治医との連携における課題をたずねたところ、「主治医と話し合う機会が少ないこと」(39.4%)が4割弱で最も高く、次いで、「主治医側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁(上下関係)を感じる」(38.1%)、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」(36.1%)の順となっている。

③病院との連携状況

問 15 あなたはケアマネジャーとして、病院（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）との連携状況について、どのように思いますか。（1つに○）

<図表> 病院との連携状況

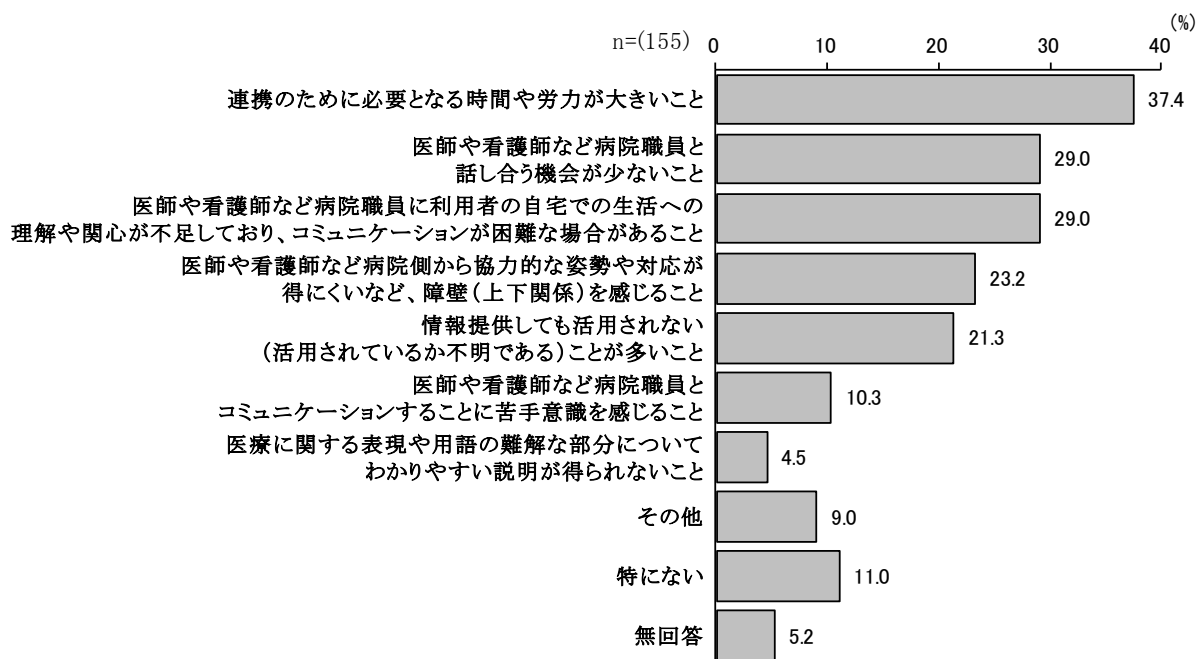


病院との連携状況をたずねたところ、「連携がとれている」（12.3%）と「おおむね連携がとれている」（65.8%）をあわせた《とれている》（78.1%）が8割近くとなっている。

④病院との連携における課題

問 16 あなた自身の、病院（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）との連携における課題は何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

<図表> 病院との連携における課題（複数回答）

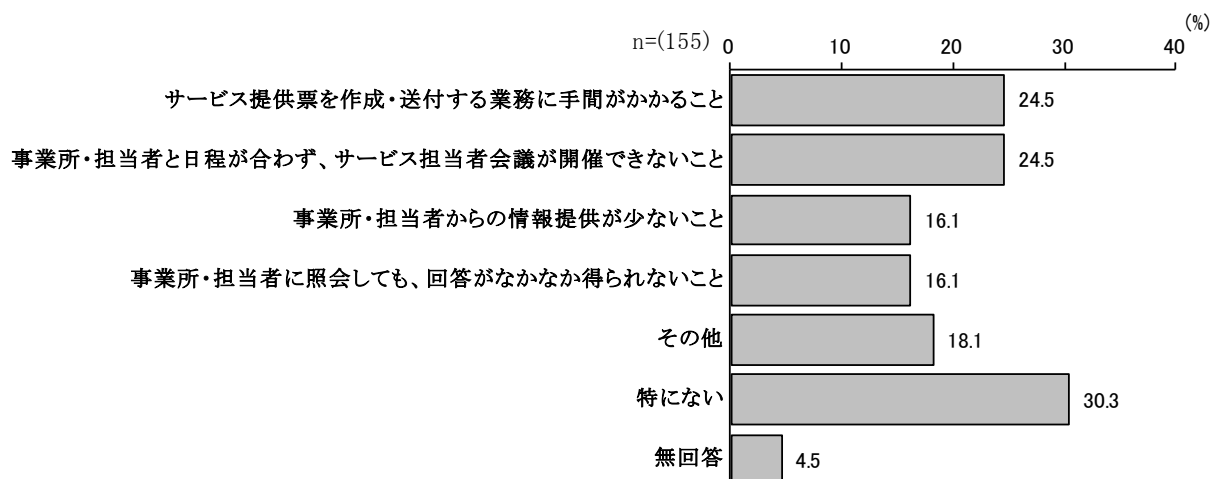


病院との連携における課題をたずねたところ、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」(37.4%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで、「医師や看護師など病院職員と話し合う機会が少ないこと」及び「医師や看護師など病院職員に利用者の自宅での生活への理解や関心が不足しており、コミュニケーションが困難な場合があること」(ともに29.0%)の順となっている。

⑤介護保険サービス事業所との連携における課題

問 17 あなた自身の、介護保険サービス事業所との連携における課題は何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 介護保険サービス事業所との連携における課題（複数回答）

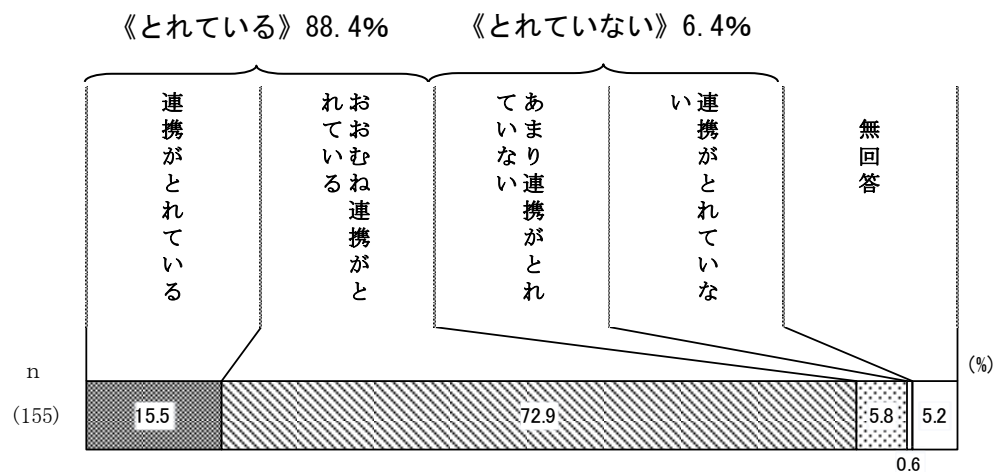


介護保険サービス事業所との連携における課題をたずねたところ、「サービス提供票を作成・送付する業務に手間がかかること」及び「事業所・担当者と日程が合わず、サービス担当者会議が開催できないこと」（ともに24.5%）が2割台半ば近くで最も高くなっている。一方、「特にない」は30.3%であった。

⑥在宅医療・介護連携の状況

問 18 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思いますか。(1つに○)

<図表> 在宅医療・介護連携の状況

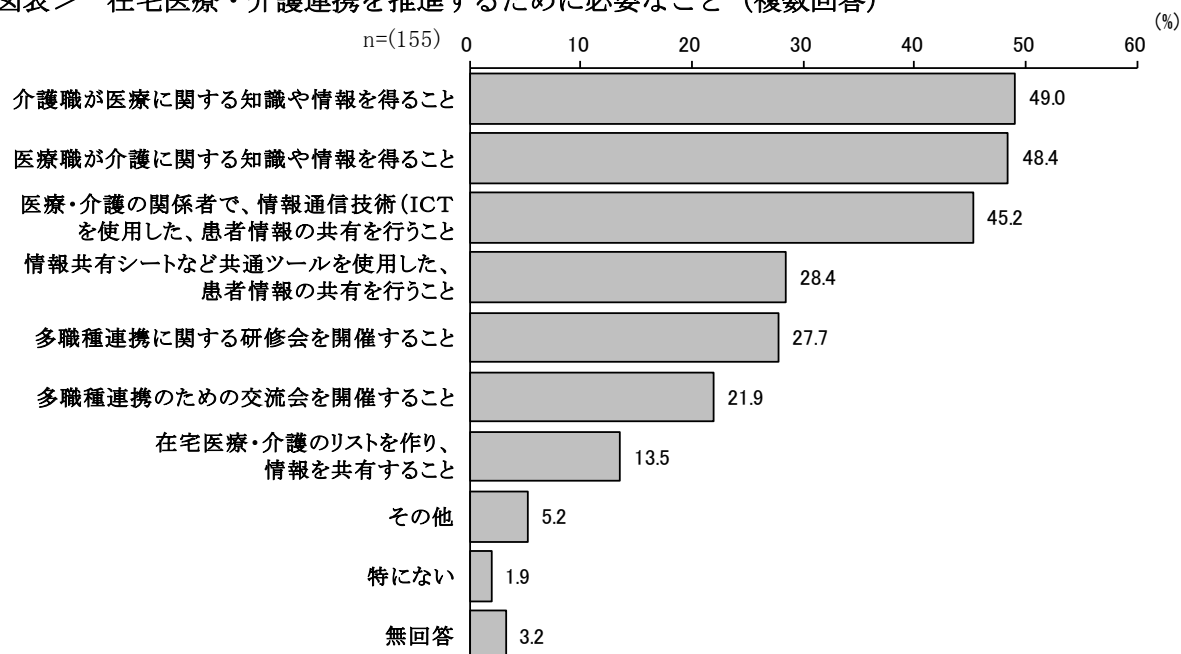


在宅医療・介護連携の状況をたずねたところ、「連携がとれている」(15.5%)と「おおむね連携がとれている」(72.9%)をあわせた《とれている》(88.4%)が9割近くとなっている。

⑦在宅医療・介護連携を推進するために必要なこと

問 19 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

<図表> 在宅医療・介護連携を推進するために必要なこと（複数回答）

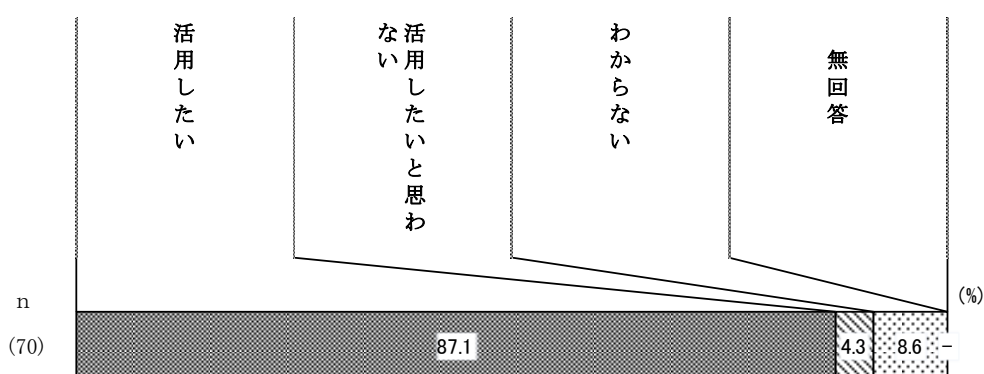


在宅医療・介護連携を推進するために必要なことをたずねたところ、「介護職が医療に関する知識や情報を得ること」(49.0%)が5割近くで最も高く、次いで、「医療職が介護に関する知識や情報を得ること」(48.4%)、「医療・介護の関係者で、情報通信技術 (ICT) を使用した、患者情報の共有を行うこと」(45.2%)の順となっている。一方、「特にない」は1.9%であった。

⑧患者情報の共有のためにICTを活用すること

問 19-1 <<問 19 で「医療・介護の関係者で、情報通信技術（ICT）を使用した、患者情報の共有を行うこと」を選んだ方のみお答えください>>
多職種で患者情報の共有を行うためにICTを活用することについて、どのように考えますか。（1つに○）

<図表> 患者情報の共有のためにICTを活用すること（複数回答）



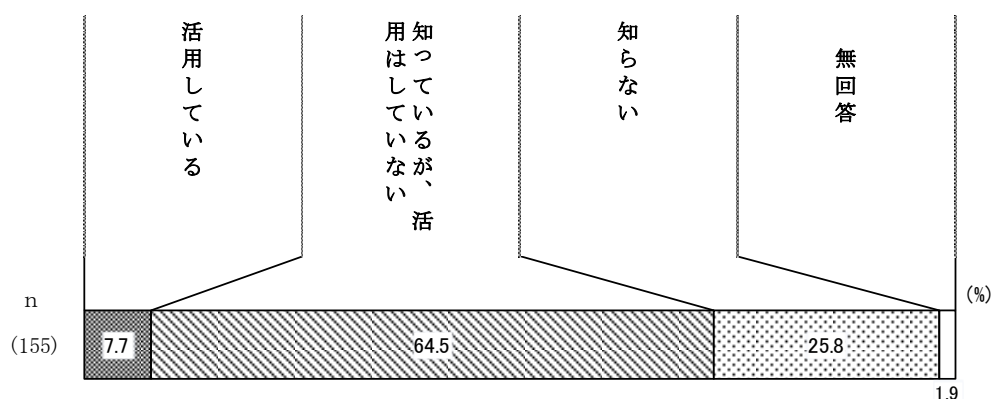
問19で「医療・介護の関係者で、情報通信技術（ICT）を使用した患者情報の共有を行うこと」と回答した人に、患者情報の共有を行うためにICTを活用することをたずねたところ、「活用したい」（87.1%）が8割台半ばを超えて最も高く、次いで「わからない」（8.6%）、「活用したいと思わない」（4.3%）の順となっている。

(6) 在宅医療への対応について

①在宅医療相談窓口の活用状況

問 20 あなたは、区の「在宅医療相談窓口」で、在宅療養に関する医療を中心とした相談が受けられるということをご存じですか。(1つに○)

<図表> 在宅医療相談窓口の活用状況



在宅医療相談窓口の活用状況をたずねたところ、「知っているが活用はしていない」(64.5%)は6割台半ば近くとなっている。

②在宅医療相談窓口で活用していること、期待していること

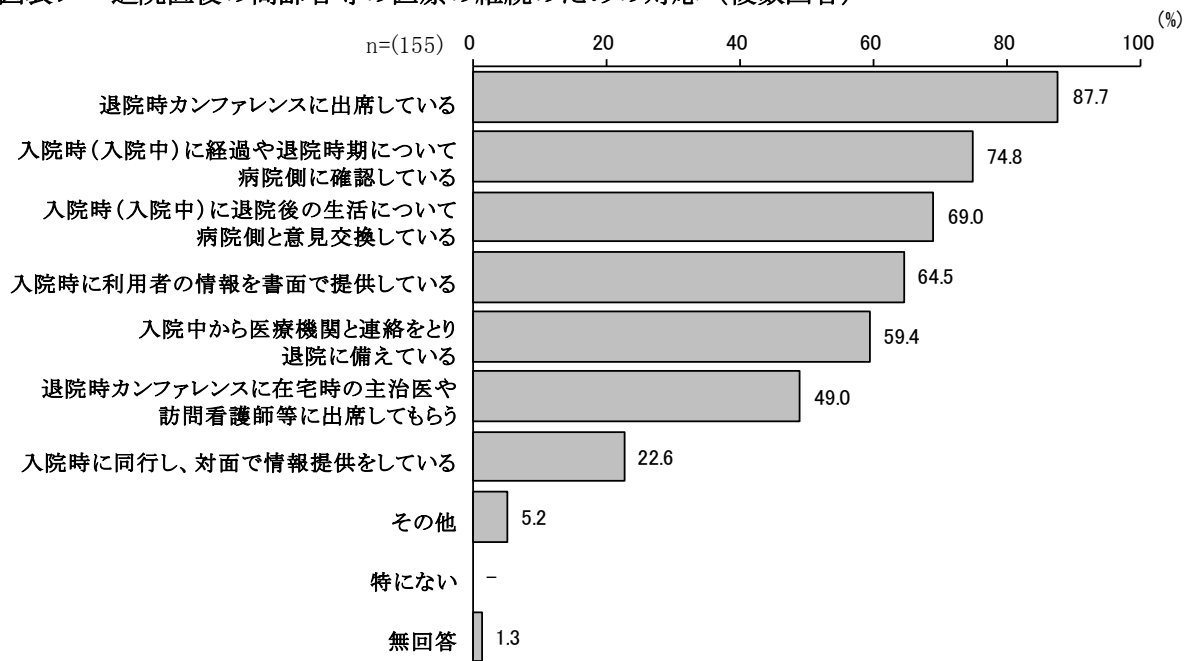
問 20-1 <<問 20 で「活用している」を選んだ方のみお答えください>>
「在宅医療相談窓口」で活用していることや期待することがあれば、ご自由にお書きください。

「在宅医療相談窓口」で活用していることや期待することについて、「情報提供・相談体制が充実している」「病院等との連携体制」といった回答があげられた。

③退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応

問 21 あなたは、利用者が入院しているときの病院との連携について、入院時、退院が決まったとき、退院直後の高齢者等の医療の継続のためにどのように対応していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応（複数回答）



退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応をたずねたところ、「退院時カンファレンスに出席している」(87.7%)が8割台半ばを超えて最も高く、次いで、「入院時(入院中)に経過や退院時期について病院側に確認している」(74.8%)、「入院時(入院中)に退院後の生活について病院側と意見交換している」(69.0%)の順となっている。

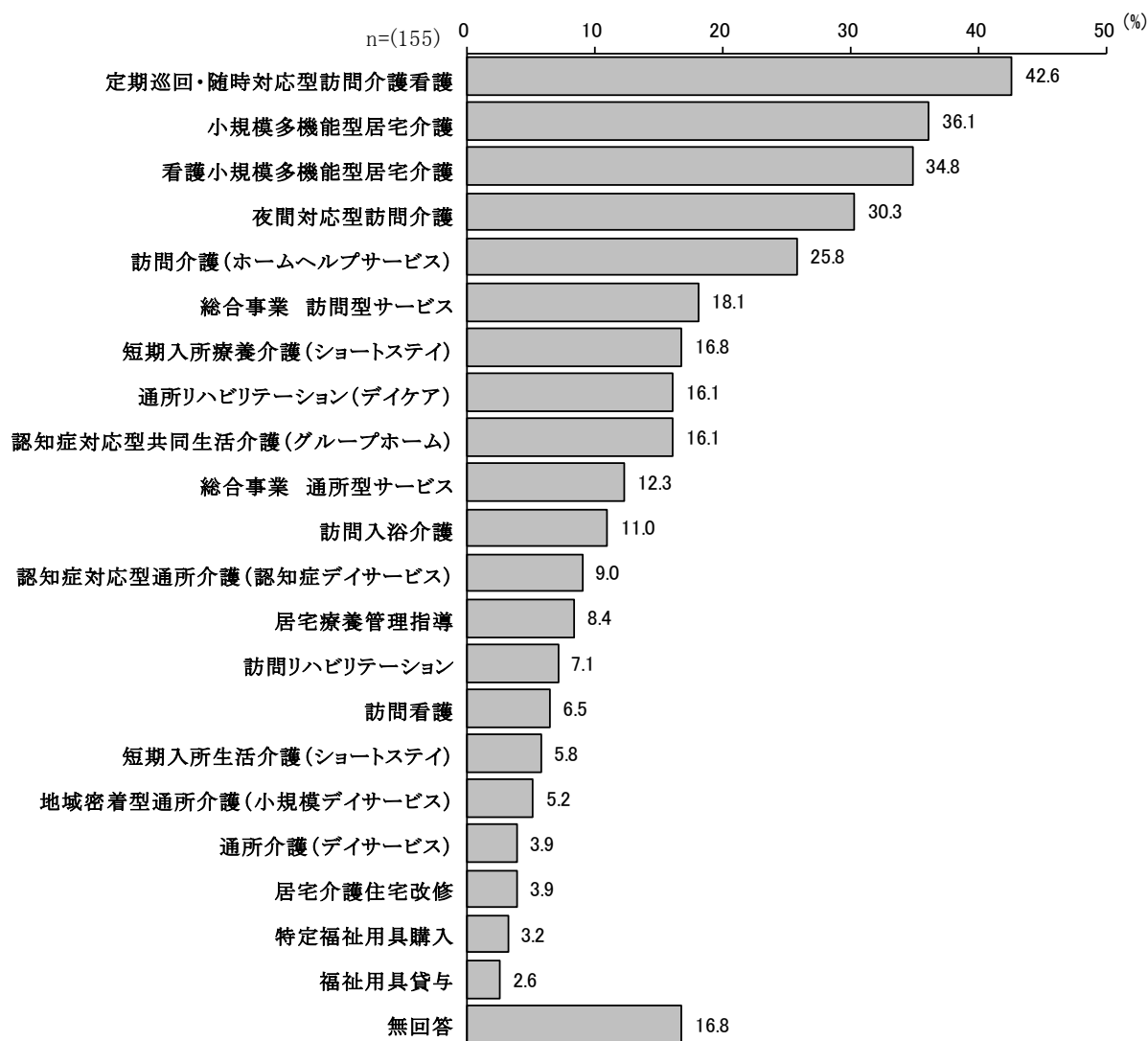
(7) ケアプランへの組み込みについて

①ケアプランの作成にあたって、組みにくいと思うサービスとその理由

問 22 あなたは、ケアプランの作成にあたって、(ア) 組みにくいと思う介護保険のサービスはありますか。ある場合は、(イ) その理由をお答えください。

(ア) ケアプランの作成にあたって、組みにくいと思う介護保険サービス

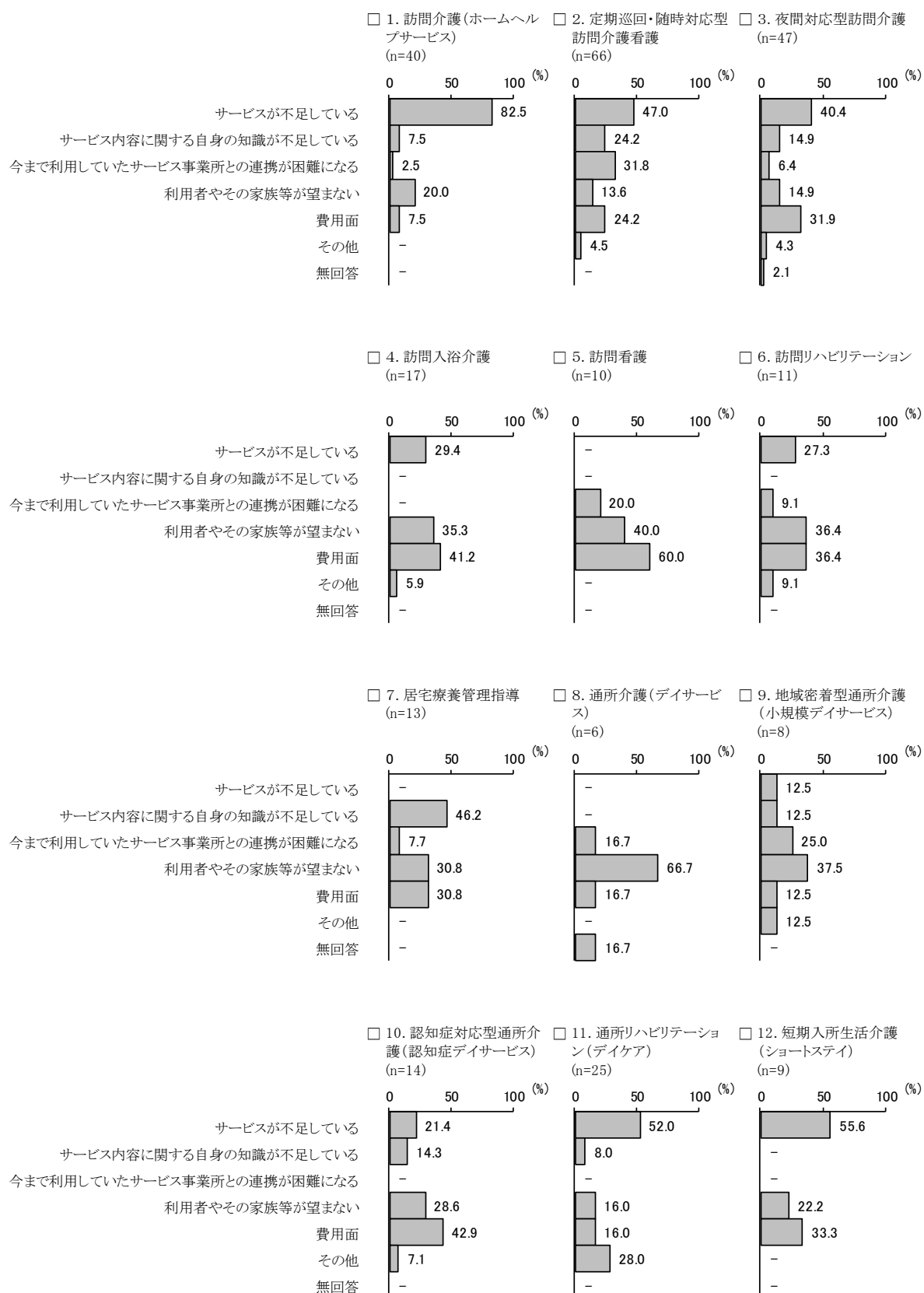
<図表10> ケアプランの作成にあたって、組みにくいと思う介護保険サービス (複数回答)



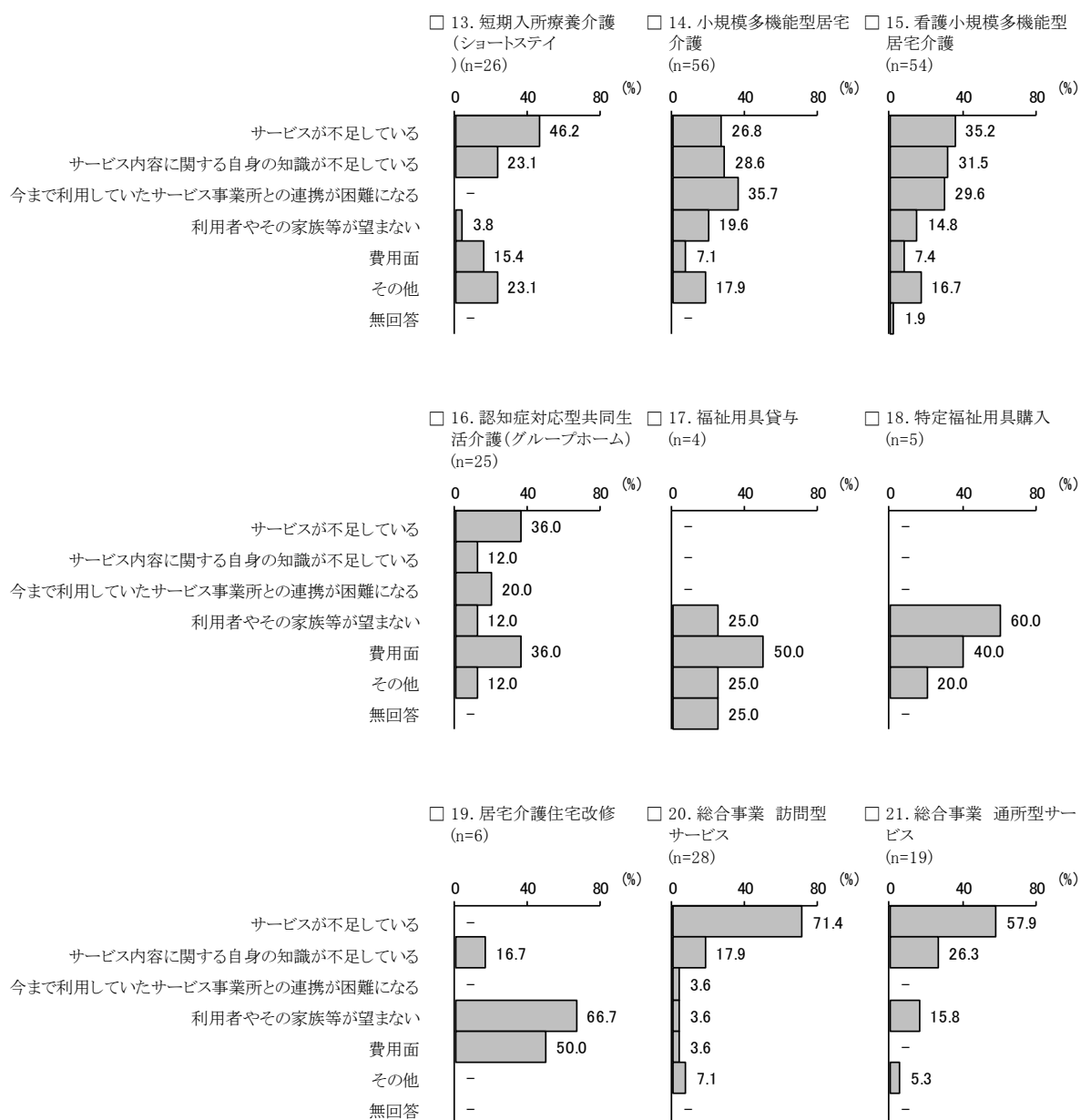
ケアプランの作成にあたって、組みにくいと思うサービスをたずねたところ、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(42.6%)が4割強で最も高く、次いで、「小規模多機能型居宅介護」(36.1%)、「看護小規模多機能型居宅介護」(34.8%)の順となっている。

(イ)ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う理由

<図表11> ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う理由（複数回答）



(次ページに続く)

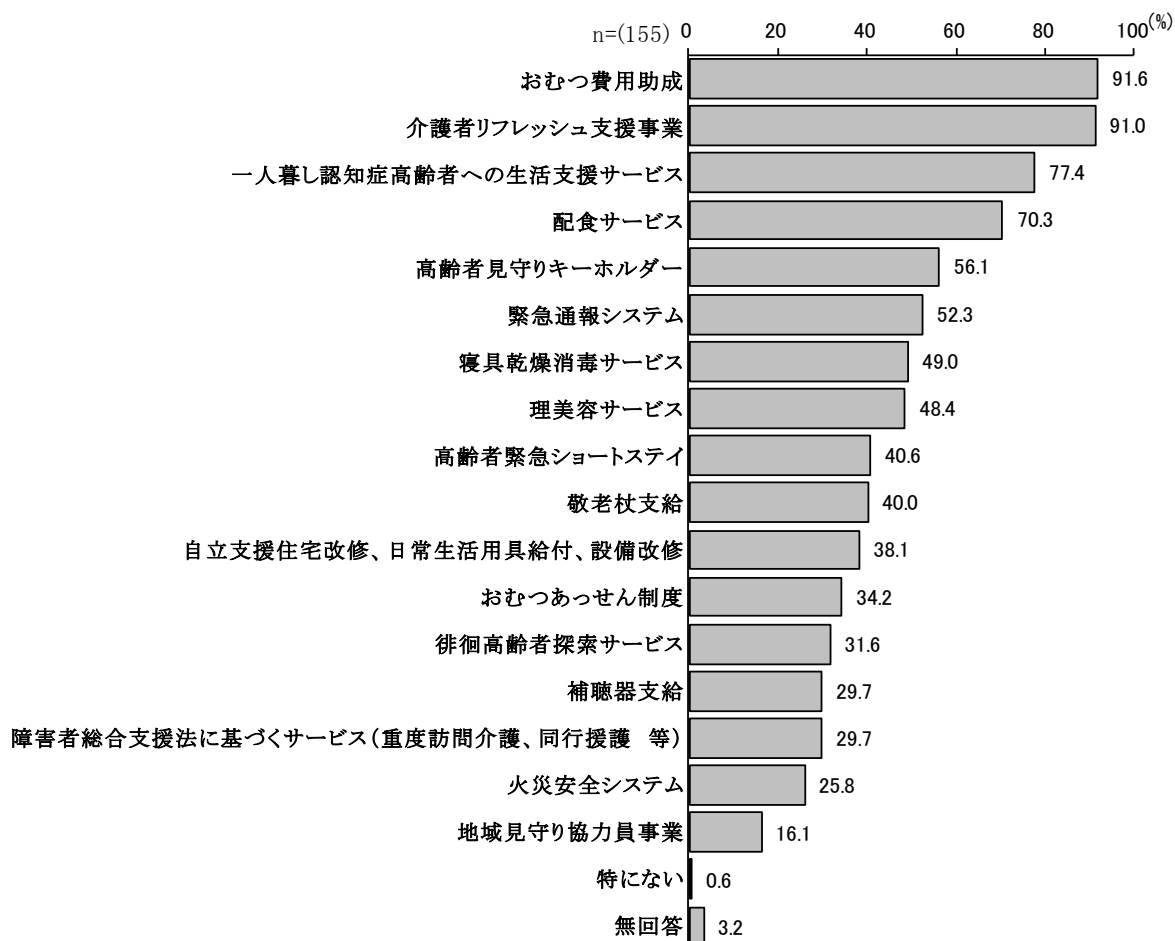


ケアプランの作成にあたって、組みにくいと思う理由をたずねたところ、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の場合、「サービスが不足している」(47.0%)が4割台半ばを超えて最も高くなっている。また、小規模多機能型居宅介護は「今まで利用していたサービス事業所との連携が困難になる」(35.7%)、看護小規模多機能型居宅介護は、「サービスが不足している」(35.2%)が最も高くなっている。

②ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービス

問 23 区などが提供している介護保険外の高齢者福祉サービス等で、あなたがケアプランの作成にあたり、検討するものは、次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

<図表> ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービス（複数回答）



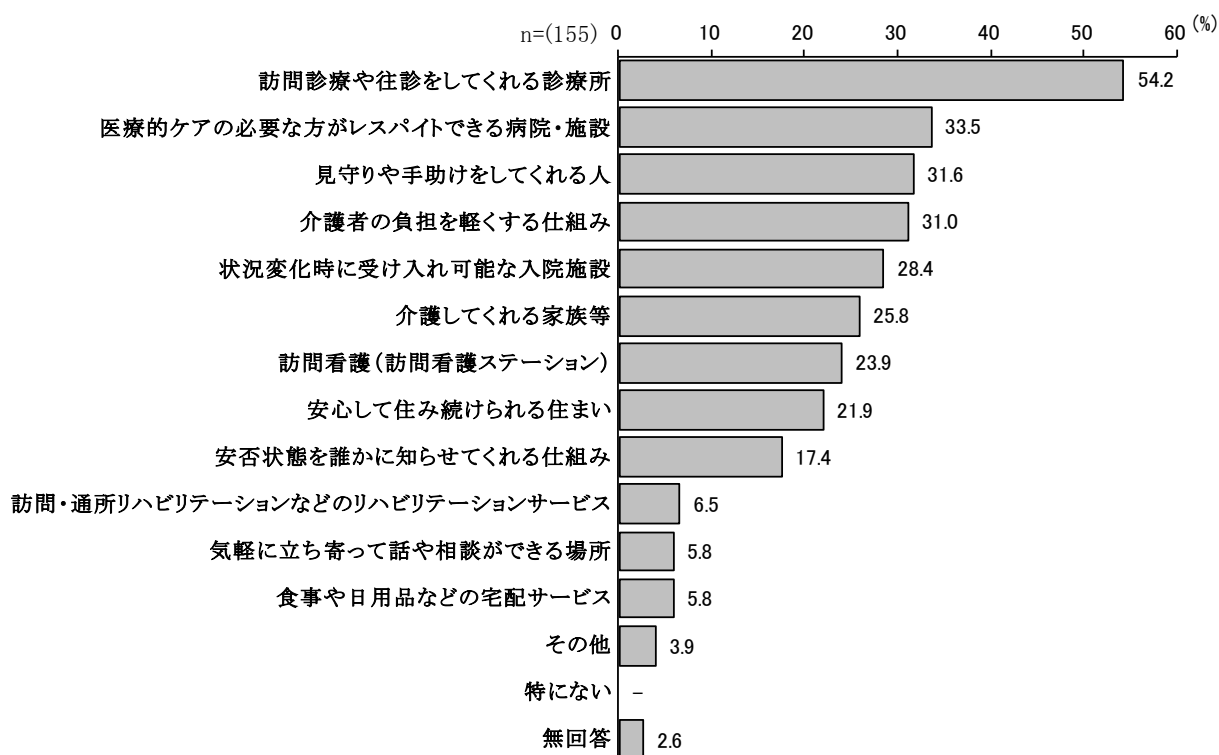
ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービスをたずねたところ、「おむつ費用助成」(91.6%)が最も高く、次いで「介護者リフレッシュ支援事業」(91.0%)、「一人暮らし認知症高齢者への生活支援サービス」(77.4%)、「配食サービス」(70.3%)、「高齢者見守りキーホルダー」(56.1%)の順となっている。

(8) 在宅高齢者に必要な支援について

①高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うもの

問 24 介護や医療が必要になっても、高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものは何ですか。(あてはまるもの3つに○)

<図表> 高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うもの(複数回答)



高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものをたずねたところ、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」(54.2%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで、「医療的ケアが必要な方がレスパイトできる病院・施設」(33.5%)、「見守りや手助けをしてくれる人」(31.6%)の順となっている。

②在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービス

問 25 要介護者等（特に、一人暮らしの高齢者）が、在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービスとして、どのようなものが考えられますか。ご自由にお書きください。

要介護者等（特に、一人暮らしの高齢者）が、在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービスについて、回答の多かった内容は、「見守り・安否確認」「インフォーマルサービス」「生活支援」「リフレッシュサービス」の順であった。

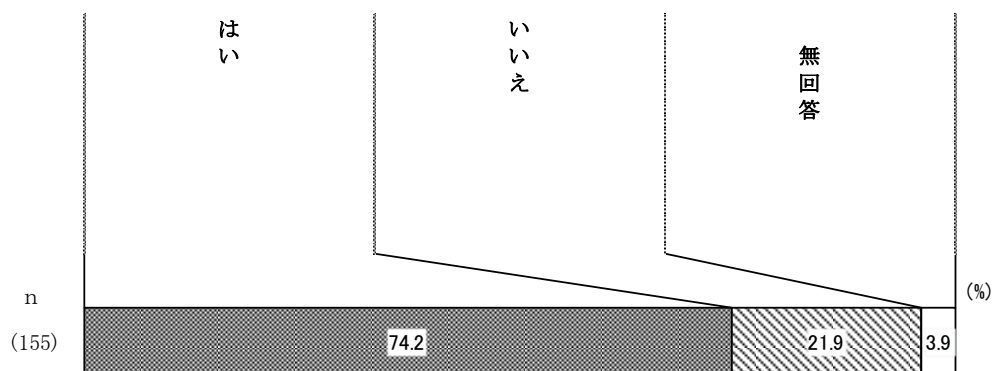
見守り・安否確認	インフォーマルサービス	生活支援	リフレッシュサービス	デイサービス・集いの場	移送・付き添い	訪問介護	在宅医療・服薬管理	相談支援体制	食事・配食サービス	金銭管理
28	11	11	7	6	5	5	5	5	2	2

(9) 認知症について

①認知症に関して相談のできる機関の有無

問 26 あなたには、認知症に関して相談のできる機関がありますか。(○は1つ)

<図表> 認知症に関して相談のできる機関の有無

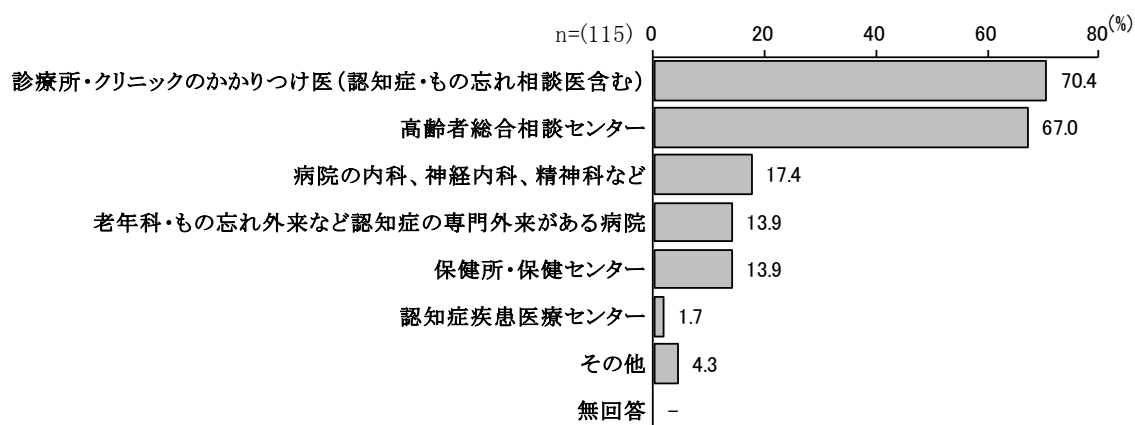


認知症に関して相談のできる機関の有無をたずねたところ、「はい」(74.2%)が7割台半ば近くとなっている。

②認知症に関する相談先

問 26-1 <<問 26 で「はい」を選んだ方のみお答えください>>
どちらに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 認知症に関する相談先 (複数回答)



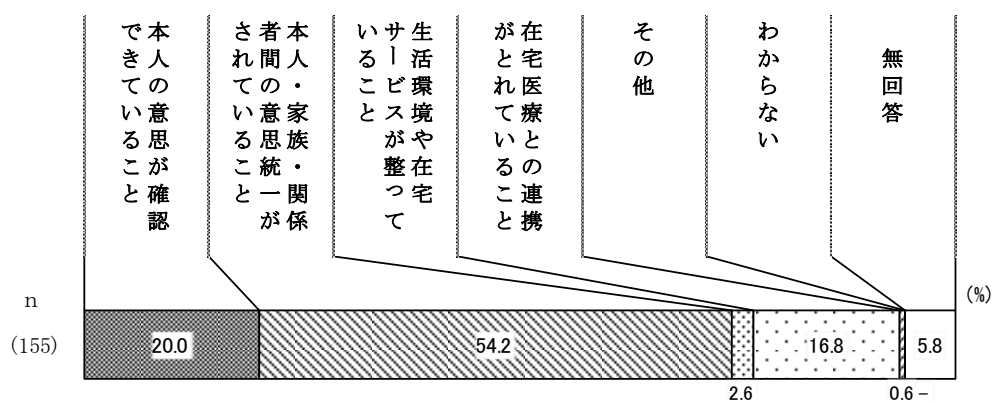
問26で「はい」と回答した人に認知症に関する相談先をたずねたところ、「診療所・クリニックのかかりつけ医(含む認知症・もの忘れ相談医含む)」(70.4%)、「高齢者総合相談センター」(67.0%)がともに高くなっている。

(10) 在宅療養・看取りについて

①看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うこと

問 27 あなたが看取りをサポートする側に立った場合、特に欠かせないと思うことは何ですか。(1つに○)

<図表> 看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うこと

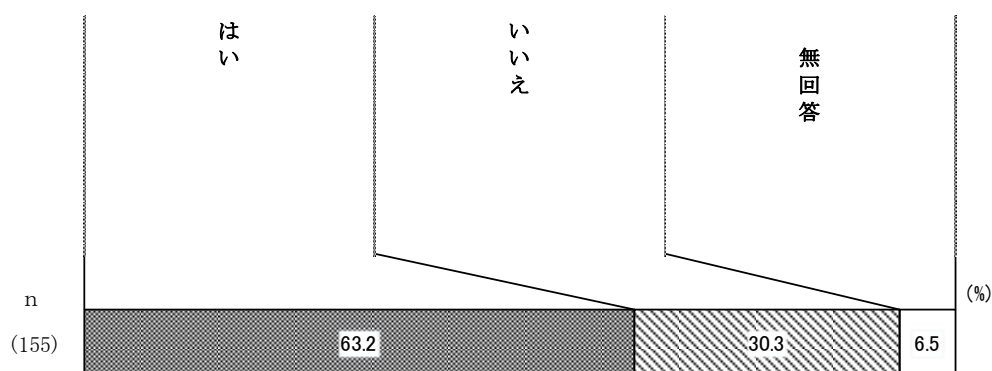


看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うことをたずねたところ、「本人・家族・関係者間の意思統一がされていること」(54.2%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで、「本人の意思が確認できていること」(20.0%)、「在宅医療との連携がとれていること」(16.8%)の順となっている。

②過去1年間で看取りをしたケース及び回数

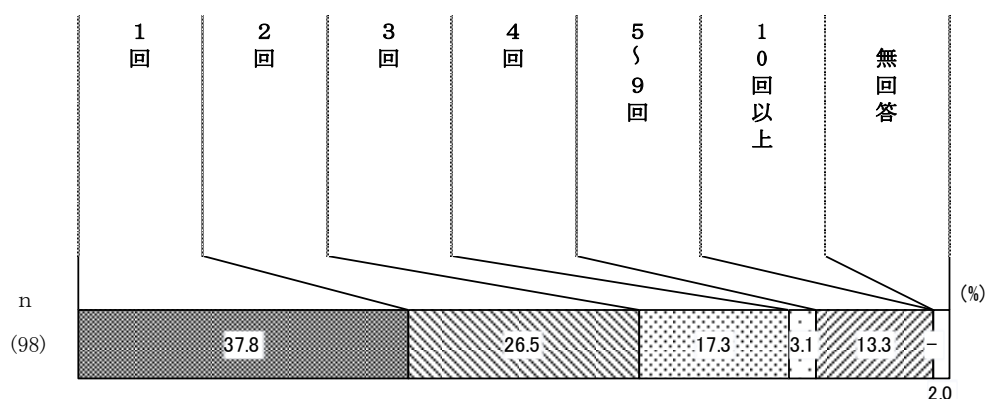
問 28 過去1年間で、あなたは自宅で看取りをしたケースがありますか。なお、ある場合は、回数をご記入ください。(1つに○)

<図表> 過去1年間で看取りをしたケースの有無



看取りに立ち会ったケースがある場合

<図表> 過去1年間で看取りをした回数



過去1年間で看取りをしたケースをたずねたところ、「はい」(63.2%)は6割台半ば近く、「いいえ」(30.3%)は約3割となっている。

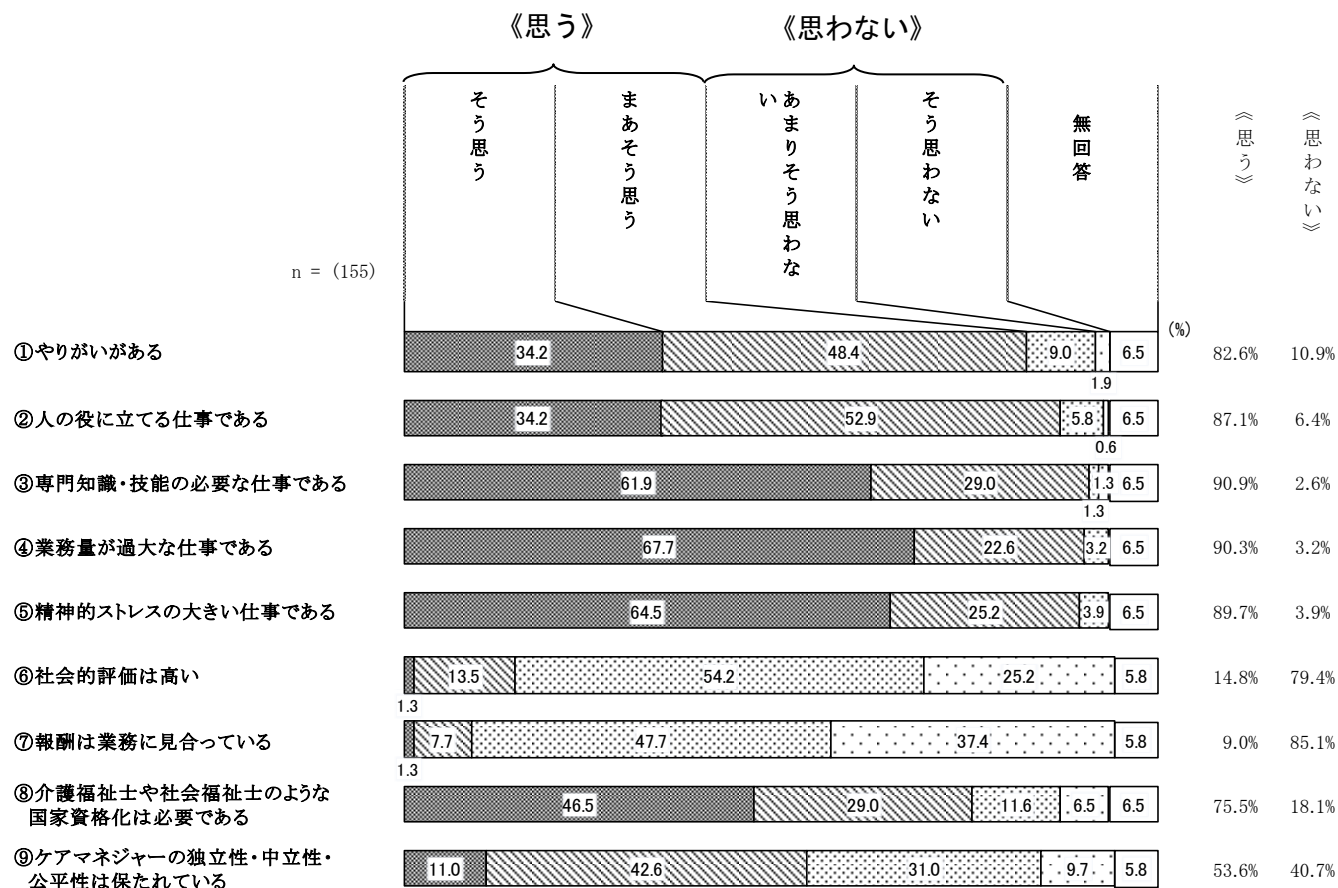
「はい」と回答した人に看取りに立ち会った回数をたずねたところ、「1回」(37.8%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「2回」(26.5%)、「3回」(17.3%)の順となっている。

(11) ケアマネジャーの仕事について

① ケアマネジャーの仕事についての考え

問 29 あなたは、ケアマネジャーの仕事について、どのようにお考えですか。
(それぞれ1つに〇)

<図表> ケアマネジャーの仕事についての考え



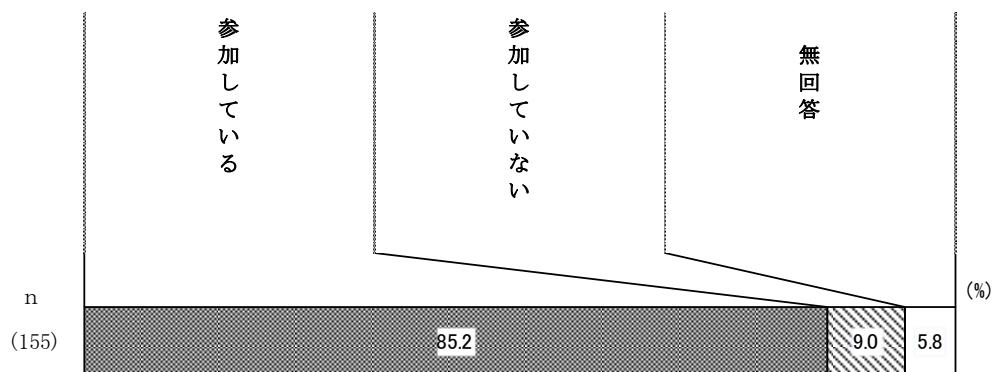
ケアマネジャーの仕事について、《思う》（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）は、【③専門知識・技能の必要な仕事である】（90.9%）が最も高く、次いで【④業務量が過大な仕事である】（90.3%）、【⑤精神的ストレスの大きい仕事である】（89.7%）の順となっている。一方、《思わない》（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計）は、【⑦報酬は業務に見合っている】（85.1%）が最も高く、次いで【⑥社会的評価は高い】（79.4%）の順となっている。

(12) スキルアップについて

① 研修への参加状況

問 30 あなたは、研修に参加していますか。(1つに○)

＜図表12＞ 研修への参加状況

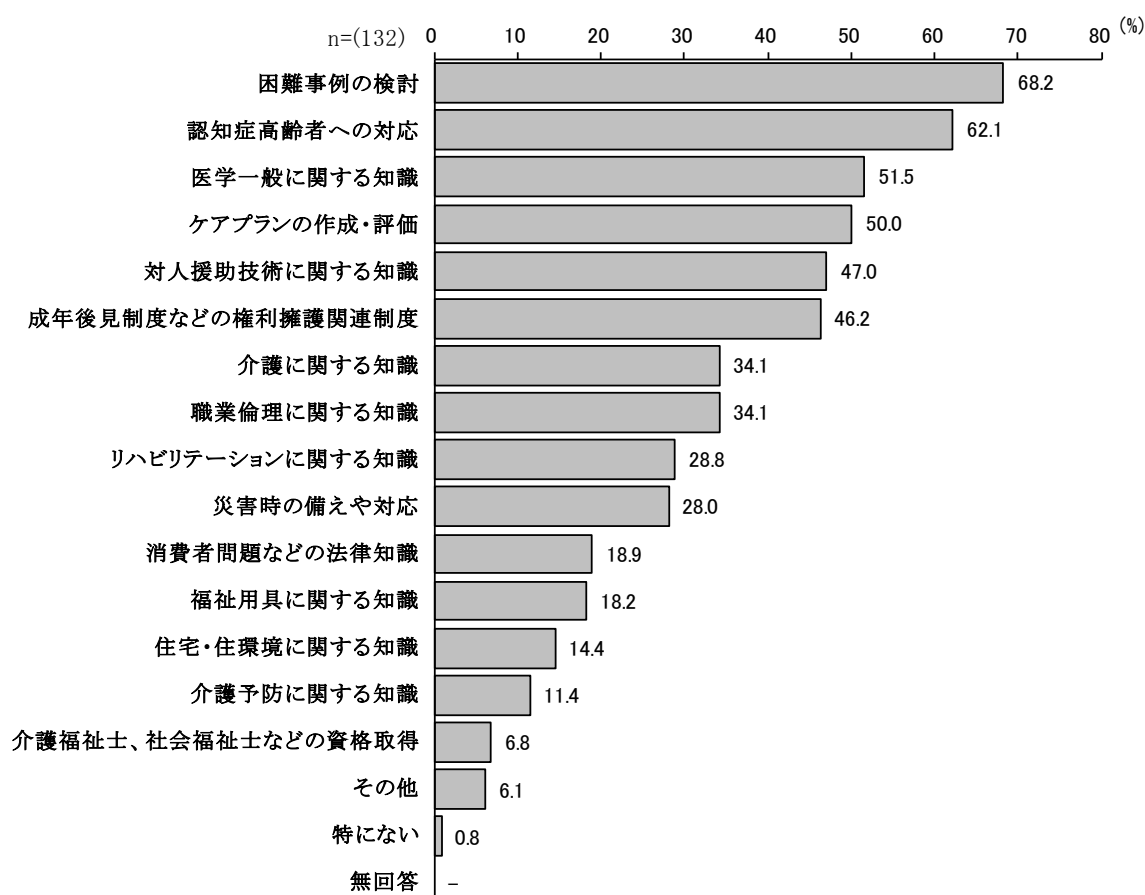


研修への参加状況をたずねたところ、「参加している」(85.2%)は8割台半ばとなっている。

②スキルアップにつながる研修内容

問 30-1 《問 30 で「参加している」を選んだ方のみお答えください》
 どのような研修内容が、あなたのスキルアップにつながりましたか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> スキルアップにつながる研修内容 (複数回答)



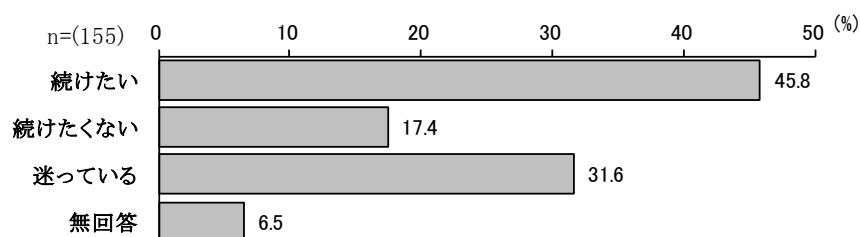
問30で「参加している」と回答した人にスキルアップにつながる研修内容をたずねたところ、「困難事例の検討」(68.2%)が7割近くと最も高く、次いで、「認知症高齢者への対応」(62.1%)、「医学一般に関する知識」(51.5%)の順となっている。

(13) 今後の意向について

①ケアマネジャーの仕事の継続意思

問 31 あなたは、これからもケアマネジャーを続けたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> ケアマネジャーの仕事の継続意思 (複数回答)

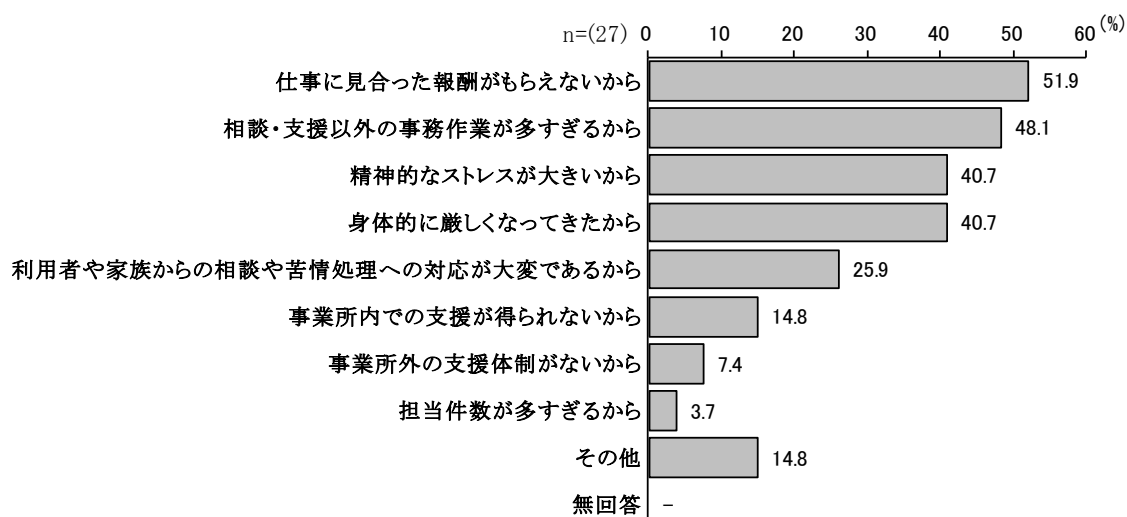


ケアマネジャーの仕事の継続意思をたずねたところ、「続けたい」(45.8%)が4割台半ばとなっている。

②ケアマネジャーの仕事が続けたくない理由

問 31-1 <<問 31 で「続けたくない」を選んだ方のみお答えください>>
ケアマネジャーを続けたくないと思う理由は、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> ケアマネジャーの仕事が続けたくない理由 (複数回答)



※基数が少ないため、参考として記載するにとどめる。

③ケアマネジャーの仕事の継続について迷っている理由

問 31-2 《問 31 で「迷っている」を選んだ方のみお答えください》
迷っている理由があればお聞かせください。

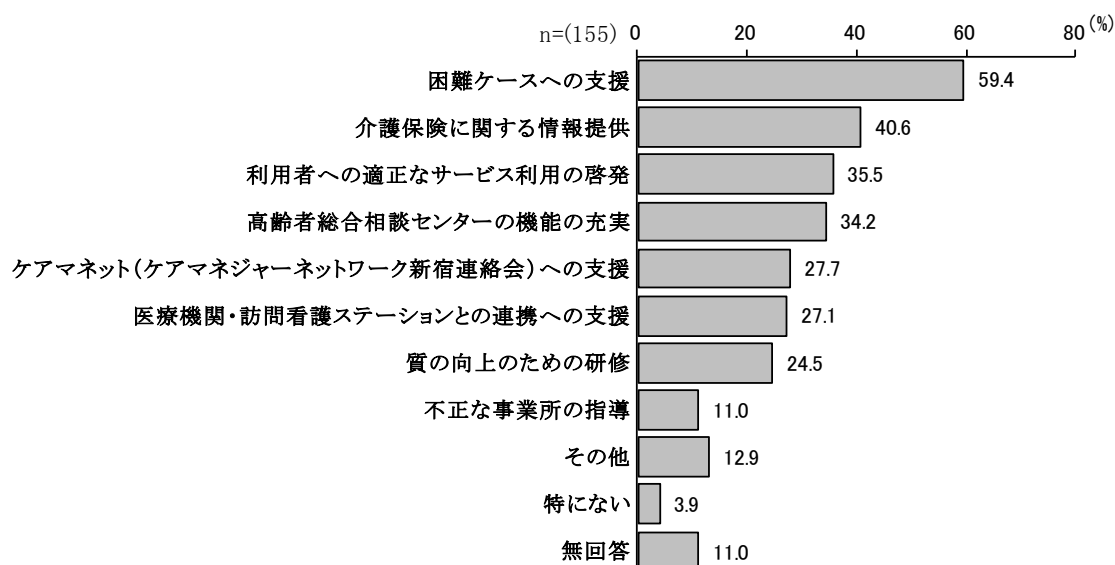
迷っている理由について、体力的に限界を感じている、家族と事業所間に挟まれての対応に疲れてしまう、報酬が業務に見合っていない、研修などのしぼりが増えている、といった回答があげられた。

(14) 新宿区への要望について

①新宿区に対して望むこと

問 32 ケアマネジャーの立場からみて、保険者である区に対して、何を望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 新宿区に対して望むこと (複数回答)

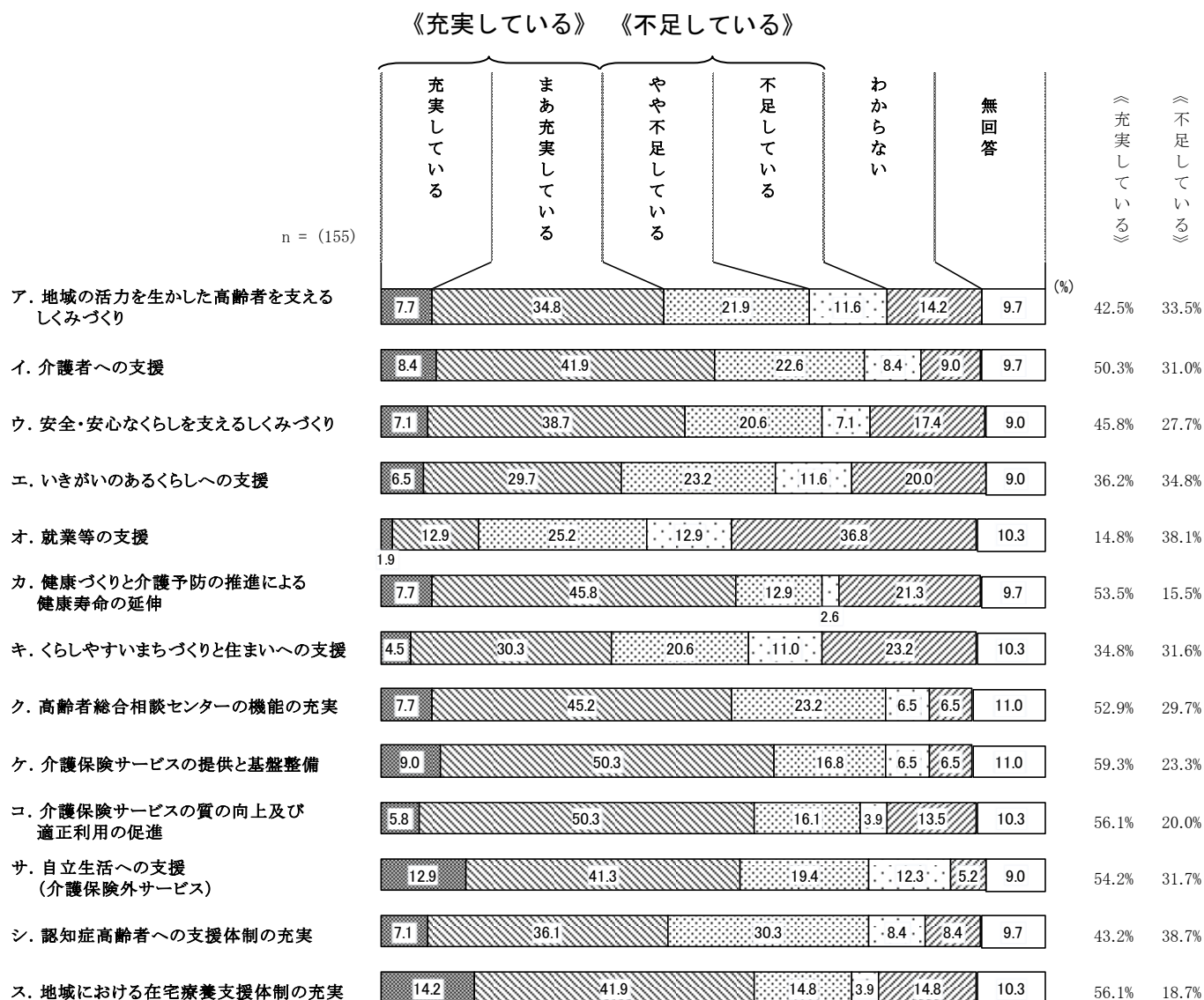


ケアマネジャーの立場から、新宿区に対して望むことをたずねたところ、「困難ケースへの支援」(59.4%)が6割弱で最も高く、次いで、「介護保険に関する情報提供」(40.6%)、「利用者への適正なサービス利用の啓発」(35.5%)の順となっている。

②新宿区の高齢者支援に対する評価

問 33 ケアマネジャーの立場からみて、区の高齢者支援の状況をどうお考えですか。
(それぞれ1つに○)

<図表> 新宿区の高齢者支援に対する評価



ケアマネジャーの立場からみた、新宿区の高齢者支援の状況をたずねたところ、「充実している」と「まあ充実している」をあわせた《充実している》は、【ケ. 介護保険サービスの提供と基盤整備】(59.3%)が6割弱で最も高く、次いで【コ. 介護保険サービスの質の向上及び適正利用の促進】及び【ス. 地域における在宅療養支援体制の充実】(ともに56.1%)、【サ. 自立生活への支援 (介護保険外サービス)】(54.2%)の順となっている。一方、「やや不足している」と「不足している」をあわせた《不足している》は、【シ. 認知症高齢者への支援体制の充実】(38.7%)が4割近くで最も高く、次いで【オ. 就業等の支援】(38.1%)、【エ. いきがいのある暮らしへの支援】(34.8%)の順となっている。

③最も関わりの深い特別出張所管轄

問 34 あなたが日頃、利用者や介護事業者等の関係機関と接している中で、かかわりの一番深い特別出張所管轄をお選びください。(1つに〇)

<図表> 最も関わりの深い特別出張所管轄

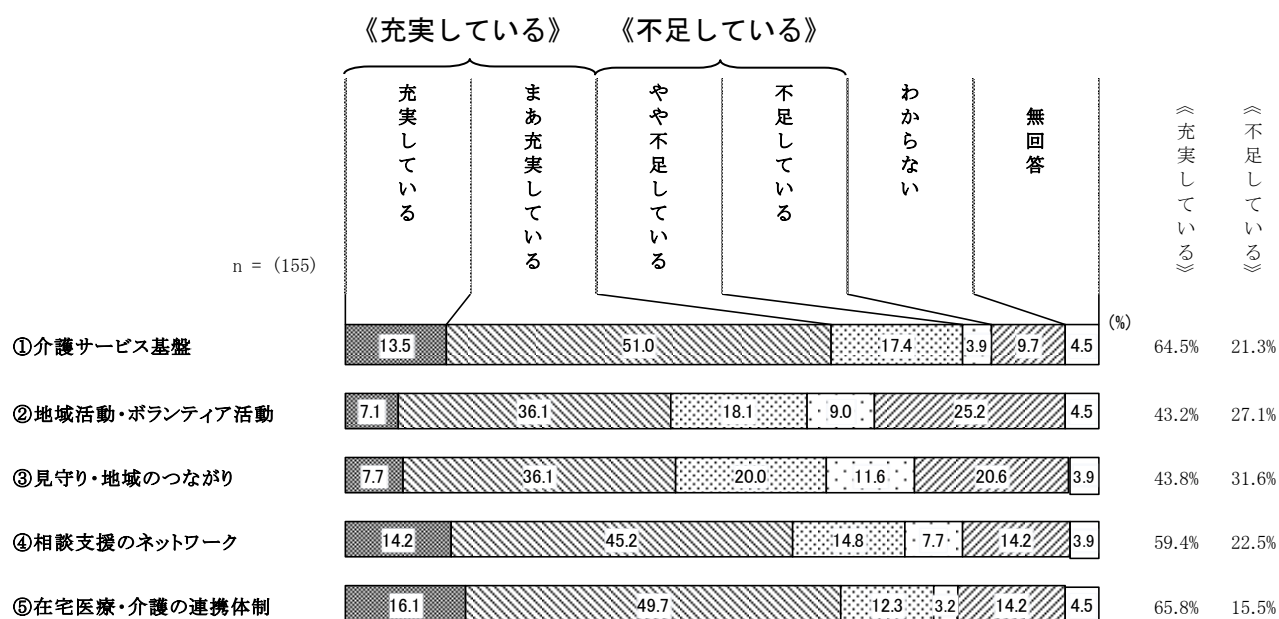
調査数 (件)	四谷	簗笥町	榎町	若松町	大久保	戸塚	落合第一	落合第二	柏木	角筈	無回答
155	14.2	11.6	7.1	7.1	16.1	15.5	7.1	7.1	7.7	1.3	5.2

最も関わりの深い特別出張所管轄をたずねたところ、「大久保」(16.1%)が1割台半ばを超えて最も高く、次いで「戸塚」(15.5%)、「四谷」(14.2%)の順となっている。

④管轄地域についての評価

問 34-1 《問 34 で選んだ地域についてお答えください》
当該の管轄地域について、どのように思われますか。(それぞれ1つに〇)

<図表> 管轄地域についての評価



管轄地域についての評価をたずねたところ、「充実している」と「まあ充実している」をあわせた《充実している》は、【⑤在宅医療・介護の連携体制】(65.8%)が6割台半ばで最も高く、次いで【①介護サービス基盤】(64.5%)、【④相談支援のネットワーク】(59.4%)の順となっている。

⑤高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問 35 在宅介護に関して気になっている点など、ご自由にお書きください。

在宅介護に関して気になっている点などについて、以下のような回答があった。
各事項について、回答の中からいくつかの意見を示す。

【介護人材に関すること】

- ・ヘルパーの人手不足を感じます。若い方が介護に関わりたいと思うような仕事になると良いと思います。
- ・ホームヘルパーの不足で土曜、日曜の時間に調整が難しくなっている。

【障害者支援に関すること】

- ・障害や児童福祉との連携を充実させることが、地域全体が暮らしやすさを感じられるようになるかと考えており、状況によって情報を共有できるよう、個人情報の有効活用を行えるように、条例等で変えることができればと思います。

【家族介護に関すること】

- ・「自立支援」という趣旨とは正反対に、家族が自らもケアマネを頼ってきて、それをそのまま受け入れてしまうと逆に「依存支援」になってしまいかねない。

【認知症に関すること】

- ・家族が全くいない認知症利用者宅へ届いた大切な公的書類（健康保険証等）を不要なチラシの中から探し出したり、入院時に入院に必要な用品を揃えているのは担当ケアマネではないでしょうか？ ケアマネの存在は核家族が進む中でかなり役に立っていると思います。「これは業務範囲外だ！」と無視できない現実がいくらでもあります。

【医療と介護の連携に関すること】

- ・介護者のレスパイトが思うようにできないので、ショートステイができる施設数が増えることや、医療的なサポートが必要な人が使いやすい、地域包括ケア病棟になると良いと思う。

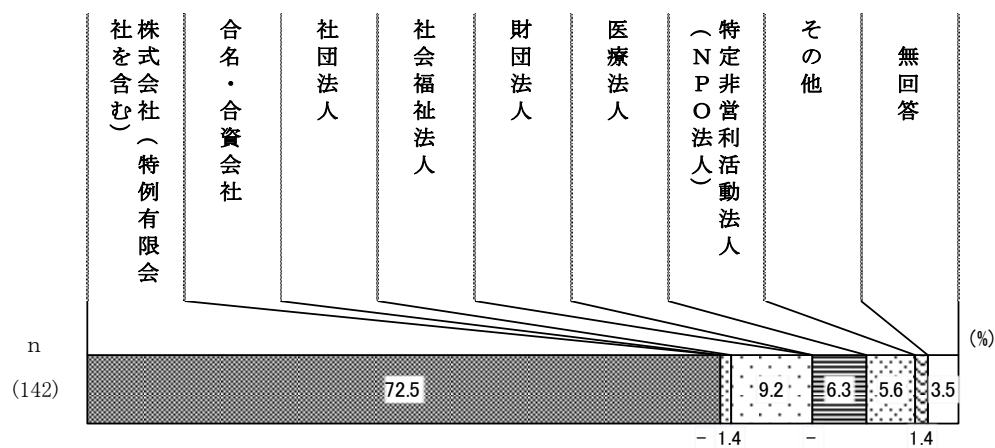
6 介護保険サービス事業所調査

(1) 貴事業所の概要について

①事業所の組織(法人格)

問1 貴事業所の組織(法人格)は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表> 事業所の組織(法人格)



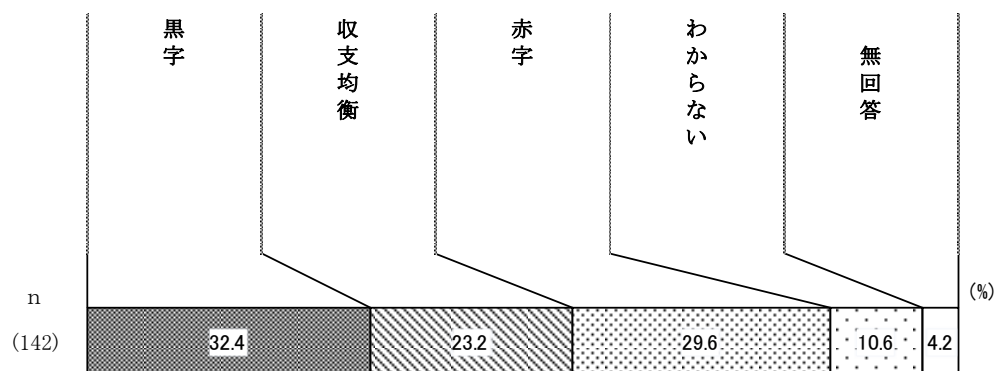
事業所の組織(法人格)をたずねたところ、「株式会社(特例有限会社を含む)」(72.5%)が7割強となっている。

(2) 収支状況・処遇改善の状況について

①前年度の収支状況

問2 貴事業所の、前年度の収支状況はどうか。(1つに○)

<図表> 前年度の収支状況

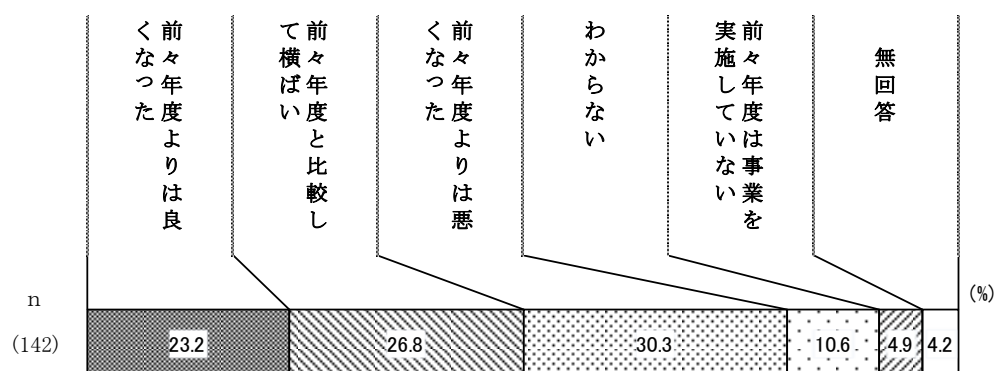


前年度の収支状況をたずねたところ、「黒字」(32.4%)が3割強、「赤字」(29.6%)が3割弱、「収支均衡」(23.2%)が2割台半ば近くとなっている。

②前年度と前々年度を比較した収支状況

問3 貴事業所の、前年度と前々年度を比較した収支状況はどうか。(1つに○)

<図表> 前年度と前々年度を比較した収支状況

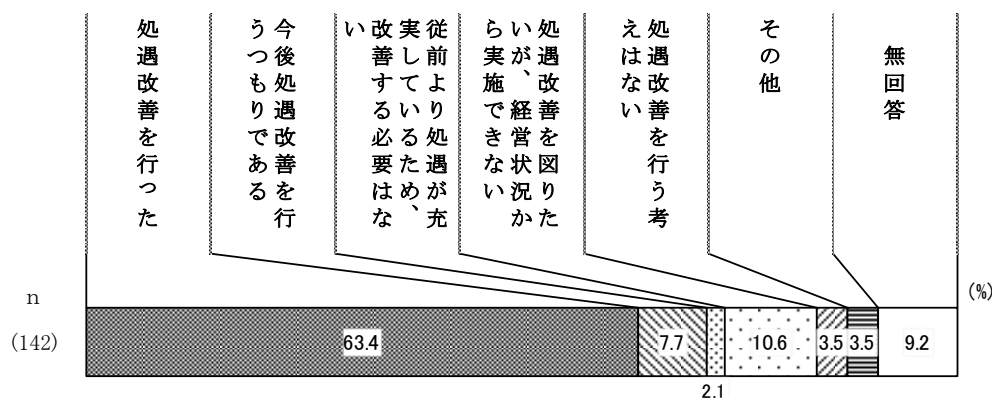


前年度と前々年度を比較した収支状況をたずねたところ、「前々年度よりは悪くなった」(30.3%)が約3割、「前々年度と比較して横ばい」(26.8%)が2割台半ばを超え、「前々年度よりは良くなった」(23.2%)が2割台半ば近くとなっている。

③ 処遇改善の実施状況

問4 貴事業所では昨年度、処遇改善（給与や時給単価のアップなど）を行いましたか。
（1つに○）

<図表13> 処遇改善の実施状況

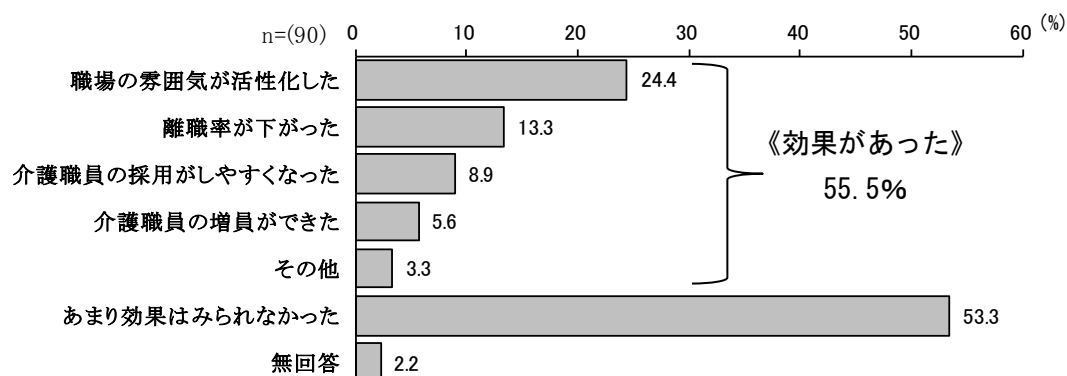


処遇改善の実施状況をたずねたところ、「処遇改善を行った」（63.4%）が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「処遇改善を図りたいが、経営状況から実施できない」（10.6%）の順となっている。

④ 処遇改善の効果

問4-1 《問4で「処遇改善を行った」を選んだ方のみお答えください》
貴事業所の従業員にどのような効果があったと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

<図表> 処遇改善の効果（複数回答）

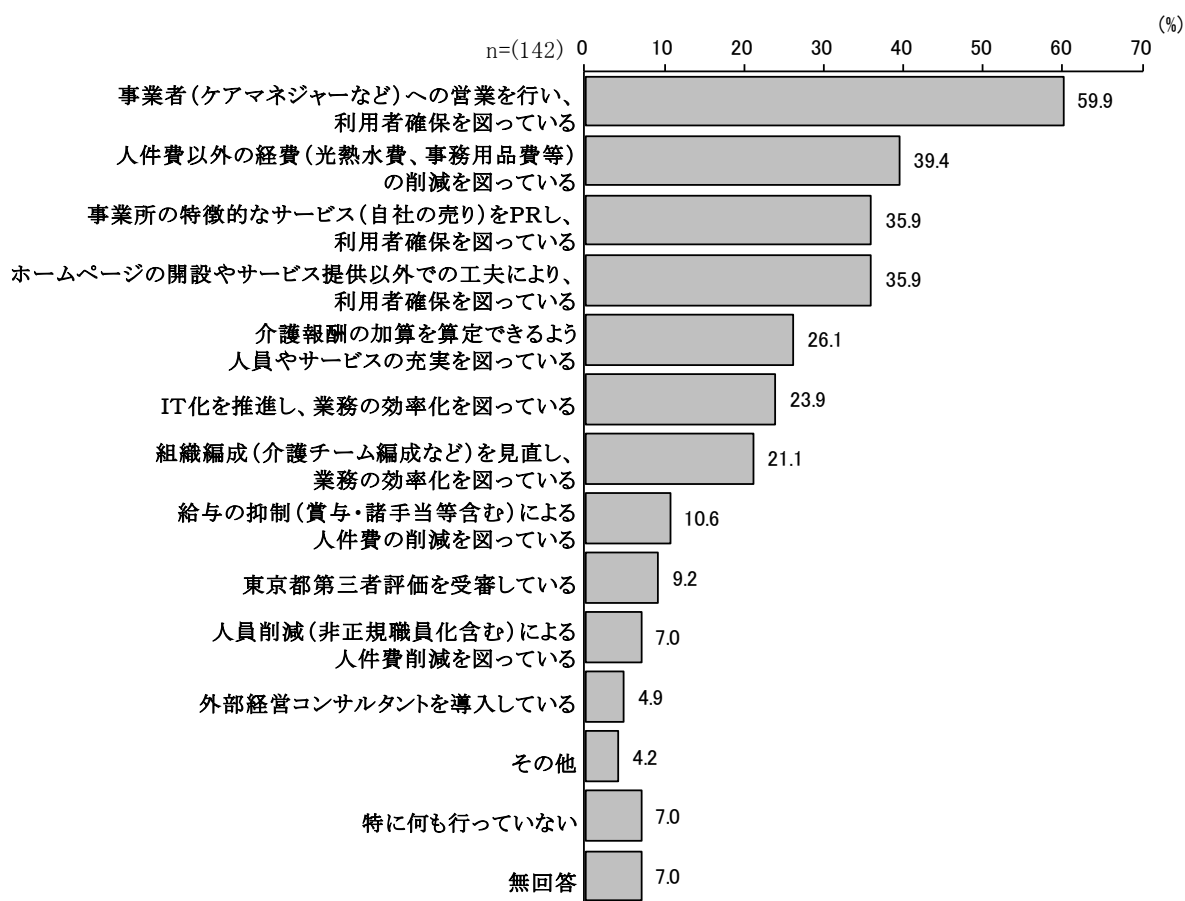


問4で処遇改善を行った事業所に、処遇改善の効果をとずねたところ、《効果があった》（55.5%）は5割台半ばで、効果の内容としては、「職場の雰囲気が活性化した」（24.4%）が2割台半ば近く、「離職率が下がった」（13.3%）が1割台半ば近くとなっている。一方で、「あまり効果はみられなかった」（53.3%）は5割台半ば近くとなっている。

⑤収支の向上や改善に向けて行っている取り組み

問5 貴事業所では、収支の向上や改善に向けて、どのような取り組みを行っていますか。また差し支えなければ、貴事業所の特徴的な取り組みについて、お聞かせください。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 収支の向上や改善に向けて行っている取り組み（複数回答）



収支の向上や改善に向けて行っている取り組みをたずねたところ、「事業者(ケアマネジャーなど)への営業を行い、利用者確保を図っている」(59.9%)が6割弱で最も高く、次いで、「人件費以外の経費(光熱水費、事務用品費等)の削減を図っている」(39.4%)、「事業所の特徴的なサービス(自社の売り)をPRし、利用者確保を図っている」及び「ホームページの開設やサービス提供以外での工夫により、利用者確保を図っている」(ともに35.9%)の順となっている。

収支の向上や改善に向けた取り組みとして、以下のような回答があった。回答の中からいくつかを示す。

【サービスの質の向上に関すること】

- ・利用者家族向けの健康相談、運動サポートを実施している。
- ・利用者様に独自のプランを作成して、細かい記録の徹底をしている。
- ・IADL（手段的日常生活動作）訓練を取り入れたプログラムに取り組んでいる。

【人材確保・定着等に関すること】

- ・専門性を尊重し、本人の特性に合ったプランニングをすすめている。働きがいを損なわないようにしている。
- ・職員の勤務時間には各職員の事情を考慮しフレックス制を導入している。

【業務効率化に関すること】

- ・事業所近隣でのご利用者を増やすことで、スタッフの移動時間を短縮、また、必要時の増回、スポットで動きやすくしている。
- ・電子記録の導入、定着により管理効率化。

【インフォーマル活動に関すること】

- ・アニマルセラピーを行っている。
- ・地域交流とセラピー活動に力を入れている。

【連携体制に関すること】

- ・母体が特別養護老人ホームであり、地域事業としてショートステイやデイサービスもあり、ご利用者の支援、体制において情報共有などが迅速にできるようにしている。

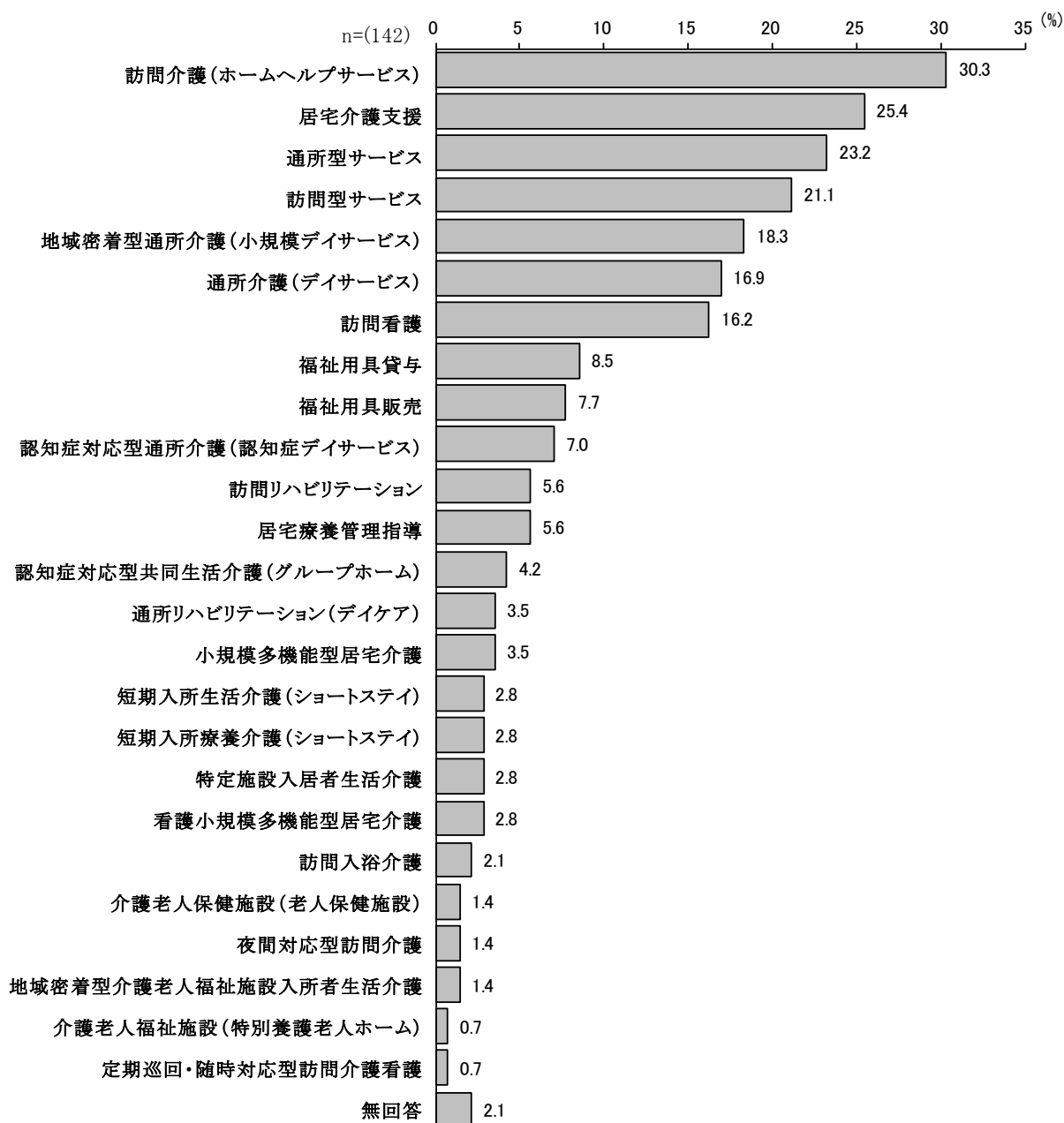
(3) 事業所で取り扱っているサービスについて

①提供しているサービス、受入状況、経営状況、今後4年間の事業展開

問6 貴事業所が区内で提供しているサービスの種類、利用申込者の受入状況、経営状況、今後4年間における事業展開の意向についておたずねします。

ア) 事業所で取り扱っているサービスの種類

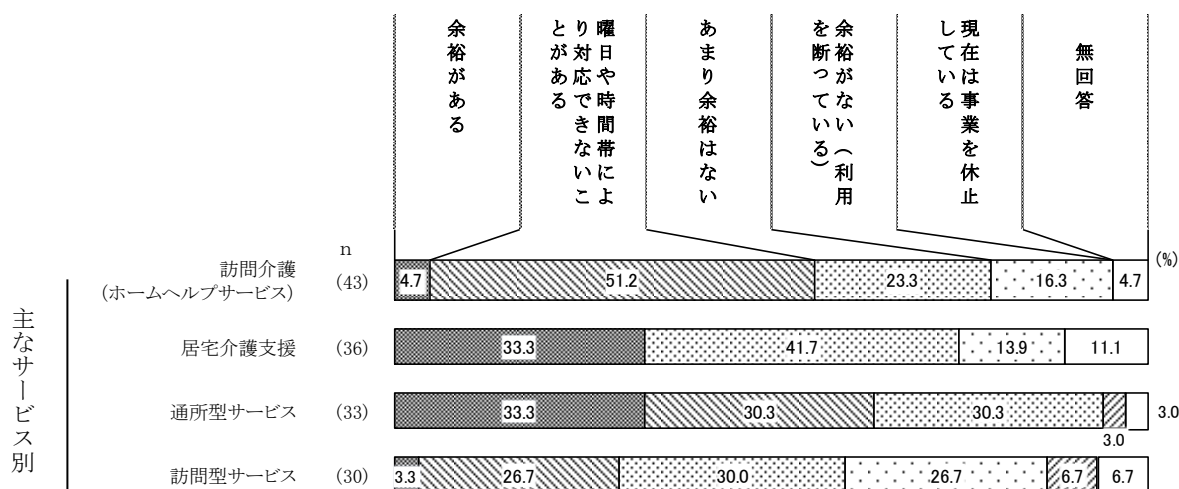
<図表> サービスの種類 (複数回答)



事業所で取り扱っているサービスの種類をたずねたところ、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」(30.3%)が約3割と最も高く、次いで、「居宅介護支援」(25.4%)、「通所型サービス」(23.2%)の順となっている。

イ) 利用申込者の受入状況

<図表> 利用申込者の受入状況(サービスの種類別)

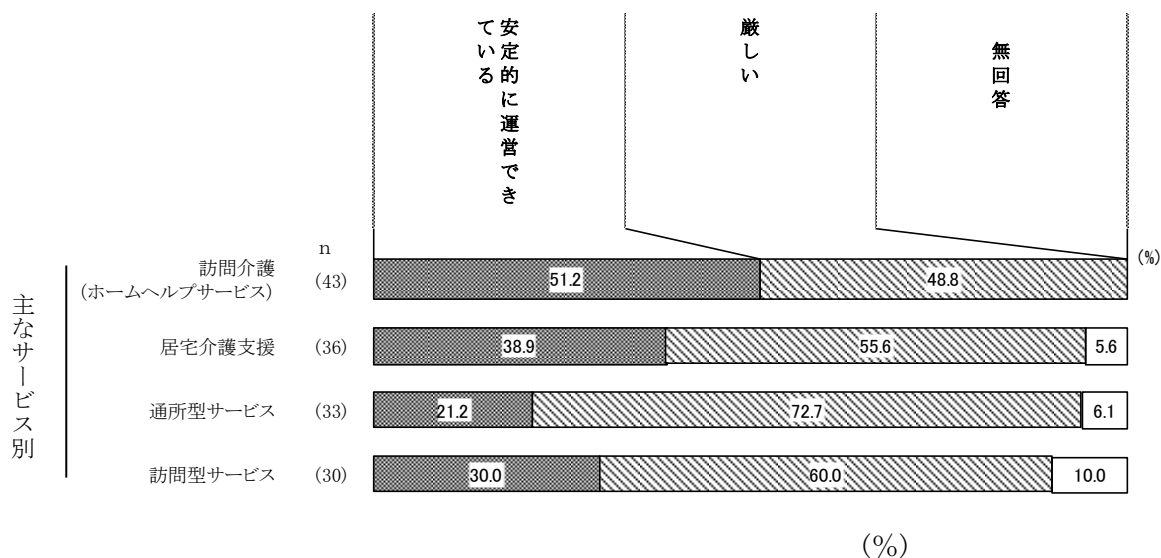


(%)

【上記以外のサービス】	調査数 (件)	余裕がある	曜日や時間帯により対応できないことがある	あまり余裕はない	余裕がない(利用を断っている)	現在は事業を休止している	無回答
地域密着型通所介護 (小規模デイサービス)	26	34.6	38.5	23.1	-	-	3.8
通所介護 (デイサービス)	24	45.8	45.8	8.3	-	-	-
訪問看護	23	26.1	56.5	8.7	-	-	8.7
福祉用具貸与	12	83.3	-	8.3	-	-	8.3
福祉用具販売	11	81.8	-	9.1	-	-	9.1
認知症対応型通所介護 (認知症デイサービス)	10	70.0	20.0	-	10.0	-	-
訪問リハビリテーション	8	12.5	50.0	25.0	-	-	12.5
居宅療養管理指導	8	12.5	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5
通所リハビリテーション (デイケア)	5	20.0	80.0	-	-	-	-
小規模多機能型居宅介護	5	60.0	40.0	-	-	-	-
短期入所生活介護 (ショートステイ)	4	25.0	75.0	-	-	-	-
短期入所療養介護 (ショートステイ)	4	50.0	50.0	-	-	-	-
看護小規模多機能型居宅介護	4	25.0	50.0	25.0	-	-	-
訪問入浴介護	3	-	66.7	33.3	-	-	-
介護老人保健施設 (老人保健施設)	2	100.0	-	-	-	-	-
夜間対応型訪問介護	2	-	50.0	-	-	50.0	-
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	-	100.0	-	-	-	-

ウ) 経営状況

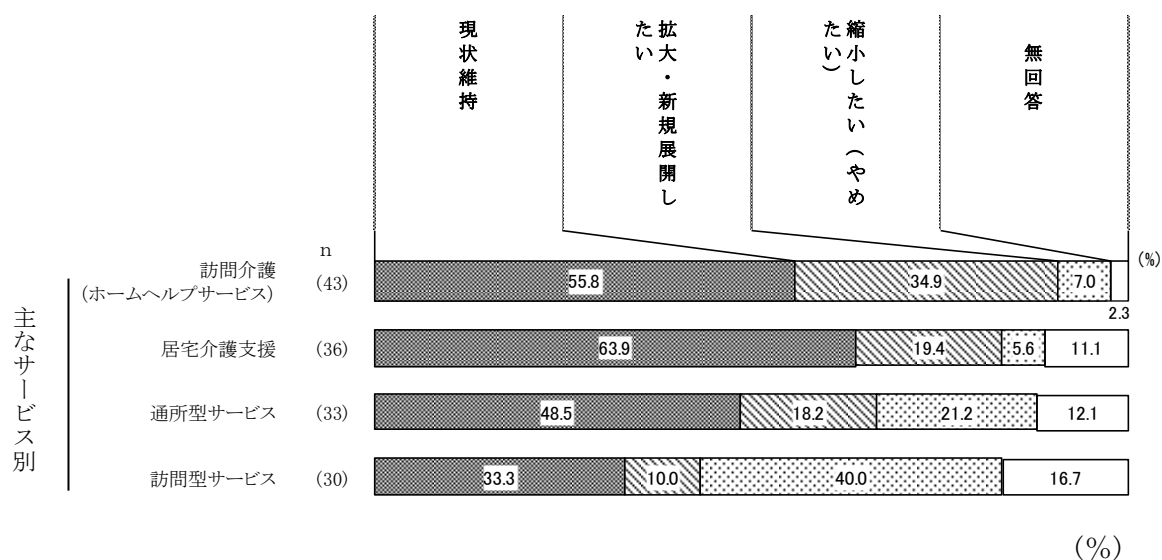
<図表> 経営状況(サービスの種類別)



【上記以外のサービス】	調査数 (件)	(%)		
		安定的に運営できている	厳しい	無回答
地域密着型通所介護 (小規模デイサービス)	26	46.2	50.0	3.8
通所介護 (デイサービス)	24	29.2	50.0	20.8
訪問看護	23	69.6	26.1	4.3
福祉用具貸与	12	66.7	33.3	-
福祉用具販売	11	72.7	27.3	-
認知症対応型通所介護 (認知症デイサービス)	10	30.0	60.0	10.0
訪問リハビリテーション	8	87.5	-	12.5
居宅療養管理指導	8	62.5	25.0	12.5
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	6	33.3	50.0	16.7
通所リハビリテーション (デイケア)	5	40.0	60.0	-
小規模多機能型居宅介護	5	20.0	80.0	-
短期入所生活介護 (ショートステイ)	4	50.0	50.0	-
短期入所療養介護 (ショートステイ)	4	50.0	50.0	-
特定施設入居者生活介護	4	25.0	25.0	50.0
看護小規模多機能型居宅介護	4	50.0	50.0	-
訪問入浴介護	3	66.7	33.3	-
介護老人保健施設 (老人保健施設)	2	50.0	50.0	-
夜間対応型訪問介護	2	-	50.0	50.0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	2	50.0	50.0	-
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	1	-	100.0	-
定期巡回・随時対応型訪問看護	1	100.0	-	-

エ) 今後4年間の事業展開の意向

＜図表＞ 今後の事業展開(サービスの種類別)



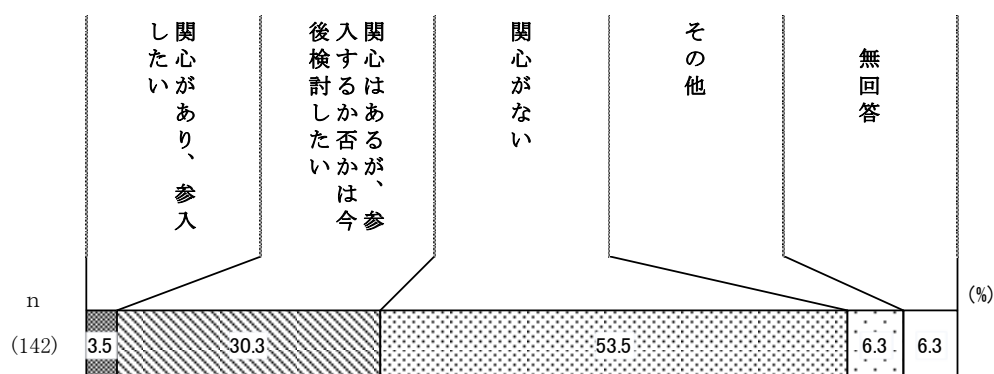
【上記以外のサービス】	調査数 (件)	現状維持 (%)	拡大・新規展開したい (%)	縮小したい(やめたい) (%)	無回答 (%)
地域密着型通所介護 (小規模デイサービス)	26	50.0	42.3	-	7.7
通所介護 (デイサービス)	24	54.2	12.5	12.5	20.8
訪問看護	23	52.2	43.5	-	4.3
福祉用具貸与	12	75.0	25.0	-	-
福祉用具販売	11	72.7	27.3	-	-
認知症対応型通所介護 (認知症デイサービス)	10	40.0	30.0	20.0	10.0
訪問リハビリテーション	8	62.5	25.0	-	12.5
居宅療養管理指導	8	62.5	25.0	12.5	-
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	6	50.0	33.3	16.7	-
通所リハビリテーション (デイケア)	5	80.0	20.0	-	-
小規模多機能型居宅介護	5	80.0	20.0	-	-
短期入所生活介護 (ショートステイ)	4	75.0	25.0	-	-
短期入所療養介護 (ショートステイ)	4	50.0	25.0	-	25.0
特定施設入居者生活介護	4	25.0	-	-	75.0
看護小規模多機能型居宅介護	4	50.0	50.0	-	-
訪問入浴介護	3	66.7	33.3	-	-
介護老人保健施設 (老人保健施設)	2	50.0	-	-	50.0
夜間対応型訪問介護	2	-	50.0	-	50.0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	2	50.0	50.0	-	-
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	1	100.0	-	-	-
定期巡回・随時対応型訪問看護	1	-	100.0	-	-

(4) 今後の参入意向について

①小規模多機能型居宅介護への参入について

問7 貴事業所では、小規模多機能型居宅介護への参入についてどのようにお考えですか。
(1つに○)

<図表> 小規模多機能型居宅介護への参入について

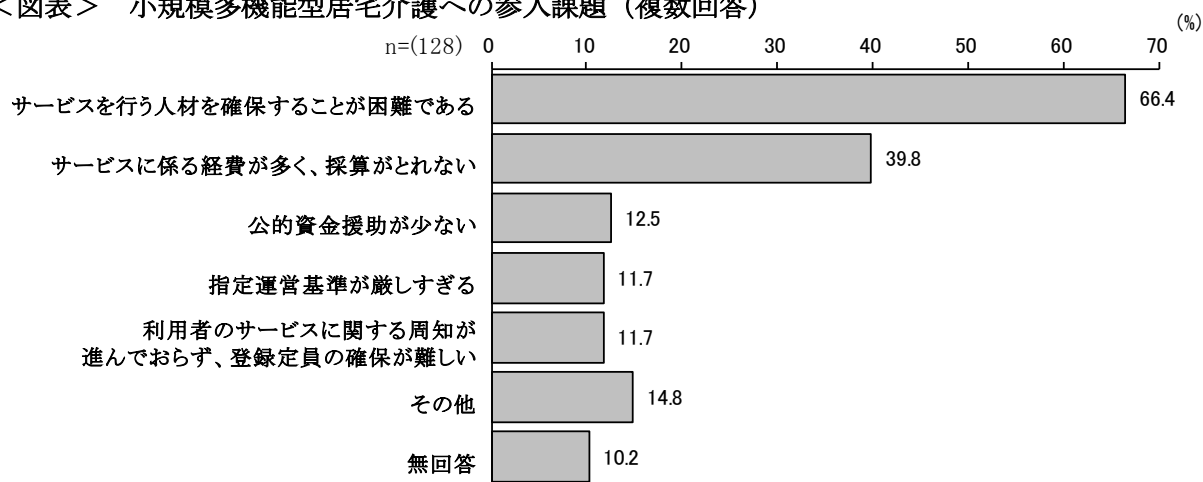


小規模多機能型居宅介護への参入についてたずねたところ、「関心があり、参入したい」(3.5%)は1割未満、「関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい」(30.3%)は約3割となっている。

②小規模多機能型居宅介護への参入課題

問7-1 <<問7で「関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい」「関心がない」「その他」を選んだ方のみお答えください>>
 小規模多機能型居宅介護への参入課題をどのようにお考えですか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表> 小規模多機能型居宅介護への参入課題 (複数回答)

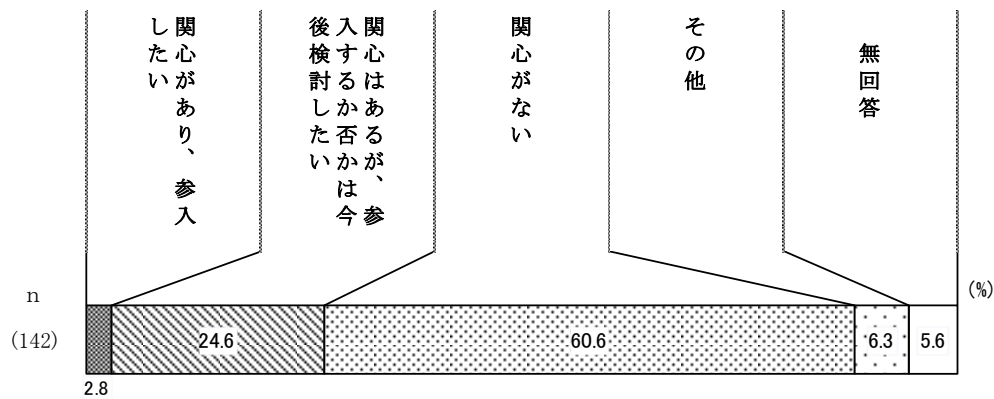


問7で関心があり、参入したい事業所以外のところに、小規模多機能型居宅介護への参入課題をたずねたところ、「サービスを行う人材を確保することが困難である」(66.4%)が6割台半ばを超えて最も高く、次いで、「サービスに係る経費が多く採算がとれない」(39.8%)の順となっている。

③看護小規模多機能型居宅介護への参入について

問8 貴事業所では、看護小規模多機能型居宅介護への参入についてどのようにお考えですか。(1つに○)

<図表> 看護小規模多機能型居宅介護への参入について

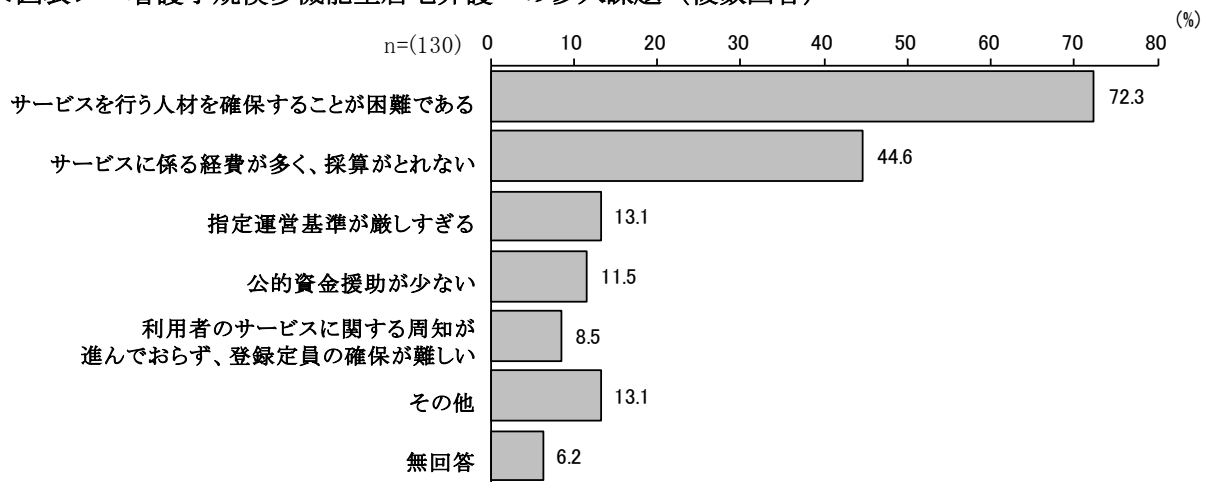


看護小規模多機能型居宅介護への参入についてたずねたところ、「興味があり、参入したい」(2.8%)は1割未満、「関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい」(24.6%)は2割台半ば近くとなっている。

④看護小規模多機能型居宅介護への参入課題

問8-1 <<問8で「関心はあるが、参入するか否かは今後検討したい」「関心がない」「その他」を選んだ方のみお答えください>>
看護小規模多機能型居宅介護への参入課題をどのようにお考えですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 看護小規模多機能型居宅介護への参入課題 (複数回答)



問8で興味があり、参入したい事業所以外のところに、看護小規模多機能型居宅介護への参入課題についてたずねたところ、「サービスを行う人材を確保することが困難である」(72.3%)が7割強で最も高く、次いで、「サービスに係る経費が多く、採算がとれない」(44.6%)の順となっている。

(5) 総合事業について

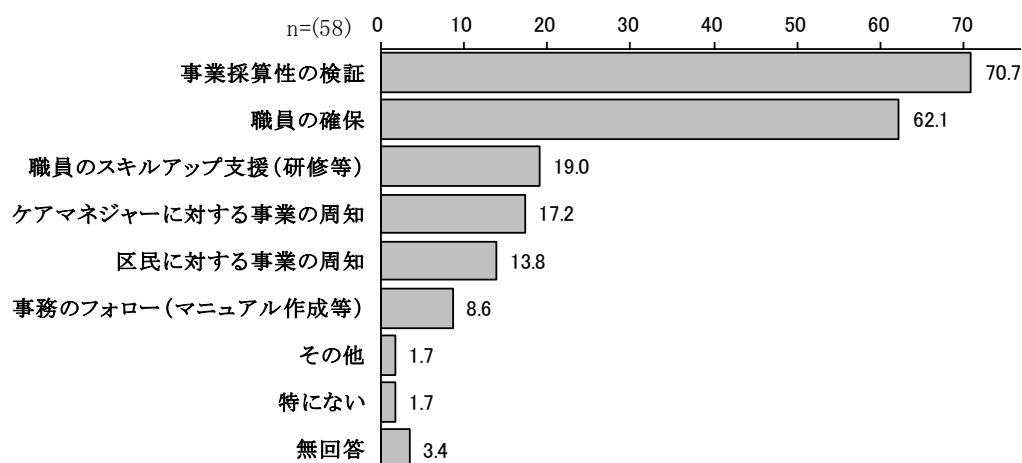
①総合事業に取り組むために必要なこと

(問9は、訪問型・通所型サービスを提供している事業所(問6で「訪問型サービス」「通所型サービス」を選んだ事業所)におたずねします。)

問9 貴事業所では、今後も継続して総合事業*に取り組むために必要なことは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

※総合事業：介護予防・生活支援サービス事業のことです。

<図表> 総合事業に取り組むために必要なこと (複数回答)



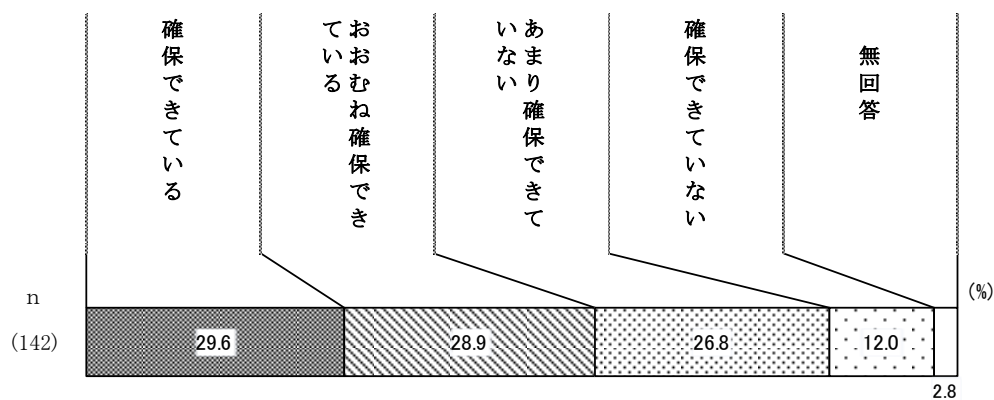
今後も継続して総合事業に取り組むために必要なことをたずねたところ、「事業採算性の検証」(70.7%)が約7割で最も高く、次いで、「職員の確保」(62.1%)、「職員のスキルアップ支援(研修等)」(19.0%)の順となっている。

(6) 人材の確保・定着・育成について

①人材の確保の状況

問 10 この1年間、貴事業所の人材の確保の状況はどうか。(1つに○)

<図表> 人材の確保の状況

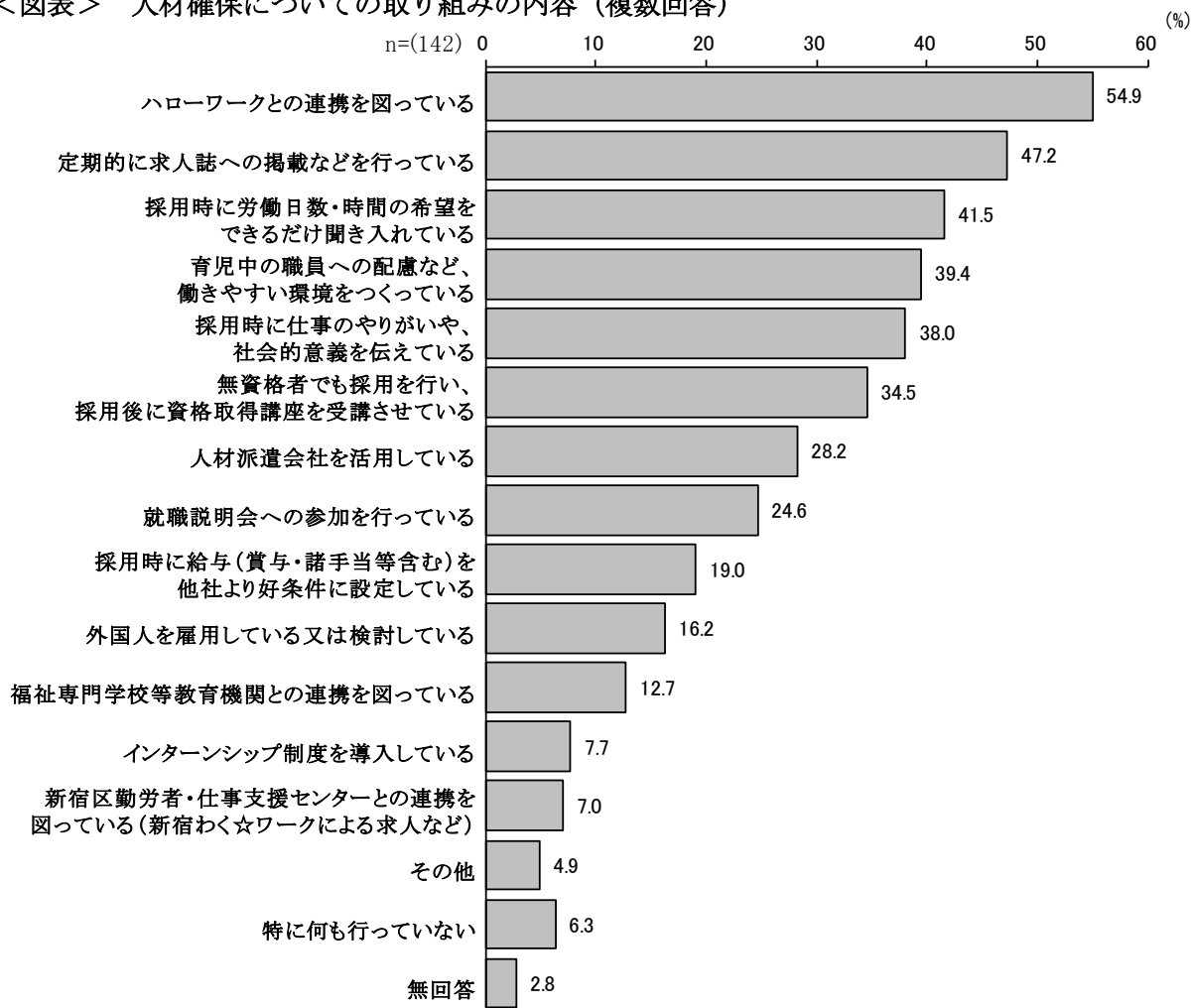


人材の確保の状況をたずねたところ、「確保できている」(29.6%)、「おおむね確保できている」(28.9%)ともに3割弱となっている。

②人材の確保についての取り組みの内容

問 11 貴事業所では、人材の確保について、どのような取り組みを行っていますか。また差し支えなければ、貴事業所の特徴的な取り組みについて、お聞かせください。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 人材確保についての取り組みの内容 (複数回答)



人材の確保の取り組みの内容をたずねたところ、「ハローワークとの連携を図っている」(54.9%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで、「定期的に求人誌への掲載などを行っている」(47.2%)、「採用時に労働日数・時間の希望をできるだけ聞き入れている」(41.5%)の順となっている。

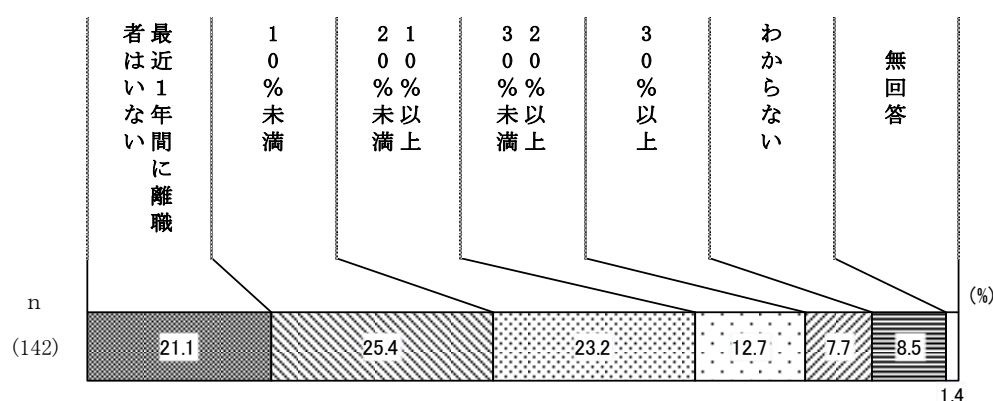
人材の確保についての具体的な取り組みについて、以下のような回答があった。回答の中からいくつかを示す。

- ・介護職未経験でも採用し、現場で一定期間マンツーマンで指導している。
- ・自社独自手当の充実を行っている。又、資格取得（介護以外も）の補助も行っている。
- ・常にママ友ネットワークで良い人がいれば紹介してもらっている。午前中、午後だけの勤務等、フレキシブルに対応している。
- ・大学の実習生の受け入れから内定を出している。
- ・年齢上限65歳と幅広い世代を受け入れている。
- ・職員紹介制度を設けている。

③ 1年間の離職率

問 12 貴事業所のこの1年間の離職率はどのくらいですか。（1つに○）

<図表> 1年間の離職率

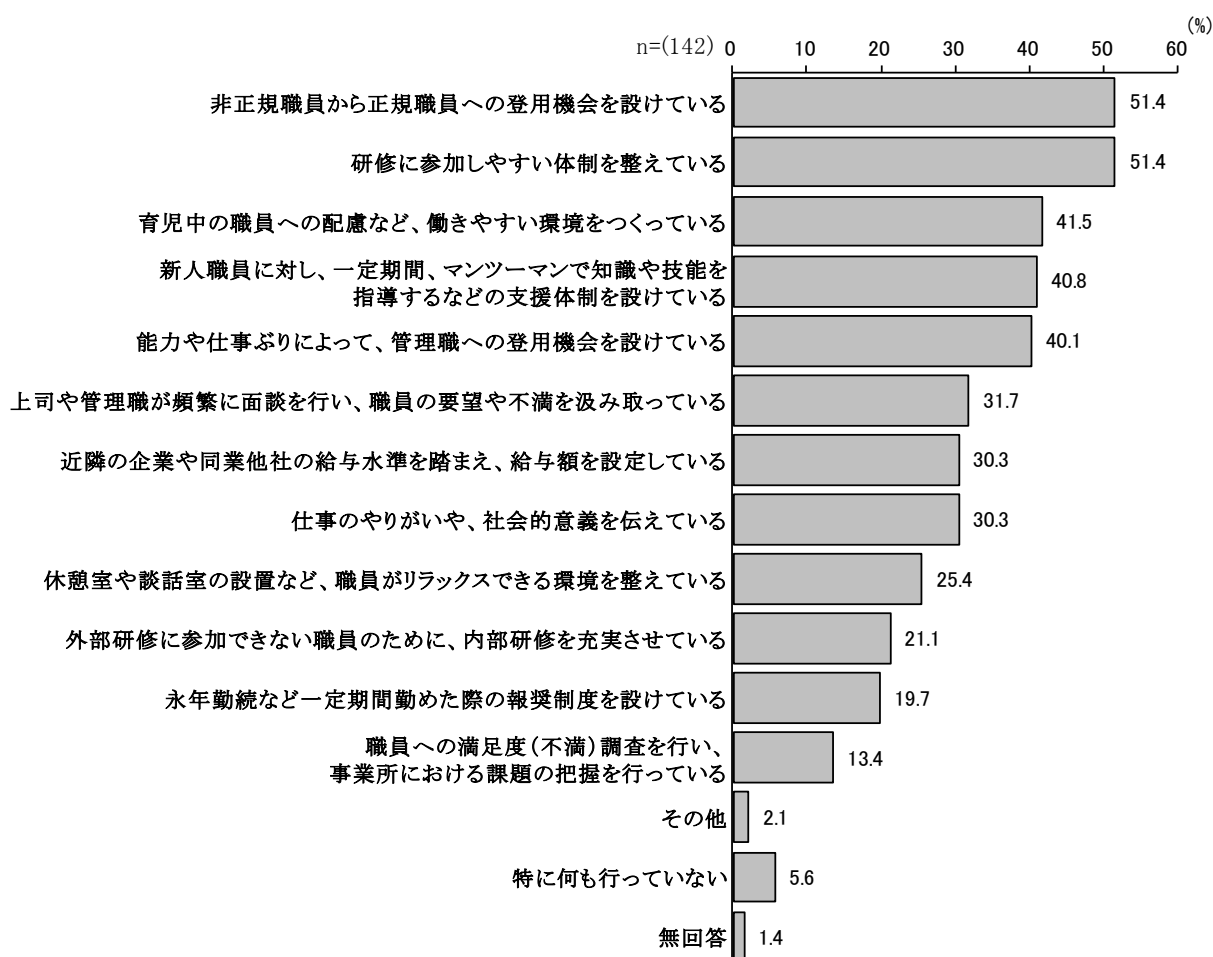


1年間の離職率をたずねたところ、「最近1年間に離職者はいない」(21.1%)は2割強、「10%未満」(25.4%)が2割台半ば、「10%以上20%未満」(23.2%)が2割近くとなっている。

④人材の定着・育成についての取り組み

問 13 貴事業所では、人材の定着・育成について、どのような取り組みを行っていますか。
また差し支えなければ、特徴的な取り組みについて、お聞かせください。
(あてはまるものすべてに○)

<図表> 人材の定着・育成についての取り組み（複数回答）



人材の定着・育成についての取り組みをたずねたところ、「非正規職員から正規職員への登用機会を設けている」及び「研修に参加しやすい体制を整えている」（ともに51.4%）が5割強で最も高く、次いで「育児中の職員への配慮など、働きやすい環境をつくっている」（41.5%）、「新人職員に対し、一定期間、マンツーマンで知識や技能を指導するなどの支援体制を設けている」（40.8%）の順となっている。

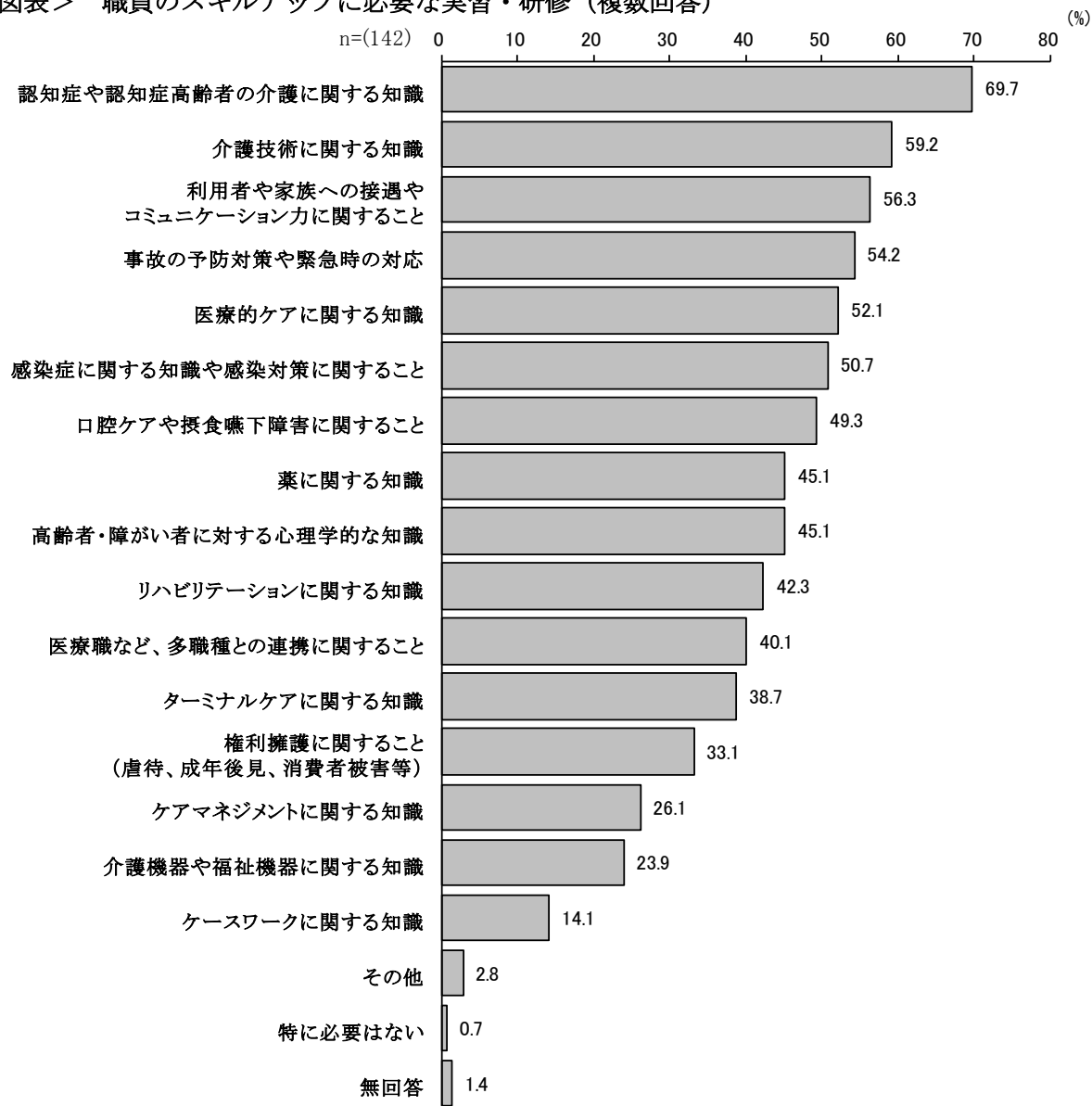
人材の定着・育成についての具体的な取り組みについて、以下のような回答があった。回答の中からいくつかを示す。

- ・事業所として年に2回程度の面談、面接を行う。職員からは年間を通して面談、面接の希望に随時応える体制ができている。
- ・10年勤続表彰。外部研修制度。頻繁に必要な人もいるが、定期的な面談を実施。
- ・できる限り登録ヘルパーさんの希望をかなえるよう、努力調整をしている。サービス終了後に必ず終了連絡をし、状況等を聞き取っている。
- ・正規職員募集時に、非正規職員にも知らせて応募を促している。デイサービスの介護職員対象の内部研修を実施している。
- ・手当で3～5万円の補助を行い、別途交通費など上限を決めず払っている。
- ・新宿区生活性向上推進事業に参加したり、東京しごと財団の団体別採用スパイラルアップ事業に参加している。
- ・キャリアパス制度を設け、目標を持って仕事に取り組んでいただいている。
- ・裁量権を広く、任せている。手間暇をかけることを制限していない。

⑤職員のスキルアップに必要な実習・研修

問 14 貴事業所で、職員のスキルアップを図るには、どのような実習・研修が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表> 職員のスキルアップに必要な実習・研修 (複数回答)



職員のスキルアップに必要な実習・研修をたずねたところ、「認知症や認知症高齢者の介護に関する知識」(69.7%)が7割弱で最も高く、次いで、「介護技術に関する知識」(59.2%)、「利用者や家族への接遇やコミュニケーション力に関する知識」(56.3%)、「事故の予防対策や緊急時の対応」(54.2%)、「医療的ケアに関する知識」(52.1%)の順となっている。

⑥人材の定着・育成における課題

問 15 人材の定着・育成にあたり、何か課題等があれば、ご自由にお書きください。

人材の定着・育成にあたっての課題等について、以下のような回答があった。回答の中からいくつかの意見を示す。

【業務に関すること】

- ・助成金を取るにも書類作成等多く、管理職の負担となっている。
- ・日々の煩雑な事務処理や、記録等の緩和。

【職員の研修や教育に関すること】

- ・内部研修や外部研修を、コンスタントに受講するための人件費を賄う余裕がない。
- ・人員に余裕がなく、研修等に割く時間が取れない。
- ・教育体制の標準化、人事評価とのリンク、上司との定期的頻回な面談。

【就労環境や制度面に関すること】

- ・他業種に比べて待遇が良くない（賃金が低い、休日が少ない等）。業界全体の課題である。

【人材確保に関すること】

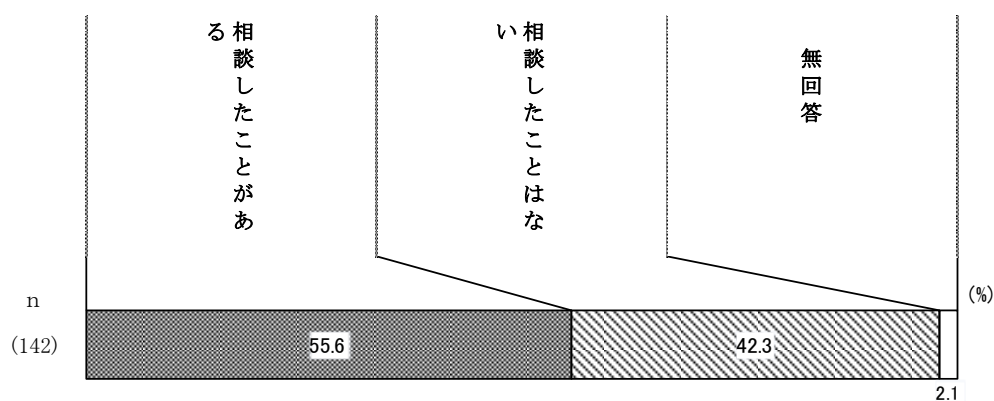
- ・大手会社へ流れていくことが大きく、これは止むを得ないことではあると理解はするが、残念である。
- ・募集をかけても若い方が来ない。60才以上70才近い方が多い。

(7) 高齢者総合相談センターの事業所への支援について

① 高齢者総合相談センターの利用状況

問 16 貴事業所は、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。
(1つに○)

<図表14> 高齢者総合相談センターの相談状況

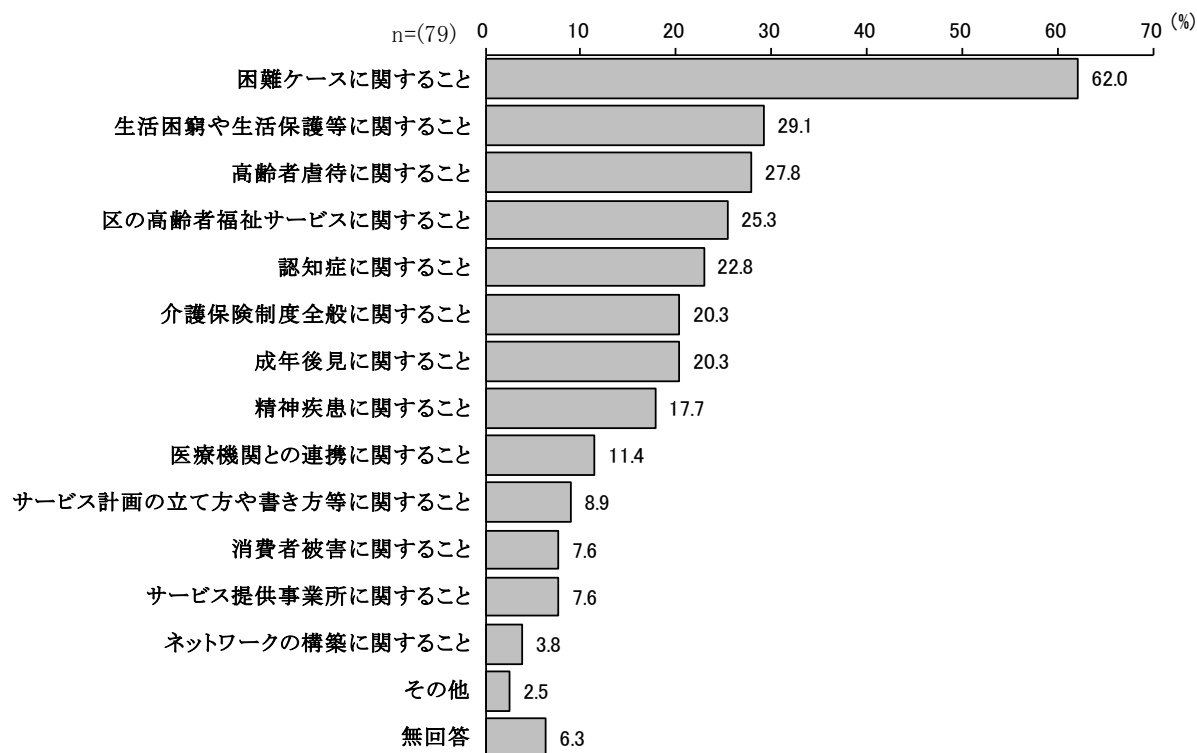


高齢者総合相談センターへの相談状況をたずねたところ、「相談したことがある」(55.6%)は5割台半ばとなっている。

②高齢者総合相談センターに相談した分野

問 16- 1 ≪問 16 で「相談したことがある」を選んだ方のみお答えください≫
 相談した分野は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表15> 高齢者総合相談センターに相談した分野（複数回答）

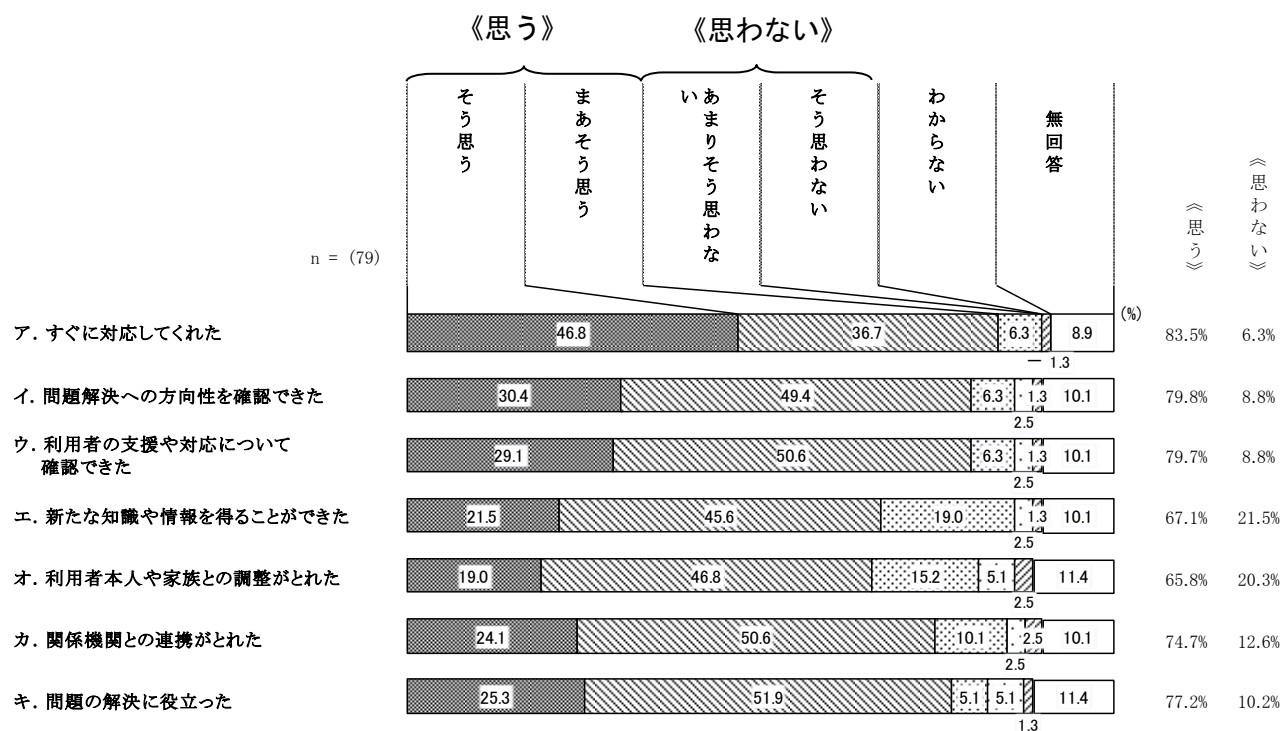


問16で「相談したことがある」と回答した事業所に、相談した分野をたずねたところ、「困難ケースに関すること」(62.0%)が6割強で最も高く、次いで、「生活困窮や生活保護等に関すること」(29.1%)、「高齢者虐待に関すること」(27.8%)の順となっている。

③高齢者総合相談センターに対する評価

問 16-2 《問 16 で「相談したことがある」を選んだ方のみお答えください》
 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。(それぞれ1つに○)

<図表16> 高齢者総合相談センターに対する評価



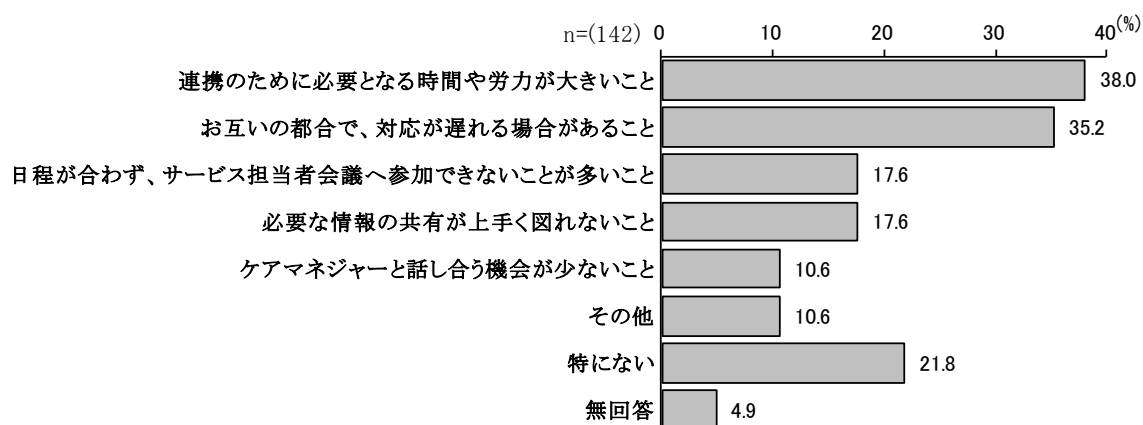
問16で「相談したことがある」と回答した事業所に、高齢者総合相談センターに対する全般的な評価をたずねたところ、「そう思う」と「まあそう思う」をあわせた《思う》は、【ア. すぐに対応してくれた】(83.5%)が8割台半ば近くで最も高く、次いで、【イ. 問題解決への方向性を確認できた】(79.8%)、【ウ. 利用者の支援や対応について確認できた】(79.7%)の順となっている。

(8) 各種連携の状況について

① ケアマネジャーとの連携における課題

問 17 貴事業所にとって、ケアマネジャーとの連携における課題は何だと思えますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表17> ケアマネジャーとの連携における課題（複数回答）

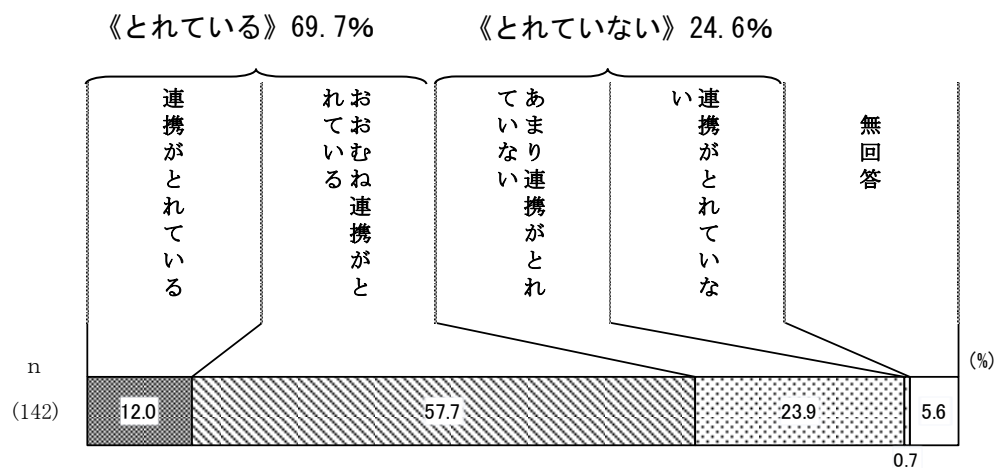


ケアマネジャーとの連携における課題をたずねたところ、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」(38.0%)が4割近くで最も高く、次いで、「お互いの都合で、対応が遅れる場合があること」(35.2%)、「日程が合わず、サービス担当者会議へ参加できないことが多いこと」及び「必要な情報の共有が上手く図れないこと」(ともに17.6%)の順となっている。

②在宅医療・介護連携の状況

問 18 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思いますか。(1つに〇)

<図表18> 在宅医療・介護連携の状況

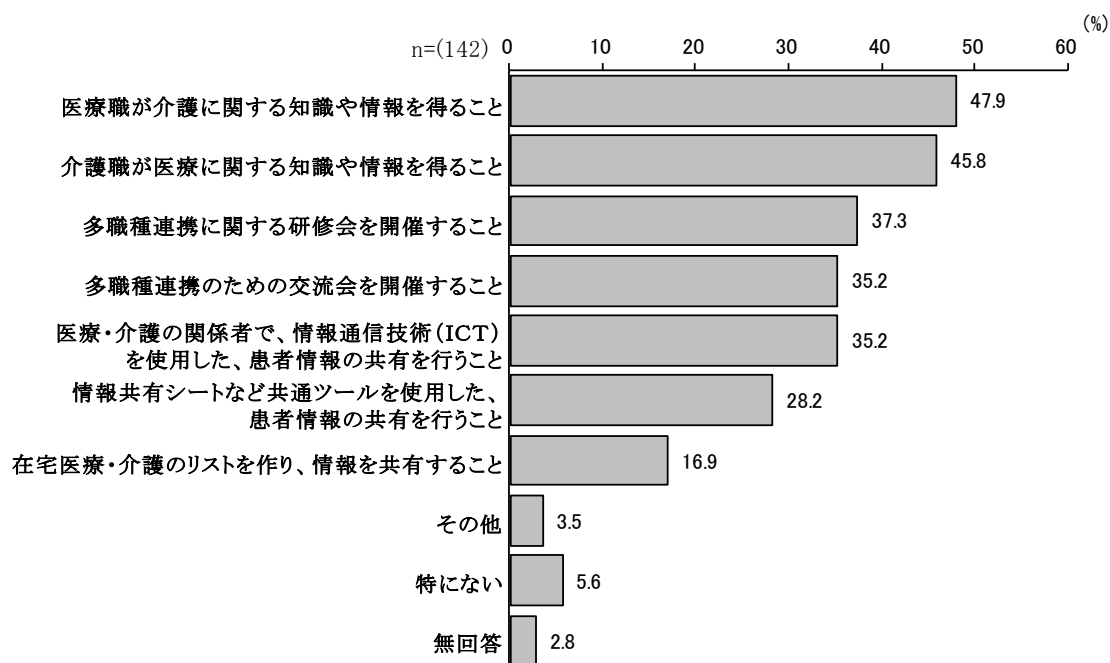


在宅医療・介護連携の状況をたずねたところ、「連携がとれている」(12.0%)と「おおむね連携がとれている」(57.7%)をあわせた《とれている》(69.7%)は7割弱となっている。

③在宅医療・介護連携を推進するために必要なこと

問 19 貴事業所からみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表19> 在宅医療・介護連携を推進するために必要なこと (複数回答)

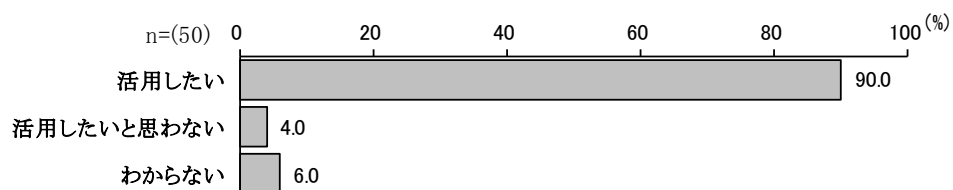


在宅医療・介護連携を推進するために必要なことをたずねたところ、「医療職が介護に関する知識や情報を得ること」(47.9%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「介護職が医療に関する知識や情報を得ること」(45.8%)、「多職種連携に関する研修会を開催すること」(37.3%)の順となっている。

④患者情報の共有を行うためにICTを活用することについて

問 19-1 <<問 19 で「医療・介護の関係者で、情報通信技術（ICT）を使用した、患者情報の共有を行うこと」を選んだ方のみお答えください>>
多職種で患者情報の共有を行うためにICTを活用することについて、どのように考えますか。（1つに○）

<図表20> 患者情報の共有を行うためにICTを活用することについて



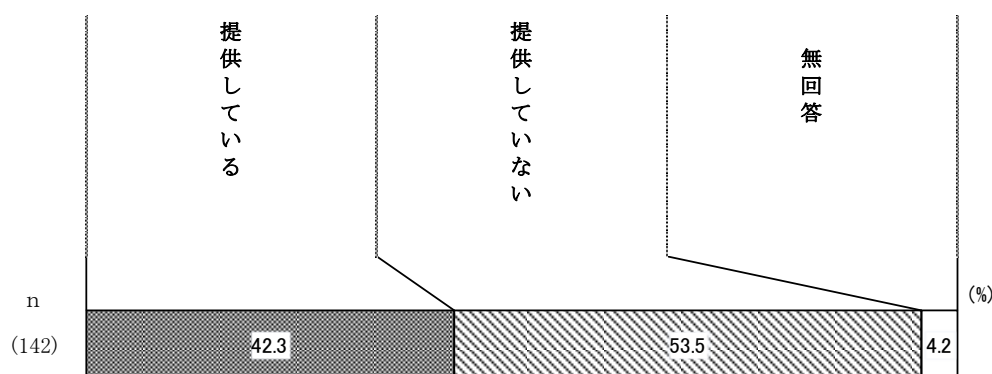
問19で「医療・介護の関係者で、情報通信技術（ICT）を使用した、患者情報の共有を行うこと」と回答した事業所に、患者情報の共有を行うためにICTを活用することについてたずねたところ、「活用したい」（90.0%）が9割となっている。

(9) 介護保険によらないサービスについて

①介護保険制度によらないサービスの提供状況

問 20 貴事業所では、介護保険の被保険者に対して、介護保険制度によらないサービスを提供していますか。(1つに○)

<図表21> 介護保険制度によらないサービスの提供状況

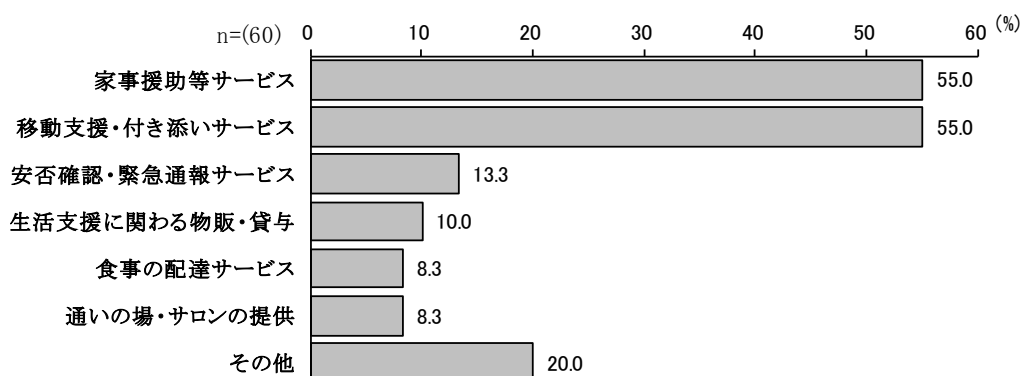


介護保険制度によらないサービスの提供状況をたずねたところ、「提供している」(42.3%)は4割強、「提供していない」(53.5%)は5割台半ば近くとなっている。

②介護保険制度によらないサービスの種類

問 20-1 <<問 20 で「提供している」を選んだ方のみお答えください>>
提供している介護保険制度によらないサービスは、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表22> 介護保険制度によらないサービスの種類 (複数回答)

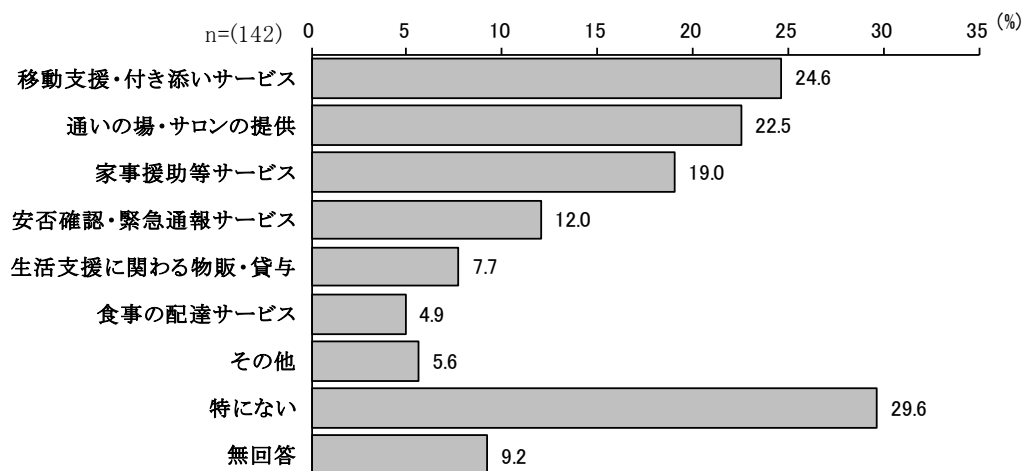


問20で介護保険制度によらないサービスを「提供している」と回答した事業所に、介護保険制度によらないサービスの種類をたずねたところ、「家事援助等サービス」及び「移動支援・付き添いサービス」(ともに55.0%)が5割台半ばで最も高く、次いで「安否確認・緊急通報サービス」(13.3%)、「生活支援に関わる物販・貸与」(10.0%)の順となっている。

③今後提供したい（続けたい）介護保険制度によらないサービス

問 21 貴事業所で、介護保険の被保険者に対して、今後提供したい（続けたい）介護保険制度によらないサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

<図表23> 今後提供したい（続けたい）介護保険制度によらないサービス（複数回答）



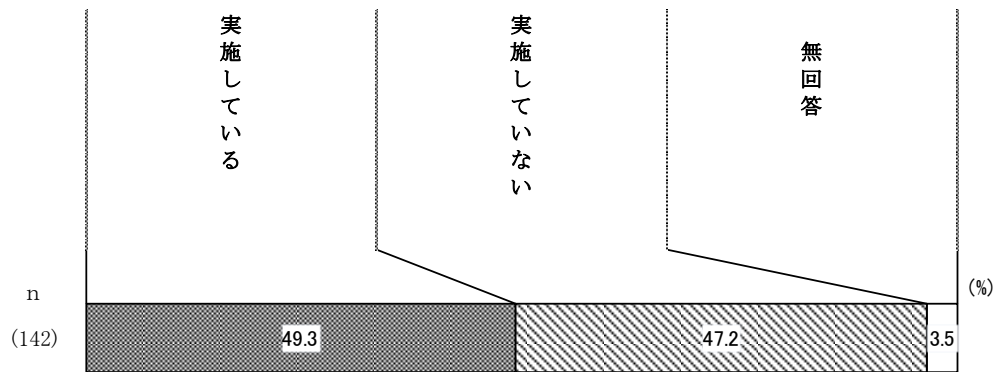
今後提供したい(続けたい)介護保険制度によらないサービスをたずねたところ、「移動支援・付き添いサービス」(24.6%)が2割台半ば近くで最も高く、次いで、「通いの場・サロンの提供」(22.5%)、「家事援助等サービス」(19.0%)の順となっている。

(10) 地域貢献活動について

①地域とかかわる活動の実施状況

問 22 貴事業所では、地域とかかわる活動を実施していますか。(1つに○)

<図表24> 地域とかかわる活動の実施状況

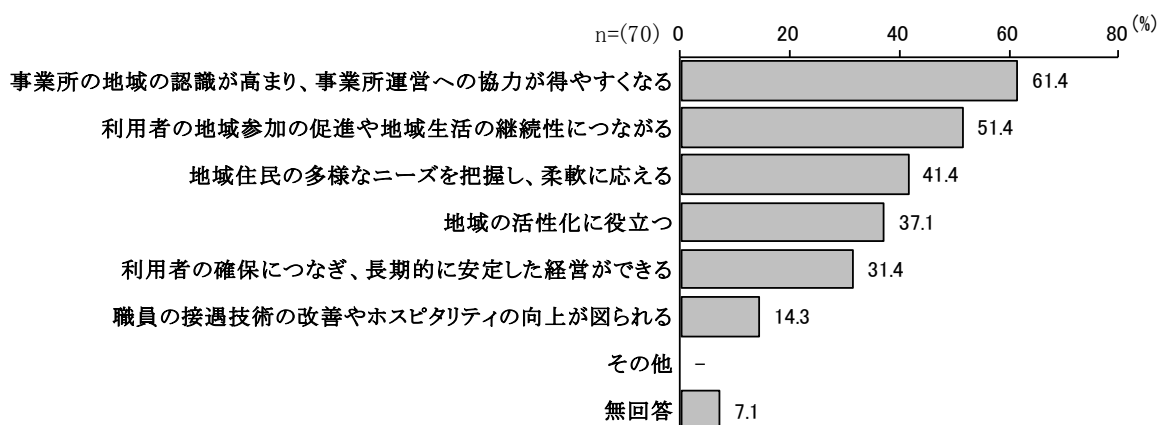


地域とかかわる活動の実施状況をたずねたところ、「実施している」(49.3%)は5割弱、「実施していない」(47.2%)は4割台半ばを超えている。

②地域とかかわる活動を実施している理由

問 22-1 <<問 22 で「実施している」を選んだ方のみお答えください>>
その理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表25> 地域とかかわる活動を実施している理由 (複数回答)

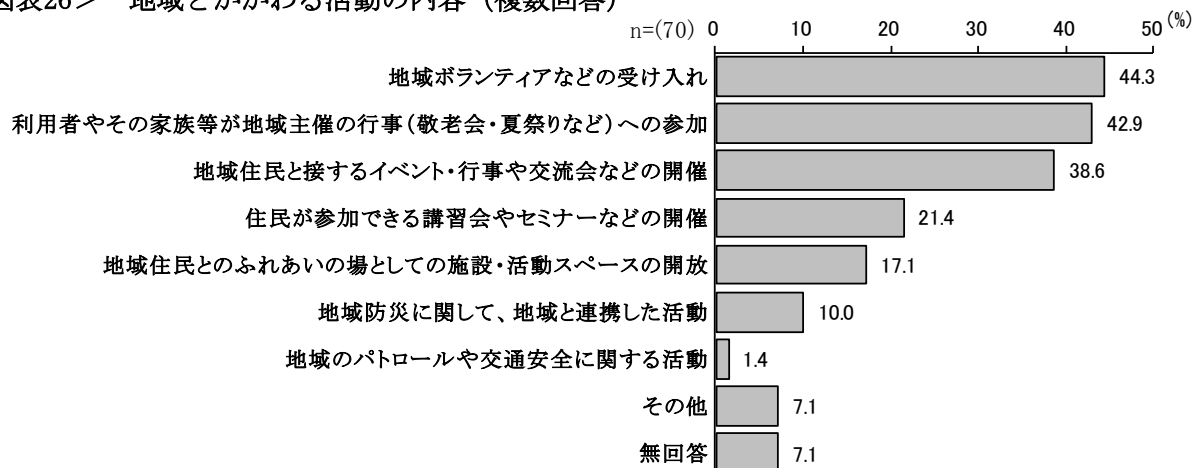


問22で実施していると回答した事業所に、地域とかかわる活動を実施している理由をたずねたところ、「事業所の地域の認識が高まり、事業所運営への協力が得やすくなる」(61.4%)が6割強で最も高く、次いで、「利用者の地域参加の促進や地域生活の継続性につながる地」(51.4%)、「地域住民の多様なニーズを把握し、柔軟に応える」(41.4%)の順となっている。

③地域とかかわる活動の内容

問 22-2 《問 22 で「実施している」を選んだ方のみお答えください》
どのような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表26> 地域とかかわる活動の内容（複数回答）

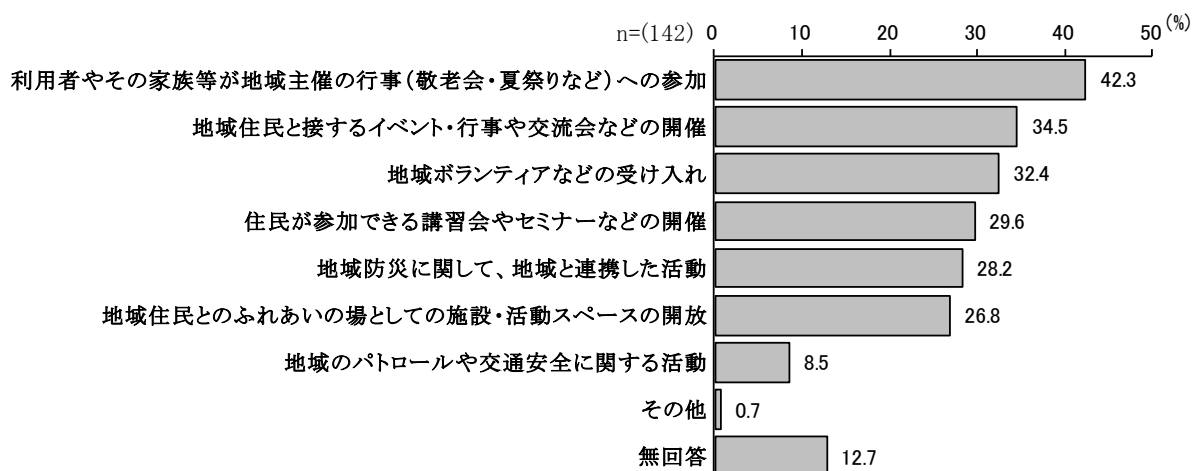


問22で実施していると回答した事業所に、地域とかかわる活動の内容をたずねたところ、「地域ボランティアなどの受け入れ」(44.3%)が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「利用者やその家族等が地域主催の行事(敬老会・夏祭り等)への参加」(42.9%)、「地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催」(38.6%)の順となっている。

④今後実施したい(続けたい)地域とかかわる活動

問 23 貴事業所で、今後実施したい(続けたい)地域とかかわる活動はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表27> 今後実施したい(続けたい)地域とかかわる活動（複数回答）



今後実施したい(続けたい)地域とかかわる活動をたずねたところ、「利用者やその家族等が地域主催の行事(敬老会・夏祭り等)への参加」(42.3%)が4割強で最も高く、次いで、「地域住民と接するイベント・行事や交流会などの開催」(34.5%)、「地域ボランティアなどの受け入れ」(32.4%)の順となっている。

問23以外で地域包括ケアの担い手として行いたいと考えている活動をたずねたところ、以下のような回答があった。回答の中からいくつかを示す。

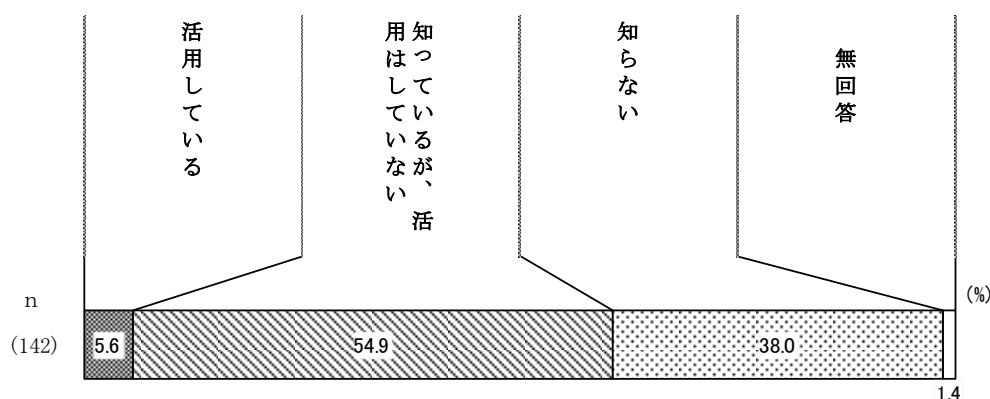
- ・地域での看取りを住民とともに取り組むため、それぞれがちょっとしたサポートができるようなボランティアの育成。
- ・認知症カフェ等
- ・予防の習慣化、リハビリテーション、保健が、学生世代、働く世代、子育て世代に関わること。
- ・ICTの活用。オフラインだけでなくオンラインでの地域作り。
- ・日常生活圏域型地域ケア会議をもう少しイベント的な形にして、事業所や住民の方が自由に参加できるような形にできたら良いと思っています。(例)福祉展みたいな形で(関係部門が参加する)。
- ・地域住民との一層の交流。こちらから出向いての交流など。

(11) 在宅医療への対応について

①在宅医療相談窓口の活用状況

問 24 区の「在宅医療相談窓口」で、在宅療養に関する医療を中心とした相談が受けられるということをご存じですか。(1つに○)

<図表28> 在宅医療相談窓口の活用状況



在宅医療相談窓口の活用状況をたずねたところ、「知っているが、活用はしていない」(54.9%)は5割台半ば近くとなっている。

②在宅医療相談窓口で活用していることや期待すること

問 24-1 《問 24 で「活用している」を選んだ方のみお答えください》
「在宅医療相談窓口」で活用していることや期待することがあれば、ご自由にお書きください。

問24で活用していると回答した事業所に、「在宅医療相談窓口」で活用していることや期待することをたずねたところ、以下のような回答があった。回答の中からいくつかを示す。

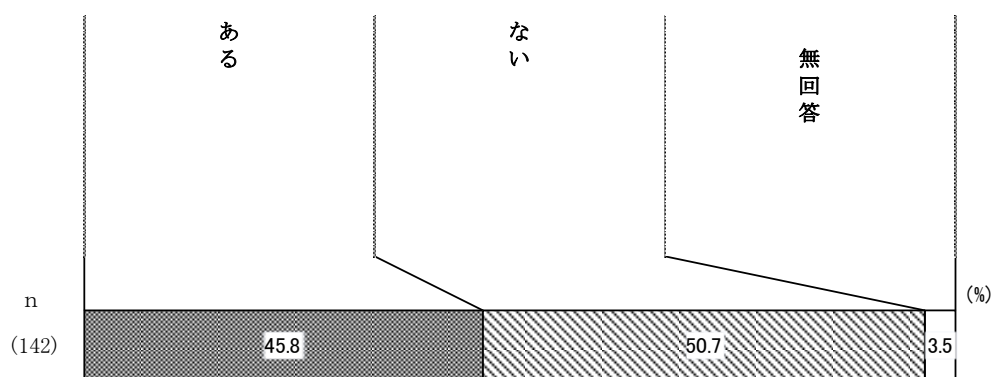
- ・医療面でサポートが必要なケアマネジャーの支援や、医療的サービスの導入が必要な住民の方への支援。
- ・難病申請に関する手続きの相談、使っている薬の相談などをしたことがある。
- ・末期がんターミナルケアは気を使うので、連携してもらえると助かる。
- ・ちらしやポスターがあれば、施設内に掲示できるかもしれない。

(12) 看取りについて

①過去1年間で、看取りをしたケースの有無及び回数

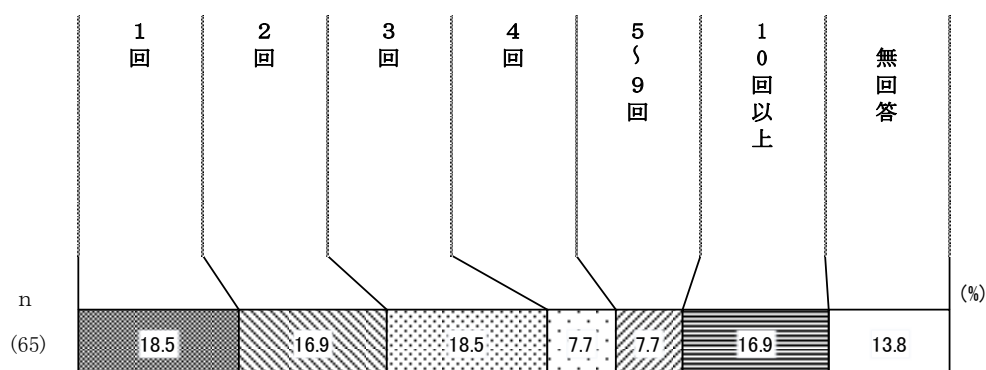
問25 過去1年間で、自宅で看取りをしたケースがありますか。ある場合は、回数もご記入ください。(1つに〇)

<図表29> 過去1年間で自宅で看取りをしたケースの有無



看取りに立ち会ったケースがある場合

<図表30> 過去1年間で自宅で看取りをしたケースの回数



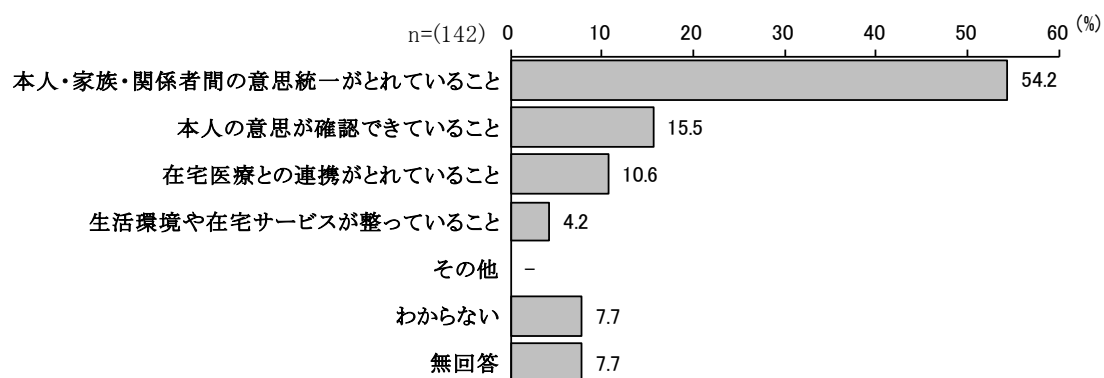
過去1年間で看取りをしたケースをたずねたところ、「ある」(45.8%)は4割台半ば、「ない」(50.7%)は約5割となっている。

「ある」と回答した人に看取りに立ち会った回数をたずねたところ、「1回」及び「3回」(ともに18.5%)が2割近くで最も高く、次いで、「2回」及び「10回以上」(ともに16.9%)の順となっている。

②看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うこと

問 26 看取りをサポートする側に立った場合、特に欠かせないと思うことは何ですか。
(1つに○)

<図表31> 看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うこと



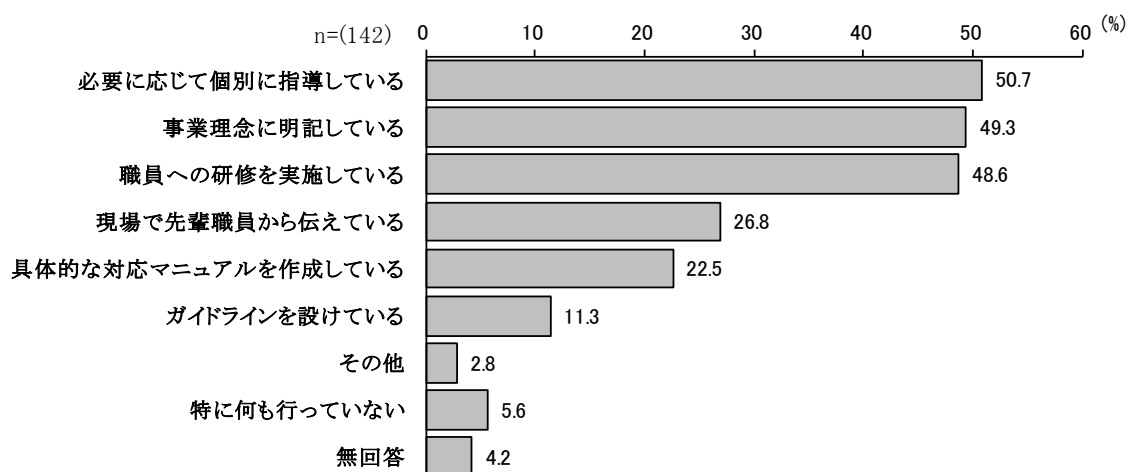
看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うことをたずねたところ、「本人・家族・関係者間の意思統一がとれていること」(54.2%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで、「本人の意思が確認できていること」(15.5%)の順となっている。

(13) 尊厳の保持について

① 尊厳保持の取組

問 27 貴事業所では、利用者の尊厳の保持について、どのような取り組みを行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表32> 尊厳保持の取組 (複数回答)



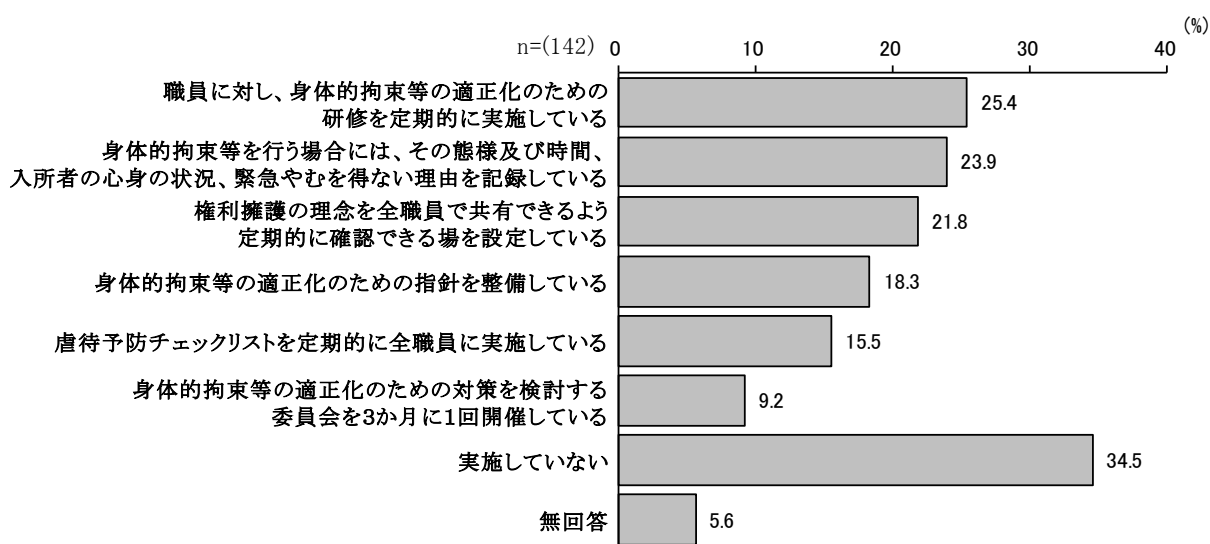
尊厳保持の取組をたずねたところ、「必要に応じて個別に指導している」(50.7%)が約5割と最も高く、次いで、「事業理念に明記している」(49.3%)、「職員への研修を実施している」(48.6%)の順となっている。

(14) 身体拘束等の廃止の取組について

①身体拘束等の廃止に向けた取組

問 28 身体拘束等の廃止に向けてどのような取組を行っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表33> 身体拘束等の廃止に向けた取組（複数回答）



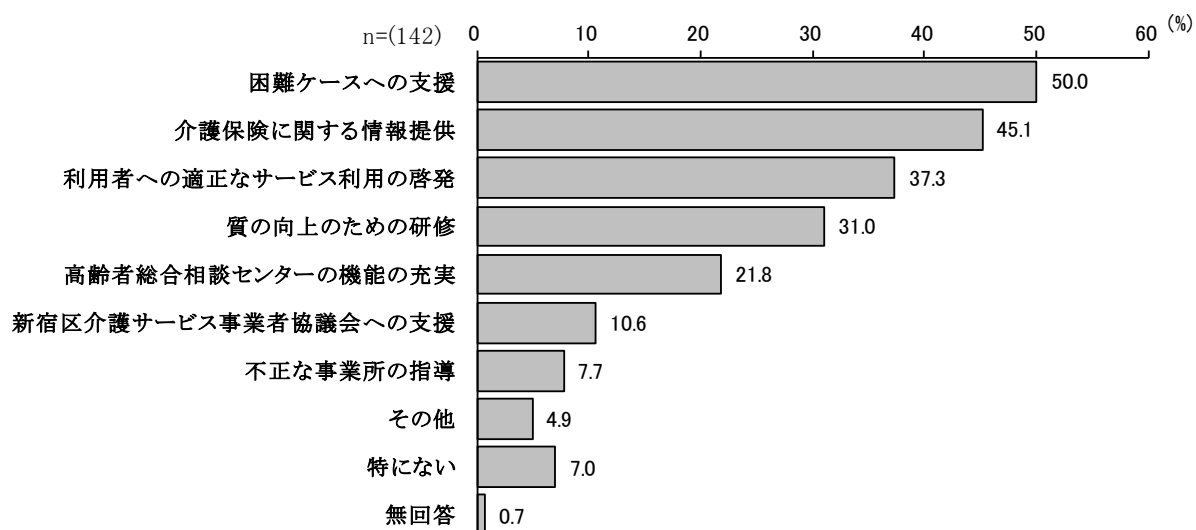
身体拘束等の廃止に向けた取組をたずねたところ、「職員に対し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的実施している」(25.4%)が2割台半ばと最も高く、次いで、「身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、入所者の心身の状況、緊急やむを得ない理由を記録している」(23.9%)、「権利擁護の理念を全職員で共有できるように定期的に確認できる場を設定している」(21.8%)の順となっている。

(15) 新宿区への要望について

①新宿区に対して望むこと

問 29 事業者の立場から、保険者である新宿区に対して、何を望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表34> 新宿区に対して望むこと (複数回答)

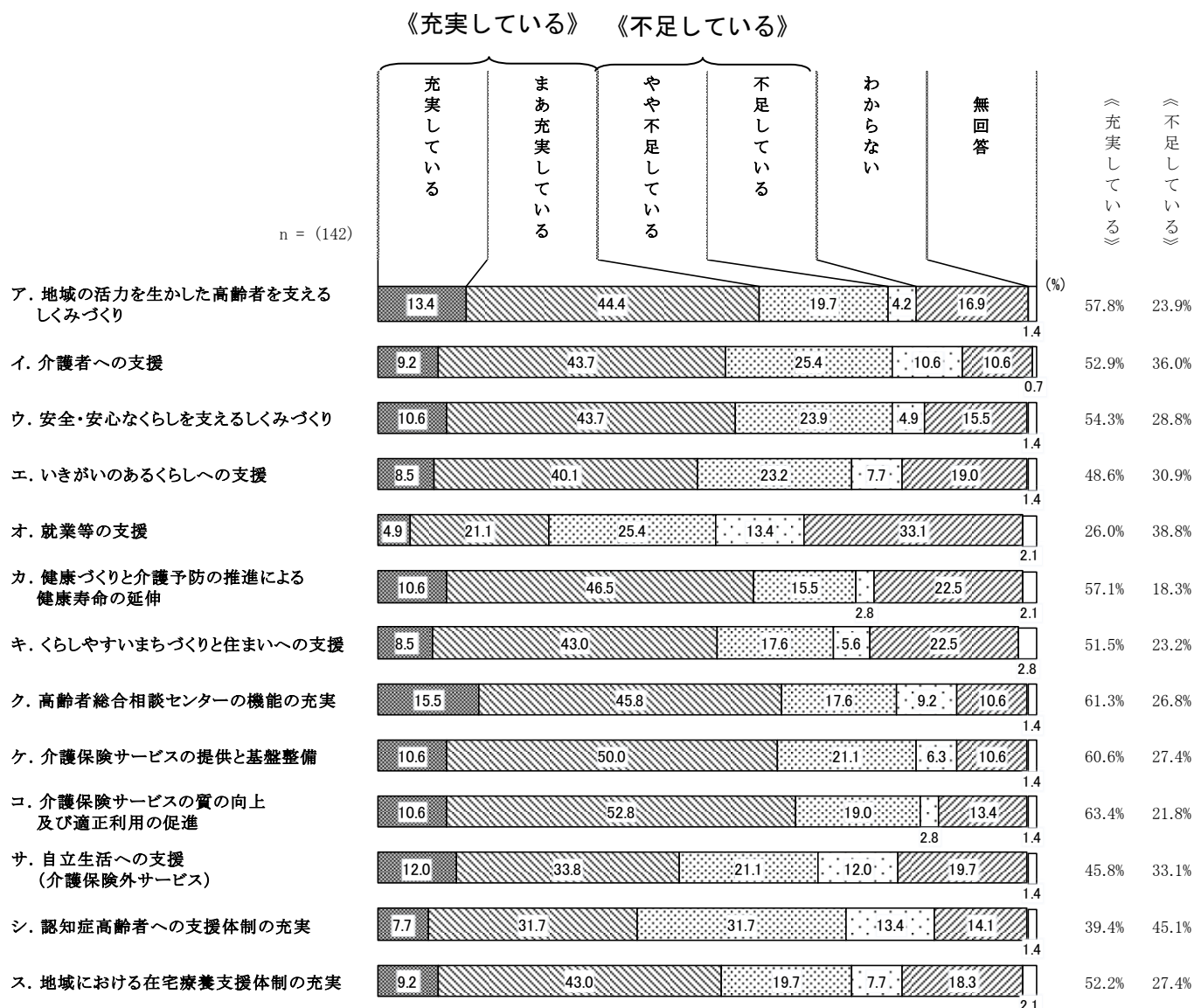


事業者の立場から、新宿区に対して望むことをたずねたところ、「困難ケースへの支援」(50.0%)が5割と最も高く、次いで、「介護保険に関する情報提供」(45.1%)、「利用者への適正なサービス利用の啓発」(37.3%)の順となっている。

②新宿区の高齢者支援に対する評価

問 30 事業者の立場からみて、新宿区の高齢者支援の状況をどうお考えですか。
(それぞれ1つに○)

<図表35> 新宿区の高齢者支援に対する評価



事業者の立場からみた、新宿区の高齢者支援に対する評価をたずねたところ、「充実している」と「やや充実している」をあわせた《充実している》は、【コ. 介護保険サービスの質の向上及び適正利用の促進】(63.4%)で6割台半ば近くと最も高く、次いで【ク. 高齢者総合相談センターの機能の充実】(61.3%)、【ケ. 介護保険サービスの提供と基盤整備】(60.6%)の順となっている。

一方、「やや不足している」と「不足している」をあわせた《不足している》は、【シ. 認知症高齢者への支援体制の充実】(45.1%)が4割台半ばと最も高く、次いで【オ. 就業等の支援】(38.8%)、【イ. 介護者への支援】(36.0%)の順となっている。

③高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問 31 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、以下のような回答があった。回答の中からいくつかの意見を示す。

【サービスに関すること】

- ・入居系サービスの受け皿が不足していると感じる。
- ・要支援の方に対するサービスを充実させて欲しい。

【介護報酬・人材面に関すること】

- ・処遇改善やICT化の促進等の施策が一定の効果を上げると予想されるが、まだ不十分だと思う。これからを考えると次世代に業界を支える人材が増えてくるかまだまだ不安である。

【制度面に関すること】

- ・保険のしくみは大変複雑でわかりにくいので、その都度、今までどおり丁寧に教えていただければありがたい。
- ・制度改正時などで、必要となる書類が分かりにくい。
- ・各事業体での法令マニュアルを作成して欲しい。

【要支援者への対応】

- ・要支援の方の認定更新や、支援になるか介護になるかの瀬戸際のお客様の認定待ちが、死活問題の時がある。認定調査の遅れは解消して欲しい。

【地域間の連携に関すること】

- ・地域連携の相互協力を更に進めていく必要があると思う。

【事業所の運営に関すること】

- ・開設時だけではなく、運営が軌道に乗るまでのサポートがあったら、参入するところも増えるのではないかと思う。
- ・広報や人員確保などを考えると、新規参入するには経営基盤のある企業が優位と思う。介護コンサルタントなど、中小企業にも働きかけてくれる存在が多くなれば、参画しやすいのかも知れない。

④今後の事業展開についての考えや意見

問 32 今後の事業展開について、貴事業所のお考え、ご意見等がございましたらご自由にお書きください。

今後の事業展開について、以下のような回答があった。回答の中からいくつかの意見を示す。

【交流の機会の拡大】

- ・ 1階で展開している地域交流スペース（介護保険外事業）にて、認知症及び介護予防の取り組みをもっと充実させたいと思っている。
- ・ 住民が参加できる介護事業者との交流の場を増やして欲しい。

【人材確保・育成】

- ・ 訪問介護はなり手がおらず、ヘルパー確保が非常に困難。事業展開に展望がもてない。
- ・ 訪問介護は労働集約型産業の側面もあり、外国人労働者等も受け入れていかなくてはと思う。また雇用促進や従事者の継続勤務のためには、多角的な事業形態も必要になるのかと思う。

【事業所の運営】

- ・ 既存事業所の安定した収支構造を確立し、安定して経営基盤をつくることを当面の目標としている。
- ・ 先ずは、地域一番のサービス提供施設として認知していただけるように、全職員の介護スキル、職務意識のレベルアップを日々注力し、実践していく。

【その他】

- ・ 助成金や補助金制度の充実。
- ・ 在宅サービスの必要性を実感しているので、制度外の自費サービスの拡充をはかりたい。家族を含めたサービス支援が、より重要な時代になって来るとしている。介護負担の軽減により、共倒れを予防することがとても重要だと思う。若者の離職も同様で、在宅サービスとつながって来る問題だと思う。